TRAINING PAPER

〔特許出願中〕

DAILY PROGRAM®

大学受験デイリープログラム100日

高校3年　国語　《見本》

1

現代文

第 1 日　指示する語句の内容をつかむ……4
第 2 日　文や語句の接続関係をつかむ……12
第 3 日　〈言語論〉文脈・要点をつかむ……22
第 4 日　〈言語論〉文脈・要点をつかむ……31
第 5 日　〈言語論〉段落相互の関係・要旨をとらえる……39
第 6 日　〈芸術論〉文脈・要点をつかむ……48
第 7 日　〈芸術論〉文脈・要点をつかむ……61
第 8 日　〈芸術論〉段落相互の関係・要旨をとらえる……72
第 9 日　〈芸術論・言語論〉長文問題の演習……82

古文

第10日　〈説話〉宇治拾遺物語(1)……92
第11日　〈説話〉宇治拾遺物語(2)……103
第12日　〈近世文〉玉勝間(1)……109
第13日　〈近世文〉玉勝間(2)……121
第14日　〈説話・近世文〉指示する語句の内容をつかむ……127
第15日　〈文法〉用言―動詞・形容詞・形容動詞……136
第16日　〈文法〉助動詞(1)……149
第17日　〈説話・近世文〉長文問題の演習……159

漢文

第18日　〈故事〉蛍雪の功・苛政は虎よりも猛なり……168
第19日　〈史伝〉戦国策……179
第20日　〈故事・史伝〉長文問題の演習……190
付　録　文学史―上代……195

DAILY PROGRAM®

大学受験デイリープログラム国語

効果的な使い方

♣100日間＋補充演習編で受験対策を完成

● 大学受験デイリープログラム国語は、国語の受験に備えて，基礎力の充実と受験に必要な実力を養成することを目的として編集してあります。

6巻を除き，各巻は20日構成で，現代文9日・古文8日・漢文3日に分かれています。現代文・古文・漢文は，それぞれ次の学習日で構成されています。

長文読解日／ステップを踏んだ長文の読解学習	現代文・古文・漢文
演習問題日／入試問題を使った力だめし	現代文・古文・漢文
技法別読解日／入試問題を解くテクニックの学習	現代文・古文
文法学習日／重要文語文法の学習	古文

● 演習問題日を除いた各学習日の後には，次のような1ページの学習ページを設けています。

・現代文＝入試頻出漢字と同音異義語／入試頻出漢字は，1巻から頻度順に並べてあります。
（書き 1200語／読み 600語／同音異義語　約350語）

・古　文＝基本古語と古典常識語（基本古語 366語／古典常識語　約300語）

・漢　文＝重要句法（約100語）

＊＊巻末には要領よく記憶できる『文学史』（上代～近代）の学習ページが設けてあります。

以上のものは，記憶しておけば，確実に得点に結びつくものばかりです。ひまをみては繰り返し練習して，確実に記憶しておきなさい。

♣1日の学習展開

●技法別読解日の展開　技法別の学習とは，大学入試問題を分析し，問題を解くための《テクニック》を取り出し，そのテクニックを徹底的にトレーニングする方法です。その展開は，次のようになっています。

例　題
・典型的な問題を例題として取り上げ，その日のテーマを例題を解きながら，具体的に考えます。

考え方
・問題を解くための《テクニック》をいかに用いたらよいか，その解き方や考え方をわかりやすくていねいに説明しています。

トレーニング
・大学入試問題から，その日のテーマと類似の問題を複数選んで，繰り返しトレーニングして，問題を解くための《テクニック》が身につくようにしてあります。

1ページトレーニング
・一日の学習の終わりに，現代文ならば「入試頻出漢字と同音異義語」，古文ならば「基本古語と古典常識語」の1ページの学習ページが設けてあります。

●長文読解日の展開　長文問題もステップを踏んで，一語一語，一文一文をきちんとおさえ，内容を客観的に読み取っていくようにすれば，国語も解答が明確に出せるものなのです。この読解の考え方をトレーニング化したのが長文読解の学習です。

標準的な展開は次のようになっています。

語　句
- 現代文では，段落ごとに，辞書的な意味，対義語や類義語，あるいは筆者自身が独自の意味をもたせて使っている語句など，いろいろな角度から徹底的にトレーニングします。
- 古文では，基本古語，重要古語を繰り返しトレーニングします。
- 漢文では，漢字の読みと意味をトレーニングします。

文と文のつながり
- 現代文では，論理のつながりがポイントになります。論理のつながりを明確にするために，「指示語・接続語・語句など」に注目して，文と文のつながり，文の内容をおさえます。

表現・文法・句法
- 現代文では，筆者が論理展開の中で対立して用いている表現や具体化・詳細化している表現，あるいはレトリックなどを学習します。
- 古文・漢文では，重要な文法事項，句法をトレーニングします。

段落の要点
主体判定
口語訳
書き下し文
- 現代文では，何について述べているか，簡潔にテーマをつかませ，中心になる重要な文を選択させる，などの手順をふんで要点をまとめます。現代文では，この繰り返しを2日続けます。
- 古文では主体判定と口語訳を，漢文では書き下し文と口語訳をトレーニングします。ここまでに一つ一つ原則を身につけてきていますので，口語訳や書き下し文は完璧にできるはずです。

語句・文法の復習
- 現代文では，漢字のトレーニングをしたあと，今までに出てきた語句を復習します。古文も同じ教材を2日以上扱うときには，古語の復習をして，確実に記憶してしまいます。

段落相互の関係
要　旨
- 現代文では，段落ごとの学習を終えたあと，第3回めの学習で文章全体を考えます。それには，段落から次の段落への内容上のつながりをトレーニングし，最後に文章の要旨を手順に従ってまとめます。要旨を手順に従ってまとめることにより，記述力もつくはずです。

入試問題
- 学習のまとめとして，入試問題を扱います。ここまで，確実にトレーニングしてくれば，入試問題も比較的容易に解けるはずです。

＊＊各学習日の終わりには，現代文ならば「入試頻出漢字と同音異義語」，古文ならば「基本古語と古典常識語」，漢文ならば「重要句法」の1ページの学習ページが設けてあります。

●演習問題日　力だめしの日で，長文問題を演習します。教材は入試問題で，「長文読解日」で学習した作品と同じジャンルのものを使用しています。じっくり取り組んでみなさい。

●解答　解答は，技法別読解の例題を除いて，すべて別冊にのせてあります。ていねいでわかりやすい解説がついています。

現　代　文

第１巻の現代文は，次の内容で構成されています。技法別読解は，「指示する語句の内容」と「文や語句の接続関係」をつかむ学習です。二つとも論理の流れをつかむうえで重要なものですから，じっくりと取り組んでみなさい。

長文読解は，言語に関した文章と芸術に関した文章を，それぞれ３日ずつ学習します。最終目標は，入試問題を解くことですが，確実にトレーニングをしていけば，入試問題といってもそんなに難しくはないはずです。

第１日～第８日のあとには，１ページずつ「入試頻出漢字と同音異義語」の学習がついています。第１巻に出てくる漢字は，どれも頻度の高いものばかりです。記憶してしまえば，確実に得点に結びつくものですから，ひまをみては繰り返し練習をして，記憶しておきなさい。

第 1 日

現代文第1日／技法別読解（論理的文章）

指示する語句の内容をつかむ

学習日　月　日

きょうは、指示する語句の指している内容をつかむ学習をします。

指示語には、「**これ、それ、あれ、どれ**」「**ここ、そこ、あそこ、どこ**」などのようないわゆる「**コソアドことば**」のほか、「**前者**」「**後者**」などのことばがあります。

指示語は、文章中で同じ語句、同じ内容を繰り返して述べるかわりに使われるものですから、文章の内容を正しくとらえるためには、指示語の指す内容を正確にとらえねばなりません。文章を読みながら、この指示語は何を指しているのだろうと、具体的な内容を常に考えながら読み進んでいくことが必要です。

では、まず例題をやってみなさい。

●例題●　解答は考え方のあとにあります

▽　**次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**　〔法政大〕

ギリシア諸都市なかんずくギリシアの共和諸都市においてはじめて市場または広場が都市の中心にあらわれてきた。アゴラがそれである。単なる市場または広場ではない、民衆の集会するところとしてのアゴラがギリシア諸都市の中心となったことが、ギリシア諸都市に実に市民のあらわれてきたことを語っているのである。一般にはアクロポリスをもってギリシアの都市の表徴とする風があるが、アクロポリスは必ずしもギリシアの都市の特徴ではないのである。アゴラこそがギリシア諸都市をしてギリシア諸都市たらしめ、いな、かれらをして、真の都市の最初のものたらしめたのであった。

（羽仁五郎（はにごろう）「都市」〈市民なき都市から市民の都市へ〉より）

●語句注
表徴＝外にあらわれたしるし。象徴。
アゴラ＝普通はアクロポリスのふもとにあった公共広場のことをいう。

(1)　**――線部「かれら」は、次のどれを指していますか。次の中から適切なものを選びなさい。**

(ア)　ギリシア人　(イ)　ギリシア諸都市　(ウ)　アゴラ

考え方

指示する語句は、同じことばの反復を避けるため、またあることがらと、その前後に述べたことがらとの関係を示すために使われます。では、指示する語句の内容は、どのようにつかんでいけばよいのでしょうか。その手順を考えてみましょう。

1　まず、指示する語句の係っていく部分をおさえる。

指示する語句の内容を聞かれると、すぐに前の方を探しだす人がいますが、それよりも、まず、指示する語句の係っていく部分をお

さえることが大切です。

例題の場合は、「かれら」をして「真の都市の最初のものたらしめた」という使役のかたちになっています。

このことをおさえたうえで、次の2に進みなさい。

2　次に、前後の文脈をていねいにつかむ。

指示する語句は、前に述べた部分を指すことが多いのです。が、中には後に述べることを指す場合もあるので、前後の文脈にはよく注意して読まなければなりません。

例題の場合、指示語の前後の部分をみると、「アゴラこそがギリシア諸都市をしてギリシア諸都市たらしめ、いな、かれらをして、真の都市の最初のものたらしめた」となっており、「かれらをして」以下の部分は、すぐ前の部分の内容を言いかえたものであることがわかります。しかも、同じ使役のかたちになっていることにも気がつきます。ここまでわかれば「かれら」が、ここでは人を指すのではないこともわかります。

3　想定した内容を指示する語句にあてはめてみる。

内容をとらえたら、指示する語句の部分にあてはめてみて、文意が通じるかどうかを確かめます。

《解答》

(1)　(イ)

――指示語の内容をつかむ考え方は理解できましたね。次のトレーニングは、入試に出題された指示語の問題です。トレーニングで指示語の内容のつかみ方をマスターしなさい。

トレーニング

1　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。　〔実践女大〕

私は詩の世界にただ魅力を感じるから詩を書く。今日まで、ちぐはぐに発達してきた文明は、私たちの外界のすべてを歪んだものにし、私たちすべてはこの歪みの世界の中におかれているといってもいいだろう。日常生活に追われているときは気づかないけれども、何かの瞬間に、私たちがとんでもない非合理の中に生きていることを痛切に感じることがある。私の詩に対する執着は、こうした歪みの、不安定な、人間が十分に生ききれないような仕組みの世界から、そうした力の及ばない、自由な特殊な世界への郷愁の現れだといってもよいだろう。基本的にいって、私が詩を作ることの楽しみの底にはこうしたあこがれの充足感がひそんでいることは確かだ。

（村野四郎「私はこうして詩をつくる」より）

(1)　**――線部が指示している部分を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。**

――「私が詩を作ることの楽しみの底」と「私の詩に対する執着」の対応関係をおさえることが必要です。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〔日本福祉大〕

欧米人の唱える「正義」（ジャスティス）とは「俯仰天地に愧じず」という倫理観とは全く違って、自分と相手とのバランスをとりながら、秩序形成的・調和的に生きようとする努力ないし態度のことであり、そこには社会的・客観的な感覚が働いている。[A]欧米人の眼は、植物的に上下に向かうのではなく、動物的に水平に走ってつねに周囲を見廻しており、自分の存在を主張しつづけると同時に相手の存在と権利をも容認しつつ、秩序を形づくる方向において自己を生かす道を求めようとするのが、欧米人の公正ないし正義の観念である。

わが国の場合と違って、自分と相手との間にはつねに緊張的な距離感があり、自己を、外界から痛みをもって分かちながら、ひとり世界の真只中に置き、自分を生かし他人を生かしながら、バランスをとって秩序を形づくろうとする。そこには、誰に全面的に頼ることもなく、ひとり世界に生きようとする精神が働いており、それ故にこそa|そこ|から世界秩序形成の方向が見え、また正義の観念が普遍性、すなわち愛と正義の一神宗教であるキリスト教によって基礎づけられる所以である。

（木村尚三郎「西欧の顔・日本の心」〈欧米の顔――国際的乱世の実相〉より）

●語句注
俯仰天地に愧じず＝地を俯向いても天を仰いでも自分には少しもやましいところがない。

(1) ――線a「そこ」に相当する内容を十字以内でまとめなさい。

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) [A]に最も適切な語句を次の語群から選び、記号で答えなさい。

(ア) すなわち　(イ) といって　(ウ) だが
(エ) いよいよ　(オ) ところで

――「俯仰天地に愧じず」について、筆者はこの引用文の前でその意味を述べた後、次のように言っています。

「『お天道様』に対してさえ恥ずかしくなければ、すべての行為は是認され、正当化される。これが日本流の『正しさ』の内容であり、眼がつねに上（天）か下（地）を向いていて、水平（人）を見ていないところ、その倫理感は、本質においてきわめて個人的・主観的である。」と。

本文では、これと比較対照して、欧米人の唱える「正義」を述べているわけです。ここでは、欧米人の唱える「正義」の内容がポイントになっています。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〔九州大・一部改題〕

自他にたいする不信や恐怖を病的異常としてかたづけるのが、政治的翼の左右をとわず、ヒューマニズムのやり方である。その旗じるしが保守であれ革新であれ、愛国であれ民主であれ、人間は信頼と同盟にゆるぎない希望をもって生きるのだと考えるのがヒューマニズムである。なるほど不信や恐怖は不健康という意味において、異常な感情ではあろう。しかしそれを異常と知ったからとてどうなるものでもない。a|それ|は私たちの生のいささか残酷な前提条件な

のである。また、その前提条件にもとづいてつくられるいろいろの社会制度もフィクションにすぎないのだが、それもフィクションだと知ったからとてどうなるものでもないのである。

どこまでもつきまとう異常や虚構をすすんで受け容れ、それらを意識的に統御する努力を怠っていると、そのうち、私たちはいわば自分自身に反逆される。自分のうちにはないはずだとばかり思っていた不信や恐怖が突如としてふくらみ、またそれまでどうにでもなると高をくくっていた諸制度が妖怪じみた虚構となって不意におしかぶさってくる。自分に反逆されてしまった人間が頼りにできるのはたぶん、暴力くらいのものであろう。

暴力は一切の言論を絶滅する。言論は他者への信頼と不信とを橋渡しすべく行われるものであり、b それに反して暴力は、信頼と不信の並存もしくはそのあいだの亀裂を認めないところから生じるものだからである。しかし言論にもいろいろある。上にのべた趣旨のヒューマニズムの言論は、人類や民族の名において語られるわりには、というよりそれだからこそ、暴力に接近する。

（西部邁「大衆への反逆」より）

●語句注
統御＝全体を統一して率いること。
高をくくっていた＝たいしたことはないとみくびっていた。

(1) ――線ａｂが指示する内容を、それぞれ五文字、二文字の本文中の語句で答えなさい。

a

b

――指示する語句の内容をつかむには、まず、指示する語句が係っていく部分をおさえることが必要でしたね。ここでも、まず係っていく部分をおさえることが必要になります。

〔立命館大〕

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ことばを氷山にたとえてみよう。氷山の水面に表れている部分は全体積の約七分の一の由である。七分の六は水面下に沈んで見えないのだ。ことばによって概念化され得る現実の部分は、正に水面より表れている部分とみなすことができる。ところが、ある概念を自ら作り出した人々には、この表れている部分が、水面下にかくれている部分の上部構造であることは、いわば暗黙の前提なのである。この見えない部分は、明示的な部分としての概念に、固有の価値を与える基盤と考えてもよい。①水面上の見える部分がほぼ等しい形態を持つ、ＡとＢの二つの氷山があった場合に、それぞれの水面下の部分の形態が等しいとは限らないことは容易に理解されよう。西欧の社会・文化的現実に基づく概念が、ことばとして日本語の既存の概念に引きあてられたり、新しく日本語で作られたりする場合に、しばしば起こるのはこの明示的な部分のみの対応関係なのである。私たちには、②向こうの概念の水面下の部分が見えないだけでなく、自分たちの概念の水面下の状態も、意識化されていないのが普通だからである。したがってａこのような対比に基づく概念を操作して

私たちが日本的現実を切る場合、当然そこに過不足が生じてくることは避けられないのである。抽象的な議論はこのくらいにして言語学の分野に眼を向けてみよう。ここでは、今私が述べたような、日本的現実にそぐわない異質の概念操作に基づく、帯に短したすきに長し的な発言や研究が、いたる所に見られるとはっきり言うことができる。ギリシャ神話のプロクルステスの寝台の話、つまり寝台の大きさに合わせて、強引に寝る人の足を切ったり、引き伸ばしたりである。文字の問題、音韻の問題、文法の問題のどれをとっても、従来の西欧語をそのまま物差しにしたのでは具合の悪いところがいくつもある。それを言うに事欠いて、日本語は不便だ、非論理的だなどと言い立てたことがなんと多かったか。私はこのような日本人の精神構造を、「誤れる対象への自己同化現象」と呼んだことがある。私の考えでは、日本語を、そして日本的現実をはかる尺度は、日本語それ自体、日本的現実それ自体に求められるべきだと思う。もし西欧起源の尺度と対比させ、普遍化を目ざすならば、b それは両者を共に含み、共に説明できる一段高い次元においてのみ可能であって、西欧の尺度を流用しての安易な普遍化が可能であるはずはないと思っている。

（鈴木孝夫「ことばと文化」〈事実に意味を与える価値について――価値体系を無視した概念の輸入・日本語をはかる尺度は日本語〉より）

(1) **――線 a の「このような対比」はどこを受けていますか。本文中のことばをそのまま抜き出して書きなさい。**

（　　）

(2) **――線 b の「それ」は何を指していますか。本文中のことばを用いて書きなさい。**

（　　）

★★次の問題もやってみよう！★★

(3) **――線①によって筆者が主張しているものはどれですか。次の中から選びなさい。**

(ア) 概念に固有の価値を与える基盤がほぼ等しい二つのことばであっても、そのことばによって概念化される現実までもが等しいとは限らない。

(イ) 概念化し得る現実の部分がほぼ等しい二つのことばであっても、その概念に固有の価値を与える基盤までもが等しいとは限らない。

(ウ) ことばによって概念化し得るほぼ等しい二つの現実の場合であっても、その概念に固有の価値を与えることばまでもが等しいとは限らない。

(4) **――線②の「向こうの概念の水面下の部分」の具体的な内容は何ですか。本文中のことばをそのまま抜き出して書きなさい。**

（　　）

――答えを合わせたら、次は最後の問題です。要約の必要がある問題ですから、じっくり取り組んでみなさい。

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 〔東京大〕

ところで、その表現という次元で、事実と仮構ということが新た

な問題として浮かびあがってくる。つまり芸術家には、人に伝えたい強烈なイメージがまず存在するわけだが、そのイメージは現実的対応物をもっているとはかぎらない。たとえば、一人の男性が、いささかの女性遍歴のすえに、ついに満たされなかったものを、一種の極端化の思念によって〈聖母〉というイメージに結晶させたとする。彼個人には、それはありありと存在する。だが現実的な対応物は存しない。私は聖母の観念をもってるんだ、これが何よりも大切なのだ、信じてくれよ、と叫んでみたところで、それは無意味である。彼はそれを人にも了承しうる像に、現実化し、具体化し、客観化しなければならないわけだが、なにを構築するにせよ、結局は現実に存在する材料しか、つかえない。

そこで、歴史上の事実や自然的世界の構図などを、彼は可能なかぎり利用しようとする。現実的に対応物をもたないイメージや思念を表現し伝達するのに、事実に力を借り、借りるばかりか、出来るだけ事実らしくみせ、事実はそれが事実として存在するならば、どんなことでも人は究極において容認するというくやしい法則を利用するより手はないというのが、a想像的表現がおちいらねばならぬ背理なのである。

いろんな苦肉の策が試みられてきた。たとえば理想、つまりは道徳の想像的イメージを歴史として記述し、それを人類の文化史のもっとも古い時代のことと想定し、はるかな時間の高みに投げあげてしまうことである。誰(だれ)がそうしたのかは知らないけれども、洋の東西を問わず、理想世界を太古に想定する歴史観が長期間にわたって存続したことは、単に戯曲や小説という架空的表現の登場発達といった問題をこえて、想像的イメージが、社会的に効用をもつためにはどういう手続きが必要だったかを物語る。たとえ科学が未発達であっても、どの共同体、どの村落、どの時代、どの民族にも必ずいる知恵者というものが、事物の即物的記述と、非事実の事実的表現とを区別する能力をもたなかったとは思えない。ホメロスを語る詩人も堯舜(ぎょうしゅん)伝説を読む読書人にも、おそらくはその二つのことの区別はついていたと思われる。いや、区別がついていただけではなく、そうした非実在の事柄や人物のイメージを思い浮かべることの、人間精神に対して果たす役割というものを、むしろ明確に自覚していたのではないかと、近ごろ私は考えはじめている。ということは、bそういうものとして、古典を読み研究し評価すべきだということを意味する。

(高橋和巳(たかはしかずみ)「事実と創作」より)

●語句注

ホメロス＝古代ギリシアの詩人。盲目の吟遊詩人で、叙事詩「イリアス」「オデュッセイア」の作者といわれている。

堯舜(ぎょうしゅん)＝中国の伝説で、古代の聖天子とされる堯と舜のこと。

(1) ――線b「そういうものとして」とはどういうことですか。説明しなさい。

この問題は、文章をかなり広い範囲でみていかなければなりません。

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) **――線a「想像的表現がおちいらねばならぬ背理」とはどういうことですか、説明しなさい。**

「指示する語句の内容をつかむ」学習はこれで終わりです。休憩した後、この日の後にある「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。一巻で取りあげた漢字は、入試に特によく出るものです。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) ゲーテが普遍的な所以は彼がすぐれて国民的であったがためだ。
□□(2) 月の光が前栽の植え込みからしっとりと流れこむ。
□□(3) 母親は乳母車を押して歩いていった。
□□(4) 子どもの心は無垢で好奇心に満ちている。
□□(5) テレビ、新聞、雑誌など、現代社会は情報が氾濫している。
□□(6) 彼は、背後に人の気配を感じて振り返った。
□□(7) この件は、先例に倣って処理する。
□□(8) 工芸品の精緻な細工に目をみはった。
□□(9) この庭園は四季を通して美しいが、秋は特に風情がある。
□□(10) 何度も練習を繰り返し、ようやくその技術を会得した。
□□(11) 大蔵大臣は、記者会見で大幅な減税を示唆した。
□□(12) 若い工員たちが機械を操作する技術を習っている。
□□(13) 鳥の飛翔について熱心に研究した。
□□(14) 図書館にコピー設備を置き、閲覧者の便宜を図る。
□□(15) 祖父は、素人のど自慢で民謡を歌った。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 自分の癖は、他人にしてきされて改めて気づくことが多い。
□□(2) 同じことをしているのに、私だけしかられるのはなっとくできない。
□□(3) 交通事故のぎせい者はあとを絶たない。
□□(4) その事件の真相は、いぜんとして不明である。
□□(5) そのことばは、彼の人生観をたんてきに示している。
□□(6) 医薬品のテストは、げんみつに行わなければならない。
□□(7) 日が暮れて、人や物のりんかくがぼやけてきた。
□□(8) 大蔵大臣は、減税の可能性をしさした。
□□(9) 彼は、てっていした倹約家だった。
□□(10) 私は、高校時代に山のみりょくに取りつかれた。
□□(11) トルストイは、自分の思想と実生活とのむじゅんに苦しんだ。
□□(12) 硝酸の入ったびんのふたを取ると、しげきの強いにおいが鼻をついた。
□□(13) 少女は、窓から落ち葉を眺めながら、かんしょうにふけっている。
□□(14) 科学のきゅうきょくの目的は何だろう。
□□(15) 自分の能力を十分にはっきして働くことが最高の幸福であろう。
□□(16) もほうは創造の母だといわれる。
□□(17) ロシアの将軍は、ナポレオンの予期しなかった作戦をてんかいした。
□□(18) 念入りに調査して、実態をはあくする。
□□(19) 彼は、頭を打って記憶をそうしつした。
□□(20) 会社の倒産をけいきに、別の職種を選ぶことにした。
□□(21) その問題は、文学というよりも、むしろ心理学のりょういきに属する。
□□(22) せんさいな神経の持ち主は、他人の不幸を黙って見過ごせない。
□□(23) それは単なるぐうぜんの一致だろう。
□□(24) 成功のかげには、そうぞうを絶する苦労があったに違いない。
□□(25) 父祖からけいしょうした伝統を現代に生かす。
□□(26) ローマ帝国はついにほうかいした。
□□(27) こういうときこそ、今までのちくせきがものをいう。
□□(28) 今や全世界は電波をばいかいにしてつながっている。
□□(29) 社会ちつじょを守らなければ、治安は維持されない。
□□(30) 利益のかくとくのために他を犠牲にしてはならない。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)
□□① 友だちをあいしょうで呼ぶ。
□□② 二人のあいしょうをトランプで占った。
□□③ あいしょうにあふれた挽歌をよんだ。
□□④ 日ごろあいしょうする詩を聞かせてあげる。

(2)
□□① いかんともしがたいことだ。
□□② 公園の管理が、町から県にいかんされた。
□□③ その事件については、誠にいかんに思う。
□□④ 神官はいかん束帯に身を正している。
□□⑤ 台風はいかんを誇った自然の美林を痛めつけた。

第 2 日

現代文第2日／技法別読解（論理的文章）

文や語句の接続関係をつかむ

学習日　月　日

きょうは、文や語句の接続関係をつかむトレーニングをします。具体的にいえば、ある文と文、語句と語句とが、「しかし」の関係でつながっているのか、「そして」の関係でつながっているのか、などを判断するトレーニングです。この**「しかし」や「そして」などを接続する語句と呼びます。**

適切な「接続する語句」を選ぶ学習は、あなたが筆者の論理の方向を正しくつかんでいるかどうかをチェックするのに役立ちます。しっかりトレーニングしなさい。

●例題●　解答は考え方のあとにあります

▽ **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

ゴムの産地として名高いマレーシアでは英国統治時代からいわれてきた「ラバー・タイム」というのがある。ゴムのように伸びる時間の感覚である。熱帯ではどの国でも多少こうした傾向があるのがつねである。〔　A　〕、約束した日時を守らないといって二年間も憤慨しつづけて過ごす日本人などがある。何度か同じように日時が守られなかった経験をもった場合には、怒るよりも、まず「なぜだろう」と考えるべきである。必ず何か理由があり、そのおくれ方自体に一定のシステムがみつかるものである。〔　B　〕、一か月といった場合はだいたい二か月を意味するとか。表現というものは必ずしも実際の数を意味しないということは、どこの文化にもあることである。

（中根千枝「適応の条件――日本的連続の思考」より）

(1) **〔　〕AとBに入れるのに適切な語句を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。**

(ア) また　(イ) これに対して　(ウ) むしろ
(エ) たとえば　(オ) したがって

A〔　〕　B〔　〕

考え方

接続する語句が前後をどのような関係でつないでいるのか、または逆にどのような接続する語句を用いてつなげればよいのか。これらを解くにはどのようにすればよいでしょうか。その手順を考えてみましょう。

1　**接続関係の種類と、それに対応する接続する語句を知る。**

接続関係には次のような種類があり、それに対応して用いられる接続する語句には（　）に示したようなものがあります。

順接……前のことがらを原因・理由とすることがらが、後にくることを表す。（だから、すると、それで、したがって、など）

逆接……前のことがらとは逆のことがらが後にくることを表す。（しかし、けれども、ところが、だが、だけど、など）

累加・並立……前のことがらにつけ加えたり、並べあげたりすることを表す。（さらに、まして、また、および、など）

説明・補足・例示……前のことがらについての説明や補足、あるいは例示などを表す。（つまり、なぜなら、たとえば、ただし、もっとも、など）

対比・選択……前のことがらと後のことがらとを、比べたり、どちらかを選んだりすることを表す。（または、あるいは、それとも、など）

転換……話題を転じることを表す。（さて、ところで、など）

右のような分類と代表的な語句を頭に入れておくと便利です。なお、（　　）内に示した語句は、品詞でいえばいずれも接続詞ですが、ほかに、接続助詞（が、から、ので、など）や、一部の副詞（ただ、むしろ、特に、など）などの接続する語句もあります。

2　接続する語句がつないでいる範囲をおさえる。

接続する語句は、語句と語句、文と文、あるいはそれより大きな段落と段落とをつなぐことができます。そこで、まず、前のどの部分と、後のどの部分をつないでいるのかを考え、つないでいる範囲をはっきりさせます。

3　前後の文脈をおさえて、どういう接続関係かをつかむ。

例題〔　A　〕の場合を考えてみます。〔　A　〕より前の文では、「熱帯ではどの国でも多少『ラバー・タイム』（ゴムのように伸びる時間の感覚）の傾向があるのがつねである」と述べています。

一方、〔　A　〕に続く文では、「約束した日時を守らないといって憤慨して過ごす日本人がいる」と述べています。つまり、「『ラバー・タイム』の傾向があるのはつねなのに、そのことをわきまえず憤慨して過ごす日本人がいる」という逆接的な関係でつながっていることがわかります。選択肢の中で、このような文脈に合う接続する語句は「これに対して」だけですから、正解は(イ)となります。

次に、〔　B　〕の場合を考えてみます。〔　B　〕より前の文では、「（日時が守られないことには）必ず何か理由があり、そのおくれ方に一定のシステムがみつかるものである」と述べ、〔　B　〕以下の文では、「一か月といった場合はだいたい一か月を意味する」として、「おくれ方の一定のシステム」の一つの具体例をあげていることがわかります。選択肢の中で例示を表す接続する語句は「たとえば」だけですから、正解は(エ)となるはずです。

《解答》
(1)　A　(イ)　B　(エ)

――接続する語句に関する設問を解く手順や考え方が理解できたら、次のトレーニングでその手順や考え方を身につけます。すべて、入試で出題された接続する語句に関連した問題です。

トレーニング

1 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**　〔追手門学院大〕

言語は必ず事実の伝達としてある。伝達を必要とする事実があればこそ、言語があり、書物があり、著書がある。読者の注意が、著者をとびこえて、著者の伝達しようとする事実へと、まずむかおうとするのは、当然であるとしなければならない。

それとともに、著者のない書物というものは、存在しない。もっとも古代の書物のおおむねは、著者の名をたしかめにくい。〔　A　〕中国で、著者の名をたしかめ得る最初の書物は、前一世紀、ほかならぬ司馬遷（しばせん）の史記である。それ以前に発生した書物は、みな著者ないしは筆録者の名をたしかめにくい。〔　B　〕それは著者の名が知られないというだけのことである。名の知られないという形で、著者は〔　C　〕存在している。

かく書物には必ず著者があるということは、言語が事実を伝達する過程に、著者の態度が必ず参与して働いているということである。著者の態度、これまた人間の事実である。著者の伝えんとする事実とともに、人間の大きな事実である。書物を読むには、それにも注意を鋭くしなければならない。少なくとも、人間を知る資料として書物を読むには、この大きな事実に冷淡であってはならない。何をいっているかを読むばかりでなく、著者は伝えんとする何を、いかにいっているかを読まねばならない。

著者の態度、その表現としてあるものは、言語の様相である。それにその音声の様相である。それによって著者の態度、いいかえればそこに表現された著者の人物という事実を知る。それを知ることが、著者の伝達する事実を知るとともに、人間研究の資料とならねばならない。

中国における学問の伝統、また日本における学問の伝統は、このことに甚（はなは）だ敏感であった。おそらく西洋における学問よりも、敏感を早くしたかとも予想する。しかし今はその伝統が薄れている。私はその復権を主張したいのである。

（吉川幸次郎（よしかわこうじろう）「読書の学」より）

(1) **〔　〕ABCに入れるのに適切な語句を次の中から選び、記号で答えなさい。**

(ア) そして　(イ) やはり　(ウ) しかし
(エ) あるいは　(オ) たとえば

A〔　〕　B〔　〕　C〔　〕

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) **右の文章は、著者との関係においてどのような書物があると述べていますか。次の中から二つ選びなさい。**

(ア) 著者のない書物。
(イ) 著者のはっきりしている書物。
(ウ) 著者の現存している書物。
(エ) 著者のわからない書物。
(オ) 著者の経験を伝達している書物。

(3) **右の文章で、本の読み方として最も強調されていることは、何で**

すか。次の中から最も適切なものを選びなさい。

(ア) その本の著者が伝えようとしている事実を読み取ること。
(イ) 言語は必ず事実の伝達としてあるということを読み取ること。
(ウ) 書物には必ず著者がいるということを読み取ること。
(エ) その本の表現を通して著者自身のあり方を読み取ること。

――― ここで答えを合わせてから、次へ進みなさい。

2 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。** 〔大阪学院大〕

私の信条の体系は、もちろん、いくさと占領にだけ係っていたのではない。「戦後」の社会に臨んで、私はその他にもどういう信条をもち、どういう経験をもっていたか、〔 A 〕むしろもっていなかったか。宗教的信条は、私にはなかった。神があるという議論は私には説得的でなかったし、神がないという証明は不可能だろうと思われた。しかし神があるという前提から、どういう結論が導かれ得るか、神がないという前提からどういう結果が生じ得るか、ということには、個人の場合についても、〔 B 〕社会とその文化の全体についても、関心をもちつづけていたようである。認識論的には、私は懐疑主義者であり、しかし実際にはその懐疑主義に忠実であった。すなわち、よほど暇な時でなければ、眼のまえのシナそばが、実在するかどうか、いかにして私が五感を通してそれを知り得るか、というようなことを考えもしなかった。考えたかぎりでは、主体的な私の意識から出発してシナそばの客観性に到達することは困難であり、シナそばの客観的世界から出発して認識の主体の超越性に到達することは困難だろう、と感じ、それ以上先へは進まなかった。従って、〔 C 〕、史的唯物論も、一つの選択であり、全く同等の資格で、もう一つの選択である主観主義的立場に対立する、と結論するほかなかった。道徳的信条は、そのどれをとっても、つまるところ私にとって絶対的なものではなかった。道徳律を永遠の星空に比較することはできるかもしれないが、それは抽象的な道徳律一般についてであって、その具体的な内容についてではない。具体的な道徳的価値は、時代や社会やその人の立場に応じ、相対的なものにすぎないだろう。そういう道徳的相対主義は、考えの上で、しばしば私を偶像破壊的にした。社会や伝統が絶対化しようとする価値を、私は絶対的なものとしては認めなかったからである。〔 D 〕同じ相対主義は、また、実際の行動の上で、私を保守的にした。新旧の価値のいずれも相対的なものであるとすれば、新を以て旧に代えなければならぬ絶対的な必要もないからである。実生活上の私は、およそ法律をまもり、人畜に格別の被害をあたえず、さりとて格別の福祉ももたらさず、親にはいくらか孝行をつくし、妹には親愛の情深く、そういうことを私自身の利己主義と著しく抵触しない範囲で実行し、みずから択んだ職業に相応の精を出しながら、天下国家を横目にみて平穏に暮らそうとしていたように思われる。

（加藤周一「続羊の歌」〈信条〉より）

●語句注
史的唯物論＝唯物論によってとらえた人間社会の発展の法則。
抵触しない＝規定されている禁止事項に触れない。

(1) 〔 〕 **ABCDに入れるのに適切なものを次の中から選び、記**

号で答えなさい。

(ア) しかし　(イ) また　(ウ) ところで
(エ) たとえば　(オ) だから　(カ) しかも
(キ) あるいは　(ク) ただし

A〔　〕　B〔　〕　C〔　〕　D〔　〕

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) 本文中文意のとおらない部分が一か所あります。その個所を文節で書き抜き、時制を変えない形で訂正しなさい。

該当個所　（　　）

訂　正　（　　）

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。　〔成城大〕

人間の方が選ぼうとしても、言葉の方が人間の精神をとらえてしまうことがある。何となく好きな言葉、使ってみたい言葉、そういうものが精神の自由を奪うことがある。谷崎潤一郎氏はこう書いている。「私の青年時代の作に『麒麟』といふ小篇がありますが、あれは実は、内容よりも『麒麟』といふ標題の文字の方が最初に頭にありました。さうしてその文字から空想が生じ、あゝいふ物語が発展したのでありました。ですから、一つの単語の力といふものも甚だ偉大でありまして、古の人が言葉に魂があると考へ、言霊と名づけましたのも、寔に無理はありません。これを現代語で申しますなら、言葉の魅力といふことでありまして、言葉は一つ一つがそれ自身生き物であり、人間が言葉を使ふと同時に、a言葉も人間を使ふことがあるのであります。」

私も「麒麟」という言葉の魅力を感じる。しかし、魅力は、「キリン」と書いた瞬間に消えるであろう。「キリン」でなく、「麒麟」でなければいけない。「キリン」では、精々、ビールぐらいしか連想しない。〔　A　〕、「麒麟」は何を連想させるというのであるか。だが、「麒麟」というのはジラフのことでなく、竜などと同様の想像上の動物の名である。〔　B　〕、動物の名ではあるけれども、牛とか豚とかいう言葉とは全く違っている。牛や豚なら、「牛」や「豚」という言葉があるだけでなく、実物の牛や豚が立派に存在する。もちろん、「牛」や「豚」という言葉にも或る感じはある。格別の魅力はないかも知れないが、感じはある。しかし、この感じには、実物の牛や豚の影が射している。〔　C　〕、「麒麟」という言葉の向こう側には、何も実物はない。言葉だけしかない。そう考えれば、「麒麟」という言葉は、「良心」や「運命」や「批判」という言葉に似ていると言える。とにかく、「麒麟」という美しい言葉だけがあって、実物は存在しない。それゆえに、谷崎潤一郎氏は実物に煩わされることなく、この美しい言葉に想像力を励まされて、自由に作品を書くことが出来た。ここに、言葉に対する詩人の態度が現れている。詩人とは言葉を使う人間ではなくて、言葉に仕える人間だ、とサルトルは言っている。詩人については、言葉それ自らが実物なのである。

（清水幾太郎「論文の書き方」〈日本語を外国語として取扱おう〉より）

●語句注
谷崎潤一郎（たにざきじゅんいちろう）＝小説家・劇作家。東京生まれ。「細雪（ささめゆき）」「鍵（かぎ）」などの作品がある。

(1) 〔　〕ABCに最もよくあてはまる接続語を次の中から選び、記号で答えなさい。

(ア) ところが　(イ) すると　(ウ) したがって
(エ) または　(オ) それなら

A〔　〕　B〔　〕　C〔　〕

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) 本文中に引用されている谷崎潤一郎の文章によれば『麒麟』とはどのような物語ですか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

(ア) 内容よりも標題の文字に重点を置いた物語。
(イ) 古（いにしえ）の人の言葉には魂があるとの考え方に共鳴した物語。
(ウ) 標題の文字から空想を呼び起こして書いた物語。
(エ) 言葉も人間を使うことがある例として書いた物語。

(3) ――線aと同じ意味に用いられている語句を本文中から書き抜きなさい。

〔　〕

――答えを合わせ納得がいったら、次へ進みなさい。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〔東北大〕

人間とは何か、という問いは、古来の偉大な思想家たちによっていろいろに答えられてきた。実に人間の本質こそは、人々が常に求めてやまなかったところのものであり、現に人々に解決を迫っているところの課題なのである。それは、一つの古くて新しい問題といってよいであろう。

しかし、この問いが、どのような観点から、いかようにとり扱われるにしても、動かし得ない事実は、人間が言語によって生存しているということである。人間の本質そのものが私たちの本来の問題ではなく、歴史認識にとって不可欠な契機をなす類型という概念が、人間の生存においてどういう位置を占めるかを明らかにしようとする場合、人間を他の動物から区別する標識を、言語の所有という点に見出（みい）だすのは適当なことということができる。

もとより言語と総称されるものには、感情や情緒の表現運動をはじめ、主として未開民族にみられる身振り語のようなものもあるが、人間は言語をもって生存することをその本質とするといった場合の言語とは、そうした形のものではなく、〔　A　〕文字または音声に表される言葉のことでなければならない。人間が現実に生存するということは、aこのような言語を媒介として、相互了解を達成するにおいて可能なのだといえるであろう。

言語による生存に、人間と他の動物との差異の少なくとも一つがあるとすれば、そうしてまた、言語を媒介とする相互了解に人間的生存が成り立つとすれば、このことは、言語と思惟（しい）との密接な関係

を示すものである。〔　B　〕言語は、いま述べたように、文字あるいは音声としての形をとり、こうした物的な面も言語として欠くことのできないものにちがいない。〔　C　〕言語が言語であるゆえんの根本機能は、それによって私たちが、一定の事柄を示し得るということに存するのでなければならない。〔　D　〕一定の意味をもっているということが、言語にとっては是非とも必要なのであって、もしそうでないならば、文字または音声は、言語としての役割を果たし得ないことになる。音声は、話者がそれらに意味を与えこれを聞き手に告げようとすることによって、はじめて言語となるのであり、そうして、この告げるという作用は、聞き手が話者の意図を理解することによって可能なのである。文字についても、これと同様に考えられる。言語を言語とするところのものは、言語の物的な側面に媒介されて、話し手の体験と聞き手の体験との間に相関関係が成り立つ点にあるということができる。してみれば、内にある思惟が外に現れたものが言語にほかならない。言語と思惟とは、いわば表裏の関係に立つとみてよいであろう。

（岸本昌雄（きしもとまさお）「歴史認識の論理」より）

●語句注
思惟＝深く考えること。

(1)　〔　　〕ABCDに入れるのに適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

(ア)　けれども　　(イ)　すなわち　　(ウ)　なるほど
(エ)　むしろ

A〔　　〕　B〔　　〕　C〔　　〕　D〔　　〕

★★次の問題もやってみよう！★★

(2)　――線a「このような言語」を四十五字以内で説明しなさい。

まず意味を考えながら本文をよく読んで、何が書かれているのか内容をしっかり把握（はあく）します。そのうえで前後の文脈を見極めて接続関係を考えていきます。はっきりしないものは、空欄に実際に入れて読み比べ、前後のつながりがスムーズでしぜんなものを選びなさい。
答えを合わせたら、最後のトレーニングに進みなさい。

5　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。　〔立教大〕

言葉の皮肉な在り方のひとつに、大げさな言葉はわれわれをあまり感動させず、逆に、つつましく発せられたささやかな言葉が、しばしば人を深く揺り動かすという事実がある。
私は日ごろ詩を書いたり、散文を綴（つづ）ったりしているが、いずれの場合においても最も難しいのは、自分が一番力を入れて書こうとしていること、〔　A　〕思い詰めて考え、人に伝えたいと思っている一番大事なことをどう表現するかという問題である。強調したいこ

とは最上級の言葉で語りたいと思うのが自然の要求であって、その誘惑は強い。〔　B　〕、私たちが採っている最上級の表現というものは、皮肉なことに、たいていの場合は出来合いのものである。概念的でa通念によって汚され、ひからびた表現である場合がほとんどである。その例証は政治家たちの用語の中にいくらでも見出だすことができる。最も明瞭に人の心に叩きこみたい思いを表現するのには、出来合いの大げさな表現と正反対の方向へむかって道を探さねばならない。〔　C　〕、その瞬間から、何が最もその場に適した表現であるかについての、闇夜の手探りに似た状態に投げこまれる。通念の次元でならきわめて通りのいい種類の言葉をなげすてた瞬間から、人は常に、最初の一語をどう発するか、という、いつの時代にも変わらない表現者の初歩的で究極的な困難に新たに直面しなければならない。

私はこういう問題について思うとき、よく中原中也が日記だったかエッセイだったかの中で書きしるした言葉を思い起こす。中原は「b問題は紛糾してはいない。野望が紛糾しているだけだ」とそこで書いていた。含蓄ゆたかな思想である。〔　D　〕、問題は紛糾してはいない。人間の拠って立つ根本のものは、そんなに複雑多岐にわたっているわけではない。いつの時代にも人は生活者として生き、愛し、語り、書き、読みということを繰り返していて、いかに重要な問題もその範囲の外にあるわけではなかった。もちろん一人の人間の「生活」は複雑多岐であり、必然的に表現も複雑多岐であらざるを得ない。けれど、それは依然として日々のささやかな営みの中で徐々に組織され、構成されてゆくものであって、その事情は、表現の細部をとってみればどの細部もそれ自体としてはささやかなものであるという事実と正確に照応し合っている。よく構成され、稀有な関係を形造るにいたったささやかなものの集まりが、巨大な結果を生むのであり、その巨大な結果とは、人間の拠って立つ根本のものをじかに背負っているものにほかならない。

そういうことを考え合わせれば、大げさな言葉がわれわれを感動させず、逆に、つつましく発せられたささやかな言葉が、しばしば人を深く揺り動かす理由も納得がゆくだろう。

（大岡信「ことばの力」より）

●語句注

中原中也＝詩人。山口市生まれ。詩集「山羊の歌」「在りし日の歌」などがある。

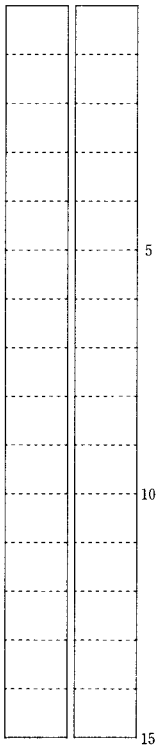
(1) 〔　〕ABCDに入れるのに適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

(ア) たしかに　(イ) いわば　(ウ) すると　(エ) けれども

A〔　〕　B〔　〕　C〔　〕　D〔　〕

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) ――線aの部分について。表現が「通念によって汚され」るとはどういうことですか。句読点とも四十字以内で答えなさい。



(3) ――線bの部分について。「野望」とはここではどのようなことを意味していますか。本文に即して句読点とも三十字以内で答えなさい。

――他人を深く揺り動かし、説得力のある言葉に関して、筆者の経験に即して述べていますね。内容をしっかり把握(はあく)したうえで、設問に取り組みなさい。答えを合わせたら、「文や語句の接続関係をつかむ」トレーニングは終わりです。

この日の後にある「入試頻出漢字のトレーニング」も忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 彼独自の思想は、この書物に初めて顕現している。
□□(2) 彼の思想の根底には、仏教的な無常観がある。
□□(3) 書き上げた原稿は、数日たってから推敲するとよい。
□□(4) 十年来の念願が成就した。
□□(5) 彼は人に対する好悪をあからさまに顔に出す。
□□(6) 秋冬に、ときどき降ったりやんだりする雨を、時雨という。
□□(7) 江戸時代の市井の文芸を研究する。
□□(8) 責任をもって任務を遂行する。
□□(9) 釈迦の入滅を悲しむ慟哭がいたるところで聞かれた。
□□(10) 彼らの計画は、ついに破綻した。
□□(11) 彼の頭脳は、明晰である。
□□(12) その夜の音楽会は、流石にすばらしかった。
□□(13) 彼女は呪縛されたように身動きできなかった。
□□(14) 平家の落人は、山間に隠棲した。
□□(15) 頽廃した生活の中から人を感動させる文学が生まれた。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) A氏は、当社の発展に大きくこうけんされました。
□□(2) 明と暗とのたいしょうが、この詩の大切な要素だ。
□□(3) 想像力のこかつした芸術家はみじめである。
□□(4) そのニュースは世界中にしょうげきを与えた。
□□(5) 君のいうことをかんげんすればこうなる。
□□(6) その国の人々は、石油がもたらす利益をきょうじゅしていた。
□□(7) 新しい内閣は、各勢力のきんこうが保たれている。
□□(8) 蒙古軍によって、古代都市サマルカンドは一夜にしてしょうめつした。
□□(9) 三面記事は、そのときそのときの世相をはんえいする。
□□(10) ごしょうかいします。こちらが山田さんです。
□□(11) 一、二位の差はびみょうだったので、写真判定が行われた。
□□(12) ぼくにはそんな物を買うよゆうはない。
□□(13) 彼女は何でもこちょうして言う癖がある。
□□(14) 工場で自動車が組み立てられるかていを、図に表す。
□□(15) 諸民族の風俗やしゅうかんを研究する。
□□(16) 知人の指輪を紛失して、そのだいしょうを求められた。
□□(17) デモ隊は警官隊にはいじょされた。
□□(18) 哲学的なしさくにふける。
□□(19) 専門用語をくししているので素人にはわかりにくい。
□□(20) 恩師はがんちくのあることばを残して教壇を去った。
□□(21) それはかくうの人物か、それとも実在の人物か。
□□(22) 天皇は、日本国のしょうちょうである。
□□(23) 中・高校生をたいしょうにしてアンケート調査を行う。
□□(24) 医者の努力のかいもなく心臓がきのうを停止した。
□□(25) 君にひってきする実力を持つ人間が見当たらない。
□□(26) 戦争ではかいされた国土を復興した。
□□(27) 取引先とのこうしょうは、私に任せてください。
□□(28) 食品の栄養をぶんせきする。
□□(29) むだなていこうはやめろ。
□□(30) 日本が法治国家だということは、しゅうちの事実である。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1) □□① 人生いきに感ず。
□□② 若旦那はあかぬけていていきな人だ。
(2) □□① 校長先生はいぎを正していた。
□□② 彼の意見にはもはやいぎをさしはさめない。
□□③ 世の中の役に立ついぎのある仕事につきたい。
(3) □□① 親のいこうで出世した。
□□② 故人のいこう集を出版した。
□□③ 先方のいこうを尋ねたうえで、決めたい。
□□④ 会議を二十日いこうに延期する。

第 3 日

現代文第3日／長文読解

〈言語論〉文脈・要点をつかむ

学習日　月　日

きょうから三回にわたって、中央大学で出題された現代文を学習します。「言語」について書かれた文章です。

読解のステップを踏んで、読みを深めていきますから、指示どおりにトレーニングを進めていきなさい。第一回、第二回では、段落ごとに「語句」「文脈・文の内容」「表現」「段落の要点」の順で学習を進めていきます。この方法でトレーニングすれば、必ず力がつきます。

まず、第一段落のトレーニングから始めなさい。

【出典】〈中央大〉佐藤信夫「レトリック認識」〈ことばは新しい世界をつくる〉より

きょうのテキスト／第一段落

①遠い・近い、というような概念をならべて対立させて見る認識が、たとえば「遠い親類より近くの他人」のような〈対比〉表現を生む。②ところで、そういう対義的なふたつの項が、一対をなすだけではなくもっと微妙に接近し合って、やがて対立したまま結合することもある。③対義関係が、二項にわかれるのではなく、連結され、「遠くて近いものは……」というような、一見矛盾したかたちの一項目になるばあいである。④たとえば「慇懃無礼」「ただより高いものはない」などという言いまわしのなかでは、元来矛盾しているはずの概念どうしが結びついている。⑤ことばの上から言えば、慇懃は無礼の反対である。

トレーニング1／語句

1 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 個々の事物の特殊性を問題にしないで共通性だけを取り出して扱う考え。あるものやことがらに対し、一般的に思い浮かべられる意味や内容。〔　　〕

(2) そこにあるものを、確かにあると、心に認めること。ものごとをはっきりと知って、その意義を正しく理解すること。〔　　〕

(3) 二つのものをつきあわせて比べること。〔　　〕

(4) うわべはあくまでもていねいな態度だが、実は内心見下していること。〔　　〕

――ここでは、辞書的な意味で語句を扱っています。語句は文脈の中でいろんな意味で使われます。核になる意味を覚えておくようにしなさい。

また、この文章での「項」「項目」は、ひとまとまりとなることばの単位を

意味しています。

2 **《対義語》 次の語句の対義語（反意語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 分離↕

3 **《類義語》 次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 対照・比較〔　　〕

(2) 親切・ていねい〔　　〕

(3) 失礼〔　　〕

―― いろんな角度から語句の意味をおさえておく必要があります。次は、文のつながりを考えます。

トレーニング2／文脈・文の内容

4 **《文脈と文の内容》 ①～⑤の文のつながりを示すため、〔　　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) **【②の文】**

接続語 「〔　　〕」という話題を転換するはたらきの接続詞を用いて、①の文で説明された〈対比〉表現とは、別種の表現について述べようとしている。

指示語 指示語を含む「〔　　〕」いう対義的なふたつの項」は、①の〈対比〉表現に現れていた、「遠い親類」と「近くの他人」のような相対立する概念を含むふたつの項を指す。対義的なふたつの項が対立したまま〔　　〕することがあると述べる。

(2) **【③の文】**

語句 ①の〈対比〉表現は「ふたつの項」にわかれていたのに対し、②のケースは、対義関係が一見矛盾したかたちの〔　　〕になるばあいであると説明している。

(3) **【④の文】**

接続語 「〔　　〕」という語句で前文の例として「慇懃無礼（いんぎんぶれい）」などをあげ、その言いまわしのなかでは、元来〔　　〕する概念どうしが結びついていると述べる。

(4) **【⑤の文】**

語句 「慇懃」と「〔　　〕」は、前文の「元来矛盾しているはずの概念どうし」に対応している。④の例のなかの対立概念を指摘することで、④の文を補足している。

―― 文と文は、「接続語」「指示語」「語句（内容）」のいずれかでつながっています。ですから、文と文のつながりを考えるときには、絶えずこのことを念頭に置くようにしなさい。

トレーニング3／表現

5 **《対応表現》 対義的な二項目が「対立したまま結合する」という表現を言いかえた表現があります。「対義関係が」に続けるかたちで、本文から十六文字で書き抜きなさい。**

「元来矛盾しているはずの概念どうしが結びついている」も類似表現です。

6 《具体例》 **対義関係の結合の例としてあげられている言いまわしを、「慇懃無礼（いんぎんぶれい）」のほかに二つ書きなさい。また、それぞれの言いまわしのなかの「元来矛盾しているはずの概念どうし」を、「慇懃無礼」の例にならって指摘しなさい。**

（例）　慇懃無礼――「慇懃」と「無礼」

（　　）

（　　）

――ポイントになる表現がおさえられたら、第一段落の要点をまとめてみましょう。

トレーニング4／段落の要点

7 《段落の要点》 **次の手順に従って、第一段落を要約しなさい。**

(1)　本題に入るための前提が述べられている文は、どの文ですか。番号を書きなさい。

〔　　〕

――一般的な〈対比〉表現を説明している文です。

(2)　②以降の文はどのような表現について説明していますか。〔　　〕にあてはまる語句を本文から抜き出して書きなさい。

〔　　〕どうし

が結びついている表現

――②→③→④と順に言いかえて、より具体的に説明していますが、最もわかりやすくかつ簡潔に表現されている④の文の語句で答えます。

(3)　(2)の表現が生まれる経過を説明する形で、第一段落の要点をまとめなさい。

――次は、第二・三・四段落をまとめてトレーニングします。

きょうのテキスト／第二・三・四段落

⑥そのような、本来なら両立しない対義概念を、いわば、強制的につないでしまう〈対義結合〉型の表現は、論理学の基本原理のうち、同一律と矛盾律に真正面から衝突するようである。

⑦同一律、「XはXである」。⑧矛盾律、「あるものごとがXであると同時にXではない、ということはありえない」。

⑨いずれも、多くの論理的原則と同様、あらためてことばで言っ

てみると、当りまえすぎて、いかにもばかばかしい。⑩「とうなすはとうなすである」、「とうなすがかぼちゃであって同時にかぼちゃではない、ということはありえない」。⑪そして、それがばかげて感じられるのはもちろん、論理の根本原理がじつは、おおむね私たちの日常的認識の原理だからである。⑫とうなすが馬車になったり、たぬきが茶釜（ちゃがま）に化けることはあっても、同時にその両方であることはなさそうである。

トレーニング1／語句

8 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 二つのものが同時に成り立つこと。〔　　〕

(2) おしつけて無理にさせる様子。無理やり。〔　　〕

(3) 思考の法則や形式を研究する学問。〔　　〕

9 《対義語》 **次の語句の対義語（反意語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 自発的↕〔　　〕　(2) 例外↕〔　　〕

10 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 原則〔　　〕

――「原則」はいろいろな場合に適用される人為的な法則であるのに対し、「原理」はものごとを成り立たせる根拠そのものです。

11 《定義文》 **次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に――線を引きなさい。**

(1) 〈対義結合〉型の表現　(2) 同一律　(3) 矛盾律

――難しい語句を使うとき、筆者はしばしばみずからその語の内容を比較的易しいことばで説明することがあります。そのような筆者自身の手による説明を探すことは、難しい語句を理解するのに、いちばんよい方法です。

トレーニング2／文脈・文の内容

12 《文脈と文の内容》 **⑥～⑫の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【⑥の文】

指示語 「〔　〕ような」で第一段落を受け、第一段落で説明した表現に「〈対義結合〉型の表現」という語句をあてている。

語句 〈対義結合〉型の表現を「論理学」との関連で論じ始め、その基本原理に衝突すると述べる。

(2) 【⑦の文】

語句 ⑥の文で提示した〔　　〕がいかなるものかを示す。

(3) 【⑧の文】

語句 ⑥の文で提示した〔　　〕がいかなるものかを示

す。

(4) 【⑨の文】
語句 「〔　　〕」で⑦⑧の「同一律」と「矛盾律」を受け、ことばで説明してみると「当たりまえすぎて、ばかばかしい」と評価を下している。

(5) 【⑩の文】
語句 ⑦⑧の二つの原理に〔　　〕と〔　　〕の語句をあてはめ、⑨の評価を際だたせている。

(6) 【⑪の文】
接続語 「〔　　〕」という順接の接続詞で⑨⑩の文とつなげ、⑨の理由を述べている。
指示語 「〔　　〕が」は、同一律と矛盾律を示す。
語句 論理の根本原理はじつは、おおむね〔　　〕の原理だから、ばかげて感じられると述べる。

(7) 【⑫の文】
指示語 「〔　　〕両方」は、「とうなすと馬車」、あるいは、「たぬきと茶釜（ちゃがま）」を指し、同時に「とうなす」であり「馬車」であるというようなことはないと述べる。

―― 童話や昔話の世界からも例を引いて、抽象的な論理学の原理をわかりやすく説明しています。

トレーニング3／表現

13 《具体例》 **本文中に、A同一律、B矛盾律に具体的な例をあてはめている表現があります。その部分にそれぞれ――線を引きなさい。**

―― 11の(2)同一律、(3)矛盾律の説明に――線を引いた個所と対応して確認するとわかりやすくなりますね。

14 《具体例》 **「慇懃無礼（いんぎんぶれい）」の例を「矛盾律」にあてはめて「〈対義結合〉型の表現は、論理学の基本原理のうち、同一律と矛盾律に真正面から衝突する」ということを、説明しなさい。**

―― この文章では、抽象的な論述と具体的な例示をまぜながら論を進めていますから、必要なところは抽象的な論述に具体例をあてはめながら読んでいかないと、筆者の言わんとするところが理解できません。

トレーニング4／段落の要点

15 《段落の要点》 **次の手順に従って、第二～四段落を要約しなさい。**

(1) 〔前半の要点〕 ⑥の文を不要な部分を省いて一文でまとめなさい。

（　　）

定義文や修飾語などを省いてまとめます。

(2)　〔後半の要点〕⑨〜⑫の文から具体例を提示している文を除いて、第四段落の要点をまとめなさい。

⑨と⑪の文をつないで、まとめます。

(3)　(1)(2)をつないで、第二〜四段落の要点として書きなさい。

(1)と(2)は別の内容なので、一文にせず二つの文のままにします。間に指示語や接続語などの、文をつなぐはたらきをする語句を補うと、つながりがよくなります。

では、解答を合わせて納得したら、次の第五段落に進みなさい。

●きょうのテキスト／第五段落●

⑬論理はいかにも、はじめは私たちの日常的認識の原理であった。⑭ふだんの認識を造形する（ほとんど唯一の）手だてが言語表現であり、その言語表現には何やら首尾一貫した原理があるらしい……と察したとき、人間はその首尾一貫性を取り出してみることを思いついた。⑮論理は元来、言語の働きを純粋なかたちで反映するメカニズムとして発見されたはずである。

トレーニング1／語句

16　**《語句の意味》　次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1)　形をつくりあげること。　〔　　〕

(2)　あるものごとをしとげる手段。　〔　　〕

(3)　はじめから終わりまで、一つの考え方ややり方で貫き通すこと。　〔　　〕

(4)　混じりけのないこと。　〔　　〕

(5)　あるものの本質や影響が、具体的となって、ほかのものに現れること。　〔　　〕

(6)　仕組み。機構。　〔　　〕

17　**《類義語》　次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1)　終始〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

18 《文脈と文の内容》 ⑬〜⑮の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。

(1) 【⑬の文】

語句 前の第四段落で述べた「〔　〕は日常的認識の原理である」という内容をいかにも初めはそうであったと強調している。

(2) 【⑭の文】

語句 ⑬の文の「日常的認識」を〔　〕という語句で言いかえ、その造形手段が〔　〕であるとしたうえで、人間は言語表現の〔　〕を取り出そうとしたと述べる。

(3) 【⑮の文】

語句 ⑭の文の「首尾一貫した原理」「首尾一貫性」が〔　〕という語句に対応する。

トレーニング3／表現

19 《対応表現》 「ふだんの認識」は、何を言いかえたことばですか。五文字で書きなさい。

20 《対応表現》 「首尾一貫した原理」「首尾一貫性」は、明確に言えば何のことですか。二文字で書きなさい。

トレーニング4／段落の要点

21 《テーマ》 テーマについて、次の問いに答えなさい。

(1) この段落は何について述べていますか。〔　〕に漢字二字の語句を書きなさい。

〔　〕の起源

(2) 「論理」はどのようにして発見されたと述べられていますか。㋐〜㋒の順に書きなさい。

㋐ 〔　〕を〔　〕によって造形した。

㋑ それらの言語表現には、首尾一貫した〔　〕があるらしいと人間は察した。

㋒ その原理を取り出したものが〔　〕である。

22 《段落の要点》 テーマでおさえた要素を入れて、「論理は〜である。」の形で第五段落の要点を書きなさい。

――どうでしたか。このやり方でていねいに読んでくると、筆者の言いたいことを落とさずにおさえられますね。今回の長文読解の学習はこれで終わりにします。続きは次回で読んでいきます。

この日の後にある「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 平生は静かで穏やかな人だったが、それを聞いて激怒した。
□□(2) 心を籠めて家族のために料理をした。
□□(3) 運命に弄ばれた一生であった。
□□(4) 彼女は由緒正しい家柄の出身である。
□□(5) 相手に直截にものを言うにはそれなりの勇気がいる。
□□(6) さまざまな煩悩を断ち切って悟りの境地に達する。
□□(7) まじめに勉強したので、成績が著しく伸びた。
□□(8) 道で知人に出会ったので、会釈した。
□□(9) 完璧な答案を書こうとしたが、時間が足りなくなった。
□□(10) 事実を、簡単かつ明瞭に述べなさい。
□□(11) 累積した赤字をいかに解消するか、経営陣は頭を痛めている。
□□(12) 当店では、よい品を廉価でお求めになることができます。
□□(13) 複雑な思いを簡潔なことばに凝縮して表現する。
□□(14) 平和憲法を尊重し、擁護する。
□□(15) 十年ぶりに帰国した彼は、祖国の変貌に目を見張った。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 遺産相続の権利をほうきした。
□□(2) 一点を除いてほかは皆ぼんような作品でつまらなかった。
□□(3) この会社の労働条件は、労働きじゅん法に違反している。
□□(4) 先進文明をせっしゅするのに急で、心のゆとりが失われた。
□□(5) 君のようにだらくしたやつとは話したくない。
□□(6) 職を退いて以来たいだな日々を送っていた。
□□(7) 彼のそぼくな人がらに魅力を感じた。
□□(8) 古代ローマはどれい制のうえに成り立っていた。
□□(9) 冬山では、しんちょうに行動しなければならない。
□□(10) 体力をいじするためには、一定のカロリーが必要だ。
□□(11) しばらくじたいを静観しよう。
□□(12) かんきょうを破壊する開発には賛成できない。
□□(13) その夫婦は互いにそくばくされることを嫌った。
□□(14) 試験日の変更は、生徒たちにどうようを与えた。
□□(15) さまざまな経験を経たのち、いきょするものがない不安に陥った。
□□(16) 大地震のため、被災地では自衛隊の出動をようせいした。
□□(17) 一人でしんこくに考え込まず、人に相談しなさい。
□□(18) 意見があるなら、えんりょなく言いなさい。
□□(19) 正義というがいねんは相対的なものである。
□□(20) しょうどう的な行動を抑えて冷静に対処しよう。
□□(21) 成長したわが子を見てかんがいにふけった。
□□(22) 彼女の心を傷つけまいとのこりょから、事実は話さなかった。
□□(23) 台風のえいきょうで国鉄のダイヤが乱れた。
□□(24) 双方がだきょうして、交渉がまとまった。
□□(25) A博士は、地球物理学のけんいです。
□□(26) 自然を神としてすうはいした。
□□(27) 集団の中に個人がまいぼつしてしまう。
□□(28) 兵士たちは、全滅するかくごで戦場に向かった。
□□(29) 試合中、こうふんした観客がグラウンドに飛び出した。
□□(30) 子どもたちは、ぬいぐるみの怪獣がかくとうするのを見物していた。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)
□□① 人工えいせいを打ち上げる。
□□② 食べ物を扱う商売はえいせいに注意しなければならない。
□□③ スイスはえいせい中立国だ。

(2)
□□① 内外の学者がこぞってかいき日食を観測した。
□□② かいき小説を読んだら、夜トイレに行けなくなった。
□□③ かいき祝をくばって歩いた。
□□④ 唐招提寺のかいきは、鑑真である。
□□⑤ この問題は、かいきを延長して、十分に審議しよう。

第 4 日

現代文第4日／長文読解

〈言語論〉 文脈・要点をつかむ

学習日　月　日

中央大学で出題された現代文の第二回めの学習です。第一回と同じように、「語句」「文脈・文の内容」「表現」「段落の要点」の順に学習を進めます。

では、続きの第六段落から始めなさい。

【出典】〈中央大〉佐藤信夫「レトリック認識」〈ことばは新しい世界をつくる〉より

きょうのテキスト／第六段落

⑯しかし、純粋なかたちで取り出された論理が純化の道をたどったあげく、その抽出母体だったものとはあまり似ていない姿に変わってしまう、というなりゆきは、特に驚くべきことがらではない。⑰論理と言語はいつの間にか、いろいろな点で意見が合わなくなる。⑱最大の相違点は、論理が人間的な立場や視点を越えてしまったことであろう。⑲逆に言えば、言語はどうしても発言者の特定の視点や関心から離れることができない。⑳そのいきさつがもっとも見えやすいかたちであらわれるばあいのひとつに、否定表現の問題がある。

トレーニング1／語句

1 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 混じりけのない、純粋なものとなること。複雑なものを単純にすること。〔　　〕

(2) 多くのものから必要なものだけを抜き出すこと。〔　　〕

(3) 分かれ出たものの、もとのもの。〔　　〕

(4) 打消の意を表す文法形式をとる表現。〔　　〕

辞書的な意味から判断して、語句を理解します。

2 《対義語》 **次の語句の対義語（反意語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 類似点↕　(2) 肯定↕

語句の意味をおさえたら、文の内容と文と文のつながりを考えるトレーニングです。

トレーニング2／文脈・文の内容

3 《文脈と文の内容》 ⑯〜⑳の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。

(1) 【⑯の文】

接続語　逆接の接続詞「〔　　〕」でつながり、第五段落の「論理は言語表現から取り出した原理である」という内容に対し、純化して取り出した結果、論理がその抽出母体と異なるものとなってしまうと述べる。

(2) 【⑰の文】

語句　⑯の「論理」と「その抽出母体だったもの」を、「論理」と〔　　〕の語句に言いかえている。

(3) 【⑱の文】

語句　⑰の「いろいろな点で意見が合わなくなる」を受け、論理と言語の最大の〔　　〕をあげる。

(4) 【⑲の文】

語句　「逆に言えば」として、⑱であげた「相違点」を裏返しにして、〔　　〕の側から補足説明している。

(5) 【⑳の文】

指示語　「〔　　〕いきさつ」で⑯の文の「論理が純化の道を〜というなりゆき」を受け、そのいきさつが顕著な例として〔　　〕をあげている。

トレーニング3／表現

4 《対応表現》 「抽出母体だったもの」を本文のことばで言いかえれば、何になりますか。二文字で答えなさい。

□

――「純粋なかたちで取り出された論理が……その抽出母体だったものとは……変わってしまう」という文脈に注目します。そして、後の文で対照させてその相違点を述べている語句をおさえます。

トレーニング4／段落の要点

5 《テーマ》 この段落は何について述べていますか。〔　　〕にあてはまる本文の語句を書きなさい。

論理と言語の〔　　〕

6 《キーセンテンス》 この段落で中心になっている二つの文の番号を書きなさい。

〔　　〕〔　　〕

――テーマに沿って選びます。

7 《段落の要点》 第六段落の要点を一文でまとめなさい。キーセンテンスを中心に、必要な内容を補って書きなさい。

解答を合わせたら、次の第七段落を読みなさい。

きょうのテキスト／第七段落

㉑論理においては、「X」の否定すなわち「非X」をもう一度否定すれば元にもどってしまうだろう。㉒「非・非X」は「X」にひとしい。㉓言語ではいくらか様子がちがってしまう。㉔「可能である」の否定形「不可能である」を、さらに否定すると「不可能ではない」となるが、それは、「可能である」にひとしいか。㉕無論、ちがう。㉖その相違はおもに、判断の経過にある。㉗そこには、はなから「可能である」と割り切っていることと、はじめは「不可能だろう……」とすこぶる懐疑的だった精神がいろいろ迷ったあげくにやっと「不可能ではない！」と思い切ることとのちがいがある。

トレーニング1／語句

8 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 時間が過ぎていくにしたがって変化するものごとの進み具合。〔　　〕

(2) 初めから。〔　　〕

(3) 程度のはなはだしいこと。大いに。〔　　〕

(4) 疑い怪しむような態度。〔　　〕

9 《対義語》 **次の語句の対義語（反意語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 軽信的↕

「軽信的」は、軽々しく信ずる態度をいいます。

トレーニング2／文脈・文の内容

10 《文脈と文の内容》 **㉑～㉗の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書きなさい。**

(1) 【㉑の文】

語句 前の第六段落で提示した「否定表現」を「論理」において論じている。二重に否定すると〔　〕にもどってしまうと述べる。

(2) 【㉒の文】

語句 ㉑の内容を言いかえている。「非・非X」は「〔　〕」にひとしい。

(3) 【㉓の文】

語句 二重否定を〔　〕において論じ始める。

(4) 【㉔の文】

語句 「可能である」を例にとり、二重否定の表現〔

〕が元の表現「可能である」にひとしいか、と問いかける。文末の助詞〔　〕によって問いかけの文になっている。

(5) 【㉕の文】

語句 ㉔の問いかけに対して「〔　　〕」と応じる。

(6) 【㉖の文】

指示語 「〔　〕相違」は㉔の文を受けているが、具体的には〔　　〕と〔　　〕という二つの表現のちがいを指し、そのちがいは「判断の経過」にあるとする。

(7) 【㉗の文】

指示語 「〔　〕には」は二つの表現の「判断の経過」を指し、判断の経過におけるちがいを述べる。

―― 個々の文の内容や文と文のつながりがわかったら、表現の細部を検討します。

トレーニング3／表現

11 《対応表現》 **「『非・非X』は『X』にひとしい。」という論理的原則に言語の場合をあてはめてみている部分があります。その文の番号を書きなさい。**

〔　〕

―― 「ひとしいか」と疑問形になっている部分です。あてはめてはみたものの、すぐ次の文でひとしくないと言いきっています。

トレーニング4／段落の要点

12 《テーマ》 **この段落は何について述べていますか。〔　〕にあてはまる語句を書きなさい。**

〔　　〕における論理と言語のちがい

―― この段落で何を説明するかは、前の第六段落に紹介してありました。適切な語句が思いつかなかったら、第六段落に戻ってみなさい。

13 《段落の要点》 **次の手順に従って、第七段落を要約しなさい。**

(1) 言語において、「『非・非X』は『X』にひとしい。」という論理的原則が成立しないのは、なぜですか。〔　〕にあてはまる本文の語句を書きなさい。

言語においては〔　　〕が含まれるから。

(2) テーマと(1)の答えをもとに、この段落の要点をまとめなさい。

―― では、最後の段落を読みましょう。

きょうのテキスト／第八段落

㉘論理の世界で「XはXである」という同一律がすっきりと成立するのは、経過をゼロと見る、無時間的な、視点抜きの遠近法のない世界を仮定するからである。㉙Xは、いつどこからどう見てもXであって、けっして次から次へと新しい姿態を見せるようなものではない。㉚いわば、Xの意味を決定的に固形化しえたという仮定であって、そのXはどこへどう持ちはこんでも変様しない固形物となる。㉛つまり論理は、記号の意味が固形化しうるという――〈それはけっきょく意味を無視するということとおなじ結果になる〉――仮定によって、《意味論的な悩み》を棚上げにする。㉜いつも揺れ動いて止まることのない《意味》、それを捨てきれない――〈その論理的不純さを身上とする〉――言語においては、同一律が潔癖なかたちで実現しないのと同様に、矛盾律も当然、固形化されたかたちでは成立しない。㉝ことばの意味の弾力性が働くからである。

トレーニング1／語句

14 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 時間が存在しない状態。〔　　〕

(2) 絵画などで、遠近の距離を、目に見えるのと同じ距離感を与えるように画面に表す方法。〔　　〕

(3) 姿。かたち。〔　　〕

(4) 語の意味や意味変化を研究する言語学の分野。論理学においては記号とその指示するものとの関係を取り扱う記号論理学の一分野。〔　　〕

(5) 問題を一時保留して、解決・処理を後に延ばすこと。〔　　〕

(6) とりえ。〔　　〕

(7) 不潔や不正を極度に嫌うこと。また、そのような性質。〔　　〕

15 《対義語》 **次の語句の対義語（反意語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 液状↔〔　　〕

(2) 純粋↔〔　　〕

16 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 保留〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

17 《文脈と文の内容》 **㉘～㉝の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【㉘の文】

語句	「〔　　〕」を材料にして「論理の世界」を分析していく。そこでは「遠近法のない世界」が仮定されている。

(2) 【㉙の文】

語句	㉘の「仮定」を同一律の「〔　　〕」において詳説している。

る。

(3) 【㉚の文】 **語句** 「〔　　〕」という副詞で、㉘の「仮定」を言いかえ、Xの「意味」を固形化しえたという仮定であるとしている。

(4) 【㉛の文】 **接続語** 「〔　　〕」という接続詞で、㉚の「仮定」を、記号の意味が固形化しうるという仮定と言いかえたうえで、論理は《意味論的な悩み》を棚上げにしていると述べる。

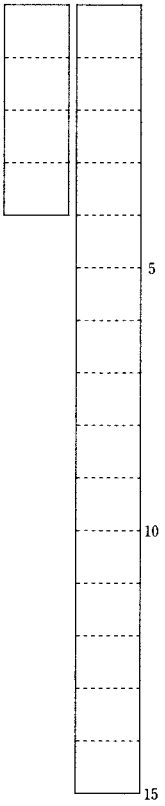
(5) 【㉜の文】 **語句** 「〔　　〕」という語句が引き続き用いられているが、それは「固形化」「無視」されるものではなく、「揺れ動いて止まることのない」ものとされている。

(6) 【㉝の文】 **語句** 「から」という理由を表す〔　　〕助詞を用いて、前文の理由を述べている。

――㉛の文の「《意味論的な悩み》を棚上げにする」とは、たとえば、記号の意味は何か、またその記号で表されることがらはいかなる条件のもとで真となるか、などを論じる作業を行わないということです。

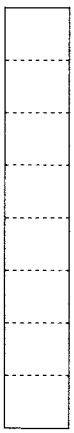
トレーニング3／表現

18 《対応表現》 **「無時間的な、視点抜きの遠近法のない」という表現に対応する表現を本文より十九文字で書き抜きなさい。**



――「時間的」「視点」「遠近法」をそれぞれ具体的な表現で言いかえている個所を探します。

19 《対応表現》 **「けっして次から次へと新しい姿態を見せるようなものではない」を簡潔なことばで言いかえるとどうなりますか。本文中の八文字の語句を答えなさい。**



20 《対立概念》 **「意味を決定的に固形化しえた」と反対の内容を述べている部分を本文から書き抜きなさい。**

（　　）

――設問の表現は、論理の世界の仮定を述べたものです。それと対立する言語の場合を述べた部分を探します。

トレーニング4／段落の要点

21 《段落の要点》 **次の手順に従って、第八段落を要約しなさい。**

(1) 「意味」に関して、論理と言語のちがいを書きなさい。

(2) 言語について述べられている㉜の文を中心にして、(1)の内容も加えて、この段落の要点をまとめなさい。

どうもごくろうさま。これで全文を読み終わりました。次回の学習では、今まで読んできた文章をまとめて読み、入試問題に取り組んでみます。

この日の後にある「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 一切の煩悩を解脱した高僧。
□□(2) 質問に対して、彼は曖昧な返事をした。
□□(3) この落書きは、心ない観光客の仕業だ。
□□(4) 今どき、氏素性にこだわるなんて、ばかげている。
□□(5) 登山家たちがテントを張る手際は、実に鮮やかだった。
□□(6) 彼は、屋根に上り、美しい夕映えに見とれていた。
□□(7) 横綱は、土俵際で強引な上手投げを打った。
□□(8) これは、一少年の心の葛藤を描いた小説だ。
□□(9) この一年を顧みると、国際情勢の変化が激しいのに驚く。
□□(10) ごみを資源として蘇らせる方法を研究する。
□□(11) 西洋文明が熱帯の奥地にまで浸透していることに驚いた。
□□(12) 文化文政の時代は、江戸文化の爛熟期にあたる。
□□(13) 注意深く読んで、文の真意を捉える。
□□(14) ぼくは、各地の風物を紹介するテレビ番組が好きだ。
□□(15) 多くの金と時を費やしたわりには、つまらない映画ができあがったものだ。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 批判を恐れていては、新しいものをそうぞうすることができない。
□□(2) 身体のしょうがいを克服して、りっぱなはたらきをする。
□□(3) 研究資料を取り寄せるためにべんぎを図ってもらった。
□□(4) ふと自分が偉くなったようなさっかくに陥った。
□□(5) 初めて象を見たとき、少年はその巨大さにあっとうされてしまった。
□□(6) いつ見ても、彼女の服装はとてもせんれんされている。
□□(7) 無差別な殺人は、市民のぞうおの的となった。
□□(8) 彼の物理学におけるぎょうせきは、海外でも高く評価されている。
□□(9) 人生には、よういに解決できない問題がしばしば生じる。
□□(10) 彼の趣味は、クラシック音楽のかんしょうです。
□□(11) 君は、何をこんきょにして、そんなことを言うのか。
□□(12) 少年はぼうけんにあこがれる。
□□(13) 働くことが生きがいの父のゆいいつの趣味は盆栽だ。
□□(14) 他国の内政にかんしょうしてはならない。
□□(15) 彼らは、東洋人に対して根強いへんけんをもっていた。
□□(16) 多くの人にせっしょくして、対人関係のこつを学んだ。
□□(17) 事故の責任は、私がおいます。
□□(18) 知性は、しばしば人をかいぎ的にする。
□□(19) 君の無責任な行動をぜにんするわけにはいかない。
□□(20) 最近は犯罪の低年齢化がけんちょである。
□□(21) 自分が得た利益を社会にかんげんすることを考えよう。
□□(22) 哲学はふへん的な真理を追究する学問である。
□□(23) 政治家は、有権者の批判にけんきょに耳を傾けるべきだ。
□□(24) 人まねでなく、どくそう的な作品を書きなさい。
□□(25) 先生が英語の試験のはんいを発表した。
□□(26) 自分の将来について、しんけんに考える。
□□(27) 進路決定に際しては一人一人の個性に応じてたいしょすべきである。
□□(28) 彼のそやな態度が人々のひんしゅくをかった。
□□(29) 彼はきんちょうのあまり、ひと言も発することができなかった。
□□(30) けんめいな努力の結果、目標を達成することができた。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)□□① 不況のため、工場で働く人が大量にかいこされた。
□□② 少年時代をかいこする。
(2)□□① 思いどおりになって、かいしんの笑みを浮かべた。
□□② 医者のかいしんを病室で待っていた。
□□③ かいしんして悪の道から足を洗いなさい。
(3)□□① 駅前で、選挙のがいとう演説を聞く。
□□② この条件にがいとうする人は申し出てください。
□□③ がいとうの光が夜の町を照らしていた。

第 5 日

現代文第5日／長文読解

学習日　月　日

〈言語論〉段落相互の関係・要旨をとらえる

きょうは、中央大学で出題された現代文を一括して学習します。第一・二回での段落ごとの学習を踏まえ、「段落と段落の関係」に注目しながら全体を把握（はあく）します。全文を一読した後、トレーニングに進みなさい。

【出典】〈中央大〉佐藤信夫（さとうのぶお）「レトリック認識」〈ことばは新しい世界をつくる〉より

●きょうのテキスト／中央大-法〈法〉●

遠い・近い、というような概念をならべて対立させて見る認識が、たとえば「遠い親類より近くの他人」のような〈対比〉表現を生む。ところで、そういう対義的なふたつの項が、一対をなすだけではなくもっと微妙に接近し合って、やがて対立したまま結合することもある。対義関係が、二項にわかれるのではなく、連結され、「遠くて近いものは……」というような、一見矛盾したかたちの一項目になるばあいである。たとえば「殷懃無礼（いんぎんぶれい）」「①」などという言いまわしのなかでは、元来矛盾しているはずの概念どうしが結びついている。ことばの上から言えば、殷懃は無礼の反対である。

そのような、本来なら両立しない対義概念を、いわば、強制的につないでしまう〈対義結合〉型の表現は、論理学の基本原理のうち、同一律と矛盾律に真正面から衝突するようである。

同一律、「XはXである」。矛盾律、「あるものごとがXであると同時にXではない、ということはありえない」。

いずれも、多くの論理的原則と同様、あらためてことばで言ってみると、当りまえすぎて、いかにもばかばかしい。「とうなすはとうなすである」、「とうなすがかぼちゃであって同時にかぼちゃではない、ということはありえない」。そして、それがばかげて感じられるのはもちろん、論理の根本原理がじつは、おおむね私たちの日常的認識の原理だからである。とうなすが馬車になったり、たぬきが茶釜（ちゃがま）に化けることはあっても、同時にその両方であることはなさそうである。

論理はいかにも、はじめは私たちの日常的認識の原理であった。ふだんの認識を造形する（ほとんど②ユイイツの）手だてが言語表現であり、その言語表現には何やら首尾一貫した原理があるらしい……と察したとき、人間はその首尾一貫性を取り出してみることを思いついた。〔③〕は元来、〔④〕の働きを純粋なかたちで反映するメカニズムとして発見されたはずである。

しかし、純粋なかたちで取り出された〔⑤〕が純化の道をたどったあげく、その⑥チュウシュツ母体だったものとはあまり似ていない姿に変わってしまう、というなりゆきは、特に驚くべきことがらではない。論理と言語はいつの間にか、いろいろな点で意見が

合わなくなる。最大の相違点は、〔　⑦　〕が人間的な立場や視点を越えてしまったことであろう。逆に言えば、〔　⑧　〕はどうしても発言者の特定の視点や関心から離れることができない。そのいきさつがもっとも見えやすいかたちであらわれるばあいのひとつに、否定表現の問題がある。

論理においては、「X」の否定すなわち「非X」をもう一度否定すれば元にもどってしまうだろう。「非・非X」は「X」にひとしい。言語ではいくらか様子がちがってしまう。「可能である」の否定形「不可能である」を、さらに否定すると「　⑨　」となるが、それは、「　⑩　」にひとしいか。無論、ちがう。その相違はおもに、判断の経過にある。そこには、はなから「可能である」と割り切っていることと、はじめは「不可能だろう……」とすこぶる懐疑的だった精神がいろいろ迷ったあげくにやっと「不可能ではない！」と思い切ることとのちがいがある。

論理の世界で「XはXである」という同一律がすっきりと成立するのは、経過をゼロと見る、無時間的な、視点抜きの⑪遠近法のない世界を仮定するからである。Xは、いつどこからどう見てもXであって、けっして次から次へと新しい姿態を見せるようなものではない。いわば、Xの意味を決定的に固形化しえたという仮定であって、そのXはどこへどう持ちはこんでも変様しない固形物となる。つまり論理は、記号の意味が固形化しうるという――〈　⑫　〉――仮定によって、《意味論的な悩み》を棚上げにする。いつも揺れ動いて止まることのない《意味》、それを捨てきれない――〈　⑬　〉――言語においては、同一律が⑭ケッペキなかたちで実現しないのと同様に、矛盾律も当然、固形化されたかたちでは成立しない。〔　⑮　〕。

（佐藤信夫『レトリック認識』による）

トレーニング1／漢字

1　次の――線部分を漢字で書きなさい。

(1)　びみょうな表現。〔　　〕
(2)　車がしょうとつする。〔　　〕
(3)　ゆいいつの手段。〔　　〕
(4)　ビタミンB1をちゅうしゅつする。〔　　〕
(5)　かいぎてきな精神。〔　　〕
(6)　けっぺきな性格。〔　　〕

トレーニング2／語句

2　《語句の意味》　次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。

〈第一段落〉

(1)　個々の事物の特殊性を問題にしないで共通性だけを取り出して扱う考え。あるものやことがらに対し、一般的に思い浮かべられる意味や内容。〔　　〕

(2)　そこにあるものを、確かにあると、心に認めること。ものごとをはっきりと知って、その意義を正しく理解すること。〔　　〕

(3)　うわべはあくまでもていねいな態度だが、実は内心見下している

こと。

〈第二・三・四段落〉

(4) おしつけて無理にさせる様子。無理やり。〔　　〕

〈第五段落〉

(5) あるものごとをしとげる手段。〔　　〕

(6) はじめから終わりまで、一つの考え方ややり方で貫き通すこと。〔　　〕

(7) 仕組み。機構。〔　　〕

〈第六段落〉

(8) 混じりけのない、純粋なものとなること。複雑なものを単純にすること。〔　　〕

(9) 多くのものから必要なものだけを抜き出すこと。〔　　〕

(10) 分かれ出たものの、もとのもの。〔　　〕

(11) 打消の意を表す文法形式をとる表現。〔　　〕

〈第七段落〉

(12) 疑い怪しむような態度。〔　　〕

〈第八段落〉

(13) 絵画などで、遠近の距離を、目に見えるのと同じ距離感を与えるように画面に表す方法。〔　　〕

(14) 語の意味や意味変化を研究する言語学の分野。論理学においては記号とその指示するものとの関係を取り扱う記号論理学の一分野。〔　　〕

(15) 問題を一時保留して、解決・処理を後に延ばすこと。〔　　〕

(16) とりえ。〔　　〕

3 **《対義語》 次の単語の対義語（反意語）を、後から選んで書きなさい。**

(1) 分離↕　(2) 自発的↕

(3) 例外↕　(4) 類似点↕

(5) 肯定↕　(6) 軽信的↕

(7) 液状↕　(8) 純粋↕

懐疑的　原則　固形　否定　強制的　不純　相違点
結合

4 **《定義文》 次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に——線を引きなさい。**

(1) 〈対義結合〉型の表現　(2) 同一律　(3) 矛盾律

トレーニング3／段落の関係

5 **今までまとめた段落の要点を参考にし、前半の段落について、後の問いに答えなさい。**

対立するふたつの概念をならべて見る認識は、〈対比表現〉を生むのであるが、その対義的なふたつの項が対立したまま結合し、元来矛盾しているはずの概念どうしが結びついている表現が生まれることがある。

〈第一段落〉

〈対義結合〉型の表現は、論理学の同一律と矛盾律に衝突する。その同一律も矛盾律も、ことばで言ってみると、当たりまえすぎるが、それは、じつは私たちの日常的認識の原理だからである。

〈第二・三・四段落〉

論理は、日常的認識の造形手段である言語表現に一貫する原理を取り出したものである。

〈第五段落〉

論理は純化の道をたどったあげく、人間的な立場や視点を越えてしまったのに対し、言語はそれを離れることができない。

〈第六段落〉

否定表現において、論理と言語は相違している。論理においては「非・非X」は「X」にひとしいが、判断の経過が含まれる言語はそうならない。

〈第七段落〉

論理は意味を固形化しうるとの仮定のうえに立ち、言語は揺れ動く意味を捨てきれない。だから言語においては同一律も矛盾律も潔癖なかたちでは成立しない。

〈第八段落〉

(1) 〈対義結合〉型の表現がどのようなものかを説明しているのは、どの段落ですか。

第〔　〕段落

(2) 論理学の同一律と矛盾律がどのようなものかを説明しているのは、どの段落とどの段落ですか。

第〔　・　〕段落

(3) (1)と(2)の関係、すなわち、〈対義結合〉型の表現と同一律・矛盾律がどのような関係にあるかを述べているのは、どの段落ですか。

第〔　〕段落

――第一段落から第四段落までの四つの段落の関係がつかめましたね。

6 **前問と同様にして、後半の段落について、次の問いに答えなさい。**

(1) 言語表現が論理学の基本原理と衝突する理由を分析している段落を三つあげなさい。

第〔　・　・　〕段落

(2) 第七段落は、否定表現における論理と言語の相違を説明していますが、この段落は、どの段落の内容を具体的に説明しているのですか。

第〔　〕段落

――否定表現は、論理と言語の相違点が顕著に現れている例として出されています。また、次の第八段落もこの相違点を別な角度から説明している段落で

す。

トレーニング4／要旨

7 《要旨》 **次の手順に従って、この文章の要旨を書きなさい。**

(1) 第一段落から第四段落までで、中心になる段落はどの段落ですか。

第〔　〕段落

(2) 論理と言語の相違点が明確に述べられている段落を一つあげなさい。

第〔　〕段落

――具体例を出している部分、あるいは説明などの部分は省略して、要旨をまとめます。

(3) (1)と(2)をもとに、必要な語句を補って、この文章の要旨を書きなさい。

――解答を合わせ納得したら、次に実際の入試問題を解きなさい。

トレーニング5／入試問題

8 **次が中央大学の実際の問題です。設問に答えなさい。**

(1) 傍線②⑥⑭のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと。)

②〔　　〕　⑥〔　　〕　⑭〔　　〕

(2) 「①」に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 油断大敵　B 異口同音
C ただより高いものはない　D 神も仏もないものか

〔　〕

(3) 空欄③④⑤⑦⑧に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。必要ならば同じ符号をくりかえし用いてもよい。

A 認識　B 論理　C 対義　D 言語

③〔　〕　④〔　〕　⑤〔　〕　⑦〔　〕
⑧〔　〕

(4) 「⑨」および「⑩」に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選びそれぞれ符号で答えなさい。

A 可能である　B 可能は不可能である　C 不可能でない

D　不可能は不可能である

⑨〔　　〕　⑩〔　　〕

(5)　傍線⑪「遠近法のない世界」の部分で、「遠近法のない」と同趣旨の事柄を言いあらわしている部分を右の本文の第六段落から捜し出して、解答欄に示しなさい。

〔　　〕

(6)　〈　⑫　〉および〈　⑬　〉に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

A　その論理的不純さを身上とする
B　それはけっきょく意味を無視するということとおなじ結果になる
C　その複合的な意味はわからない
D　ことばで造形しようとする表現者の意志が首尾一貫性をうみだす

⑫〔　　〕　⑬〔　　〕

(7)　空欄⑮に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　それは言語の欠陥による必然的なありかたである
B　原理をつらぬくという理性が働くからである
C　それはみごとと言えばみごとな純粋化である
D　ことばの意味の弾力性が働くからである

〔　　〕

――これで、中央大学で出題された現代文の学習は、入試問題まで含めてすべて終わりました。次に、もう一題、大阪大学の入試問題を解きなさい。同じ言語に関する現代文です。

【出典】〈大阪大〉外山滋比古（とやましげひこ）「日本語の特質」より

9　**次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。**

（大阪大―人間・法・経済）

イギリスは十四世紀の後半になってようやく民族的にも文化的にも統一体と言えるようになり、それまでのように大陸から流入するものを受け容（い）れるだけではなくなった。イギリスは文化の各分野においてアイランド・フォーム（島国形式）を確立して行く――こういうことを言っているのは歴史家G・M・トレヴェリアンである（『英国社会史』）。

優秀な大陸文化の縁辺にある島国がたどる運命において、わが国はイギリスと似ていないこともない。中国大陸からの文化の流入がやがて日本独自の文化に成熟していく過程においてわれわれもアイランド・フォームという考えを借用することを許されるであろう。陸続きの外国をもたない社会において、文化は必然的にアイランド・フォームをとることになると考えられる。イギリスや日本はその典型である。

言葉におけるアイランド・フォームはまず沈黙への傾斜という形をとり、多言を嫌う。相手の心を察する伝達が重んじられるから、修辞学でいう①コチョウ法はむしろはしたなく野暮であると感じられ、その逆が好まれる。〝悪くないね〟〝あまり好きでない〟がそれぞれ〔 A 〕〔 B 〕の意味で用いられるなどはその一例である。アイランド・フォームのもっとも進んだ言語形態は家庭内の会話に見られる。相手に委ねる部分のきわめて大きな表現である。お互いに(a)気心は知れている――これが形にあらわれるとすれば、わかっていること、わかっているだろうと思われることはどんどん省略②カツアイして相手に想像してもらう形式になる。ことこまかにのべるのは、気心が知れていないからであり、知れていないと感じている証拠だから、失礼に当たる。③センレンされた表現は沈黙の方向へ向かっており、ついには(b)以心伝心というところへ達する。

日本語、日本文学にくわしいイギリス人、アラン・ターニー氏は「日本の作家たちは西洋の作家より、読者に④マカせる部分が大きい」ことを日本文学の特質と考えている(『日本のなかの外国人』)。ターニー氏がそう感じるということは、イギリスのアイランド・フォームよりも日本のアイランド・フォームの方がさらにいっそうアイランド・フォーム的である証拠になる。わが国のアイランド・フォームが聖徳太子が小野妹子を隋に遣わし国書に「日出処天子、致書日没処天子」、無恙乎」(六〇六年)と書いたのに始まり、遣唐使の廃止(八九四年)に完成すると見れば、イギリスに比べて五百年もの差がある。わがアイランド・フォームに(c)一日の長以上のものがあって当然であろう。

相手に委ねられる限りのものは抑えて表現しない措辞は、たとえて言えば、線状のもののうち略し得る部分を次々に消去して行った結果、残った点と点のつらなりのようなものになる。日本語の特質のひとつは、この点的表現であるとしてよかろう。それは囲碁における布石を連想させる。ザル碁のたぐいは別として、布石はなるべく石と石との間を離すようになっているが、それでいて、相互の目に見えない論理は存在する。この目に見えない点的論理が西洋流の線状の、したがって、可視的な論理とはいちじるしく異なるところから、しばしば没論理のように誤解されるが、(d)別種の論理であるだけだ。

ヨーロッパの言語は相手への不信に⑤リッキャクしており、主張しないことは相手に理解もされず承認もされないと感ずる人たちの間で発達した。雄弁である。言葉は積み重ね⑥コウチクすべきものであるとされる。そういう表現の建築学に対して、日本語ではむしろ彫刻的原理が支配的であるように思われる。詩にしても、素材にノミを加えて不要部分を削り落す。純度が高くなればなるほど形は小さくなって、ついに短詩型文学に結晶する。長詩が栄えないわけで、何千行という詩は思いもよらない。長歌と言ってもせいぜい数十行を出ない。

詩歌に限らず、一般に作品の量が小さい。古典として残っているものも多くは現在の本にして百ページ足らずの小冊で収まるのはそのことを⑦タンテキに物語っている。日本の短篇小説が独特の発達をとげていることはしばしば言われる通りであるけれども、小説だけでなく、思想の書もまた短篇であることを好むように見える。アイランド・フォームは短篇文化を生む。量の大きなことがかならずしも偉大さを保証しない。

絵画においても削り落しの原理は作用している。日本画の背景は空白である。洋画のように色で塗りつぶさない。何も描かないことによって(e)余情を増幅しているとも考えられるが、削りうるものはなるべく省く美学のためであろう。梅に鶯（うぐいす）の絵柄だとすると、梅の枝と鳥だけが描かれて、その他のものはすべて画面から排除され、見者の想像に委ねられる。こういう画法は洋画ならばデッサンであって完成した画とは言わない。俳句や短歌における詩法も多分にこのデッサン的性格をもっているが、それで完成したものであると感じるようになっているところが日本語である。

俳句や短歌が独立した様式、定型でありうるところに日本語の特質は集約される。アイランド・フォームから遠い言語がどれほどその形式だけを⑧モホウしてみても俳句のような詩を生むことは不可能であろう。

（外山滋比古『日本語の特質』による）

(1) 傍線部①②③④⑤⑥⑦⑧のかたかなを漢字に直せ（かい書で書くこと）。

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕
④〔　　〕　⑤〔　　〕　⑥〔　　〕
⑦〔　　〕　⑧〔　　〕

(2) 空欄の部分ＡＢのそれぞれに入るべき語句を自分で考えて入れよ。

Ａ〔　　〕　Ｂ〔　　〕

(3) 傍線部(a)(b)(c)の意味を記せ。

(a)〔　　〕
(b)〔　　〕
(c)〔　　〕

(4) 傍線部(d)「別種の論理」というのはどういう論理を指しているのか、説明せよ。

(5) 傍線部(e)「余情を増幅している」というのはどういうことを言っているのか。わかりやすく説明せよ。

〔　　〕

――今回の長文読解の学習はこれで終わりです。どうもごくろうさま。この日の後にある「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 鹿児島では、今でも西南戦争の痕跡を見ることができる。
□□(2) 自惚が過ぎると、思わぬ失敗をするぞ。
□□(3) 彼は美術に造詣が深い。
□□(4) 彼は正直であることを身上としている。
□□(5) 青年たちの集会に参加して、横溢した活気を感じた。
□□(6) 幼い子どもは母親の亡骸に取りすがって泣いた。
□□(7) 子どもの心は、親の心の動きに微妙に感応する。
□□(8) 日本人の心の帰趨するところは万葉集の世界だろう。
□□(9) 硝子工芸の美しさに魅せられた。
□□(10) 戦友に巡り会えて一期の思い出となる。
□□(11) 三十年を経て、家の老朽化が進んだ。
□□(12) 庭の遣水を眺めながら一句詠んだ。
□□(13) 名利に迷って人生を狂わせてしまった。
□□(14) 詩の言霊は多くの人々の心を感動させてきた。
□□(15) 「憎いあいつを殺さなくては。」という妄執に襲われた。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 中国は人口抑制のため一人っ子をしょうれいした。
□□(2) 本を読むのにぼっとうしていて周囲の騒がしさも気にならなかった。
□□(3) それは子どもだからといってかんかしてはならない問題である。
□□(4) ぶんだんの長老を驚かすような新人作家が登場した。
□□(5) 部長は現在の地位にしゅうちゃくしていた。
□□(6) 近ごろは、父親の存在がかんきゃくされがちである。
□□(7) 工事場で、うっかり古釘をふんでしまった。
□□(8) 腹が減っていれば、そまつな食事もうまい。
□□(9) 犯人は、けいかいの網をくぐり抜けて国外に逃亡した。
□□(10) 不運なきょうぐうの中で最善を尽くす。
□□(11) 販売をそくしんするため、テレビで宣伝することにした。
□□(12) 不景気のため、各地の工場が次々にへいさされた。
□□(13) この薬草のこうようは、多くの研究者によって確認されている。
□□(14) さて、今夜もみわくのメロディーを皆様にお届けしましょう。
□□(15) 今度の作品を読んで、この作家に対するにんしきを新たにした。
□□(16) 簡潔かつめいりょうに説明しなさい。
□□(17) この技術は、多くの知識のしゅうせきによって開発された。
□□(18) 人手不足のため、稲のしゅうかくが遅れている。
□□(19) 社会のルールを大きくいつだつした行為は、必ず罰せられる。
□□(20) ふくしの充実を政府に望む。
□□(21) その程度の失敗はきょようされる。
□□(22) 人のいい叔父はさぎにかかって苦労した。
□□(23) 期待と不安がこうさくする中で試験の発表を待った。
□□(24) 戦争反対のため憲法ようごの市民団体に加入した。
□□(25) 兄は十代の後半のころ太宰治にけいとうしていた。
□□(26) すばらしいシャンソンに聴衆はとうすいしていた。
□□(27) みかんの香りにきょうしゅうを感じた。
□□(28) 失業してから人生のひあいをしみじみと感じた。
□□(29) 宗教のせいずいは信じてみなければわからない。
□□(30) 鳥の鳴き声がせいじゃくを破った。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)□□① 冷房中だから、ドアをかいほうしないでください。
□□② 奴隷をかいほうする。
□□③ 父の病気も早くかいほうに向かうかもしれない。
□□④ 自動車事故の負傷者をかいほうする。
(2)□□① 最近、技術かくしんのテンポが速くなっている。
□□② 実験の成功をかくしんした。
□□③ 彼の発言は問題のかくしんに触れている。
(3)□□① この小説はかくちょう高い文章で書かれている。
□□② グラウンドをかくちょうして、野球ができるようにした。

第 6 日

現代文第6日／長文読解

〈芸術論〉文脈・要点をつかむ

学習日　月　日

きょうは玉川大学で出題された現代文を学習します。

「茶道における人生と芸術の関係」について述べた文章です。この難しい問題を、筆者は一歩一歩論を進めながら解明していきます。「茶の道」についても、その特徴が端的にとらえられていて、きわめて興味深い文章です。

では、まずきょうのテキストの第一段落を熟読することから始めなさい。

【出典】〈玉川大〉加藤周一（かとうしゅういち）「芸術論集」（茶の美学―二つの仮説―）より

きょうのテキスト／第一段落

①およそ人生と芸術の関係については、大別して二つの考え方がある。②その一つは、芸術がそれ自身を目的として人生のその他のどんな目的にも奉仕しないとするものである。③これを「芸術のための芸術」と呼ぶことにする。④その第二は、芸術が人生の芸術以外のなんらかの目的、たとえば倫理的・政治的、または一般に享楽的目的に役だつと考え、その役だつかぎりにおいて芸術の価値を認めようとするものである。⑤これを「人生のための芸術」と呼ぶことにする。⑥ところが、日本の茶道に典型的に現れている芸術と人生に対する考え方はそのどちらにも属さない。

トレーニング1／語句

1 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 大きく分類すること。〔　　〕

(2) 利害を離れてひたすら尽くすこと。〔　　〕

(3) 道徳をわきまえて行動するさま。〔　　〕

(4) 快楽を追い求めるさま。〔　　〕

(5) 同類のものの中で、その特徴を最もよく備えている様子。〔　　〕

(6) 茶をたてることによって精神を修養し礼法を学ぶ、一種の芸道。〔　　〕

――辞書的な意味をおさえたら、次は対義語のトレーニングです。

2 《対義語》 **次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 手段↕

3 《定義文》 **次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に――線を引きなさい。**

(1) 芸術のための芸術　(2) 人生のための芸術

――それぞれの語句が出てくる直前の文に注目しなさい。筆者自身の手による説明を探すことは、難語句を理解するのにいちばんよい方法です。

トレーニング2／文脈・文の内容

4 《文脈と文の内容》 **①～⑥の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句や文の番号を書き入れなさい。**

(1) 【②の文】

指示語 「その一つ」という指示語は、①の文中の〔　〕と芸術の関係についての〔　〕を指し、その第一のものとして、芸術がそれ自身を目的とし他のどんな目的にも奉仕しないという考え方を述べている。

(2) 【③の文】

指示語 「〔　〕」という指示語は、②の文で述べた考え方を指し、それを「〔　〕」と呼んでいる。

(3) 【④の文】

指示語 「その第二」という指示語は、①の文中で提起した人生と芸術の関係についての考え方を指し、その第二のものとして、芸術は何か他の〔　〕に役だつべきものという考え方があることを述べている。

(4) 【⑤の文】

指示語 「〔　〕」という指示語は、④の文で述べた考え方を指し、それを「〔　〕」と呼んでいる。

(5) 【⑥の文】

接続語 「〔　〕」という逆接の接続詞を用いて、②～⑤で述べた人生と芸術の関係についての一般的考え方にあてはまらないものを提起する。

指示語 「そのどちらにも」という指示語は、②～〔　〕の文で述べた二つの考え方を指し、茶道がこのどちらにも属さないことを述べる。

語句 ここではじめて日本の〔　〕について言及し、そこでは、これまでに紹介した人生と芸術の関係についての二つの考え方がともにあてはまらないことを述べる。

トレーニング3／表現

5 《対立概念》 **ここで次の語句と対立した概念として用いられている語句は何ですか。**

――人生と芸術の関係についてどのような考え方があるのかを、的確にとらえなさい。

芸術のための芸術――〔　〕

――①の文中の「二つの考え方」が何と何であるかに着目しましょう。

トレーニング4／段落の要点

6 《段落の要点》 **次の手順に従って、第一段落を要約しなさい。**

(1) ①～⑤の文は何に関して述べたものですか。次の〔　〕の中に適当な語を書き入れなさい。

〔　　〕と芸術の〔　　〕についての考え方に関して。

(2) (1)で答えた考え方には二つあります。おのおのを簡単に呼ぶとすればどのように呼ぶことができますか。本文のことばを使って、それぞれ八文字で答えなさい。

(3) (1)(2)の答えと⑥の文をまとめて、この段落の要点を書きなさい。

――人生と芸術の関係についての二つの考え方が、茶道とどのように関連づけられているのかを明確に表現します。

――解答を合わせたら、第二段落に進みなさい。

●きょうのテキスト／第二段落●

⑦利休（りきゅう）はかれ自身の流儀に従って生きることに力を尽していたのだから、その考え方を「芸術のための芸術」と呼ぶことはできないが、茶道のほかに利休の人生はなかったのだから、その考え方は「人生のための芸術」でもなかった。⑧茶道とは人生を一個の芸術品につくりあげようとする無謀な企てである。⑨そこでは人生のために芸術があるのではなく、芸術のために人生がある。⑩これは人生と芸術との関係についての第三の考え方であろう。⑪この第三の考え方を「芸術のための人生」と呼ぶことにする。⑫「芸術のための芸術」と違うところは、芸術が人生の他の活動から独立に一つの世界を築くのではなく、人生のすべての活動がその芸術の体系に吸収されることである。

●語句注
利休（りきゅう）＝安土桃山時代の茶人。千宗易（せんそうえき）のこと。利久はその号。茶道の大成者。

トレーニング1／語句

7 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) その人独特のやり方。　〔　　〕

(2) それをした結果どうなるのかを考えず何かをすること。　〔　　〕

(3) 他の支配などを受けないで、自分の力や意志で行動・存在すること。〔　　〕

(4) 一定の原理によって、個々の要素や部分などを系統的に統一した組織・構成体。〔　　〕

8 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 無分別・無鉄砲〔　　〕　(2) 計画〔　　〕

(3) 運動・行動〔　　〕　(4) 自主〔　　〕

9 《定義文》 **次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に——線を引きなさい。**

(1) 芸術のための人生

——⑪の文の前後をよく読みなさい。

トレーニング2／文脈・文の内容

10 《文脈と文の内容》 **⑦〜⑫の文のつながりを示すため、〔　　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【⑦の文】

語句 ⑥の文を前提として、これより〔　　〕に現れている芸術と人生に対する考え方について詳述する。まずここでは利休の場合を例にとり、その考えが「芸術のための芸術」でも〔　　〕でもなかったことを明らかにしている。

(2) 【⑧の文】

語句 人生と芸術の関係という点で、従来の考え方は〔　　〕ではあてはまらないという⑦の文を受けて、〔　　〕がいかなるものであるのかを定義している。

(3) 【⑨の文】

指示語 「〔　　〕」という指示語は、⑧の文中の「茶道」を指し、⑧の文をわかりやすく説明して、茶道では〔　　〕のために人生があることを述べている。

(4) 【⑩の文】

指示語 「〔　　〕」という指示語は、⑨の文で述べた〔　　〕と芸術との関係についての考え方を指し、それを、前の段落で述べた二つの考え方を踏まえて、第三の考え方としている。

(5) 【⑪の文】

指示語 「この第三の考え方」という指示語は、⑨⑩の文で述べた人生と芸術との関係についての考え方を指し、その考え方を「〔　　〕」と呼んでいる。

(6) 【⑫の文】

語句 ⑪の文中の「〔　　〕」という考え方について、「芸術のための芸術」との違いを明らかにしつつ、その内容について説明している。

——「芸術のための人生」とはどういうものかをきちんとおさえておきなさい。

トレーニング3／表現

11 《対応表現》 次の(1)～(2)は、「人生を一個の芸術品につくりあげようとする無謀な企て」とはどのようなものなのかを説明した部分を、本文から書き抜いたものです。〔　〕に適当な語を書き入れなさい。

(1) 〔　　〕のために〔　　〕がある。

(2) 〔　　〕のすべての活動がその〔　　〕の体系に吸収される。

――⑧の文中の「人生を一個の芸術品につくりあげようとする無謀な企て」とは、要するに筆者のいわゆる「芸術のための人生」のことです。

12 《対立概念》 ここで「芸術のための人生」と対立した概念として用いられている語句は何と何ですか。

〔　　〕

〔　　〕

トレーニング4／段落の要点

13 《テーマ》 この段落は何についての考え方が述べられていますか。次の〔　〕の中に適当な語句を書き入れなさい。

〔　　〕における〔　　〕と芸術との関係についての考え方。

――この段落は、前の段落の⑥の文「日本の茶道に典型的に現れている芸術と人生に対する考え方はそのどちらにも属さない」を受けて書かれたものです。

14 《段落の要点》 次の手順に従って、第二段落を要約しなさい。

(1) 茶道における人生と芸術との関係についてわかりやすくかつ端的に言い表した文を、⑦～⑩の中から一つ選び、番号で答えなさい。

〔　　〕

――茶道における人生と芸術との関係が述べられているのは⑧と⑨の文です。

(2) (1)で選んだ文を筆者が端的に言いかえたものと考えられる語句を、⑪⑫の文中から八文字で書き抜きなさい。

(3) (1)(2)の要素を入れてこの段落の要点を書きなさい。

――具体的な例や付随的な説明、それに後で言いかえられている抽象的で難解な表現などは、要約のときには省略します。

――答えを合わせてから、次の段落に進みなさい。

●きょうのテキスト／第三段落●

⑬生活の芸術化は、茶道において、衣食住のすべてに及んでいる。⑭茶会には豪華な衣服を用いない。⑮茶室は小さな山小屋の体裁で

故意に豪奢を避け、故意に快適さえも避けている。⑯要するに、茶道は衣食住に対する明らかに一貫した特定の態度を要求するのである。⑰しかもそれだけではなく、茶室には軸を掛け、花を生け、香をたき、茶器を用いる。⑱すなわち絵画・生花・香・焼き物の芸術に対する特定の態度もまた、茶人にそなわっていなければならない。⑲そのような衣食住と芸術に対する態度は、茶会において表面に現れるが、茶人においては日常坐臥の態度として身についたものである。⑳つまり、生活の芸術化がなければ茶は成り立たぬということになる。

トレーニング1／語句

15 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 衣服と食物と住居。生活に最低限必要なもの。〔　　〕

(2) 客を招いて、煎茶や抹茶などのお茶を出す会。茶の湯の会。〔　　〕

(3) 派手でぜいたくなこと。〔　　〕

(4) 外から見たとき人に与える感じ。〔　　〕

(5) はじめから終わりまで、一つの考え方ややり方で貫き通すこと。〔　　〕

(6) 掛け物。掛け軸。〔　　〕

(7) たくと、よい香りがするように、種々の香料を練り合わせたもの。〔　　〕

(8) ふつうのこととして、毎日繰り返し行われること。ふだん。座ることと寝ること。起居。〔　　〕

(9) 〔　　〕

16 《対義語》 **次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 簡素↕〔　　〕　(2) 派手・華やか〔　　〕

(3) 外見・様子〔　　〕

(4) ことさら・わざと〔　　〕

17 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 暮らし〔　　〕　(2) 派手・華やか〔　　〕

(3) 外見・様子〔　　〕

(4) ことさら・わざと〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

18 《文脈と文の内容》 **⑬～⑳の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句や文の番号を書き入れなさい。**

(1) 【⑬の文】

語句 前の段落で述べた「芸術のための人生」という考え方を「〔　　〕」ということばで表現し、それが茶道では衣食住のすべてに及ぶと指摘している。

(2) 【⑭の文】

語句 ⑬で述べた「生活の芸術化」の具体例として、茶会での〔　　〕について述べている。

(3) 【⑮の文】

語句 ⑭と同様に、「生活の芸術化」の具体例として〔　　〕の様子を述べている。

(4) 【⑯の文】

接続語 「生活の芸術化」の具体例を明示した⑭⑮の文を受けて、「〔　　〕」という接続語を用いて要約を行っている。つまり、茶道は衣食住に対して「一貫した特定の態度を要求する」と結論づけ、結局、衣食住のすべてに「生活の芸術化」が及んでいることを確認したものとなっている。

(5) 【⑰の文】

接続語 「しかもそれだけではなく」という添加を表す接続語で、⑬〜〔　　〕で述べた「生活の芸術化」が、他にも及んでいることを示している。

指示語 「しかもそれだけではなく」という指示語は、⑯の結論を指し、「生活の芸術化」が〔　　〕だけでなく掛け軸や茶器などの芸術品にも及ぶことを指摘している。

(6) 【⑱の文】

接続語 「〔　　〕」という接続詞を用いて、⑰の文を言いかえている。

(7) 【⑲の文】

指示語 「そのような」という指示語は、⑭〜⑱の文で具体的に述べた〔　　〕の衣食住と芸術に対する態度を指し、それがふだんの生活を通して身についたものであることを指摘している。

(8) 【⑳の文】

接続語 ここまで述べてきたことを、「〔　　〕」という接続詞で要約し、「生活の芸術化がなければ茶は成り立たぬ」と結論づけている。

――茶道では「生活の芸術化」が必要不可欠であるという筆者の考えをきちんとおさえましょう。

トレーニング3／表現

19 **《対応表現》 ⑯の文中の「衣食住に対する明らかに一貫した特定の態度」と実質的に同じ意味内容の語句を、この段落から六文字で書き抜きなさい。**

――この段落の最初の部分に注目しましょう。

トレーニング4／段落の要点

20 **《段落の要点》 次の手順に従って、第三段落の要点をまとめなさい。**

(1) この段落で筆者の述べたいことがわかりやすく端的に表現されている文が二つあります。その番号を書きなさい。

〔　　〕

――この段落の最初と最後のほうに一つずつあり、ともに同じような表現ですが、後者は、具体例をあげたうえでの結論という形をとっています。

(2) (1)で選んだ文をまとめて、この段落の要点を書きなさい。

二つの文を一つにまとめるときは、その二つの文のつながりがどうなっているのかに注意し、それをことばで表すようにしましょう。

答え合わせをして納得がいってから、次の段落に進みなさい。

●きょうのテキスト／第四・五段落●

㉑茶の世界は単色の世界である。㉒その建築の表面には、人工の色を塗らない。㉓柱も壁も天井も床も、素材の表面をそのまま保存している。㉔茶室の建築は色の配合によって得られる感覚的な効果をはっきりと拒絶して、故意に単色の世界を選んでいる。㉕床の間にはけっして多彩な絵画を用いない。㉖これまた水墨の単色に限る。㉗また茶器にも目のさめるような色はなく、すべてがいわゆる渋いものである。㉘視覚的な茶の世界は、感覚に直接に訴える色の効果を、いわば極小化した世界である。㉙聴覚的にもそこには音楽がない。㉚もしそこに音があるとすれば、ときおり屋根をたたく時雨（しぐれ）のように、ただ沈黙をきわだたせるためにだけそこにあるのだ。㉛要するに茶の世界には、感覚的な享楽に対する自覚的で組織的な拒否がある。㉜茶の美学の特色は、感覚そのものに即した喜びを否定することによって、いわば精神化され、内面化された感覚の喜びを発見するという手のこんだ手続きにあるはずだ。㉝感覚の否定の感覚的表現が茶である。

㉞茶道の第一の原理を生活の芸術化、自然との一体化であるとすれば、茶道の第二の原理は、現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度である。

トレーニング1／語句

21 《語句の意味》 次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。

(1) もとになる材料。原料。〔　　〕
(2) 取り合わせること。取り合わせ。〔　　〕
(3) 墨の濃淡の調子だけによって描かれた絵。水墨画。〔　　〕
(4) 派手でなく、地味で落ち着いた深い味わいがある様子。〔　　〕
(5) 秋から冬にかけて降ったりやんだりする雨。〔　　〕
(6) 自分で自分の置かれている状況などを知っている様子。〔　　〕
(7) 一定の秩序があるさま。〔　　〕
(8) 芸術などにおける種々の美を通して、美の本質・原理などを研究・解明する学問。〔　　〕
(9) あるものの状態や姿にぴったりとついて対処などをすること。〔　　〕

(9)は本文に出てきた形で答えなさい。

22 《対義語》 **次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 自然〔天然・天工〕↕
(2) 受諾〔承諾〕↕
(3) けばけばしい↕
(4) 間接↕
(5) 肯定↕

23 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 人為・人造〔　　〕
(2) 快楽・悦楽〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

24 《文脈と文の内容》 **㉑～㉞の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【㉑の文】
語句 前の段落で述べた茶道における「生活の芸術化」に続いて、ここから始まる段落では、茶の世界における感覚的表現について述べる。まず、ここでは色という点でとらえ、茶の世界が〔　　〕の世界であることを指摘している。なお、㉑～㉝の文は第四段落、㉞はこれ一文で第五段落である。

(2) 【㉒の文】
指示語 「その建築」という指示語は、㉑の文中の「茶の世界」を指し、その茶の世界が単色であることを、建築の表面に〔　　〕の色を塗らないことで以下例証していく。

(3) 【㉓の文】
語句 ㉒の例として、建築の表面が〔　　〕を保存していることを指摘する。

(4) 【㉔の文】
語句 ㉒㉓の例示をまとめて、茶室の建築が、色の配合によって得られる感覚的効果を〔　　〕に拒絶しているものであることを述べる。

(5) 【㉕の文】
語句 ㉒～㉔で述べた茶室の建築そのものばかりでなく、床の間に飾られる〔　　〕も、多彩なものではないことを指摘する。

(6) 【㉖の文】
指示語 「これ」という指示語は、㉕の文中で述べた床の間の〔　　〕を指し、それもまた〔　　〕の単色であると、㉕の文を言いかえ、補足説明している。

(7) 【㉗の文】
接続語 「〔　　〕」という接続詞で、ここまで列挙した例に茶器を加え、それが色あざやかなものでなく〔　　〕ものであることを指摘する。

(8) 【㉘の文】
語句 ここで㉑～㉗を総括して、〔　　〕な茶の世界では、

感覚に直接に訴える色の効果をできるだけ小さくしていると述べる。

(9) 【㉙の文】

指示語 「〔　　〕」という指示語は、㉘の文中の「茶の世界」を指す。

語句 ㉘の文中の「視覚的」に対し、〔　　〕な面へと論を転じている。

(10) 【㉚の文】

接続語 ㉙の「音楽がない」ということを、「〔　　〕」という仮定表現で始まる文によって、補足説明している。つまり、音があるとすれば、〔　　〕をきわだたせるためにだけあると指摘する。

指示語 「そこに」という指示語は、㉙の文と同様に、「〔　　〕の世界」を指す。

(11) 【㉛の文】

接続語 「〔　　〕」という語を用いて㉑〜㉚を要約し、茶の世界では、視覚・聴覚などの〔　　〕な享楽に対して、組織的に拒否する姿勢を自覚的にとっていることを述べる。

(12) 【㉜の文】

語句 ㉛の文で述べた、茶の世界では感覚的な享楽が拒否されるという結論を踏まえて、茶の〔　　〕の特色について述べている。つまり、茶の世界では、感覚そのものに即した喜びを否定することによって、いわば精神化・〔　　〕された感覚の喜びを発見するところに美を認めるという、手のこんだ手続きにその特色があるとする。

(13) 【㉝の文】

語句 ㉜の文を言いかえて、茶を、「感覚の〔　　〕の感覚的表現」と定義している。

(14) 【㉞の文】

語句 この文だけで、一つの独立した段落（第五段落）をなしている。まず、ここまで述べてきたことを踏まえて、茶道における人生と芸術の関係についての原則として、「生活の芸術化」「〔　　〕」をあげる。前者は主に第三段落を受け、後者は第四段落を踏まえている。これを第一の原理とし、さらに第二の原理として、「現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度」をあげている。第二の原理は、筆者が提起した新たな考えであり、後の段落において説明が行われる。

――茶道では、感覚的な享楽を拒否することによって内面化された感覚の喜びを発見するという点を、きちんとおさえておきなさい。

トレーニング3／表現

25 《対立概念》 **ここで次の語句と対立した概念として用いられている語句は何ですか。**

単色――〔　　〕

――㉑〜㉖の文を論理の展開に注意してよく読みなさい。

26 《対応表現》 **筆者は、茶の世界が「単色の世界」であることを、具体例をあげて繰り返し述べています。その部分に該当する次の(1)～(4)の〔　〕に、適当な語句を書き入れなさい。**

(1) 建築の表面には〔　　〕を塗らない。
(2) 柱などの表面も〔　　〕そのままである。
(3) 床の間には〔　　〕な絵画を用いない。
(4) 茶器は〔　　〕ものばかりである。

――(1)～(4)と㉒㉓㉕㉗の文を対照して考えます。

27 《対応表現》 **㉛～㉝の文で、茶の世界は「人工」を拒否し、感覚的な享楽を否定すると繰り返し述べていますが、このことを簡潔に言い表した七文字の語句が本文中にあります。その語句を書き抜きなさい。**

――㉞の文に注目しましょう。

トレーニング4／段落の要点

28 《キーセンテンス》 **次の(1)～(3)の問いに答えなさい。**

(1) ㉑～㉘の文の中で、筆者が述べようとしていることがらそのものが表現されている文を三つ選び、文の番号で答えなさい。

〔　　〕

――具体的な例や補足的説明を加えた文は、筆者が述べようとしていることがらそのものではありませんから、除外します。

(2) ㉙㉚のうち、筆者の言いたいことが端的に表現されている文を選び、文の番号で答えなさい。

〔　　〕

――意味や説明の補足をした文は、筆者の言いたいことが端的に表現されたものとは言えませんね。

(3) ㉛～㉝で述べられている内容は、(1)(2)で答えた文の内容をすべて含むと考えることができますか。できるならA、できないならBを書きなさい。

〔　　〕

――㉛は㉑～㉚の文を要約した文です。

29 《段落の要点》 **次の手順に従って、第四・五段落を要約しなさい。**

(1) ㉑～㉝のうち、筆者の述べたいことがすべて含まれていると考えられるひと続きの三文を選び、次のようにまとめました。〔　　〕の中に適切な語を書き入れなさい。

茶の世界では、〔　　〕そのものに即した喜びを〔　　〕することによって、いわば内面化された感覚の喜びを発見するところに美を認める。

――前の設問の(3)を参考にしましょう。

(2) ㉞の文中の「第一の原理」は、これまで筆者が述べてきたことをまとめて簡潔に言い直したものであり、「第二の原理」は「第一の原理」と対照する形で筆者が提起した新たな考えです。このことに留意して、(1)でまとめた文と㉞をもとにして、第四・五段落を要約しなさい。

――同じ内容の繰り返しにすぎない語句は省きます。なお㉞の文の「第二の原理」については、付け足す形で要約しましょう。

――お疲れさまでした。難しい文章でも少しずつ論理を追っていけば、容易に理解できますね。きょうの長文読解の学習はここまでです。この続きは、次回に読んでいきます。

この後の「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 青春時代は潑溂と過ごしたいものである。
□□(2) わたしの進言は悉く退けられた。
□□(3) 卒業論文の中のいくつかの誤謬が教授に指摘された。
□□(4) 日常のなにげない所作にも人がらが表れる。
□□(5) 歴史の研究は史料の渉猟から始まる。
□□(6) 政策転換を急進的にではなく漸進的に推し進めた。
□□(7) 彼女は事務を執るベテランなので安心して仕事を任せられる。
□□(8) 付近の住民の反対で塵芥焼却場を建てることができなかった。
□□(9) まだ見ぬ故国への憧憬の念で胸がいっぱいになった。
□□(10) 迂闊なことを言ってしまったので後で問題が起きた。
□□(11) そんな暴飲暴食をしては腹痛を起こすのは必定だ。
□□(12) 特に措辞に優れたものを集めて歌集を編んだ。
□□(13) 秀吉が全国を平定するまで日本は戦乱の巷であった。
□□(14) 外国語の学習では、まず基本的な語彙の習得が必要である。
□□(15) 佐渡の流人となった人々は金山を掘らされた。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 彼女の父親は、非常にげんかくな人だった。
□□(2) 係員が機械のそうさを誤ったために事故が起こった。
□□(3) まず、ぜんていをはっきりさせてから、議論を進めよう。
□□(4) 万一の場合にそなえて、避難訓練を行う。
□□(5) 彼を天才と呼んでも、決してかごんではない。
□□(6) この商品には重大なけっかんがある。
□□(7) 材料をぎんみして、すばらしいごちそうを作る。
□□(8) 空気がきはくな所での作業はつらい。
□□(9) 体操競技のやくどう美に人々は見とれた。
□□(10) 君の考え方は、マルクス主義にりっきゃくしている。
□□(11) ついに、われわれのチームの敗色がのうこうになった。
□□(12) 水平線をじっとぎょうししたが、依然として陸地は見えなかった。
□□(13) 私の怠慢から兄にかじょうな負担をかけてしまった。
□□(14) 周囲のごかいを招くような行動は、厳重に慎みなさい。
□□(15) 古代文字の解読には、何よりも鋭いどうさつ力が必要とされる。
□□(16) コンサートが始まったときから、会場はいような興奮に包まれた。
□□(17) スランプを克服するには、きその練習をやり直すのがよい。
□□(18) 道で知人に会ったら、えしゃくをしなさい。
□□(19) 外国からの訪問団に対し、市長がかんげいのあいさつをした。
□□(20) 友人をさそって山へ行った。
□□(21) 政治にかんしんがなくとも、新聞の見出しぐらいは読みなさい。
□□(22) 彼女は、そうしょくを控えた簡素なデザインを好む。
□□(23) 「ジャン・クリストフ」は、教養小説の一つのてんけいである。
□□(24) 彼は子どものころから音にびんかんだった。
□□(25) いやはや、めんどうなことになったものだ。
□□(26) 確たるしょうこもないのに、人を罪人呼ばわりするな。
□□(27) 彼の提案は、委員会でしょうにんされた。
□□(28) 抽象的なことがらについて、ひきんな例をあげて具体的に説明する。
□□(29) 江戸時代の鎖国以来、日本人の考え方はへんきょうになりがちである。
□□(30) 絶体絶命の中で、きせきが起こることを願った。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)□□① 小野小町は六かせんの一人だ。
□□② 台風のためにかせんが氾濫した。
□□③ 大雨によって電車のかせんが切断されたために、不通になった。
(2)□□① 死者をかそうにした。
□□② ピエロにふんしてかそう行列に参加した。
□□③ かそう敵国の侵入を想定する。
(3)□□① 高校のかていを修了した。
□□② 結果よりもかていが大事だ。
□□③ 円満なかていに育ったことをありがたく思っている。

第 7 日

現代文第7日／長文読解

学習日　月　日

〈芸術論〉文脈・要点をつかむ

玉川大学で出題された現代文の第二回めの学習です。

前回の終わりで、筆者は「茶道の第二の原理」として、「現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度」をあげましたが、今回ではそれを表すのに「一期一会」ということばを用い、つまるところ茶道では「人生と芸術とが一体」になっているという結論を導き出します。

では、トレーニングを始める前に、きょうのテキストをよく読みなさい。

【出典】〈玉川大〉加藤周一「芸術論集」（茶の美学―二つの仮説―）より

きょうのテキスト／第六段落①

㉟茶人の芸術は茶会に極まるが、茶会は一回限りのものである。㊱歌人はその作品をつくるのに、なんどもつくり変えることができる。㊲歌を最も意識的につくった藤原定家は、結句まで整った後に、初句を案じて書きこむのがよろしいといったくらいである。㊳できあがった作品は、作者にとってはもちろん、後世にさえも残る。㊴これはたとえば油絵に似ている。㊵しかし水墨画となるとつくり変えはできない。㊶筆に墨を含んで白紙におろせば、どうしても筆は動かさなければならない。㊷一瞬にして万事が成るか成らぬか、油絵と違って手直しはきかぬから、これはその意味で瞬間の芸術である。㊸だが作品は残る。

●語句注

藤原定家＝鎌倉時代前期の歌人。名は「ていか」ともいう。俊成の子。「新古今集」「新勅撰集」の撰者である。

結句＝詩歌の最後の句。

初句＝詩歌の初めの句。起句。

トレーニング1／語句

1《語句の意味》**次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 考える。工夫する。〔　　〕

(2) あらゆること。〔　　〕

(3) 墨の濃淡の調子によって描く絵。〔　　〕

2《対義語》**次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 一事↕〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

3 《文脈と文の内容》 ㉟〜㊸の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。

(1) 【㉟の文】

語句 前の段落の㉞で述べた茶道における第二の原理を踏まえ、具体的に〔　〕を例にとり、それが〔　〕限りのものであることを指摘している。

(2) 【㊱の文】

語句 ㉟で茶人の芸術が一回限りの茶会に極まることを述べたのを受け、それと対比させて、〔　〕を例にとり、その作品はなんどでもつくり変えることができることを述べている。

(3) 【㊲の文】

語句 ㊱で話題とした歌人の典型的な実例として、〔　〕をもちだし、彼が、結句まで整った後に、初めにもどって考え、そこで初句を書きこむのがよいと言った事実を指摘している。

(4) 【㊳の文】

語句 ㊱㊲であげた歌人の場合についてさらに話をすすめ、完成した作品が、作者の手もとに残るのはもちろん〔　〕にさえ残ることを指摘している。

(5) 【㊴の文】

指示語 「〔　〕」という指示語は、㊱〜㊳で述べた歌のつくり変え可能な性質や永続性を指し、それが油絵に似ていると論を進めている。

(6) 【㊵の文】

接続語 「〔　〕」という接続詞で、㊴で述べた油絵の場合と違う〔　〕の場合を引き出し、それが、つくり変えのできないものであることを指摘している。

(7) 【㊶の文】

語句 ㊵の文でもちだした〔　〕の場合をさらに説明し、筆をいったん白紙におろせば、もはやとりかえしがつかないということを述べる。

(8) 【㊷の文】

指示語 「これは」という指示語は、〔　〕を指し、それが「瞬間の芸術」といえることを述べる。また、「その意味で」という指示語は、〔　〕にして万事が成るか成らぬかが決まることを指す。

語句 水墨画を、手直しがきかぬという点に着目して、「〔　〕の芸術」と定義している。

(9) 【㊸の文】

接続語 「〔　〕」という接続詞で文を起こし、歌や油絵と違って一瞬にして万事が決まる水墨画ではあるが、それでもなお作品は残るということを述べている。

――歌や油絵、水墨画の特徴をきちんととらえなさい。

トレーニング3／表現

4 《対立概念》 **ここで次の語句と対立した概念として用いられている語句は何ですか。**

(1) 油絵――〔　　〕

――「瞬間の芸術」を選びます。

5 《対応表現》 **㊱の文中の「作品をつくるのに、なんどもつくり変える」に対応する部分を㊲の文中から書き抜きなさい。**

〔　　〕

――藤原定家（ふじわらのさだいえ）のことばとして作者が引用している部分です。

トレーニング4／段落の要点

6 《段落の要点》 **次の手順に従って、この部分を要約しなさい。**

(1) ㊱～㊴の文をまとめた次の文の〔　〕に適当な語句を書き入れなさい。

歌は〔　　〕に似て、なんどもつくり変えることができ、しかもできあがった作品は〔　　〕に残る。

(2) ㊵～㊷をまとめた次の文の〔　〕に適当な語句を書き入れなさい。

水墨画は、筆を白紙におろすと一瞬にして〔　　〕が成るか成らぬかが決まるという意味で〔　　〕の芸術といえる。

(3) (1)(2)及び㉟㊸の文をまとめて、この部分を要約しなさい。

――歌や油絵及び水墨画などの芸術の特徴を明確に表現します。

――答えをきちんと確認してから、次の段落に進みなさい。

●きょうのテキスト／第六段落②●

㊹芝居の役者の芸術となると、作品は残らない。㊺長い訓練の結果、役者は一つの舞台をつくる。㊻これは手直しがきかず、それぞれの瞬間に決まる表現であるばかりでなく、幕がおりたときに消えてなんらの跡も残さないものである。㊼しかし舞台は、小屋の周囲の世界からも観客からも一応独立している。㊽十年前の舞台を、同じ役者が違う種類の観客に対して再現することは不可能であるにしても、同じ年、同じ小屋で、同じ役割を演じている役者は、かなりの程度まで、同じ舞台を再現することができるだろう。

トレーニング1／語句

7 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 演劇などの演技を行うために設けた場所。〔　　〕

(2) 芝居で、場面の転換や休憩・終了のときに舞台の前面に張る布。〔　　〕

(3) 一度消えたものが再び現れること。また、現すこと。〔　　〕

(4) 各人に割りあてた役。〔　　〕

8 《対義語》 **次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 原因↔〔　　〕　(2) 可能↔〔　　〕

9 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 演劇〔　　〕　(2) 俳優〔　　〕

10 《定義文》 **次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に——線を引きなさい。**

(1) 舞台

——⑯の文に着目しましょう。

トレーニング2／文脈・文の内容

11 《文脈と文の内容》 **㊹〜㊽の文のつながりを示すため、〔　　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【㊹の文】

語句 前で述べた歌や水墨画などの芸術と比較して、ここでは芝居の〔　　〕の芸術をもちだし、その〔　　〕が後に残らないことを指摘している。

(2) 【㊺の文】

語句 ㊹で話題とした芝居について、そこでは、〔　　〕が長い訓練を経て〔　　〕をつくることを述べる。

(3) 【㊻の文】

指示語 「〔　　〕」という指示語は、㊺の「舞台」を指し、それが〔　　〕のきかないものであるのみならず、幕がおりれば、なんらの〔　　〕も残さないものであることを指摘している。

(4) 【㊼の文】

接続語 「〔　　〕」という接続詞で、㊻で述べたように芝居が瞬間の芸術であるにもかかわらず、〔　　〕そのものは周囲の世界から〔　　〕した存在であるということを導き出している。

(5) 【㊽の文】

語句 ㊼で舞台が独立した存在であることを述べたのを受け、独立しているからこそ、瞬間の芸術であり作品は残らないにも

かかわらず、かなりの程度まで、役者が同じ舞台を〔　　〕することは可能であると指摘している。

――歌や水墨画などと比較して芝居の役者の芸術について述べ、それが瞬間の芸術であり作品は残らないにもかかわらず、同じ舞台の再現が不可能ではないという筋をしっかりおさえましょう。

トレーニング3／表現

12 《対立概念》 ㊻の「幕がおりたときに消えてなんらの跡も残さない」と対立した意味で述べられている語句を、㊼㊽の文から書き抜きなさい。

〔　　〕

13 《対応表現》 ㊹の「作品は残らない」と同じ内容を述べた部分を、㊻～㊽から書き抜きなさい。

〔　　〕

トレーニング4／段落の要点

14 《段落の要点》 次の手順に従って、この部分を要約しなさい。

(1) ㊹～㊻の文の中で、最も簡潔に筆者の述べたいことが表されているのはどの文ですか。番号で答えなさい。

〔　　〕

――㊺の文は㊻を導くためのものですから、筆者の述べたいことそのものではありませんね。

(2) ㊼㊽の文のうち、筆者が重点を置いていると思われる文を選び、その文を簡潔にまとめなさい。

〔　　〕

――㊼は㊽を導くための文です。

(3) (1)で答えた文及び(2)の答えをまとめて、この部分を要約しなさい。

――答え合わせがすんだら、次に進みなさい。

きょうのテキスト／第六段落③

㊾茶会では、手直しがきかず、一回の演技が残らないばかりでなく、繰返しもほとんど不可能である。㊿芝居の舞台と違って、茶会は季節により、天候による。(51)本来名まえのない芝居の観客と違って、茶会の客は特定の個人であり、しかもその個人は、芝居の観客よりもはるかに積極的な意味で茶会に参加する。(52)主人にとっての客は、観客に比較するよりは、むしろ共演者に比較すべきものであろう。

トレーニング1／語句

15 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) 人の前で芸やわざを演じること。また、その芸やわざ。〔　　〕

(2) 演劇などに、ある人といっしょに出演する俳優。〔　　〕

16 《対義語》 **次の語句の対義語（反対語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 主↕　　(2) 団体↕

(3) 消極的↕

17 《類義語》 **次の語句の類義語（意味の似た語）を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 反復〔　　〕　(2) 元来〔もともと〕〔　　〕

(3) 意欲的・能動的〔　　〕

(4) 対照〔比べる〕〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

18 《文脈と文の内容》 **㊾～㊿の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【㊾の文】

語句 ここまでに歌や絵画及び芝居の役者の芸術について述べたが、ここで再び、茶の世界に目を転じ、芝居との比較を行っていく。ここでは、茶会では〔　　〕がきかず、一回の〔　　〕が残らないばかりか、〔　　〕も不可能に近いことを述べる。ここで「演技」といっているのは、茶会を一つの芝居に見立てているのである。

(2) 【㊿の文】

語句 ここまでに述べた芝居と茶会を比較し、〔　　〕が芝居とは違って、季節や〔　　〕に左右されること、すなわち「一回の演技」が残らず、繰返しが不可能である環境上の理由を述べている。

(3) 【51の文】

語句 ㊿と同様に、ここでも芝居と茶会を比べ、本来不特定多数の〔　　〕を扱う芝居と違い、茶会では客は特定の個人であり〔　　〕に茶会に参加することを指摘している。

(4) 【52の文】

語句 51の文を受けて、茶会における〔　　〕は、芝居における〔　　〕になぞらえるよりも、むしろ〔　　〕にあてはめて考えるべきものと述べている。

――芝居と比較して茶会の特色を浮き彫りにしています。その特色をきちんと把握（はあく）しなさい。

トレーニング3／表現

19 《対立概念》 **ここで次の語句と対立した概念として用いられている語句は何ですか。**

(1) 茶会――〔　　〕

(2) 芝居の観客――〔　　〕

―― 何と何とを比較対照しているかを確実におさえなさい。

20 《対立概念》 **㊿の文中の「名まえのない」と、意味的に反対の内容を表している語句を、同じ文中から書き抜きなさい。**

〔　　〕

21 《対応表現》 **㊿の「茶会の客」を、芝居における何かに比較した部分があります。それを含む文の番号を書きなさい。**

〔　　〕

―― 本文の最後のほうに述べられています。

トレーニング4／段落の要点

22 《内容の分割》 **この部分（第六段落③）を内容のうえから二つに分けると、どの文の後で分けられますか。文の番号を書きなさい。**

〔　　〕

―― ㊿の文が前後のどちらに入るのか、しっかりと見極めましょう。

23 《段落の要点》 **次の手順に従って、この部分を要約しなさい。**

(1) 次は、この部分の前半をまとめたものです。〔　　〕の中に適当な語句を書き入れなさい。

茶会では、芝居の〔　　〕と違って、季節や天候に左右され、手直しも繰返しも不可能である。

(2) 次は、この部分の後半をまとめたものです。〔　　〕の中に適当な語を書き入れなさい。

茶会の〔　　〕は、芝居の〔　　〕と違って、はるかに積極的に茶会に参加するので、むしろ〔　　〕になぞらえることができる。

(3) (1)と(2)を合わせて、第六段落③の要点を簡潔にまとめなさい。

―― まとめやすい部分ですね。

―― 解答を合わせて納得がいったら、次へ進みなさい。

きょうのテキスト／第六段落④

㊸茶会における特定の個人と個人との出会いは、本来一回限りのもので、けっして同じようには繰返されない。㊹だれにとっても人生は一回限りのものだからである。㊺かくして瞬間に万事の決する芸術的表現の一面は、茶会において窮まる。㊻その意味で、茶人の芸術はあらゆる芸術の一つの極点を示す。㊼あるいは人間の条件を要約するといってもよいだろう。㊽「そもそも茶の湯の交会は、一期一会といひて、たとへば幾度同じ主客交会するとも、今日の会に再びかへらざることを思へば、実にわが一生一度の会なり。さるにより主人は万事に心をくばり……（後略）」（『茶湯一会集』）と井伊直弼はみごとにも言った。㊾ここでは、人生と芸術とが一体になる。

●語句注
井伊直弼＝江戸幕末の大老。彦根藩主。桜田門外で暗殺された。
交会＝交際。会合。

トレーニング1／語句

24 《語句の意味》 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**

(1) その結果。このようにして。〔　　〕
(2) 極限に達する。〔　　〕
(3) 人と人との出会いは生涯にただ一度だけだということ。〔　　〕
(4) 主人と客。〔　　〕
(5) 人と人との出会い。〔　　〕
(6) そうであるから。〔　　〕

25 《類義語》 **次の語句の類義語を、本文から抜き出して書きなさい。**

(1) 極致〔窮極〕〔　　〕

トレーニング2／文脈・文の内容

26 《文脈と文の内容》 **㊸〜㊾の文のつながりを示すため、〔　〕の中に適切な語句を書き入れなさい。**

(1) 【㊸の文】
語句 ここまで、茶会を芝居などと比較してとらえてきたが、ここで、茶会そのものに焦点をあて、それが本来〔　　〕限りのものであることを強調している。

(2) 【㊹の文】
語句 ㊸の文を受けて、茶会が一回限りのものである理由を、〔　　〕が一回限りであるためとしている。

(3) 【㊺の文】
接続語 これまで述べてきたことを受け、「〔　　〕」という接続詞で結論づけて、瞬間に万事が決定する芸術的表現の一側面が〔　　〕において窮まることを述べる。

(4) 【㊻の文】
語句 「瞬間に〔　　〕の決する芸術的表現」とは、これまでに例としてあげてきた、手直しのきかない水墨画や芝居などの芸術のことである。

指示語「〔　　〕」という指示語は、瞬間に万事が決定する水墨画や芝居などの芸術的表現の一面が茶会で窮まることを指し、茶人の〔　　〕であるところの茶会が、あらゆる芸術の一つの極点を示していることを指摘している。

(5) 【57の文】

接続語「〔　　〕」という接続語で文を起こして56の文を言いかえ、茶人の芸術すなわち茶会が人間の条件を〔　　〕していることを述べる。「人間の条件」とは、人間が人間としてふさわしい生き方をしていくために欠くべからざる条件のこと。つまりは、一生は一度限りのものであるから、何事もおろそかにはできないということ。

(6) 【58の文】

語句　ここで井伊直弼（いいなおすけ）のことばを引き、茶会での主客の交わりは〔　　〕、つまり、一生に一度限りのことであって、何事もおろそかにはできないということを例証する。

(7) 【59の文】

指示語「〔　　〕」という指示語は、ここまで幾度も言及してきた茶人の芸術つまり茶会を指し、茶会では「人生と〔　　〕とが一体」になると結論づけている。要するに、これが「茶道における人生と芸術の関係」についての筆者の結論である。

――人生も芸術もともに「一期一会（いちごいちえ）」であるという筆者の主張をしっかりおさえましょう。

トレーニング3／表現

27《対応表現》「一生一度の会」と同じ内容の語句を、本文から漢字四字で書き抜きなさい。

――井伊直弼（いいなおすけ）のことばの中にあります。

トレーニング4／段落の要点

28《段落の要点》次の手順に従って、第六段落④の要点をまとめなさい。

(1) 第六段落④は、茶人の芸術すなわち茶会について述べていますが、その極点を端的に言い表した四文字のことばを本文から書き抜きなさい。

――「一生一度の会」と同じ内容の語句です。

(2) 57で、茶人の芸術が「人間の条件を要約する」と述べられていますが、どうしてそうなのですか。次の〔　　〕の中に適当な語を書き入れなさい。

茶人の芸術も人生も〔　　〕限りのもの、すなわち〔　　〕だから。

――茶人の芸術も人生もともに「一期一会（いちごいちえ）」であることをしっかりおさえましょう。

(3) (1)と(2)の要素を入れて、第六段落④の要点を書きなさい。

――⑤⑤⑤⑨の文の内容も、要点の中に書き入れます。特に⑤⑨の文は、「茶道における人生と芸術の関係」についての筆者の結論ですから、必ず要点に含めなさい。

――いかがですか。一見難解な文章も、少しずつ文脈をたどっていけば、容易に理解できますね。今回の長文読解の学習はここまでです。次回は実際の入試問題を解いてみます。

この後の「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 鄙びた温泉宿で都会生活の疲れをいやした。
□□(2) 思いがけぬ病で母の手を煩わせることになってしまった。
□□(3) 自分がこれまでにやってきたことを否みたくない。
□□(4) 結果だけを云々してはならない。
□□(5) 畢竟、偏見が差別と戦争を引き起こす。
□□(6) ねずみはペストを媒介する。
□□(7) 太陽がぎらぎらと砂浜を灼いていた。
□□(8) 大事をやり遂げる前に意志が萎えていくのを感じた。
□□(9) 刹那に激しく生命を燃やした。
□□(10) 社長は傍らの秘書に何事かつぶやいた。
□□(11) 君の勉強したいことは宗教学の範疇に入る。
□□(12) たびたび話を遮られたので問題の核心に触れることができなかった。
□□(13) 河口に土砂が堆積する。
□□(14) 博士は、昨夜遅く逝去された。
□□(15) 近ごろこの界隈に怪しい男が出没するそうだ。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 祖父のりんじゅうのまくらもとに皆が集まった。
□□(2) 雄弁は銀、ちんもくは金。
□□(3) 適切なひゆは表現を豊かにする。
□□(4) 戦争の悲劇はぼうきゃくされてはならない。
□□(5) 毎日のトレーニングもだせいで繰り返しているだけでは効果がない。
□□(6) 偉大な研究者のしょうがいをまとめた伝記を発行する。
□□(7) 問題がたきにわたっていて、処理するのが難しい。
□□(8) 男は人の心の中をとうしするような鋭い目つきをした。
□□(9) 脆弱な身体をきたえるために乾布摩擦をした。
□□(10) とうてつした論理で、事の真相を解明した。
□□(11) 試験の結果だけで人間のかちを判断することはできない。
□□(12) 少年は、先生の出した難問に、そくざに答えた。
□□(13) 初めて出会うことがらを、きちのことがらに結び付けて理解する。
□□(14) あなたのざゆうの書は何ですか。
□□(15) 子どもたちはむじゃきに遊んでいる。
□□(16) 科学技術のふだんの進歩に目を見張る。
□□(17) もっとえいようのある食事をしないと、力が出ないぞ。
□□(18) 仕事に追われて、家庭をかえりみる暇がない。
□□(19) われわれの努力は、ついにとろうに終わった。
□□(20) 私は証人としてかんもんされた。
□□(21) 地球上に無数の動植物がせいせいした。
□□(22) 混迷した状況からのだっきゃくを図った。
□□(23) リーダーを務めるために個人的感情をせいぎょした。
□□(24) 彼女の部屋にはどことなく優雅な雰囲気がただよっていた。
□□(25) 供給がじゅように追いつかない。
□□(26) 計画をすいしんする。
□□(27) 探検隊は、昨日、極点にとうたつした。
□□(28) 民主主義の思想が国民の間にしんとうする。
□□(29) 彼は、どんないとをもって、この作品を書いたのだろう。
□□(30) 本書には、現代の文法理論が、たいけい的に述べられている。

3 《同音異義語》次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)□□① かんかしえない事態が発生した。
□□② よくないことにかんかされやすい年ごろだ。
(2)□□① ガスをつけたら、部屋のかんきに注意しなさい。
□□② 注意をかんきすべきである。
□□③ 実験の成功で皆がかんきした。
□□④ 北国の冬のかんきが身にしみる。
(3)□□① 受けた恩恵を社会にかんげんする。
□□② かんげんに乗せられて高価なものを買ってしまった。
□□③ 割烹術、かんげんすれば料理法を学ぶ。

第8日

現代文第8日／長文読解

学習日　月　日

〈芸術論〉段落相互の関係・要旨をとらえる

きょうは、玉川大学で出題された現代文を一括して学習します。第6・7日での段落ごとの学習を踏まえた、全文の学習です。

では、まずテキストを読むことから始めなさい。

【出典】〈玉川大〉加藤周一（かとうしゅういち）「芸術論集」（茶の美学―二つの仮説―）より

きょうのテキスト／玉川大-文〈外語〉

およそ人生と芸術の関係については、大別して二つの考え方がある。その一つは、芸術がそれ自身を目的として人生のその他のどんな目的にも奉仕しないとするものである。これをA〔　〕と呼ぶことにする。その第二は、芸術が人生の芸術以外のなんらかの目的、たとえば倫理的・政治的、または一般に享楽的目的に役だつと考え、その役だつかぎりにおいて芸術の価値を認めようとするものである。これをB〔　〕と呼ぶことにする。ところが、日本の茶道に典型的に現れている芸術と人生に対する考え方はそのどちらにも属さない。

利休はかれ自身のリュウギに従って生きることに力を尽していたのだから、その考え方をC〔　〕と呼ぶことはできないが、茶道のほかに利休の人生はなかったのだから、その考え方はD〔　〕でもなかった。茶道とは人生を一個の芸術品につくりあげようとするムボウな企てである。そこでは人生のために芸術があるのではなく、芸術のために人生がある。これは人生と芸術との関係についての第三の考え方であろう。この第三の考え方をE〔　〕と呼ぶことにする。「芸術のための芸術」と違うところは、芸術が人生の他の活動から独立に一つの世界を築くのではなく、人生のすべての活動がその芸術の体系にキュウシュウされることである。

生活の芸術化は、茶道において、衣食住のすべてに及んでいる。茶会には豪華な衣服を用いない。茶室は小さな山小屋の体裁で故意に豪奢を避け、故意に快適ささえも避けている。要するに、茶道は衣食住に対する①明らかに一貫した特定の態度を要求するのである。しかもそれだけではなく、茶室には軸を掛け、花を生け、香をたき、茶器を用いる。すなわち絵画・生花・香・焼き物の芸術に対する特定の態度もまた、茶人にそなわっていなければならない。そのような衣食住と芸術に対する態度は、茶会において表面に現れるが、茶人においては日常坐臥の態度として身についたものである。つまり、生活の芸術化がなければ茶は成り立たぬということになる。

茶の世界は単色の世界である。その建築の表面には、人工の色を塗らない。柱も壁も天井も床も、ソザイの表面をそのまま保存している。茶室の建築は色の配合によって得られる感覚的な効果をはっきりと拒絶して、故意に単色の世界を選んでいる。床の間にはけっ

してタサイな絵画を用いない。これまた水墨の単色に限る。また茶器にも目のさめるような色はなく、すべてがいわゆる渋いものである。視覚的な茶の世界は、感覚に直接に訴える色の効果を、いわば極小化した世界である。聴覚的にもそこには音楽がない。もしそこに音があるとすれば、ときおり屋根をたたく時雨のように、ただ沈黙をきわだたせるためにだけそこにあるのだ。要するに茶の世界には、感覚的な享楽に対する自覚的で組織的な拒否がある。茶の美学の特色は、感覚そのものに即した喜びを否定することによって、いわば精神化され、内面化された感覚の喜びを発見するという手のこんだ手続きにあるはずだ。感覚のF〔　〕の感覚的表現が茶である。

茶道の第一の原理を生活の芸術化、自然との一体化であるとすれば、茶道の第二の原理は、現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度である。

茶人の芸術は茶会に極まるが、茶会は一回限りのものである。歌人はその作品をつくるのに、なんどもつくり変えることができる。歌を最も意識的につくった藤原定家は、結句まで整った後に、初句を案じて書きこむのがよろしいといったくらいである。できあがった作品は、作者にとってはもちろん、後世にさえも残る。これはたとえば油絵に似ている。しかし水墨画となるとつくり変えはできない。筆に墨を含んで白紙におろせば、どうしても筆は動かさなければならない。一瞬にして万事が成るか成らぬか、油絵と違って手直しはきかぬから、これはその意味で瞬間の芸術である。だが作品は残る。芸術の役者の芸術となると、作品は残らない。長い訓練の結果、役者は一つの舞台をつくる。これは手直しがきかず、それぞれの瞬間に決まる表現であるばかりでなく、幕がおりたときに消えてなんらの跡も残さないものである。しかし舞台は、小屋の周囲の世界からも観客からも一応独立している。十年前の舞台を、同じ役者が違う種類の観客に対して再現することは不可能であるにしても、同じ年、同じ小屋で、同じ役割を演じている役者は、かなりの程度まで、同じ舞台を再現することができるだろう。茶会では、手直しがきかず、一回の演技が残らないばかりでなく、繰返しもほとんど不可能である。芝居の舞台と違って、茶会は季節により、天候による。②本来名まえのない芝居の観客と違って、茶会の客は特定の個人であり、しかもその個人は、芝居の観客よりもはるかにG〔　〕な意味で茶会に参加する。主人にとっての客は、観客に比較するよりは、むしろH〔　〕に比較すべきものであろう。茶会における特定の個人と個人との出会いは、本来一回限りのもので、けっして同じようには繰返されない。だれにとっても人生は一回限りのものだからである。かくして瞬間に万事の決する芸術的表現の一面は、茶会において窮まる。その意味で、茶人の芸術はあらゆる芸術の一つの極点を示す。あるいは人間の条件を要約するといってもよいだろう。「そもそも茶の湯の交会は、一期一会といひて、たとへば幾度同じ主客交会するとも、今日の会に再びかへらざることを思へば、実にわが一生一度の会なり。さるにより主人は万事に心をくばり……（後略）」（『茶湯一会集』）と井伊直弼（いいなおすけ）はみごとにも言った。ここでは、人生と芸術とが一体になる。

（加藤周一の文による）

トレーニング1／漢字

1 次の――線部分を漢字で書きなさい。

(1) 自分なりのりゅうぎでやっていく。〔　　〕
(2) それはむぼうな計画だ。〔　　〕
(3) 養分をきゅうしゅうする。〔　　〕
(4) そざいを生かして彫刻する。〔　　〕
(5) 彼はたさいな絵画を好む。〔　　〕
(6) 衣服と食物と住居。生活に最低限必要なもの。〔　　〕
(7) はじめから終わりまで、一つの考え方ややり方で貫き通すこと。〔　　〕
(8) たくと、よい香りがするように、種々の香料を練り合わせたもの。〔　　〕
(9) もとになる材料。原料。〔　　〕
(10) 秋から冬にかけて降ったりやんだりする雨。〔　　〕
(11) 芸術などにおける種々の美を通して、美の本質・原理などを研究・解明する学問。〔　　〕
(12) あらゆること。〔　　〕
(13) 一度消えたものが再び現れること。また、現すこと。〔　　〕
(14) 演劇などに、ある人といっしょに出演する俳優。〔　　〕
(15) 極限に達する。〔　　〕
(16) 人と人との出会いは生涯にただ一度だけだということ。〔　　〕

トレーニング2／語句

2 《語句の意味》 次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。

〈第一段落〉
(1) 利害を離れてひたすら尽くすこと。〔　　〕
(2) 快楽を追い求めるさま。〔　　〕
(3) 同類のものの中で、その特徴を最もよく備えている様子。〔　　〕

〈第二段落〉
(4) その人独特のやり方。〔　　〕
(5) 一定の原理によって、個々の要素や部分などを系統的に統一した組織・構成体。〔　　〕

〈第三段落〉
(6) 衣服と食物と住居。生活に最低限必要なもの。〔　　〕
(7) はじめから終わりまで、一つの考え方ややり方で貫き通すこと。〔　　〕

〈第四・五段落〉
(8) たくと、よい香りがするように、種々の香料を練り合わせたもの。〔　　〕
(9) もとになる材料。原料。〔　　〕
(10) 秋から冬にかけて降ったりやんだりする雨。〔　　〕
(11) 芸術などにおける種々の美を通して、美の本質・原理などを研究・解明する学問。〔　　〕

〈第六段落①〉
(12) あらゆること。〔　　〕

〈第六段落②〉
(13) 一度消えたものが再び現れること。また、現すこと。〔　　〕

〈第六段落③〉
(14) 演劇などに、ある人といっしょに出演する俳優。〔　　〕

〈第六段落④〉
(15) 極限に達する。〔　　〕
(16) 人と人との出会いは生涯にただ一度だけだということ。〔　　〕

3 《対義語》 次の単語の対義語（反意語）を、後から選んで書きなさい。

(1) 手段↕　(2) 簡素↕
(3) 自然〔天然・天工〕↕　(4) 受諾〔承諾〕↕
(5) けばけばしい↕　(6) 間接↕
(7) 肯定↕　(8) 一事↕
(9) 原因↕　(10) 可能↕
(11) 主↕　(12) 団体↕
(13) 消極的↕

直接　結果　拒絶〔拒否〕　人工　万事　目的　個人
渋い　積極的　不可能　否定　豪華〔豪奢〕　客

4 《定義文》 次の語句を筆者が説明しています。その説明が書いてある個所に――線を引きなさい。

(1) 芸術のための芸術　(2) 人生のための芸術
(3) 芸術のための人生　(4) 舞台

トレーニング3／段落の関係

5 次にあげる各段落の要点を参考にして、後の問いに答えなさい。

人生と芸術の関係については、「芸術のための芸術」と「人生のための芸術」という二つの考え方があるが、日本の茶道に典型的に現れている考え方はそのどちらにも属さない。〈第一段落〉

茶道では、人生を一個の芸術品につくりあげようとし、人生のすべての活動がその芸術の体系に吸収されるのであって、それはいわば「芸術のための人生」である。〈第二段落〉

生活の芸術化は、茶道においては、衣食住のすべてに及んでおり、結局生活の芸術化がなければ茶道は成り立たない。〈第三段落〉

茶の世界では、感覚そのものに即した喜びを否定することによって、いわば内面化された感覚の喜びを発見するというところに美を認める。〈第四段落〉

茶道には、「生活の芸術化」「自然との一体化」という原理があるが、また、現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度もある。〈第五段落〉

茶人の芸術である茶会は、歌や水墨画あるいは芝居などと違い、手直しも繰返しもきかず、「一期一会（いちごいちえ）」であって、きわめて瞬間に万事が決定するのであるが、その意味で、茶道はあらゆる芸術の一つの極点を示し、かつ人間の条件をも要約する。つまるところ、茶道では人生と芸術が一体となっている。〈第六段落〉

(1) 第三段落は、ある段落で述べたことを受けて、いろいろと実例を

あげ、詳しく説明したものです。どの段落を受けていますか。

第〔　　〕段落

――第三段落は、第二段落を受けて、さらに具体的な例を追加説明している段落です。

(2) 第五段落の前半は、ある二つの段落をまとめるという形で書かれていると考えられます。どの段落とどの段落ですか。

第〔　　〕段落と第〔　　〕段落

――「生活の芸術化」と「自然との一体化」は、第四段落までに述べたことを要約したものです。第二段落は、ここでは除いて考えなさい。

(3) 第五段落中の「現在の瞬間にいっさいを投じて生きようとする態度」を簡潔に言い表した語句を、第六段落中から四字で書き抜きなさい。

――井伊直弼（いいなおすけ）のことばの中に出てきます。

〔　　〕

6 **第二段落中の「芸術のために人生がある」と「人生のすべての活動がその芸術の体系に吸収される」は同じ内容を述べたものですが、さらに同じ意味内容を述べた語句として、第三段落中から二つの部分を抜き出しなさい。**

〔　　〕

――茶道において要求される生活態度に着目します。

――段落の間のつながりが明確になったら、次のトレーニングに進みなさい。

〔　　〕

トレーニング4／要旨

7 **《テーマ》 この文章は何について述べていますか。「～について」という形で答えなさい。**

〔　　〕

――最初の段落に着目しましょう。

8 **《要旨》 すでにあげた各段落の要点を参考にしながら、次の手順に従って、この文章の要旨を書きなさい。**

(1) 本文中の段落で、前の部分を要約し、かつ次の段落への問題提起をしている段落の番号を書きなさい。

第〔　　〕段落

――「トレーニング3／段落の関係」で考えたことを思い出しましょう。

(2) 茶道における人生と芸術の関係についての結論を述べた部分が、第六段落中にあります。それを十三字で書き抜きなさい。（句読点を含む）

―― 最後の部分に注目しましょう。

(3) テーマを念頭に置きつつ、(1)(2)を考慮に入れて、この文章の要旨を書きなさい。

―― テーマは「茶道における人生と芸術の関係」でしたね。要旨を書く場合、段落ごとの要点を大いに利用しましょう。筆者が、茶道や、茶道における芸術及び人生をどのようにとらえているのかに留意しましょう。また、単なる言いかえにすぎないものや具体例を列挙した部分は、要旨には不要です。

―― 答えを合わせて納得がいったら、次の実際の入試問題を解きなさい。

トレーニング5／入試問題

9 次は玉川大の実際の入試問題です。設問に答えなさい。

(1) 文中の傍線の漢字の読みがなを記せ。

〔　　〕〔　　〕〔　　〕
〔　　〕〔　　〕

(2) 文中のかたかなの部分を漢字に改め、記せ。

〔　　〕〔　　〕〔　　〕
〔　　〕〔　　〕

(3) 文中のA〔　　〕・B〔　　〕・C〔　　〕・D〔　　〕・E〔　　〕に入れるのに最も適当と思われる語句を、それぞれ次のア～エの中から選んで、その記号を解答欄に記入せよ。

ア　人生のための人生　　イ　人生のための芸術
ウ　芸術のための人生　　エ　芸術のための芸術

A〔　　〕　B〔　　〕　C〔　　〕　D〔　　〕
E〔　　〕

―― 指示語の指す内容に着目しましょう。

(4) 文中のF〔　　〕・G〔　　〕・H〔　　〕に入れるのに最も適当と思われる語句を、それぞれ次のア～オの中から選んで、その記号を解答欄に記入せよ。

F　ア　本質　　イ　否定　　ウ　美化　　エ　遊戯　　オ　屈折
G　ア　趣味的　　イ　享楽的　　ウ　精神的　　エ　積極的
　　オ　社交的
H　ア　支持者　　イ　傍観者　　ウ　共演者　　エ　批評家

オ　芝居の舞台

F〔　〕　G〔　〕　H〔　〕

――前後のつながりに注意しましょう。

(5)　……傍線①「明らかに一貫した特定の態度」とはどのような態度か、文中の語句を用いて説明せよ。

〔　　〕

――茶道における生き方を述べた部分に注目しましょう。

(6)　……傍線②「本来名まえのない芝居の観客」の「名まえのない」とはどのような内容を指しているのか、わかりやすく説明せよ。

〔　　〕

――「名まえのない」は、「特定の個人」の「特定の」と意味的に対立する語句です。

――いかがですか。ステップを踏んで学習すれば、実際の入試問題もそう難しくはありませんね。では、次の立命館大の入試問題も解いてみましょう。

【出典】〈立命館大〉神西清（じんざいきよし）「神西清全集」第六巻（描写について）より

10　次の文章を読んで、問いに答えよ。　（立命館大-経営）

写実主義という術語がある。この言葉が芸術一般の専門用語として初めて舞台の正面へ押し出されたのは、後にも触れる機会があるように十九世紀も後半に入ってからのことである。〔　A　〕写実ということを一般的に取れば、それはそもそも芸術の発生以来たえずあったことだ。芸術というものが元来、真実を模倣しようという本能から生まれたものであることは、既に繰返し述べたとおりである。故意に嘘（うそ）を語ろうとする場合にしろ、人間はやはり（いや却（かえ）って益（ます）益）本当らしく見せること、〔　B　〕真実を模倣することに努めるに違いない。したがってまた、今しがた言った芸術の弁証法的発展のプロセスというのも、つまりは写実技術の弁証法的発展にほかならぬと言えるはずである。言い換えればそれは、知性によって感性が絶えず修正され富まされて来た歴史なのだ。感性の修正に参与した知識は、その修正の目的が達せられた瞬間、すでに感性の一部に織り込まれてしまう。そして一そう高度の知性によって照らされる段階に移る。ところで、そうして一段一段と高められてゆく写実の技術は、つまり描写の技術であるわけだが、その完成の一段ごとに一つの型となって定着する。定型というのがそれである。(1)われわれはそこで、自然を直接に模倣せずに却って芸術的定型を模倣する危険を生じる。(2)知らず知らず例えばコローの眼でもって自然を眺（なが）める。(3)ミレーの眼で風景を眺めながら、それが自分の眼であるかのように錯覚する。(4)〔　C　〕の『武蔵野』は、多分にツルゲーネフの眼をとおして眺められた武蔵野であった。(5)ワイルドが「自然こそ却って芸術を模倣する」と言ったのは、一つにはそのような〔　D　〕を嘲（あざけ）る意味もあるが、他面また自然をしてあべこべに自分を模倣させるほどに力強い〔　E　〕の①ケン能を誇示したものでもあった。(6)断（こと）わるまでもなく、自然そのものが変

質するのでは勿論(もちろん)ない。(7)自然を見る人間の眼が改造されるのだ。(8)こうして、写実から更に高い写実へと一歩一歩ふみしめて行く芸術の困難な道は、また人間の眼（すなわち〔　F　〕）の刻々に改造の道程でもある。人間の感性教育の上にふるう芸術の威力は、いくら誇張しても誇張しすぎるということはない。それはまた、感性の対立者として批判者としての知性を絶えず眠らせぬばかりか、刻々に一そう高度の知性を呼びさますことによって、知性そのものの改造と進歩にも参与するのである。なるほど芸術の力はそれほどに大きいものではあるが、しかも「芸術を模倣した」自然は既に自然そのものではない。真の独創家は自然そのものを絶えず相手にするのだから、そうした定型化された自然を極度に忌(い)みきらう。自分の芸術が「芸術の模倣」になることを不②ダンに警戒する。彼は絶えず先人の達成を棄てることによって自らを富ましながら、㋐自然への直路をさがし求める。独創家が常に反逆児にならなければならぬ所以(ゆえん)である。

(1)　傍線①、②の用字として、最も適当と思われるものを、それぞれ次のなかから選び、その番号をマークせよ。〈解答欄省略〉

①　1　件　2　検　3　研　4　権　5　験

②　1　段　2　断　3　談　4　弾　5　壇

(2)　〔　A　〕、〔　B　〕に入れるのに、最も適当と思われることばを、それぞれ次のなかから選び、その番号をマークせよ。〈解答欄省略〉

1　まして　2　しかも　3　つまり　4　しかし

5　そして　6　まさに　7　むしろ　8　やはり

――前後のつながりをよく考えましょう。

(3)　「定型はまた因襲である。」の一文を本文のなかへ入れるとすると、(1)～(8)のうち、どこへ入れるのが最も適当か。その番号をマークせよ。〈解答欄省略〉

――「定型はまた因襲である。」の「また」の役割をよく考えましょう。

(4)　〔　C　〕に作家名を入れよ。姓名とも漢字で書け。

（　　）

(5)　〔　D　〕、〔　E　〕に入れるのに、最も適当と思われることばを、それぞれ次のなかから選び、その番号をマークせよ。〈解答欄省略〉

1　模倣　2　技術　3　芸術　4　知性　5　定型

6　錯覚　7　写実　8　感性

(6)　〔　F　〕に入れるのに、最も適当と思われることばを、本文中からそのまま抜き出して書け。

（　　）

(7)　傍線㋐の「自然への直路をさがし求める」とは、どういうことか。最も適当と思われる文を、次のなかから選び、その番号をマークせよ。〈解答欄省略〉

1　直接に自然を学び模倣する。
2　自然の本質を鑑賞し享受する。
3　芸術を自然に従属させる。
4　定型化された自然を修正する。
5　自然を越えた芸術を創造する。

(8)　右の文章を三つの段落に分けるとすると、どこで切るのが最も適当か。第二段落、第三段落の、それぞれはじめの五字を書け。

第二段落　［　　］

第三段落　［　　］

――いかがですか。第6・7日のトレーニングと同じ方法で読んでいけば、本文の内容は容易に理解できますね。一見難解そうな文章でも恐るるに足らずです。

今回の長文読解の学習はここまでです。

この後の「入試頻出漢字のトレーニング」を忘れずにやっておきなさい。

1 次の――線の漢字の読みを書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 彼は、切手の蒐集を趣味としている。
□□(2) 先生は、そのことばを聞いて気色ばんだ。
□□(3) 父親の急な入院で、三日以内に金を工面しなければならない。
□□(4) 本堂に読経の声が響いていた。
□□(5) その男は懐手をしながら横町に入っていった。
□□(6) 彼女には思いやりの気持ちが欠如していた。
□□(7) 彼女の幸福をわがことのように悦んだ。
□□(8) 彼は仏道に帰依することを決意し、家を出た。
□□(9) 足がむくんでだるくなる脚気は、ビタミンB1の欠乏で起こる。
□□(10) 彼女の挙措はまったく申し分なく、だれもが賞賛した。
□□(11) 患者はあまりの苦しみに両手で虚空をつかんだ。
□□(12) 舞台の下手から主役が登場した。
□□(13) 桃太郎の家来は、犬、さる、きじであった。
□□(14) 私は最上級の客として、心温まるもてなしを享けた。
□□(15) 弟は、負けん気をむき出しにした必死の形相で向かってきた。

2 次の――線のことばを漢字で書きなさい。（□にチェックしなさい。）

□□(1) 君の仮説はおもしろいが、じっしょうするのが難しかろう。
□□(2) 作家の家へげんこうを受け取りに行く。
□□(3) じせいの句を残して切腹した。
□□(4) その日以来、彼に対する私の感情は、好意から愛情へとてんかした。
□□(5) この小説は、内容がくうきょだ。
□□(6) あまりりふじんなことを言われて腹が立った。
□□(7) 東京へ行くきかいがあったら、科学博物館を見学するとよい。
□□(8) 作家の文体のとくちょうを、言語学の立場から研究する。
□□(9) 私が貧乏であることを知ると、彼の態度は、急にれいたんになった。
□□(10) ひろうが蓄積すると、病気にかかりやすくなる。
□□(11) エネルギー源を、石油から他のものへてんかんする必要がある。
□□(12) ツルゲーネフは、自然のびょうしゃに力を入れた。
□□(13) 君の文章は未熟なため、まだせいこうな表現が多い。
□□(14) ガンジーは無抵抗主義をとなえた。
□□(15) 彼の今までのざいごうを余さず暴きたてた。
□□(16) 若いころ、もうまく剝離になって失明した。
□□(17) 文学は人間性の探求をしこうする。
□□(18) スランプにおちいって何もする気がしなくなった。
□□(19) さいじきをめくって季節の行事に思いをはせた。
□□(20) 今回のマラソン大会では世界新記録がじゅりつされた。
□□(21) 歌舞伎は江戸文化のしょさんである。
□□(22) 悪天候に捜索隊はしだいにしょうそうの色を濃くしていった。
□□(23) 勇気をこぶして探検隊は未開地に挑んだ。
□□(24) つり銭を受け取ったら、必ず金額をかくにんしよう。
□□(25) 犯人の自白により、事件はいっきょに解決した。
□□(26) カラーテレビが日本のようにふきゅうしている国はそう多くない。
□□(27) 旧街道に沿って鉄道がふせつされた。
□□(28) 日本人は、核兵器のきょうふをよく知っている。
□□(29) 彼女は物質より精神のじゅうそくを願った。
□□(30) 秋には文化にきよした人々に勲章が贈られる。

3 《同音異義語》 次の――線のことばを漢字で書きなさい。

(1)□□① 公害を防ぎ、自然かんきょうを保護する。
□□② かんきょうのおもむくままに足をのばした。
(2)□□① 夏目漱石全集がかんこうされた。
□□② この村に住むならば、村のかんこうに従うべきだ。
□□③ 人々は流血の街頭デモをかんこうした。
□□④ 京都や奈良にはかんこう客が多い。
(3)□□① 警官がかんしの目を光らせている。
□□② 衆人かんしの中で、破廉恥な行為が行われた。

第 9 日

現代文第9日／演習問題

学習日　月　日

〈芸術論・言語論〉長文問題の演習

今回は、入試問題の長文を二問取り上げて演習します。一問を40分とし、二問を80分でやり終えるようにしなさい。実際の入試問題と同じ形です。どれくらいできるか、挑戦してみなさい。

【出典】 1 〈同志社大〉ブルーノ・タウト（篠田英雄訳）「日本美の再発見――建築学的考察」より

2 〈早稲田大〉藤沢令夫「言葉」より

1 次の文章を読み、あとの設問に答えよ。　（同志社大・神・文）

多くの芸術学者は、芸術について次のような結論に達した、――芸術学は、芸術作品を記録し分類する学にすぎない、芸術作品の「質」とその評価とを問題にするような学は存在し得るものでない、①エンカクの地に発生した文化や過去の文化を、大凡の程度ですらその創造者自身と同様に観察することもまたまったく不可能であると。

しかし古い芸術に対する批評が、現代の観点と希望とによって明確に左右せられていることは、新しい芸術に対する批評とあまり異なるところがない。〈 I 〉。もしその芸術作品が、われわれの現にいだいている最高の希望に力強くかつ純粋に応えるならば、それはわれわれに役立つ作品だといってよい。そこでわれわれは、かかる芸術作品に感謝し、またその「質」を論じようとするのである。それだから古い芸術に対する批評が、現代の嗜好と傾向とに訴えるのは、新しい芸術の批評におけると格別異なるところがないのである。

すると「永遠の美」とは、ある芸術品が――ゴシックの大聖堂であるとドリア式の神殿であるとを問わず、また伊勢神宮であると桂離宮であるとに論なく、――それぞれの国土と風土およびその他の条件とによって、②ヤクゲンすれば件の芸術作品がその形を得たところのよりどころたる一切の事物の総体によって課せられた要求を、最も純粋にかつ力強く充たしえた限りにおいてのみいい得ることである。

永遠の美は、今日ではもはや――つい先頃までとは異なり――外形の③ソウジを事とし、従ってまた多かれ少かれ巧妙な模倣を要求するのではなくて、すぐれた芸術作品の精神に則り、現代の呈示する諸条件に最も明晰純正な形式を与えよという要求を意味するのである。

それだから今日では、いわゆる異国的なものは一般に存在しない。そのようなものは、日本にとってもヨーロッパにあるのではなく、また逆にヨーロッパにとっても日本にあるのではない。国土と民族

とがそれぞれいかに異なるにせよ、〈 II 〉。このことを知るならば、諸国はおのがじし進歩の途を辿ると同時に、各自の④ゴビュウを認識することをも学ぶことと思う。

往昔の芸術作品の様式を争って模倣した狂熱的な時代が過ぎたのち、ヨーロッパ諸国ではすでに数十年このかた、またアメリカおよび一般に西洋では比較的最近のことであるが、現代の目的と素材、構造と技術ならびにそのほかの一切の条件に、単純明白に適応するような形を創造しようとする努力を続けている。ところが感情は混乱し、感情に確信を与える唯一のものであるところの（ a ）は寸断せられている。そして過去を顧みても、また現代を眺めても、有機的な発展に代るものは（ b ）である。浪漫的、感傷的な衣裳をつけるにせよ、あるいは超現代的な衣を纏うにせよ、それが（ c ）であることには変りがない。こうして（ d ）のまにまにあるいは短いあるいは長いスカートをはくように、針路は右往左往して帰するところを知らないというのが現状である。おそらく将来とても、われわれが相一致して少数の要素を確保し、確実に継続し相承し得る仕事に着手するまでは、この混乱した進路はたがいに交代してやまないであろう。

このような現象は、どこの国にも共通であり、現代の日本もまたその例に洩れない。しかし日本こそ千九百年このかた、その（ e ）とする単純性をもって、古くさい衣裳をつけた仮装会にも似た〈 III 〉の状態を脱却しようとするヨーロッパのきわめて真摯な試みに、最も大きな寄与を致した国である。現代ヨーロッパの芸術家たちは、――最初はイギリスにおいて、ついではとくにドイツおよびオーストリアで、――〈 IV 〉と直接に結びついている日本の絵画と装飾とから強い刺戟をうけた。しかしヨーロッパの建築家の心をとらえたのは、茶室に用いられている自然木の奇妙な形でもなければ、時代の匂い（佗び）に対する愛好でもなかった。またはなはだしく非相称的な形姿でもなければ㋐矮小精緻な形式でもなく、まして日光廟の浮華をきわめた過剰な装飾ではなかった。彼等が日本から学びとったのは実に清楚、㋑明澄、単純、簡浄、自然の素材に対する誠実等の理想化された観念であった、そして今日といえどもおおむねこれにほかならないのである。とはいえ彼等が日本から学びえたのは、これらの観念ばかりではない、彼等が日本に対していだいていた愛も大方の外国人のそれとは異なるものであったし、実際このことは今日でもまた同様である。一般に欧米の人達が日本に興味をもつのは、日本は欧米諸国とまったく類を異にする存在であると考えているからである。彼等が日本において見出しまた求めているところのものは、実は偏った地方的特性のために却って真面目な建築家の興味をひくことの少いものなのである。彼等には、五十年前に学者達のいだいていた観念、すなわち世界は芸術品で飾りたてられた博物館であるという考えが、今なお㋒膠着している。そこで彼等は、住宅に多くの骨董品を並べたてて、まるで住居を一個の博物館にでも仕立てようとするかのようである。つまり芸術が過去から現在を貫いて未来に及び、人類のあらん限り休止することのない創造であることをまだ覚らないのである。

（ブルーノ・タウト著　篠田英雄訳「日本美の再発見」）

(1)　傍線――①～④を漢字で書け。

①〔　　〕　②〔　　〕
③〔　　〕　④〔　　〕

(2) 傍線――(あ)～(う)の読みを、ひらがなで書け。

(あ)〔　　〕　(い)〔　　〕　(う)〔　　〕

(3) (　　)a～eを補うのに適当な語を、次のうちから選び、その番号を記せ。

1 伝統　2 流行

a〔　　〕　b〔　　〕　c〔　　〕
d〔　　〕　e〔　　〕

――伝統と流行の相違を明らかにしてから考えましょう。

(4) 〈　〉I IIを補うのに適当なものを、次のうちから選び、その番号を記せ。

1 ロゴスはその感情的なもののもまた精神的なものも、世界の到るところにおいて複雑に影響しあうのである
2 ロゴスはその無限的なもののもまた有限的なものも、世界の到るところにおいて多様に存在するのである
3 ロゴスはその理性的なもののもまた美的なものも、世界の到るところにおいて精確に相等しいのである
4 ある芸術作品の働きかける当の相手は常に作者それ自身だからである
5 ある芸術作品の訴えかける当の相手は常に同時代人そのものだからである
6 ある芸術作品の話しかける当の相手は常にわれわれ自身だからである

I〔　　〕　II〔　　〕

――Iには4～6のいずれかが、IIには1～3のいずれかが入ります。「ロゴス」とは、万物を統一する法則・根本原理のことです。

(5) 〈　〉IIIを補うのに適当なものを、次のうちから選び、その番号を記せ。

1 古色蒼然　2 絢爛豪華　3 放蕩無頼
4 複雑怪奇　5 百鬼夜行

III〔　　〕

――1はいかにも古めかしいさまの意、3はきちんとした仕事もせずに遊びほうけていることの意、5はさまざまな妖怪(ようかい)が夜、列をなして歩くことの意です。「古くさい」「仮装会」に着目しましょう。

(6) 〈　〉IVを補うのに適当な語を、漢字二字で書け。

□
□

――後にヨーロッパの建築家が日本から学びとったものが述べられています。

(7) 点線……の部分にいう芸術は、筆者によれば、どのような点を重視して創造しなければならないか。句読点とも三十字以内で記せ。

第三・四段落の「永遠の美」について述べられている部分に着目します。

答えをあわせ、納得できたら、次の早稲田大の問題にアタックしなさい。

2　次の文について、あとの問いに答えよ。

夕暮れちかく、私はいま、窓の外に濃淡をなして重なり繁る緑の木の葉に見入っている、とする。家人から「いま何をしていますか」と聞かれたら、私は、よほど機嫌のよいときなら「窓の外の緑の木の葉をながめている」とでも言うだろうが、ふつうならただ「外をながめている」とか、あるいはおそらく、「何もしていない」とだけ返事をするであろう。安定した日常生活のなかでは、特別のことでもないかぎり、言葉は簡単に無造作に使われ、そしてそれで充分に事は足りる。〔　1　〕われわれはなるべく簡便に事を足らせるためにこそ、言葉を使う。(A)

けれども、かりにもし私が、この樹々の葉の重なりが夕方の光のなかでつくり出している緑の光彩と陰影に特殊な感動をおぼえて、その様子を私自身のためにせよ、他人のためにせよ、正確にそのまま描写して伝えたいという衝動にかられたとしたら、事情はたちまち一変するであろう。むろん、先に言われたX「私は緑の木の葉をながめている」という文などは、私が感動し、私が痛切に記述したいと欲しているものを、まったく何ひとつ伝えてはいない。だいいち、私は「緑の木の葉」などという大ざっぱで一般的なものを見ているのではない。私が描写し記述したいと思うのは、他のどれでもないほかならぬこの樹々の葉の、ほかならぬいまこの現在この時刻における、このただ一回きりの色調なのである。それは、夕暮れの不思議な大気の光のなかで刻々とその濃淡と彩りを変え、その変化そのものが私の心情に微妙な作用をあたえている。逆にまた、その私の心情、そしてそのときの私の個体内条件のすべてが、私の知覚内容にやはり刻々と参与して、影響をあたえる。(B)

「緑の木の葉」という言葉の向こう側には、このような純個別的で純瞬間的な「事象」の具体的全体がある。〔　2　〕言葉はその本性上、一般的なものを固定的にしか表現できないようにできている。私は、あらゆる形容と修飾の語を総動員して、「緑の木の葉」という言葉を拡大し、たとい百万語を費やそうとも、この純個別的な具体的全体を埋めつくして、私の現に見ているものをそのまま伝えることは、ついにできないであろう。(C)

言葉は、絵が事物を描写しうるほどには事物を描写することができず、音楽が感情を表現しうるようには感情を表現することができない。人がどこまでも自然ありのままのものや自分だけのかけがえのないものを尊重し、自己自身に誠実であろうとして、しかも言葉と事象とのあいだの、本来的に避けられない距離とギャップを切実に経験するとき、その人はしばしば、ミソロゴス（言葉ぎらい）の心情におちいるであろう。言葉と事象とのあいだのこのようなギャップは、人間のもっと一般的な生き方の場面においては、言葉と行為との対比のかたちをとって現われる。人びとは「不言実行」と言

い、「言うは易く行なうは難し」と言う。ミソロゴスという言葉も、それが出てくるプラトンの対話篇『ラケス』では、もともとこの関連で使われていた。がんらいあまりにも美しい言葉は、何かそれだけで人に警戒心を起こさせるものがあり、あまりにも口達者な人は、そのことだけでうとまれる傾向さえある。逆にまた、自分の行為を人に説明しようとして、話してもしょせん分かってはもらえまいと思い、あるいは自分と相対立する立場を前にして、話し合っても無駄だと感じるとき、われわれのミソロゴスと言葉への不信は、かなり根ぶかいものがあるといわねばならぬ。(D)

しかしながら、もともと、言葉に対応するもの、言葉が指し示そうと意図しているものへの、注意と凝視があればこそ、両者のあいだの距離と断絶もまた、つよく意識されるのであって、この注意と凝視がはじめから不在であるならば、人は容易に言葉を信じ言葉に没入するであろう。かくて、自分の言葉に単純に陶酔できる楽天的な詩人や作家や弁論家や思想家は、実状としてむしろあまりにも多いのである。先のミソロゴスに対して、これらの人びとは、「ひとりよがりのピロロゴス(言葉好き)」とでも呼ばれるべきであろう。(E)

現代は、マス・メディアと呼ばれるものの圧倒的な発達に支えられた、情報と宣伝の時代であり、つまり、言葉の氾濫の時代である。Y言葉が本来もっている公共性と社会性は、たんなる名目にすぎぬものに対しても、容易に実在の仮象をあたえる。〔 3 〕言葉の氾濫のなかに生きて、われわれは言葉に麻痺し、それがいかなる事実に対応するかを自分で確かめるという手続きの完全な省略のもとに、言葉を受けとめ言葉を使うように、刻々と習慣づけられているのである。現代を支配しているのは、言葉への〔 4 〕であるよりは、やはり言葉への〔 5 〕であろう。もともと、動物のなかでただ人間だけが、「愛」「自由」「正義」「祖国」「平和」「革命」等々の言葉のために、自分の生命さえも捨てることができる。このことは人間の光栄であり、この言葉の内実すべての把握と確認のもとになされるとき、かぎりなく尊いけれども、言葉をわけもわからずに信用することによる危険と悲惨の可能性もまた、きわめて大きいといわねばならぬ。(F)

いつの時代においても、特定の権力や特定の集団が宣伝する名目を信じこんで踊らされるのは、ひごろ「ひとりよがりのピロロゴス」であるような種類の人びとなのであって、Zこのことは偶然ではない。われわれは、われわれ自身の生活のもっとも基本的な場面において、まずこの種のピロロゴスであることを断じて拒否しなければならぬ。さればとてしかし、先のミソロゴスの立場が、はたして人間としてあるべき最終的な立場であろうか。(G)

「ミソロゴス」が「ミサントローポス」(人間ぎらい)とならんでかなり大きく扱われているプラトンのもうひとつの対話篇『パイドン』では、ちょうど「人間ぎらい」の根本原因が、人間性に関する洞察と心得なしに特定の人間を安易に信じることにあるように、ミソロゴスの心情もまた、根本においては、言葉(ロゴス)に関する真の認識の欠如から由来すると言われている。そして、ミソロゴスの人は、そのような自分をとがめる代わりに、苦しまぎれにすべての責任をロゴスのほうに押しやることで満足し、それから後は生涯ロゴスを憎みつづけるけれども、しかし責はもともと自分自身の無知にあるのだと、注意される。われわれもまた、この『パイドン』の注意にしたがって、言葉の限界と欠陥らしきものを早急に断定し

て言葉を責めるより前に、そもそも人間にとって言葉とは何であるかを、もうすこし見きわめることに努めなければならないだろう。

(H)

(1) 右の文の空欄1…3に入れるのに最も適当な語句を、それぞれ次の(イ)…(ホ)から選び、その記号を記入せよ。ただし、各語句は一度しか用いてはならない。

(イ)…まして　(ロ)…やはり
(ハ)…あるいはむしろ　(ニ)…これに反して
(ホ)…いやしくも

1〔　　〕　2〔　　〕　3〔　　〕

――2の前後は、言葉が、その本性上「言葉の向こう側」(事象)そのままを完全には表現できないことが述べられています。

(2) 右の文の空欄4・5に入れるのに最も適当な語を、それぞれ次の片仮名の語群から一つ選び、漢字になおして、楷書(かいしょ)で書け。

4…キタイ　ゲンメツ　ブベツ　カイギ
5…ゲンソウ　ケイシン　ケンオ　シュウチャク

4〔　　〕　5〔　　〕

――4と5は、相対する語が入ります。まず5を選び、次にそれに対立するものを4に入れましょう。

(3) 次の文I・IIは、それぞれ右の文の各段落の末尾(A)…(H)のいずれかに入る。その記号を記入せよ。

I…人はただ口をつぐみ、自分の内にとじこもる。
II…言葉はしょせん、「事」の「端(は)」でしかない。

I〔　　〕　II〔　　〕

――Iはミソロゴス(言葉ぎらい)である人の状態、IIは事物の本性との対比における、言葉の性質を端的に述べている文です。

(4) 右の文の傍線X・Yに対する説明として最もふさわしいものを、次のX群・Y群からそれぞれ一つ選び、その記号を記入せよ。

X群

(ヘ)…「ミドリノコノハ」という音声とそれが指示する事象との間には必然的な結びつきは存在しないのだから、言葉とはいわば社会的約束にすぎない。
(ト)…「ミドリノコノハ」という音声はそれを聞いた人びとの意識中に多様なイメージを生じさせるので、言葉とはしょせん不正確なものでしかない。
(チ)…「私は緑の木の葉をながめている」という文は「私」がどのように感動したかを記述していないから、「私」の体験のすべてを伝えうる文にはなっていない。
(リ)…「緑の木の葉」という言葉はそれを発した人の直接的体験にとって代わることができないが、それは結局言葉の限界にほかならない。
(ヌ)…「緑の木の葉」という言葉はそれが指示する事象を越え

た意味をもつことがあるが、そのためにかえって他者への伝達が困難になってしまう。

Y群

(ル)…言葉は、現実とは別の世界を築きあげる力をもっているので、現実そのものが言葉を通じて虚構化されることがある。

(ヲ)…言葉は、公共の使用に供されるべきものなので、あらゆる事象は言語化された瞬間からいやおうなしに社会性を帯びることがある。

(ワ)…言葉は、コミュニケーションの手段なので、この目的のために現実の世界がもっている個別性と具体性を奪い取ってしまうことがある。

(カ)…言葉は、人びとによって共有されるものなので、実態をもたない観念や幻想が現実であるかのように受けとめられることがある。

(ヨ)…言葉は、万人によって用いられるものなので、つねに最大多数の意思に迎合する傾向があり、ありもしないものをでっちあげることがある。

X〔　　〕　Y〔　　〕

――Xは第三段落に、Yは空欄3に続く文に説明があります。

(5) 右の文の傍線Zの内容に最も近いものを、次の文(タ)…(ネ)から一つ選び、その記号を記入せよ。

(タ)…動物のなかで人間だけが抽象的な観念のために命を捨てることができるが、それは言葉の本質に潜む力のためなので、けっして偶然ではない。

(レ)…動物のなかで人間だけが感性による把握を越えた言葉に酔うことができるが、それは人間が自然状態を離れたためなので、けっして偶然ではない。

(ソ)…現代人は内容を確かめずに言葉を使うのに慣れてしまったので、彼らが耳に快い言葉にとびつくのはけっして偶然ではない。

(ツ)…言葉による自己陶酔を好む人びとが特定のイデオロギーに同化しやすいのは、言葉を、自分を美しく映す鏡としか考えていないからで、けっして偶然ではない。

(ネ)…言葉による自己陶酔を好む人びとが特定の意図をもつ主張を信じこみやすいのは、言葉とその対象との距離に気がつかないからで、けっして偶然ではない。

Z〔　　〕

――傍線Zの「このこと」とは、「ひとりよがりのピロロゴス」であるような人びとが、特定の権力や特定の集団が宣伝する名目を信じこんで踊らされることを指します。

(6) 右の文の論旨から見て最も適当なものを、次の(ナ)…(ヰ)から一つ選び、その記号を記入せよ。

(ナ)…言葉をその向こう側の世界とのへだたりゆえに信用しない人は、言葉と人間の関係に潜む可能性を封じてしまうことになる。

(ラ)…言葉はありのままのものを直接表現できないのだから、最も有効な表現行為はそのものを指さすことだけである。

(ム)…言葉と現実との間の深い溝は、言葉への注意と凝視によってはじめて消滅させることができる。

(ウ)…言葉に人格や実行動の裏づけが伴わないとき、その人が美しい言葉で語れば語るほど、それを聞く人はいっそうピロロゴスになる。

(ヰ)…マス・メディアの発達は言葉と現実とのあいだのギャップをおおいかくすので、現代人のミソロゴス的傾向がますます強まることになる。

〔　　〕

――筆者は、ピロロゴスだけでなくミソロゴスをも退けていることに注目しましょう。

――これで、今回の演習問題は終わりです。答えを合わせて納得がいったら終わりにしましょう。どうしても納得できない場合には、第3～8日でトレーニングしたように、一語一語の意味、文と文のつながりを考え、答えの後についている解説をじっくり読むようにしなさい。ごくろうさまでした。

memo

古　文

古文の力は，口語訳ができるかどうかにあります。長文読解では，ステップを踏んでトレーニングしていくので，必ず口語訳ができるようになります。
第10日～第16日のあとには，１ページずつ「基本古語と古典常識語」のトレーニングがついています。１巻に出てくる古語は，どれも極めて重要で基本的なものばかりです。これと第15日と第16日の「文法」は，記憶してしまえば，確実に得点に結びつくものですから，ひまをみては繰り返し練習をして，記憶しておきなさい。

【古文の学習に出てくる品詞略号一覧】

名……名詞	シク…シク活用	下一…下一段活用	助動…助動詞
代名…代名詞	形動…形容動詞	下二…下二段活用	格助…格助詞
副……副詞	ナリ…ナリ活用	ラ変…ラ行変格活用	係助…係助詞
連体…連体詞	タリ…タリ活用	ナ変…ナ行変格活用	副助…副助詞
接続…接続詞	動……動詞	カ変…カ行変格活用	終助…終助詞
感動…感動詞	四……四段活用	サ変…サ行変格活用	接助…接続助詞
形……形容詞	上一…上一段活用	連……連語	間助…間投助詞
ク……ク活用	上二…上二段活用	句……慣用句	

＊＊活用する行は，「ア行」ならば「ア」というように，活用する行の最初の一字をとって示してあります。

第10日

古文第1日／長文読解

〈説話〉宇治拾遺物語（1）

学習日　月　日

きょうは、中央大学の経済学部で出題された「宇治拾遺物語」（歌詠みて罪ゆるさるる事）を学習します。これは、職務怠慢の罪で笞打ちの刑に処せられようとしていた老郡司が、すぐれた歌を詠み、感心した国司の温情によって許されたという話です。「今昔物語集」「十訓抄」をはじめとして、歌の徳が身を救った話は数多く見られます。

まず、今回学習する教材の第一段落です。声を出して読みながら、わからない単語に赤鉛筆でしるしをつけなさい。

●きょうのテキスト／第一段落●

今は昔、大隅守なる人、国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、郡司のしどけなかりければ、召しにやりていましめんといひて、さきざきの様に、しどけなきことありけるには、罪にまかせて、重く軽くいましむることありければ、一度にあらず、たびたびしどけなきことあれば、重くいましめんとて、召すなりけり。ここに召して、率て参りたりと、人の申しければ、さきざきするやうにし伏せて、尻・頭にのぼりゐたる人、しもとをまうけて、打つべき人まうけて、さきに二人引きはりて、出できたるをみれば、頭は黒髪もまじらず、いと白く年老いたり。

●語句注

大隅守＝大隅国の国司の長官。大隅は現在の鹿児島県。
郡司＝郡を治める役人。

1 **すらすら読めるようになるまでに何回読んだか書きなさい。**

□

――では、第一段落に出てきた単語のトレーニングから始めなさい。

トレーニング1／単語

2 **次の単語の意味を記憶しなさい。**

(1) したたむ【認む】＝〔動・マ下二〕治める。（政治を）執る。
(2) しどけなし＝〔形・ク〕だらしない。しまりがない。
(3) いましむ【戒む】＝〔動・マ下二〕罰する。懲らしめる。
(4) ゐる【率る】＝〔動・ワ上一〕引き連れる。
(5) まうす【申す】＝〔動・サ四〕申し上げる。
(6) しもと【笞】＝〔名〕（細い小枝で作った）むち。
(7) まうく【設く】＝〔動・カ下二〕用意する。準備する。
(8) いと＝〔副〕たいそう。まことに。

――記憶したら、次に進みなさい。

3 **次の単語の意味を書きなさい。**〔答えは**4**〕

【A　基本単語】

(1) ゐる【率る】＝〔動・ワ上一〕

(2) まうす【申す】＝〔動・サ四〕

(3) いと＝〔副〕

【B　重要単語】

(4) したたむ【認む】＝〔動・マ下二〕

(5) しどけなし＝〔形・ク〕

(6) いましむ【戒む】＝〔動・マ下二〕

(7) しもと【笞】＝〔名〕

(8) まうく【設く】＝〔動・カ下二〕

――書けないものがあったら、繰り返し練習しなさい。

4 **次の意味にあたる単語を本文から書き抜きなさい。ただし、活用語は終止形に直して書きなさい。**〔答えは**3**〕

【A　基本単語】

(1) 引き連れる。〔動・ワ上一〕＝

(2) 申し上げる。〔動・サ四〕＝

(3) たいそう。まことに。〔副〕＝

【B　重要単語】

(4) 治める。(政治を) 執る。〔動・マ下二〕＝

(5) だらしない。しまりがない。〔形・ク〕＝

(6) 罰する。懲らしめる。〔動・マ下二〕＝

(7) (細い小枝で作った) むち。〔名〕＝

(8) 用意する。準備する。〔動・カ下二〕＝

――もう一度単語の意味を確認し、完全に覚えてしまいなさい。

5 **次の単語の意味を書きなさい。**

(1) まうす【申す】＝〔動・サ四〕

(2) いと＝〔副〕

(3) したたむ【認む】＝〔動・マ下二〕

(4) まうく【設く】＝〔動・カ下二〕

(5) ゐる【率る】＝〔動・ワ上一〕

(6) いましむ【戒む】＝〔動・マ下二〕

(7) しもと【笞】＝〔名〕

(8) しどけなし＝〔形・ク〕

――次は、単語の意味を文の中で練習します。

6 **《文中の単語》次の――部の単語の意味を書きなさい。**

(1) 国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、

訳 任国の政治を〔　　〕行いなさっているとき、

(2) 郡司のしどけなかりければ、

訳 郡司が〔　　〕たので、

(3) 召しにやりていましめんといひて、

訳 「呼びにやって〔　　〕よう。」と言って、

(4) ここに召して、率て参りたりと、人の申しければ、

訳 「ここに呼び出して、〔　　〕て参りました。」と、（使いの）人が〔　　〕たので、

(5) しもとをまうけて、

訳 〔　　〕を〔　　〕て、

(6) 頭は黒髪もまじらず、いと白く年老いたり。

訳 頭は黒い髪も交じらず、〔　　〕白く年老いていた。

次は、第一段落に出てきた文法と表現のトレーニングです。説明を読んでから、トレーニングに進みなさい。

トレーニング2／文法・表現

◆1【敬語】～給ふ◆

御匣殿（みくしげ）も聞き給ひて、いみじう笑ひ給ふ。　（枕草子・三一四段）

訳 御匣殿（みくしげ）もお聞きになって、たいそうお笑いになる。

＊＊「～給ふ」は、動詞について尊敬の意を添える補助動詞です。「お～になる」「～なさる」と口語訳します。

7 **次の文を、「～給ふ」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 泣き給ふ。　〔　　〕

(2) 帰り給ふ。　〔　　〕

(3) 入り給ふ。　〔　　〕

◆2【助詞】の◆

まいて雁（かり）などのつらねたるがいと小さく見ゆる、いとをかし。　（枕草子・一段）

訳 まして雁などが列を作って（飛んで）いるのがたいへん小さく見えるのは、まことに趣がある。

＊＊「の」が主格を示す場合には、「～が」と口語訳します。

8 **次の文を、「の」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 花の散るを見て、　〔　　〕

(2) 白雪のかかれる枝に、　〔　　〕

(3) ある人の詠める歌、　〔　　〕

◆3【助詞】とて◆

馬のはなむけせむとて人を待ちけるに、　（伊勢物語・四八段）

訳 せん別をしようと思って（旅立つ）人を待っていたが、

＊＊「とて」は、かっこ（「　」）でくくれるような語句を受けて、「～と言って」「～と思って」という意を表します。

9 **次の文を、「とて」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 京にのぼらんとて、　〔　　〕

(2) 「いざ行かん。」とて、　〔　　〕

(3) 住むべき国求めにとて、　〔　　〕

◆4【助動詞】けり◆

今は昔、竹取の翁（おきな）といふものありけり。　（竹取物語）

訳　今となっては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

＊＊「けり」は過去の助動詞。「〜た」と口語訳します。同じ過去の助動詞に「き」がありますが、一般に、「き」が話し手の直接体験した過去の回想に用いられるのに対し、「けり」は伝承・伝聞された過去の回想に用いられます。ですから、物語や説話の叙述に「けり」が多く用いられるのです。

10 **次の文を、「けり」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 昔、男ありけり。　〔　　〕

(2) 男、京に往（い）にけり。　〔　　〕

(3) 女、歌を詠みけり。　〔　　〕

◆5【敬語】申す◆

めづらかにあはれなることなり。大納言（だいなごん）に申さむ。　（更級日記）

訳　不思議な心うたれることだ。大納言に申し上げよう。

＊＊「申す」は「言ふ」の謙譲語で、「申し上げる」と口語訳します。

11 **次の文を、「申す」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 日の神に申す。　〔　　〕

(2) 返りごと申す。　〔　　〕

(3) 大将に申さむ。　〔　　〕

これまでのことを確認します。できないものがあったら、繰り返し練習しなさい。

12 **次の——部を口語訳しなさい。**

(1) 国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、

訳　任国の政治を〔　　〕とき、

(2) 郡司のしどけなかりければ、

訳　郡司〔　　〕だらしなかったので、

(3) 重くいましめんとて、召すなりけり。

訳　重く罰しよう〔　　〕、呼び出すのであっ〔　　〕。

(4) 率て参りたりと、人の申しければ、

訳　「引き連れて参りました。」と、(使いの)人〔　　〕〔　　〕〔　　〕ので、

——次は、表現で「今は昔」の確認です。

◆6 今は昔◆

【解説】古い物語や説話の書き起こしに用いられる決まり文句です。「竹取物語」や「今昔物語集」なども、「今は昔」で始まりますね。

訳　今となっては昔のことだが、

13 **「今は昔」を口語訳しなさい。**

〔　　〕

――ここまでのトレーニングで、もう口語訳はできるはずです。では、主体判定と口語訳のトレーニングで、この段落のしめくくりをしなさい。

トレーニング3／口語訳

14 **次の〔　〕に適切な人物を補いなさい。人物は「大隅守」・「郡司」のどちらかです。**

今は昔、大隅守なる人、国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、郡司のしどけなかりければ、召しにやりて〔①　　ヲ〕いましめんと〔②　　ハ〕いひて、さきざきの様に、しどけなきことありけるには、罪にまかせて、重く軽くいましむることありければ、〔③　　ハ〕一度にあらず、たびたびしどけなきことあれば、〔④　　ハ⑤　　ヲ〕重くいましめんとて、召すなりけり。ここに召して、率て参りたりと、人の申しければ、〔⑥　　ハ〕さきざきするやうにし伏せて、尻・頭にのぼりゐたる人、しもとをまうけて、打つべき人まうけて、さきに二人引きはりて、出できたるをみれば、頭は黒髪もまじらず、いと白く年老いたり。

【注】②③④⑥はそれぞれ〔　〕の後にある――線部の動作主を、①⑤は受け手を考えます。

15 **第一段落を全訳しなさい。そのとき、会話部分には「　」をつけなさい。**

――解答を合わせて、まちがったところは赤で直し、正確な口語訳を完全に身につけてしまいなさい。

――これで第一段落の学習を終わります。

いかがでしたか。単語をマスターし、重要な文法・表現を理解しておけば、口語訳するのは難しいものではありませんね。次は、今回学習する教材の第二段落です。第一段落と同じ手順で学習を進めます。声を出

して読みながら、わからない単語に赤鉛筆でしるしをつけなさい。

●きょうのテキスト／第二段落●

みるに、打ぜんことほしくおぼえければ、何事につけてかこれをゆるさんと思ふに、ことつくべきことなし。あやまちどもを片はしより問ふに、ただ老いを高家にていらへをる。いかにしてこれをゆるさんと思ひて、おのれはいみじき盗人かな。歌はよみてんやといへば、はかばかしからず候へども、よみ候ひなんと申しければ、さらばつかまつれといはれて、ほどもなく、わななき声にて打ちいだす。

としを経てかしらの雪はつもれどもしもとみるにぞ身はひえにける

といひければ、いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。人はいかにもなさけはあるべし。

●語句注

高家＝権勢のある家。転じて「頼り、口実」。
盗人＝人をののしって言う語。しようのないやつ。

16 **すらすら読めるようになるまでに何回読んだか書きなさい。**

□

――では、単語のトレーニングから始めなさい。

トレーニング1／単語

17 **次の単語の意味を記憶しなさい。**

(1) ちゃうず【打ず】＝〔動・サ変〕打ち懲らしめる。罰として打つ。
(2) いとほし＝〔形・シク〕かわいそうだ。気の毒だ。
(3) ことつく【言付く】＝〔動・カ下二〕かこつける。口実にする。
(4) いらふ【答ふ】＝〔動・ハ下二〕答える。返答する。
(5) いみじ＝〔形・シク〕はなはだしい。非常だ。
(6) はかばかし＝〔形・シク〕（期待を満足させるほど）上手だ。
(7) あはれがる＝〔動・ラ四〕趣深く感じる。興を催す。
(8) いかにも【如何にも】＝〔副〕ぜひとも。どうしても。
(9) なさけ【情け】＝〔名〕風流心。

――記憶したら、次に進みなさい。

18 **次の単語の意味を書きなさい。**〔答えは**19**〕

【A　基本単語】

(1) いとほし＝〔形・シク〕
(2) いらふ【答ふ】＝〔動・ハ下二〕
(3) いみじ＝〔形・シク〕
(4) はかばかし＝〔形・シク〕
(5) なさけ【情け】＝〔名〕

【B　重要単語】

(6) ちゃうず【打ず】＝〔動・サ変〕

(7) ことつく【言付く】＝〔動・カ下二〕
(8) あはれがる＝〔動・ラ四〕
(9) いかにも【如何にも】＝〔副〕

――書けないものがあったら、繰り返し練習をして、完全に覚えなさい。

19 次の意味にあたる単語を本文から書き抜きなさい。ただし、活用語は終止形に直して書きなさい。〔答えは18〕

【A 基本単語】
(1) かわいそうだ。気の毒だ。〔形・シク〕＝
(2) 答える。返答する。〔動・ハ下二〕＝
(3) はなはだしい。非常だ。〔形・シク〕＝
(4) （期待を満足させるほど）上手だ。〔形・シク〕＝
(5) 風流心。〔名〕＝

【B 重要単語】
(6) 打ち懲らしめる。罰として打つ。〔動・サ変〕＝
(7) かこつける。口実にする。〔動・カ下二〕＝
(8) 趣深く感じる。興を催す。〔動・ラ四〕＝
(9) ぜひとも。どうしても。〔副〕＝

20 次の単語の意味を書きなさい。
(1) あはれがる＝〔動・ラ四〕
(2) なさけ【情け】＝〔名〕
(3) いかにも【如何にも】＝〔副〕
(4) いとほし＝〔形・シク〕
(5) ちゃうず【打ず】＝〔動・サ変〕
(6) いみじ＝〔形・シク〕
(7) いらふ【答ふ】＝〔動・ハ下二〕
(8) はかばかし＝〔形・シク〕
(9) ことつく【言付く】＝〔動・カ下二〕

――次は、単語の意味を文の中で練習します。

21 《文中の単語》 次の――部の単語の 意味を書きなさい。
(1) 打ぜんことといとほしくおぼえければ、
訳〔　　〕ことが〔　　〕思われたので、
(2) ことつくべきことなし。
訳〔　　〕できそうなことがない。
(3) ただ老いを高家にていらへをる。
訳 ただ老齢を口実にして〔　　〕ている。
(4) はかばかしからず候へども、よみ候ひなん。
訳〔　　〕はございませんが、詠みましょう。
(5) いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。
訳〔　　〕〔　　〕て、感心して許した。
(6) 人はいかにもなさけはあるべし。
訳 人は〔　　〕〔　　〕をもつのがよい。

――次は、第二段落に出てきた文法と表現のトレーニングです。教材文中の和

歌の技巧についても学習します。

トレーニング2／文法・表現

◆1【助詞】か◆

いづれの山か天に近き。　（竹取物語）

訳　どの山が天に近いか。

＊＊「か」は疑問・反語を表す係助詞で、「か」を受ける文末の活用語は連体形で結ばれます。（＝係り結びの法則）「か」が疑問を表すときは、「〜か」「〜だろうか」と口語訳します。

22 次の文を、「か」に注意して、口語訳しなさい。

(1) 何事かあらむ。　〔　　〕

(2) 幾夜か寝つる。　〔　　〕

(3) たれかある。　〔　　〕

◆2【敬語】〜候ふ◆

御諚(ごぢやう)まことにかたじけなう候ふ。　（平家物語・木曾最期）

訳　おことばはまことにもったいのうございます。

＊＊「〜候ふ」は、聞き手に対する敬意を表す丁寧の補助動詞です。「〜ます」「〜です」「〜(で)ございます」と口語訳します。

23 次の文を、「〜候ふ」に注意して、口語訳しなさい。

(1) 矢束(やづか)も短う候ふ。　〔　　〕

(2) 少将の兄に候ふ。　〔　　〕

(3) この敵防ぎ候はむ。　〔　　〕

——これまでのことを、第二段落に出てきた文の中で確認します。

24 次の——部を口語訳しなさい。

(1) 何事につけてかこれをゆるさん。

訳　何にかこつけてこの者を〔　　〕。

(2) はかばかしからず候へども、よみ候ひなん。

訳　上手では〔　　〕んが、詠(よ)み〔　　〕う。

——次は、第二段落の表現の学習です。品詞識別の難しい「てんや」「なん」の表現、あるいは尊大表現を学習し、さらに、文中に出てきた和歌の技巧（掛詞と縁語）を学習します。解説を読んだあと、トレーニングで確認しておきなさい。

◆3 歌はよみてんや◆

【解説】「てんや」の品詞識別に注意します。「てんや」は、「て（完了の助動詞「つ」の未然形）＋ん（推量の助動詞「ん」の終止形）＋や（助詞）」です。（「ん」は「む」と同じ。）「〜てんや」の形で、「〜できるか」と、可能の意を表します。

訳　歌は詠(よ)めるか。

25 「歌はよみてんや」を口語訳しなさい。

4 よみ候ひなん

【解説】「候ひ」は丁寧の補助動詞。「なん」は、「な（完了の助動詞「ぬ」の未然形）＋ん（推量の助動詞「ん」の終止形）」。ここでは「（きっと）～しよう」という意志を表します。

【訳】詠みましょう。

26 **「よみ候ひなん」を、例にならって、文法的に説明しなさい。**

例 **射給ひけり――射（上一段活用の動詞「射る」の連用形）＋給ひ（尊敬の補助動詞「給ふ」の連用形）＋けり（過去の助動詞「けり」の終止形）**

5 さらばつかまつれ

【解説】「つかまつる」は「す」「なす」の謙譲語。前の「歌はよみてんや」「よみ候ひなん」という、大隅守と郡司のやりとりから、歌を詠むという行為を「つかまつる」のだとつかみます。また、この「つかまつれ」は、歌を詠むという動作の受け手である大隅守が、自分自身への敬意を表すために、自分より身分の低い郡司の動作について謙譲語を用いた尊大表現です。

【訳】それならばお詠みいたせ。

27 **「さらばつかまつれ」を口語訳しなさい。**

――何を「つかまつる」のかを考えて訳しましょう。

6 としを経て～ひえにける

【解説】「雪」は白髪など白いものをたとえて言う語。「かしらの雪」は白髪を意味します。「しもと」は「霜」と「笞（＝むち）」の掛詞で、「雪」と「霜」は縁語の関係にあります。また、「身はひえにける」に心身両面の意味が含まれていることも読み取りましょう。この歌が大隅守を感心させ、郡司は罰を免れることになるのです。

【訳】わたしは年をとって、頭に雪（＝白髪）が積もり、いまさら霜などは何でもないはずですが、しもとを見ると（恐ろしさで）身が凍え寒気がいたしますよ。

28 **「としを経てかしらの雪はつもれどもしもとみるにぞ身はひえにける」という歌には、掛詞が用いられています。掛詞を書き抜き、何と何を掛けてあるのか、示しなさい。**

――では、主体判定と口語訳のトレーニングに進みなさい。

トレーニング3／口語訳

29 次の〔　〕に適切な人物を補いなさい。人物は「大隅守」・「郡司」のどちらかです。

みるに、〔①　　ハ〕打ぜんことほしくおぼえければ、何事につけてかこれをゆるさんと思ふに、ことつくべきことなし。〔②　ガ〕あやまちどもを片はしより問ふに、〔③　　ハ〕ただ老いを高家にていらへをる。〔④　　ガ〕いかにしてこれをゆるさんと思ひて、おのれはいみじき盗人かな。歌はよみてんやといへば、〔⑤　　ガ〕はかばかしからず候へども、よみ候ひなんと申しければ、さらばつかまつれといはれて、〔⑥　　ハ〕ほどもなく、わななき声にて打ちいだす。

としを経てかしらの雪はつもれどもしもとみるにぞ身はひえにける

といひければ、〔⑦　　ハ〕いみじうあはれがりて、感じて〔⑧　ヲ〕ゆるしけり。人はいかにもなさけはあるべし。

【注】①〜⑦は、それぞれ〔　〕の後にある――線部の動作主を、⑧は受け手を考えます。

30 第二段落を全訳しなさい。そのとき、会話部分には「　」をつけなさい。

――解答を合わせて、まちがったところは赤で直して、誤りを完全につぶしてしまいなさい。これで、中央大学で出題された文章は、すべて口語訳することができました。次回は、復習のあと入試問題に取り組みます。

●基本古語のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **あいなし**〔形・ク〕

例 よろづにこの世のことはあいなく思ふを、

訳 何事につけこの世のことは（　）思うけれど、

（蜻蛉日記）

□(2) **あからさま**〔形動・ナリ〕

例 あからさまに聖教の一句を見れば、何となく、前後の文も見ゆ。

訳（　）でも仏典の一句に目をとめると、何となく、その前後の文も目に入る。

（徒然草・一五七段）

□(3) **あく**〔動・カ四〕

例 「女御」とだに言はせずなりぬるが、あかず、口をしう思さるれば、

訳 せめて「女御」とだけでも（人に）言わせずに（亡くなって）しまったのが、（　）ず、残念にお思いにならずにはいられないので、

（源氏物語・桐壺）

□(4) **あくがる**〔動・ラ下二〕

例 もの思ふ人の魂は、あくがるなるものなれば、夢も、騒がしきならむかし。

訳 もの思う人の魂は、（　）ということですから、（浮舟の魂が母君のところに迷っていって、母君は）夢も、平静ではないことでございましょうよ。

（源氏物語・浮舟）

□(5) **あさまし**〔形・シク〕

例 馬は血つきて、宇治の大路の家に走り入りたり。あさましくて、男どもあまた走らかしたれば、

訳 馬は血がついて、（京の）宇治の大通りにある（飼い主の）家に駆け込んだ。（家人は）（　）、下男たちを大勢走らせ（て様子を見させ）たところ、

（徒然草・八七段）

□(6) **あし**〔形・シク〕

例 なにごとか、この心ありつる。悪しうも来にけるかな。

（蜻蛉日記）

訳 どうして、こんな気をおこしたのだろう。（　）ときに来てしまったなあ。

□(7) **あそぶ**〔動・バ四〕

例 日一日、夜一夜、とかくあそぶやうにしてありにけり。

訳 一日じゅう、夜どおし、あれこれ（　）といった具合で（夜が）明けてしまった。

（土佐日記）

□(8) **あだ**〔形動・ナリ〕

例 されどこの男を、あだなりと聞きて、つれなさのみまさりつついへる。

訳 けれども、この男を（　）と聞き知って、（女は）冷淡さが増すばかりで歌を詠んだ。

（伊勢物語・四七段）

□(9) **あぢきなし**〔形・ク〕

例 愚かなる人の目を喜ばしむる楽しみ、またあぢきなし。

訳 愚かな人の目を喜ばせる楽しみというもの、これまた（　）。

（徒然草・三八段）

□(10) **あて**〔形動・ナリ〕

例 一人はいやしき男の貧しき、一人はあてなる男持たりけり。

訳（姉妹のうち）一人は身分の低い男で貧しい者を、一人は（　）男を（夫として）もっていたのだった。

（伊勢物語・四一段）

2 〈古典常識語〉次の月の異名（和名）の読みを現代かなづかいで書きなさい。

□(1) 睦月（一月）　□(2) 如月（二月）　□(3) 弥生（三月）
□(4) 卯月（四月）　□(5) 皐月（五月）　□(6) 水無月（六月）
□(7) 文月（七月）　□(8) 葉月（八月）　□(9) 長月（九月）
□(10) 神無月（十月）　□(11) 霜月（十一月）　□(12) 師走（十二月）

――二月は「更衣」、五月は「早月」とも書きます。九月は「菊月」、十二月は「極月（ごくづき）」ともいいます。

第11日

古文第2日／長文読解

学習日　月　日

〈説話〉宇治拾遺物語(2)

きょうは、中央大学の経済学部で出題された、「宇治拾遺物語」の実際の入試問題を解いていきます。前回で、口語訳ができるトレーニングはすませました。口語訳ができれば、内容の問題はそう難しいものではありません。

それでは、実際の入試問題を解く前に、前回の復習をしておきましょう。

トレーニング1／単語

1 次の――部の単語の意味を書きなさい。

(1) 国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、

訳 任国の政治を〔　　〕行いなさっているとき、

(2) 郡司のしどけなかりければ、

訳 郡司が〔　　〕たので、

(3) 召しにやりていましめんといひて、

訳 「呼びにやって〔　　〕よう。」と言って、

(4) ここに召して、率て参りたりと、人の申しければ、

訳 「ここに呼び出して、〔　　〕て参りました。」と、(使いの)人が〔　　〕たので、

(5) しもとをまうけて、

訳 〔　　〕を〔　　〕て、

(6) 頭は黒髪もまじらず、いと白く年老いたり。

訳 頭は黒い髪も交じらず、〔　　〕白く年老いていた。

(7) 打ぜんことほしくおぼえければ、

訳 〔　　〕ことが〔　　〕思われたので、

(8) ことつくべきことなし。

訳 〔　　〕できそうなことがない。

(9) ただ老いを高家にていらへをる。

訳 ただ老齢を口実にして〔　　〕ている。

(10) はかばかしからず候へども、よみ候ひなん。

訳 〔　　〕はございませんが、詠みましょう。

(11) いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。

訳 〔　　〕〔　　〕て、感心して許した。

(12) 人はいかにもなさけはあるべし。

訳 人は〔　　〕〔　　〕をもつのがよい。

――できなかったものは、前にもどって繰り返し練習しなさい。

トレーニング2／文法

2 次の文を口語訳しなさい。

(1) 泣き給ふ。〔　　〕
(2) 花の散るを見て、〔　　〕
(3) 京にのぼらんとて、〔　　〕
(4) 昔、男ありけり。〔　　〕
(5) 日の神に申す。〔　　〕
(6) 何事かあらむ。〔　　〕
(7) 矢束も短う候ふ。〔　　〕

――では、いよいよ実際の入試問題を解いていきます。口語訳ができれば、簡単にできる問題ばかりです。入試問題を解く前に、もう一度口語訳をチェックしておきなさい。

トレーニング3／入試問題

3 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、大隅守なる人、国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、郡司の①しどけなかりければ、召しにやりていましめんといひて、さきざきの様に、しどけなきことありけるには、罪にまかせて、重く軽くいましむることありければ、一度にあらず、たびたびしどけなきことあれば、重くいましめんとて、召すなり〔　②　〕。ここに召して、率て参りたりと、人の申しければ、さきざきするやうにし伏せて、尻・頭にのぼりゐたる人、しもとをまうけて、打つべき人まうけて、さきに二人引きはりて、出できたるをみれば、頭は黒髪もまじらず、いと白く年老い〔　③　〕。

みるに、打ぜんことほしくおぼえければ、何事につけてかこれをゆるさんと思ふに、④ことつくべきことなし。あやまちどもを片はしより問ふに、ただ老いを高家にていらへをる。いかにしてこれをゆるさんと思ひて、おのれはいみじき盗人かな。歌はよみ〔　⑤　〕やといへば、はかばかしからず候へども、よみ候ひ〔　⑥　〕と申しければ、さらばつかまつれといはれて、ほどもなく、わななき声にて打ちいだす。

⑦としを経てかしらの雪はつもれどもしもとみるにぞ身はひえにける

といひければ、いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。⑧人はいかにもなさけはあるべし。

（『宇治拾遺物語』）

（注）大隅守…大隅の国司。大隅は鹿児島県。
郡司…郡を治める役人。

(1) 空欄②③⑤⑥に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。（同じものを二度使ってはならない）

A　なん　　B　たり　　C　てん　　D　けり

②〔　　〕　③〔　　〕
⑤〔　　〕　⑥〔　　〕

——A～Dは、いずれも活用語の連用形につくので、上にくる語の活用形から判断することはできません。文脈から考えて、明らかなものから入れていきます。

(2) 傍線①の解釈としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 乱雑でしまりがなかったので
B 人の物を盗んだりしたので
C 乱暴ばかり働いていたので
D 何事につけても逆らうので

〔　　〕

(3) 傍線④を十五字以内で口語訳しなさい。

(4) 傍線⑦の歌の中には掛詞が一つある。(イ)その語を抜き出し、(ロ)何と何がかけてあるのか、わかりやすく示しなさい。

(イ)〔　　〕

(ロ)〔　　〕と〔　　〕

——前半に「しもとをまうけて、打つべき人まうけて」とあることに注目しましょう。

(5) 傍線⑧の解釈としてもっとも適当と思うものを次の中から選び、符号で答えなさい。

A 人はどんな時でも温情をもっていることが大切だ
B 人にはやはり誰にでも人情があるということだ
C 人にはどう考えてみても風雅の心がそなわっている
D 人はどんなにしても風流の心をもっているのがよい

〔　　〕

——解答を合わせて納得がいったら、中央大学の「宇治拾遺物語」と同じ部分が出題された、大阪経済大学の入試問題を解いてみましょう。

4 左は鎌倉時代初期に編集された説話集『宇治拾遺物語』の一話である。これを読んで後の問いに答えよ。（大阪経済大-経済）

今は昔、大隅守なる人、国の政をしたためおこなひ給ふあひだ、郡司のしどけなかりければ、「召しにやりて、いましめん」といひて、先々このやうにしどけなきこと有りけるには、罪にまかせて重く軽くいましむることありければ、①一度にあらず、たびたびしどけなきことあれば、重くいましめんとて、Ⓐ召すなりけり。

「ここに召して、率て参りたり」と、人の申しければ、さきざきするやうに、し臥せて、尻・頭にのぼりゐたる人、笞をまうけて、打つべき人まうけて、さきに人二人ひきはりて、出できたるを見れば、頭は黒髪もまじらず、いと白く、年老いたり。

見るに、打ぜんことほしくおぼえければ、②何事につけてか、これをゆるさんと思ふに、事つくべきことなし。あやまちどもを、片端より問ふに、ただ老いを高家にて、いらへをる。③いかにして、

これをゆるさんと思ひて「おのれはいみじき盗人かな。歌は詠みてんや」といへば、「はかばかしからず候へども、詠み候ひなん」とⒷ申しければ、「④さらばつかまつれ」といはれて、ほどもなく、わななき声にて、うち出だす。

年を経てかしらの雪は積もれどもしもと見るにぞ身は冷えにける

と言ひければ、いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。

⑤人はいかにもなさけはあるべし。

（注）したたむ―治める。しどけなし―だらしがない。しまりがない。召す―（下位の者を）よびよせる。尻・頭にのぼりゐたる人―文脈から「尻・頭にのぼりゐるべき人」とあるべきである。ここはそのように解しておくこと。笞―罪人を打つための木製のつえ。または、むち。事つく―（他に）かこつける。高家―権勢の家。権威。ただし、「老いを高家にて」は、ただただ老齢の故に怠ったことを口実にして、の意。

(1) 傍線部ⒶⒷそれぞれの主語（動作主）はだれか。左の記号によって答えよ（記号をマークすること）。

(ア) 大隅守なる人　(イ) 郡司
(ウ) （第二段落の最初に出てくる）人　(エ) 尻・頭にのぼりゐたる人　(オ) 打つべき人

Ⓐ＝	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
Ⓑ＝	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(2) 傍線部①の中の「しどけなきこと」を後段では別様の言葉で言いあらわしている。その言葉を記せ。

（　　）

(3) a 傍線部②は、だれの思いか。左の記号によって答えよ（記号をマークすること）。〈解答欄省略〉

(ア) 大隅守なる人　(イ) 郡司
(ウ) （第二段落の最初に出てくる）人
(エ) 尻・頭にのぼりゐたる人　(オ) 打つべき人

b また、この人がこのように思った理由を述べよ。

（　　）

――理由を問われたときは、解答の文末の表現を、「～なので」「～だから」「～のため」のように、設問と対応した形にします。

(4) 傍線部③はどういう意味か。左からもっとも適当と思われるものを選んで、その記号をマークせよ。〈解答欄省略〉

(ア) 何としてでも、この男をゆるしてやろう。
(イ) どうして、この男をゆるさねばならぬだろうか。
(ウ) どんな風にしても、このままではこの男をゆるすわけにはいかぬだろう。
(エ) 何を口実にして、この男をゆるしてやろうか。
(オ) この男をこのままゆるしたら、どういうことになるだろうか。

(5) 文脈（前後関係）を考慮に入れて、傍線部④「さらばつかまつれ」

を現代語に訳せ。

（　　）

(6)　「年を経て」の歌のなかの「かしらの雪」は何をたとえたものか。

（　　）

(7)　左は「年を経て」の歌の通釈である。歌中の縁語や掛詞に注意して、空欄A・Bそれぞれに適当な語を記せ。

わたしはこのような老人になって、頭の雪がつもっており、A〔　　〕などは何でもないはずですが、B〔　　〕を見ますと、身が冷えて寒気がいたします。

(8)　傍線部⑤は、この話について筆者が抱いた感想である。「なさけ」には左のように多様な意味があるが、この場合どれが適切かをよく考えて、この一文を現代語に訳せ。

(イ)　思いやり。　(ロ)　お慈悲。　(ハ)　風流心。　(ニ)　風情。
(ホ)　恋心。　(ヘ)　情事。

（　　）

――実際の入試問題を解いてみた感想は、いかがでしたか。入試問題といっても、基本古語をマスターし、重要な文法事項を正確に理解しておけば、口語訳することもそれほど難しいものではありません。また、口語訳ができてしまえば、内容の問題は簡単に解けるはずです。二回にわたるトレーニングで、このことがわかりましたね。

今回で、中央大学の経済学部で出題された「宇治拾遺物語」のトレーニングを終わりにします。次回は、同志社大学の神学部・文学部で出題された「玉勝間」を学習します。次ページの「基本古語のトレーニング」も忘れずにやっておきなさい。

●基本古語のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **あながち**〔形動・ナリ〕

例 大臣越えられたることだに、いと、いとほしく侍りしに、父大臣のあながちにし侍りしことなれば、いなびさせ給はずなりにしにこそ侍れ。（大鏡・道長）

訳（伊周に）内大臣を先に越されたことだって、ひどく気の毒でございましたのに、父道隆大臣が（　）いたしましたことであるので、拒否なさらずじまいになってしまったのでございます。

□(2) **あはれ**〔形動・ナリ〕

例 折節の移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。（徒然草・一九段）

訳 季節の移り変わっていくのは、（移り変わりがあらわれる）もののひとつひとつに（　）のだよ。

□(3) **あふ**〔動・ハ四〕

例 橋の板を踏み鳴らして、声あはせて舞ふほどもいとをかしきに、水の流るる音、笛の声などあひたるは、まことに神もめでたくとおぼすらむかし。（枕草子・一四二段）

訳（祭の行列が）橋の板を踏み鳴らして、声を合わせて舞う折だってたいそう趣深いのに、（そのうえ）水の流れる音と、笛の音などが（　）ているのは、ほんとうに神様もすばらしいとお思いになっているであろうよ。

□(4) **あやし**〔形・シク〕

例 何ぞ、あやしと御覧ずるに、院の御文なりけり。（源氏物語・横笛）

訳 何だろう、（　）とご覧になると、院からのお手紙だった。

□(5) **ありがたし**〔形・ク〕

例 ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。（枕草子・七五段）

訳（　）もの。舅にほめられる婿。また、姑に（大切に）思われるお嫁さん。

□(6) **ありく**〔動・カ四〕

例 きしめく車に乗りてありく者。（枕草子・二八段）

訳 ぎしぎし鳴る車に乗って（　）人。

□(7) **いかで**〔副〕

例 かの花は失せにけるは。いかで、かうは盗ませしぞ。（枕草子・二七八段）

訳 あの桜の花はなくなってしまったぞ。（　）、このように盗ませたのです。

□(8) **いさ**〔感・副〕

例 見も知らぬ草を、子どもの取り持て来たるを、「なにとかこれをばいふ。」と問へば、とみにも言はず、「いさ。」など、これかれ見合はせて、（枕草子・一三一段）

訳 見も知らない草を、子どもたちが取って持って来たのを、「何とこれをいうのですか。」と尋ねると、すぐにも言わないで、「（　）（知らない）。」などと言って、互いに顔を見合わせて、

□(9) **いたし**〔形・ク〕

例 八月十五日ばかりの月に出で居て、かぐや姫いといたく泣き給ふ。（竹取物語）

訳 八月十五日ごろの月夜に（縁に）出て座って、かぐや姫はたいそう（　）お泣きになる。

□(10) **いたづら**〔形動・ナリ〕

例 なんぞいたづらに休み居らん。（方丈記）

訳 どうして（　）休んでよいものか。

2 〈古典常識語〉次のかな書きした月名を漢字で書きなさい。

□(1) むつき　□(2) きさらぎ　□(3) やよひ
□(4) うづき　□(5) さつき　□(6) みなづき
□(7) ふみづき　□(8) はづき　□(9) ながつき
□(10) かんなづき　□(11) しもつき　□(12) しはす

第12日

古文第3日／長文読解

〈近世文〉玉勝間(1)

学習日　月　日

きょうは、同志社大学の神学部・文学部で出題された「玉勝間」を学習します。

「玉勝間」は、本居宣長（もとおりのりなが）の随筆集で、そこには学問に対する彼の態度をしのばせる話が、多く見られます。本文は、四の巻「前後と説のかはる事」の全文です。学者の説が変化するのは、一見信用の置けないことのように思われますが、実は学問研究の進展を意味するものであることを主張する内容となっています。

まず、今回学習する教材の前半部分です。声を出して読みながら、わからない単語を、赤鉛筆でチェックしなさい。

●きょうのテキスト／前半部分●

同じ人の説（ときごと）の、こことかしことゆきちがひて、ひとしからざるは、いづれによるべきぞと、まどはしくて、おほかたその人の説、すべてうきたるここちのせらるる。そは一わたりはさることなれども、なほさしもあらず。はじめより終りまで、説のかはれることなきは、なかなかにをかしからぬかたもあるぞかし。はじめに定めおきつることの、ほどへて後に、又ことなるよき考への出で来るは、つねにあることなれば、はじめとかはれることあるこそよけれ。年をへて学問すすみゆけば、説は必ずかはらでかなはず。又おのがはじめの誤りを、後にしりながらは、つつみかくさで、きよく改めたるも、いとよきことなり。

1 **すらすら読めるようになるまでに何回読んだか書きなさい。** □

―― では、前半部分に出てきた単語のトレーニングから始めなさい。

トレーニング1／単語

2 **次の単語の意味を記憶しなさい。**

(1) かしこ【彼処】＝〔代名〕あそこ。あちら。
(2) まどはし【惑はし】＝〔形・シク〕紛らわしい。疑わしい。
(3) おほかた【大方】＝〔副〕だいたい。一般に。
(4) うく【浮く】＝〔動・カ四〕いいかげんだ。あてにならない。
(5) ここち【心地】＝〔名〕気分。感じ。
(6) そ【其】＝〔代名〕それ。
(7) 一わたり【一渉り】＝〔名〕一応。ひととおり。
(8) なかなかなり【中々なり】＝〔形動・ナリ〕かえって。
(9) をかし＝〔形・シク〕趣がある。賞美すべき。

(10) おの【己】＝〔代名〕私。自分。

記憶したら、次に進みなさい。

3 **次の単語の意味を書きなさい。**〔答えは**4**〕

【A 基本単語】

(1) おほかた【大方】＝〔副〕
(2) うく【浮く】＝〔動・カ四〕
(3) ここち【心地】＝〔名〕
(4) をかし＝〔形・シク〕

【B 重要単語】

(5) かしこ【彼処】＝〔代名〕
(6) まどはし【惑はし】＝〔形・シク〕
(7) そ【其】＝〔代名〕
(8) 一わたり【一渉り】＝〔名〕
(9) なかなかなり【中々なり】＝〔形動・ナリ〕
(10) おの【己】＝〔代名〕

書けないものがあったら、繰り返し練習しなさい。

4 **次の意味にあたる単語を本文から書き抜きなさい。ただし、活用語は終止形に直して書きなさい。**〔答えは**3**〕

【A 基本単語】

(1) だいたい。一般に。〔副〕＝
(2) いいかげんだ。あてにならない。〔動・カ四〕＝
(3) 気分。感じ。〔名〕＝
(4) 趣がある。賞美すべき。〔形・シク〕＝

【B 重要単語】

(5) あそこ。あちら。〔代名〕＝
(6) 紛らわしい。疑わしい。〔形・シク〕＝
(7) それ。〔代名〕＝
(8) 一応。ひととおり。〔名〕＝
(9) かえって。〔形動・ナリ〕＝
(10) 私。自分。〔代名〕＝

もう一度単語の意味を確認し、完全に覚えてしまいなさい。

5 **次の単語の意味を書きなさい。**

(1) そ【其】＝〔代名〕
(2) おの【己】＝〔代名〕
(3) かしこ【彼処】＝〔代名〕
(4) をかし＝〔形・シク〕
(5) うく【浮く】＝〔動・カ四〕
(6) おほかた【大方】＝〔副〕
(7) 一わたり【一渉り】＝〔名〕
(8) なかなかなり【中々なり】＝〔形動・ナリ〕
(9) まどはし【惑はし】＝〔形・シク〕
(10) ここち【心地】＝〔名〕

―― 次は単語の意味を文の中で練習します。

6 《文中の単語》 **次の――部の単語の 意味を書きなさい。**

(1) ここと**かし**ことゆきちがひて、

訳 こちらと〔　　〕とで食い違って、

(2) いづれによるべきぞと、**まどはしく**て、

訳 どちら（の説）に従うのがよいのかと、〔　　〕て、

(3) **おほかた**その人の説、すべて**うきたる**ここちのせらるる。

訳 〔　　〕その人の説は、すべて〔　　〕かのような〔　　〕になってしまう。

(4) **そは**一わたりはさることなれども、

訳 〔　　〕は〔　　〕はもっともなことであるが、

(5) **なかなかに**をかしからぬかたもあるぞかし、

訳 〔　　〕〔　　〕ない一面もあるものだ。

(6) 又**おの**がはじめの誤りを、

訳 また、〔　　〕の（説の）初めの誤りを、

―― 次は、前半部分に出てきた文法と表現のトレーニングに進みます。説明を読んでから始めなさい。

トレーニング2／文法・表現

◆1【助詞】ぞ◆

いかに、かくいふぞ。

（徒然草・一〇九段）

訳 どうして、そのように言うのか。

＊＊文末に用いられて疑問の意を表す係助詞です。普通は「いかに」や「いずれ」などの疑問語を伴います。終助詞として扱う説もあります。

7 **次の文を、「ぞ」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) いづれがまされるぞ。

訳 〔　　〕

(2) いづこより来たりしものぞ。

訳 〔　　〕

(3) これは誰(た)が文ぞ。

訳 〔　　〕

―― 「誰が」は「だれの」という意味です。

◆2【助動詞】らる◆

恋しう思ひ出でらるる。

（徒然草・一九段）

訳 恋しく思い出されてしまう。

＊＊「らる」は自発の助動詞で、自分では意識していないのに、しぜんとそのような状態になってしまうことを意味します。「（思わず）～してしまう・しぜんに～する」と口語訳します。同じ性質の助動詞に「る」がありますが、「る・らる」には自発のほかに、受身・可能・尊敬の意もあるので注意が必要です。

8 **次の文を、「らる」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) ふと言ひ出でらる。〔　　〕

(2) 涙せらる。〔　　〕

(3) 心惑ひせらる。〔　　〕

◆3【助詞】しも◆

いつはりなきにしもあらず。（徒然草・八五段）

訳 必ずしも偽りがないわけではない。

＊＊「しも」は強調の意を表しますが、下に打消の語がある場合、打消の語のある文節にかかります。

9 **次の文を、「しも」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) わがために来る秋にしもあらなくに、〔　　〕

(2) 死は前よりしも来たらず、〔　　〕

◆4【助詞】かし◆

いま一度（ひとたび）起こせかし。（宇治拾遺物語・巻二）

訳 もう一度起こしてくれよ。

＊＊「かし」は文末に用いられて、念を押し、意味を強めるはたらきをします。「〜ね・〜よ・〜ものだ」などと口語訳します。

10 **次の文を、「かし」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 顔を見せよかし。〔　　〕

(2) ここはかの宮ぞかし。〔　　〕

(3) 忘れけりかし。〔　　〕

◆5【助詞】で◆

ものも言はで、頬杖（つらづゑ）をつきて、いみじく嘆かしげに思ひたり。（竹取物語）

訳 何も言わないで、頬杖をついて、たいそう悲しそうに思っている。

＊＊「で」は上の内容を打ち消しながら、下の内容に接続させる助詞です。口語訳は「〜しないで・〜ずに」などとします。

11 **次の文を、「で」に注意して、口語訳しなさい。**

(1) 春にはあらで、〔　　〕

(2) 逢（あ）はで過ぐる月日。〔　　〕

(3) 君ならで誰にか見せむ梅の花、〔　　〕

――これまでの学習内容を再確認します。

12 **次の――部を口語訳しなさい。**

(1) いづれによるべきぞと、まどはしくて、

訳 どちら（の説）に従うのがよい〔　　〕と、紛らわしくて、

(2) すべてうきたるここちのせらるる。

訳 すべていいかげんなものであるかのような気になっ〔

(3) なほさしもあらず。

訳 やはり〔　　〕そうとも言い切れない点がある。

(4) なかなかにをかしからぬかたもあるぞかし。

訳 かえって感心しない一面もある〔　　〕。

(5) 説は必ずかはらでかなはず。

訳 （学）説はどうしても変化し〔　　〕いられない。

次は、「さる」と、同格の「の」を含んだ重要な表現を学習します。じっくり取り組んでみなさい。

6 さることなれども

【解説】「さる」は連体詞で、「そのような、そういう」という意味のほかに、「相当な、それなりの」などの意味を表します。口語訳のときは、前後の文脈から「それなり」にどうであるのかを、類推して補います。本文の場合、「それはそれなりの理由がある」の意と考えられ、「もっともな」と口語訳しました。

訳 もっともなことであるが

13 次の文を「さる」に適語を補って口語訳しなさい。

(1) 敵もさる者にて、追ひ手を逃れたり。

〔　　〕

(2) 漢詩（からうた）はさるものにて、歌にすぐれたり。

〔　　〕

7 はじめに定め～よき考への出で来るは

【解説】この「の」は同格を示す助詞です。同格の助詞とは、「AのB」という形で、「AであってB」というように訳し、AとBとが同一のものであることを示します。

ここでは、「はじめに定めおきつること」と「ほどへて後に～出で来る（こと）」とを同一のものとして結びつけています。たとえば、「お茶の熱いやつ」というとき、お茶と熱いやつは同じものを指しているのと同じことです。この助詞は、「体言＋の＋～連体形」の形をとるのが普通です。

訳 初めに規定しておいたことで（あっても）、時のたった後に、また別のよい考え方が出てくる（こと）は

〔　　〕

14 「はじめに定めおきつることの、ほどへて後に、又ことなるよき考への出で来るは、」を口語訳しなさい。

〔　　〕

15 同格の「の」に注意して次の文を口語訳しなさい。

(1) 若き女のあてなる、

〔　　〕

(2) 白き花のをかしき咲く。

〔　　〕

(3) 富める人のいやしき、

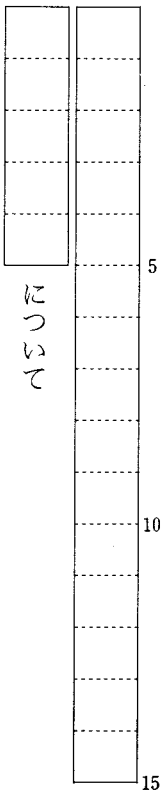
（　　）

――ここまでのトレーニングで、もう口語訳のための力は十分についたはずです。本来はここで主体判定のトレーニングを行うべきところなのですが、この教材では叙述が明らかで判定の必要がありませんので、今回は省略します。
では、前半部分の学習のしめくくりとして、口語訳のトレーニングをしなさい。

トレーニング3／口語訳

16 **前半部分を、適宜にことばを補いつつ全文訳しなさい。**

17 **前半部分はどういうことについて書かれた文章ですか。二十字程度でできるだけ簡潔にまとめなさい。**



――文章のどの部分に、筆者の最も主張したいことが述べられているか考えながら読むことが大切です。解答は「～こと」で結ぶのが適当でしょう。
解答を参照して、自分の訳の誤りを赤で直し、誤りを完全につぶしてしまいなさい。

今回学習する教材の後半部分です。声を出して読みながら、わからない単語に赤鉛筆でしるしをつけなさい。

●きょうのテキスト／後半部分●

ことにわが古学の道は、近きほどよりひらけそめつることなれば、すみやかにことごとくは考へつくすべきにあらず。人をへ年をへてこそ、つぎつぎに明らかにはなりゆくべきわざなれば、一人の説の中にも、さきなると後なるとことなることは、もとよりあらではえあらぬわざなり。そは一人の生(い)きのかぎりのほどにも、つぎつぎ明

らかになりゆくなり。さればそのさきのと後のとの中には、後のかたをぞ、その人の定まれる説とはすべかりける。ただし又みづからこそ、はじめのをばわろしと思ひて、改めつれ、又のちに人の見るには、なほはじめのかたよろしくて、後のはなかなかにわろきもなきにあらざれば、とにかくにえらびは、見む人のこころになむ。

●語句注

古学＝古典を通して日本人のあり方を探ろうとする学問。国学ともいう。

18 **すらすら読めるようになるまでに何回読んだか書きなさい。** □

――― では、まず単語のトレーニングから始めなさい。

トレーニング1／単語

19 **次の単語の意味を記憶しなさい。**

(1) ことに【殊に・異に】＝〔副〕とりわけ。特に。
(2) そむ【初む】＝〔補動・マ下二〕～し始める。初めて～する。
(3) すみやかなり【速やかなり】＝〔形動・ナリ〕速い。急だ。
(4) ことごとく【悉く】＝〔副〕すべて。残らず。
(5) わざ【業】＝〔名〕こと。様子。
(6) もとより【元より・固より】＝〔副〕もともと。元来。
(7) かぎり【限り】＝〔名〕（一定の）あいだ。うち。
(8) わろし【悪し】＝〔形・ク〕よくない。感心できない。
(9) よろし【宜し】＝〔形・シク〕悪くない。適当だ。

――― 記憶したら、次に進みなさい。

20 **次の単語の意味を書きなさい。**〔答えは**21**〕

【A 基本単語】
(1) わざ【業】＝〔名〕
(2) かぎり【限り】＝〔名〕
(3) わろし【悪し】＝〔形・ク〕
(4) よろし【宜し】＝〔形・シク〕

【B 重要単語】
(5) ことに【殊に・異に】＝〔副〕
(6) そむ【初む】＝〔補動・マ下二〕
(7) すみやかなり【速やかなり】＝〔形動・ナリ〕
(8) ことごとく【悉く】＝〔副〕
(9) もとより【元より・固より】＝〔副〕

――― 書けなかった単語については、繰り返して練習しなさい。

21 **次の意味にあたる単語を本文から書き抜きなさい。ただし、活用語は終止形に直して書きなさい。**〔答えは**20**〕

【A 基本単語】
(1) こと。様子。〔名〕＝
(2) （一定の）あいだ。うち。〔名〕＝
(3) よくない。感心できない。〔形・ク〕＝
(4) 悪くない。適当だ。〔形・シク〕＝

【B　重要単語】

(5) とりわけ。特に。〔副〕＝

(6) ～し始める。初めて～する。〔補動・マ下二〕＝

(7) 速い。急だ。〔形動・ナリ〕＝

(8) すべて。残らず。〔副〕＝

(9) もともと。元来。〔副〕＝

――もう一度単語の意味を確認して、完全に記憶しなさい。

22　次の単語の意味を書きなさい。

(1) わざ【業】＝〔名〕

(2) かぎり【限り】＝〔名〕

(3) ことごとく【悉く】＝〔副〕

(4) もとより【元より・固より】＝〔副〕

(5) よろし【宜し】＝〔形・シク〕

(6) ことに【殊に・異に】＝〔副〕

(7) すみやかなり【速やかなり】＝〔形動・ナリ〕

(8) そむ【初む】＝〔補動・マ下二〕

(9) わろし【悪し】＝〔形・ク〕

――次は文の中で単語の意味を練習します。

23　《文中の単語》　次の――部の単語の　意味を書きなさい。

(1) ことにわが古学の道は、

訳　〔　　〕私の（関与している）古学の道は、

(2) ひらけそめつることなれば、

訳　開け〔　　〕た分野であるので、

(3) すみやかにことごとくは考へつくすべきにあらず。

訳　〔　　〕〔　　〕考えを及ぼすことなどできない。

(4) もとよりあらではえあらぬわざなり。

訳　〔　　〕ないわけにはいかない〔　　〕なのである。

(5) 生きのかぎりのほどにも、

訳　（まだ）生きている〔　　〕にも、

(6) はじめのをばわろしと思ひて、

訳　初めの（説）を〔　　〕と思って、

(7) なほはじめのかたよろしくて、

訳　やはり初めの説のほうが〔　　〕て、

――次のトレーニングは、後半部分に出てきた文法と表現についてです。まず説明を読んでからトレーニングにかかること。

トレーニング2／文法・表現

◆1【助詞】より◆

はじめより、我はと思ひ上がり給へる御方々、　（源氏物語・桐壺）

訳　（宮仕えの）初めから、我こそはと自負しておられた方々は、

＊＊「より」は動作・作用の時間的起点を示すはたらきをします。「～以来・～から」と口語訳します。

24 次の文を、「より」に注意して、口語訳しなさい。

(1) あかつきより漕ぎ出だす。〔　　〕

(2) 昔より伝へたる文、〔　　〕

(3) この春よりわづらひて、〔　　〕

◆2【副詞】え◆

忘れがたく、口惜しきこと多かれど、え尽くさず。（土佐日記）

訳　忘れられず、心残りなことがたくさんあるけれど、とても書ききれない。

＊＊「え」は下に否定語を伴って、不可能の意味を示します。このように、下に必ず特定の語を伴う性質の副詞を、呼応の副詞（陳述の副詞）といいます。

25 次の文を、「え」に注意して、口語訳しなさい。

(1) 悲しさにえ耐へで泣く。〔　　〕

(2) たやすくは、え取らず。〔　　〕

(3) えもいはずうるはしき玉、〔　　〕

◆3【助動詞】けり◆

月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけり、と思し出でて、

（源氏物語・須磨）

訳　月がたいそう美しく出てきたので、（光源氏は）今夜は十五夜だったのだ、とお思い出しになって、

＊＊「けり」は普通、過去の助動詞とされていますが、その他に詠嘆の意もあります。これは今まで意識していなかった事実に、ふと気がついて感動する気持ちを表し、「～だったのだ・～だなあ」のように訳します。

26 次の文を、「けり」に注意して、口語訳しなさい。

(1) 古りゆくものは我が身なりけり。〔　　〕

(2) 待ちし桜もうつろひにけり。〔　　〕

(3) 人は去りにけり。〔　　〕

◆4【助詞】こそ◆

かの須磨は、昔こそ人の住みかなどもありけれ、今はいと里離れ、心すごくて、

（源氏物語・須磨）

訳　あの須磨は、昔こそ人の住まいなどもあったけれど、今はまったく人里を離れて、もの寂しく、

＊＊「こそ」のかかっていく結びの部分（已然形）で文が終止せず、継続していく場合、逆接の意味となるので注意が必要です。一般に係結びは文中では成立しません。たとえば本文の「人をへ年をへてこそ」を受ける「わざなれば」などがその例です。

27 次の文を、「こそ」に注意して、口語訳しなさい。

(1) 人こそ見えね、秋は来にけり。

(2) 花こそなけれ、春立ちにけり。〔　　〕

(3) 人こそ訪はめ、見る物もなし。〔　　〕

――これまで学習した文法事項を再確認します。できないものがあったら、繰り返し練習すること。

28 **次の――部を口語訳しなさい。**

(1) 近きほどよりひらけそめつることなれば、

訳 近年に至って〔　　〕開け始めた分野であるので、

(2) もとよりあらではえあらぬわざなり。

訳 本来〔　　〕ことなのである。

(3) その人の定まれる説とはすべかりける。

訳 その人の定説とすべきである〔　　〕。

(4) みづからこそ、はじめのをばわろしと思ひて、改めつれ、

訳 自分では、初めの(説)をよくないと思って、〔　　〕、

――次は、「なむ」を用いた表現技巧について学習します。

◆5 見む人のこころになむ。◆

【解説】「なむ」は係助詞で、その下には結びの語が省略されています。こうすることによって、文末に余情・余韻を生じさせる表現技巧です。訳出するときは、前後の文脈から類推して、適宜ことばを補います。この場合は「まかす(べき)」があてはまります。

訳 見ようとする人の心に(任されていよう)。

29 **「見む人のこころになむ」の下に適当と思われる語句を補いなさい。**

〔　　〕

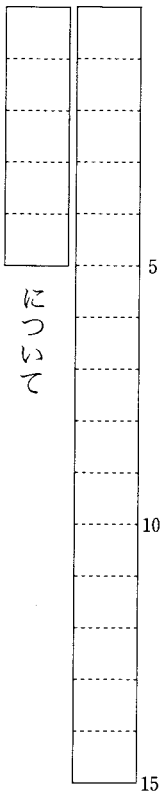
――後半部分においても、主体判定の必要のないほど明らかな叙述なので、主体判定のトレーニングは省略です。では、口語訳のトレーニングにアタックしてみましょう。

トレーニング3／口語訳

30 **後半部分を、適宜にことばを補いながら全文訳しなさい。**

解答を合わせて、読み誤りがあれば赤で直しておきなさい。

31 **後半部分は、どういうことについて書かれた文章ですか。二十字程度で、なるべく簡潔に書きなさい。**



きょうの学習は以上で終わりです。トレーニングの成果は、いかがですか。口語訳の力が確実についていることと思います。

口語訳さえできれば、あと一息というところです。次回は入試問題に挑戦します。

●基本古語のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **いと**〔副〕

例 五月(さつき)ばかりなどに山里に歩(あり)く、いとをかし。（枕草子・二三三段）

訳 五月のころに山里に出歩くのは、（　）おもしろい。

□(2) **いとほし**〔形・シク〕

例 思はむ子を法師になしたらむこそ心苦しけれ。ただ木のはしなどのやうに思ひたるこそいといとほしけれ。（枕草子・七段）

訳 かわいく思う子どもを坊さんにするのは、たいへん気の毒なものだ。（世間の人が坊さんというものを）単なる木石（没情漢）などのように思っているのは、たいへん（　）。

□(3) **います**〔サ四・サ変〕

例 中納言喜び給ひて、よろづの人にも知らせ給はで、みそかに寮(つかさ)にいまして、男(をのこ)どもの中に交じりて、夜を昼になして取らしめ給ふ。（竹取物語）

訳 中納言はお喜びになって、だれにもお知らせなさらないで、ひそかに大炊寮(おおいりょう)に（　）て、男らの中に入り交って、夜を日についで（子安貝を）お取りになる。

□(4) **いみじ**〔形・シク〕

例 神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、（伊勢物語・六段）

訳 雷までたいそう（　）鳴り、雨も激しく降ってきたので、

□(5) **いやし**〔形・シク〕

例 たましきの都のうちに、棟を並べ、甍(いらか)を争へる、高き、いやしき、人のすまひは、（方丈記）

訳 壮麗な都の中で、棟を並べ、瓦(かわら)を比べ合っている、身分が高い、また、（　）人の住居は、

□(6) **いらふ**〔動・ハ下二〕

例 いらへには、「なにの前司にこそは」などぞ、必ずいらふる。（枕草子・二五段）

訳 返事には、「以前の何々の守で」というぐあいに、必ず（　）。

□(7) **うし**〔形・ク〕

例 世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば（万葉集・巻五）

訳 この世の中を、（　）と思い、身が細るような気持ちがすると思うけれど、どこかへ飛んでいってしまうこともできない。鳥ではないのだから。

□(8) **うしろめたし**〔形・ク〕

例 いと、はかなうものし給ふこそ、あはれに、うしろめたけれ。かばかりになれば、いとかからぬ人もあるものを。（源氏物語・若紫）

訳 （紫上がいつになっても）たいそうがんぜなくいらっしゃるのが、かわいそうで、（　）。これほどの年齢になれば、本当にこんなに幼稚でないかたもいるのに。

□(9) **うたて**〔副〕

例 いつはなも恋ひずありとはあらねどもうたてこのころ恋ししげしも（万葉集・巻一二）

訳 いつの日でも恋しく思わないでいるという日はないのですが、（　）このごろは恋（心）がつのるばかりですよ。

□(10) **うつくし**〔形・シク〕

例 なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし。（枕草子・一五一段）

訳 何もかも、小さいものは皆（　）。

2 〈古典常識語〉**次の月名の異名(和名)を漢字で書きなさい。**

□(1) 一月　□(2) 二月　□(3) 三月
□(4) 四月　□(5) 五月　□(6) 六月
□(7) 七月　□(8) 八月　□(9) 九月
□(10) 十月　□(11) 十一月　□(12) 十二月

第13日

古文第4日／長文読解

〈近世文〉玉勝間(2)

学習日　月　日

きょうは、同志社大学の神学部・文学部で出題された「玉勝間」の入試問題を、実際に解いていきます。すでに前回のトレーニングで、口語訳のための力は十分についているはずです。本文の内容把握(はあく)さえできれば、問題を解くこと自体はそう難しいものではありません。

では、実際の入試問題を解く前に、前回の単語と文法の復習をしておきなさい。

トレーニング1／単語

1 次の――部の単語の意味を書きなさい。

(1) ここと**かし**ことゆきちがひて、

訳 こちらと〔　　〕とで食い違って、

(2) いづれによるべきぞと、**まど**はしくて、

訳 どちら（の説）に従うのがよいのかと、〔　　〕て、

(3) **おほかた**その人の説、すべて**うきたる**ここちのせらるる。

訳 〔　　〕その人の説は、すべて〔　　〕かのような〔　　〕になってしまう。

(4) そは一わたりはさることなれども、

訳 〔　　〕は〔　　〕はもっともなことであるが、

(5) なかなかに**をかし**からぬかたもあるぞかし、

訳 〔　　〕〔　　〕ない一面もあるものだ、

(6) 又おのがはじめの誤りを、

訳 また、〔　　〕の（説の）初めの誤りを、

(7) ことにわが古学の道は、

訳 〔　　〕私の（関与している）古学の道は、

(8) ひらけそめつることなれば、

訳 開け〔　　〕た分野であるので、

(9) **すみやか**に**ことごと**くは考へつくすべきにあらず。

訳 〔　　〕〔　　〕考えを及ぼすことなどできない。

(10) もとよりあらではえあらぬわざなり。

訳 〔　　〕ないわけにはいかない〔　　〕なのである。

(11) 生きのかぎりのほどにも、

訳 （まだ）生きている〔　　〕にも、

(12) はじめのをばわろしと思ひて、

訳 初めの（説）を〔　　〕と思って、

(13) なほはじめのかたよろしくて、

訳　やはり初めの説のほうが〔　　〕て、

トレーニング2／文法

2　次の文を口語訳しなさい。

(1) いづれがまされるぞ。〔　　〕

(2) ふと言ひ出でらる。〔　　〕

(3) わがために来る秋にしもあらなくに、〔　　〕

(4) 顔を見せよかし。〔　　〕

(5) 春にはあらで、〔　　〕

(6) あかつきより漕ぎ出だす。〔　　〕

(7) 悲しさにえ耐へで泣く。〔　　〕

(8) 古りゆくものは我が身なりけり。〔　　〕

(9) 人こそ見えね、秋は来にけり。〔　　〕

――では、いよいよ同志社大学の入試問題に挑戦します。もう一度口語訳をチェックしておきなさい。訳さえできれば、ほとんど解答できるはずです。

トレーニング3／入試問題

3　次の文章を読み、あとの設問に答えよ。

同じ人の説の、ここことかしことゆきちがひて、ひとしからざるは、いづれによるａべきぞと、まどはしくて、おほかたその人の説、すべてうきたるここちのせらるる。そは一わたりはさることなれども、㋐なほさしもあらず。はじめより終りまで、説のかはれることなきは、㋑なかなかにをかしからぬかたもあるぞかし。はじめに定めおきつることの、ほどへて後に、又ことなるよき考への出で来るは、つねにあることなれば、はじめとかはれることあるこそへ　〉。年をへて学問すすみゆけば、説は必ずかはらでかなはず。又おのがはじめの誤りを、後にしりながらは、つつみかくさで、きよく改めたるも、いとよきことなり。ことにわが古学の道は、近きほどよりひらけそめつることなれば、すみやかにことごとくは考へつくすｂべきにあらず。人をへ年をへてこそ、つぎつぎに明らかにはなりゆくべきわざなれば、一人の説の中にも、さきなると後なるとことなることは、もとよりあらでは〔　Ａ　〕あらぬわざなり。そは一人の生きのかぎりのほどにも、つぎつぎ明らかになりゆくなり。〔　Ｂ　〕そのさきのと後のとの中には、後のかたをぞ、その人の定まれる説とはすべかりける。ただし又みづからこそ、はじめのをばわろしと思ひて、改めつれ、又のちに人の見るには、なほはじめのかたよろしくて、後のは㋐なかなかにわろきもなきにあらざれば、とにかくにえらびは、見む人のこころになむ。

（『玉勝間』）

(1)　〔　　〕ＡＢを補うのに適当なものを、次のうちから選び、その

番号を記せ。

A　1つゆ　2など　3さ　4え　5げに

B　1されど　2されば　3さるほどに　4さらで　5さこそ

A〔　　〕　B〔　　〕

(2)　〈　〉の部分を補うのに適当な語を記せ。

〔　　〕

――係助詞「こそ」に注意すること。

(3)　傍線――aとbの助動詞の意味用法と同じものを、次のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記せ。

1　道路は足底の広さだにあらばあゆむべしといふは例のことわりのみなり。

2　長くとも四十に足らぬほどにて死なむこそ、目安かるべけれ。

3　毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。

4　家の作りやうは夏をむねとすべし。

5　自今以後も汝ら、よくよく心得べし。

a〔　　〕　b〔　　〕

(4)　傍線……㋐の部分の解釈として正しいものを、次のうちから選び、その番号を記せ。

1　依然として軽率に肯定する気分にはなれない。

2　わざわざ指し示して言う必要もない。

3　それほどのあやまちであるとは言えない。

4　やはり軽薄な感じとばかりは言いきれない。

5　どうしても憂うつにならざるをえない。

〔　　〕

――「さしもあらず」の「さ」の指示する内容を考えます。

(5)　傍線……㋑の部分のように判断した筆者の学問観を述べている個所を三十字以内で抜き出し、その始めと終わりの三文字を記せ。

[　　]から

[　　]まで

(6)　傍線……㋒の部分を解釈せよ。（十五字以内）

5
10
15

――「なきにあらざれば」の部分に注意して訳しなさい。

(7)　次のうち、本文の趣旨と合致するものを三つ選び、その番号を記せ。

1　国学は新しい学問だから、説が変わるのはもっともなことだ。

2　学者のすぐれた業績はその晩年にしか上げられないものだ。

3　すぐれた才能の持ち主が一代にして古代学を大成するものだ。

4　学識のある人でないと、学説を評価するのはむずかしい。

5　自説の誤謬（ごびゅう）の訂正をためらわないのはとてもよいことだ。

6　自説に自信をもち、それにこだわるから、学問が進歩するのだ。
7　首尾一貫しない主張をするのは論理性が欠如しているからだ。

〔　〕〔　〕〔　〕

――解答を合わせて納得がいったら、同志社大学と同じ部分の「玉勝間」が出題された専修大学の入試問題を解きます。

4　次の文章を読み、後の設問に答えなさい。　（専修大-商）

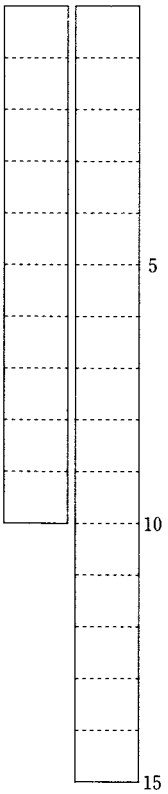
同じ人の説(ときごと)の、ここととかしことゆきちがひて、ひとしからざるは、いづれによるべきぞと、まどはしくて、大かたその人の説、すべてAうきたるここちのせらるる。そは一わたりはさることなれども、なほさしもあらず。はじめより終りまで、説のかはれることなきは、Bなかなかにをかしからぬかたもあるぞかし。はじめに定めおきつることの、ほどCへて後に、またことなるよき考への出で来るは、つねにあることなれば、はじめとかはれることあるこそよけれ。年をへて学問すすみゆけば、説は必ずかはらでかなはず。また、おのがはじめの誤りを、後にしりながらは、つつみかくさで、きよく改めたるも、いとよきことなり。ことにわが古学の道は、近きほどよりひらけそめつることなれば、すみやかにことごとくは考へつくすべきにあらず。人をへ、年をへてこそ、つぎつぎに明らかには成りゆくべきわざなれば、一人のときごとの中にも、さきなると後なると異なることは、Dもとよりあらではえあらぬわざなり。そは、一人の生(いき)の限りのほどにも、つぎつぎに明らかになりゆくなり。されば、そのさきのと後のとの中には、〔　E　〕、その人のさだまれる説とはすべかりける。ただしまた、みづからこそ、初めのをばわろしと思ひて改めつれ、またのちに人の見るには、なほはじめのかたよろしくて、後のはなかなかにFわろきもなきにあらざれば、とにかくにえらびは、見む人のこころになむ〔　G　〕。

（「玉かつま」による）

(1)　傍線部Aと同じ意味の語をふくむ文を、次の1～5の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1　かがり火にあらぬわが身のなぞもかく涙の川にうきて燃ゆらむ
2　鴨鳥の遊ぶこの池に木の葉落ちてうきたる心わが思はなくに
3　かつあらはるるをも顧みず、口にまかせて言ひ散らすは、やがてうきたることと聞ゆ
4　起き伏しおぼし煩ふけにや、御心地もうきたるやうにおぼされて
5　今までとまり侍るがいとうきを、かかる御使の蓬生(よもぎふ)の露分け入り給ふにつけても恥かしうなむ

(2)　傍線部Bを二十五字以内で口語訳しなさい。



(3) 傍線部Cと同じ活用をする動詞を、次の1～5の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1 古(ふ)る　2 思ふ　3 似る　4 助く　5 強ふ

――「へ」の終止形に注意すること。

(4) 傍線部Dの意味として正しいものを、次の1～5の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1 もともとあるのが当然のことなのである
2 本来あってはならないことなのである
3 もちろんなければそれ以上よいことはないのである
4 初めからあってはつまらない仕事なのである
5 元来、学問がなくてはできない業なのである

――「えあらぬ」という副詞の呼応に注意しましょう。

(5) 空欄Eの中に入れるのに正しいものを、次の1～5の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1 さきの方をぞ
2 後の方をぞ
3 さきの方をこそ
4 ともにこそ
5 見む人のよき方をぞ

――少し前に「年をへてこそ～」とあるのに着目しましょう。また文末の「ける」にも気をつけなさい。

(6) 傍線部Fの解釈として正しいものを、次の1～5の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1 悪くもない場合もあるので
2 悪いことはまったくないので
3 悪い場合もないではないので
4 よい場合もないわけではないので
5 よくも悪くもないので

(7) 空欄Gに、もし言葉を補うとすれば、次の1～5の中のどれが正しいか。一つを選び、その番号をマークしなさい。〈解答欄省略〉

1 任すべからず　2 任すまじ　3 任すべし
4 任すべけれ　5 任すべき

――実際の入試問題の手ごたえは、いかがでしたか。文章の内容が理解されていさえすれば、問題自体はさほどやっかいなものではないということが、よくわかったことと思います。このようにステップを踏んで学習することで、古文の口語訳の力がぐんぐん伸びていきます。
次回の学習は、指示する語句の内容をつかむトレーニングです。

1 **次の――部の語句の意味を書きなさい。**

□(1) **うつつ**〔名〕

例 駿河(するが)なる宇津(うつ)の山べのうつつにも夢にも人にあはぬなりけり

（伊勢物語・九段）

訳 駿河国にある宇津の山の辺りまで来ると、（　）にも、夢にもあなたに会わないことです。

□(2) **え**〔副〕

例 しかるに今あが足え歩まず、

（古事記・景行）

訳 ところが今私の足は（　）、

□(3) **おこたる**〔動・ラ四〕

例 あさまつりごとはおこたらせ給ひぬべかめり。

（源氏物語・桐壺）

訳 朝の政務は、（　）ておしまいになるようである。

□(4) **おこなふ**〔動・ハ四〕

例 この西おもてにしも、持仏(ぢぶつ)する奉りておこなふ、尼(あま)なりけり。

（源氏物語・若紫）

訳 この西側の座敷に、持仏をご安置申し上げて（　）（人は）、尼であった。

□(5) **おとなし**〔形・シク〕

例 流され給ひしとき、三歳にて別れし幼き人、おとなしうなって、髪結(ゆ)ふほどなり。

（平家物語・少将都帰）

訳 （成経(なりつね)が鬼界(きかい)ヶ島に）流されなさったときに、三歳で別れた幼い者が、（　）なって、髪を結うぐらいである。

□(6) **おどろく**〔動・カ四〕

例 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

（古今集・秋上）

訳 「ああ、秋が来たな」と、景色を目で見たところではっきりとはわからないが、風の音を耳にすれば、おのずから（　）、秋の訪れを感知する。

□(7) **おのづから**〔副〕

例 かくのみ思ひくんじたるを、心も慰めむと、心苦しがりて、母、物語など求めて見せ給ふに、げにおのづから慰みゆく。

（更級日記）

訳 こうしてふさぎ込んでいるばかりなので、（私の）心を慰めようと、つらく思って、母が、物語などを探してお見せくださると、なるほど（　）晴れやかになっていく。

□(8) **おはします**〔動・サ四〕

例 昔、惟喬(これたか)の親王(みこ)と申す親王おはしましけり。

（伊勢物語・八二段）

訳 昔、惟喬の親王と申し上げる親王が（　）たのだった。

□(9) **おほやけ**〔名〕

例 おほやけのかためとなりて、天の下助くるかたにて見れば、

（源氏物語・桐壺）

訳 （　）の柱石となって、天下の政治を助けるという点でみると、

□(10) **おぼつかなし**〔形・ク〕

例 或人、とぶらひ給はんとて、夕月夜(ゆふづくよ)の覚束なきほどに、忍びて尋ねおはしたるに、犬のこととしくとがむれば、

（徒然草・一〇四段）

訳 ある人が、お訪ねになろうとして、月夜の（薄暗くて）（　）時分に、こっそりと訪ねておいでになったところが、犬がけたたましくほえたてるので、

2 **〈古典常識語〉陰暦の一月から十二月までを、「春、夏、秋、冬」に分けなさい。**

3 **(1)～(4)の意味にあたる語、(5)～(8)の語句の意味を書きなさい。**

□(1) 立春、立夏、立秋、立冬の前日。（特に立春の前日）

□(2) 秋、二百十日頃に吹くはげしい風。

□(3) 秋から冬にかけて、降ったり、やんだりしながら通り過ぎる小雨。

□(4) 十二月の最終日。

□(5) 年かへる。　□(6) 春立つ。

□(7) 木枯。　□(8) 晦日(つごもり)

第14日

古文第5日／技法別読解

〈説話・近世文〉 指示する語句の内容をつかむ

学習日　月　日

きょうは、指示する語句の指している内容をつかむ学習をします。古文には、現代文に比べると指示する語句が比較的少ないのですが、入試にはよく出題されます。

きょうは、テキストに、説話（第10日・第11日のテキストと同じジャンルのもの）と近世の文章（第12日・第13日のテキストと同じ時代のもの）を取り上げてトレーニングします。

●例題●　解答は考え方のあとにあります

▽ **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**　〔大阪市立大〕

今は昔、もろこしに、孔子（こうし）、道を行きたまふに、八つばかりなる童（わらは）あひぬ。孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と洛陽（らくやう）と、いづれか遠き。」と。

孔子、いらへたまふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し。」童の申すやう、「日の出（い）で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。Aされば、日の出づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ。」と申しければ、孔子、「かしこき童なり。」と、感じたまひける。

「孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただものにはあらぬなりけり。」とぞ、人いひける。

（「宇治拾遺物語」〈巻二〉より）

●語句注
もろこし＝中国を指して呼んだ称。唐土。
孔子＝中国、春秋時代の思想家。
洛陽＝中国河南省の古都。名勝・古跡が多い景勝の地。

(1) **――線Aの部分の「されば」を、適当な現代語に訳しなさい。**

（　　）

(2) **――線Aの部分の「されば」の「さ」は、どんなことを指示していますか。そのことを表現することばを、本文のなかから抜き出しなさい。**

（　　）

考え方

古文に登場する指示する語句には、次のようなものがあります。

①《代名詞》こ・そ・それ・か……
②《副詞》さ・かく・しか……
③《連体詞》さる・かかる……
④《連語》さりとて・さりければ・さるほどに・かかれど……

これらの語句は、現代語の「こ・そ・あ・ど」ことばに該当します。ですから、口語訳は、それをあてはめて考えればよいでしょう。例題の(1)の「されば」はもともと「然あれば」で、「そうであるから」と訳します。

文章を読むときには、これらの指示語の指示する内容を的確につかみ、必要な場合は、指示する語句を、その指示内容に置きかえて口語訳する必要があります。

指示する語句が指し示す部分は、次のように区分できます。

1　指示内容が指示する語句の前にある場合。

例題の「さ」がこれにあたります。「さ」は直前の「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。」を指していますね。大部分の指示語はこれにあてはまります。

2　指示内容が指示する語句の後にある場合。

例　世の中のあはれに心うきことをのみ思されければ、かくのみぞうち嘆く。
日にそへてうさのみまさる世の中に心づくしの身をいかにせむ
（落窪物語）

訳　世の中がしみじみといやでつらいということばかりを思っていらっしゃったので、このように嘆いてばかりいる。
日がたつにつれて（ますます）いやでつらい気分が募るこの世の中で、もの思いに沈むこの身をいったいどうすればよいのだろうか。
和歌などを引用する場合によくみられる形です。記憶しておきましょう。

3　指示内容が文中に表れていない場合。

例　〈天皇ハ〉日のふるままに、いと弱げにのみならせ給へば、このたびはさなめり、と見参らするかなしさ、（讃岐典侍日記）

訳　〈天皇ハ〉日がたつにしたがって、ひどく弱々しくおなりになるばかりなので、今度こそはそうであるようだ、と拝見申し上げるかなしさ、

「さ」の指示内容は文中にはありません。「そう」は「死ぬ」とか「寿命がきた」ということを婉曲に表現しているのです。あまり問われることはありませんが、文脈をきちんととらえて理解する必要があります。

指示される内容は、単に一つの単語や文節のこともありますが、かなり長い文や段落全体などを指す場合もあります。

――次に例題の解答と通釈を掲げておきますので、わからなかった部分を確認しておきなさい。

《解答》
(1)　そうであるから
(2)　日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。

通釈

今となっては昔のことだが、唐土（＝中国）で、孔子が、道を歩いてお行きになるとき、八歳ほどの子どもと出会った。（その子どもが）孔子に尋ねて申すには、「日の入る所と洛陽と、どちらが遠いですか。」と。

孔子がお答えになるには、「日の入る所は遠い。洛陽は近い。」子どもが申すには、「日の出たり入ったりする所は見える。洛陽はまだ見たことがない。そうであるから、日の出る所は近く、洛陽は遠いと思う。」と申したので、孔子は、「賢い子どもである。」と、感心なさった。

「孔子には、こうしてものを尋ねて聞く人もいないのに、このように尋ねたのは、（やはり）ただの子どもではなかったのだなあ。」と、人々が言ったそうだ。

―― では、トレーニングに進みなさい。

トレーニング

1 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。** 〔立命館大〕

南都に、ある人五部の大乗経を書きて、春日（かすが）の①宝前にて供養（くやう）せんと思ひて、澄憲法印を導師に請じ下さんとしけるを、衆徒聞きて、南都の②碩学どもをさしおきて、はるか③に山法師を請ずること、みぐるしきことなりといきどほり、Aそのことやまり④にけり。

（橘成季「古今著聞集」〈巻一二〉より）

●**語句注**

南都＝（北の京都に対して）奈良の都。
春日＝春日大社のこと。
法印＝法印大和尚の略で、僧階の第一位。澄憲法印は比叡（ひえ）山の僧である。
導師＝法会（ほうえ）・供養のとき、指導者として行事を行う僧。
山法師＝比叡山の僧。

(1) **――線Aの「そのこと」は、具体的に何をさしているのか、本文中からそのまま抜き出して書きなさい。**

〔　　〕

★★**次の問題もやってみよう！**★★

(2) **――線①②のことばの意味を簡潔に書きなさい。**

①〔　　〕
②〔　　〕

(3) **――線③④「に」のそれぞれの文法的説明として、最も適当と思われるものを、次の中から選び、番号で示しなさい。**

1 格助詞　2 副助詞　3 接続助詞
4 完了の助動詞　5 過去の助動詞　6 自発の助動詞
7 形容詞の活用語尾　8 形容動詞の活用語尾
9 動詞の活用語尾

③〔　　〕　④〔　　〕

―― 次の通釈を読んで、内容を確認しておきなさい。

通釈

南都（＝奈良）で、ある人が五部の大乗経を書き写したので、春日大社の社前で供養しようと思って、澄憲法印を導師に招きよぼうとしたの（だが、それ）を（南都の）僧たちが聞いて、南都の大学者たちをさしおいて、遠くから比叡山の僧を招くことは、みっともないことだと憤慨し、そのこと（＝澄憲法印を導師に招きよぼうとすること）は取りやめになった。

―― 答え合わせをきちんとしてから、次のトレーニングに進みなさい。

2 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。** 〔東京都立大〕

仏の教へ給へる事あり。「心の師とは成るとも、心を師とする事なかれ」と。実（まこと）なるかな、A此の言。人、①一期過ぐる間に、思ひと

思ふわざ、悪業に非ずと云ふ事なし。もし、形をやつし、衣を染めて、世の塵にけがされざる人すら、野の鹿、つなぎがたく、家の犬、常になれたり。何に況や、因果の理を知らず、②名利の謬りにしづめるをや。空しく五欲のきづなに引かれて終に③奈落の底に入りなんとす。心あらん人、誰か此の事を恐れざらんや。

（鴨長明「発心集」〈序〉より）

●語句注
形をやつし＝出家剃髪し。
五欲＝財欲・色欲・食欲・名誉欲・睡眠欲の五つの欲望。

(1) ――線A「此の言」に当たる仏の教えを本文より選び、初めの五字を記しなさい。

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) ――線②に振りがなをつけなさい。①③の語意を記しなさい。

①〔　　〕
②〔　　〕
③〔　　〕

――ややわかりにくい文章でした。通釈を読んで、内容を確認しておきなさい。

通釈

仏のお教えになったことがある。「(自分の)心を導く師となるのはよいが、心を(自分を)導く師としてはならない。」と。まったく真実であることよ、このことばは。人が、一生を過ごす間に、心に思うことのすべては、仏道にはずれた悪業でないものはない。(出家して)剃髪し、墨染めの僧衣を着て、俗世間の塵にけがされない人がもしいたとしても、その人でさえも、野生の鹿(のような心)は、つなぎとめておけず、(もしできたとしても)飼い犬のように、いつもおとなしくしているようなものである。まして因果の道理を知らず、名誉や利益を追い求める過ちにひたっている俗人の心(が悪業ばかり思っているの)はなおさら言うまでもない。むなしく(財欲・色欲・食欲・名誉欲・睡眠欲の)五欲に引かれて最後には地獄の底に落ちようとするのである。道理をわきまえている人は、だれがこのことを恐れないことがあろうか。(いやだれでも恐れるにちがいない。)

――「古今著聞集」でトレーニングを続けます。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〔琉球大〕

昔夫婦あひ思ひて住みけり。男①いくさにしたがひて遠くゆくに、その妻をさなき子を②ぐして、武昌の北の山までおくる。男のゆくを見てかなしみたてり。男帰らずなりぬ。女その子をおひてたちながら死ぬるに、化して石となれり。そのかたち、③人の子をおひてたてるがごとし。これによりて、この山を望夫山と名づけ、その石を望夫石といへり。くはしくは『幽明録』に見えたり。『しらら』といふ物語に、しららの姫君、をとこの少将のむかへにａ来んと契りて、おそかりしをまつとてよめる、とあるはAこの心なり。

④たのめつつｂ来がたき⑤人をまつほどに石に⑥我が身ぞなりはてぬべき

（橘成季「古今著聞集」〈巻五〉より）

●語句注
武昌＝中国の湖北省の首都。
『幽明録』＝南宋の劉義慶の著。

『しらら』＝平安時代の物語。今は伝わらない。

(1) **太線Aの「この心」とは、なにをさしているか、次の中、もっとも適当なものを選び記号で答えなさい。**

(ア) 『しらら』の物語の主題　(イ) 望夫石の故事の内容
(ウ) 歌のおもむき　(エ) 姫君の心情

〔　　〕

―― 全体の話がつかめないと、わからない問いです。ていねいに読んで答えなさい。

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) **――線①②③④の語句の意味として、それぞれ、次の中のどれが、もっとも適当か、選びなさい。**

① (ア) 往路　(イ) 行商　(ウ) 戦役　(エ) 国難
② (ア) 旅立てて　(イ) 背負って　(ウ) つれて　(エ) 愛して
③ (ア) 人が子を背負って　(イ) 人が子を追って　(ウ) 他人の子を生んで　(エ) 他人の子を背負って
④ (ア) たよりにし　(イ) 水を飲み　(ウ) 力とし　(エ) あてにさせ

(3) **――線⑤の「人」、⑥の「我が身」は、それぞれ誰のことか、文中の語句で答えなさい。**

⑤〔　　〕
⑥〔　　〕

(4) **――線aとbの「来」のよみかたを、平仮名で書きなさい。**

a〔　　〕　b〔　　〕

―― 悲しい話でしたね。通釈を読んで、内容を確認しておきなさい。

通釈

昔、夫婦が愛しあって住んでいた。夫が戦役に従軍して遠く出征してゆくときに、妻は幼い子をつれて、武昌の北の山まで送っていった。（妻は、）夫が行くのを見て悲しみながら立っていた。夫は（戦死して）帰って来なかった。妻はその子を背負って立ったまま死ぬと、そのまま石になってしまった。その石の形は、人が子を背負って立っているようである。これによって、その山を望夫山と名づけ、その石を望夫石といっている。くわしいことは『幽明録』に書いてある。『しらら』という物語に、しららの姫君が、夫の少将が迎えに来ようと約束して、遅かったのを待って詠んだ歌、とあるのはこの故事の内容（を踏まえた歌）である。

あてにさせておいてなかなかやって来ない人を待っているうちに、石に、わたしはなってしまいそうですよ。

―― 次は、近世の俳論でトレーニングをします。

4 次の文章は服部土芳の俳論『白冊子』の一節です。よく読んで後の設問に答えなさい。　〔二松学舎大〕

夫、俳諧といふ事はじまりて、代々①利口のみにたはむれ、②先達終に誠をしらず。中頃、難波の梅翁、③自由をふるひて世上にひろしといへども、中分以下にして、いまだ詞を以てかしこき名なり。

しかるに亡師芭蕉翁、Aこの道に出でて三十余年、俳諧初て実を得たり。師の俳諧は、名は昔の名にして、昔の俳諧にあらず、誠の俳諧なり。されば俳諧の名ありて、その物に誠なきが如く、代々むなしく押し移る事いかにぞや。

師も「この道に古人なし」といへり。

（服部土芳「三冊子」〈白冊子〉より）

●語句注

難波の梅翁＝大阪（難波）の西山宗因（そういん）の号。談林派の開祖。

(1) **――線A「この道」とは何を言うか、書きなさい。**

（　　）

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) **――線①②③は、それぞれどういうことか、次の中から選びなさい。**

① (ア) 冗談。　(イ) 口先のうまいこと。　(ウ) 巧みな表現。　(エ) かしこいこと。

② (ア) 先に到着した人。　(イ) 先に出発した人。　(ウ) 指導者。　(エ) 先生たち。

③ (ア) 自由勝手に振舞い。　(イ) 以前の俳諧を否定し。　(ウ) 俳諧の自由を吟味し。　(エ) 自由な俳風を興し。

通釈

そもそも、俳諧ということが始まって、代々（の俳人は）、ことばのおもしろみばかりをもてあそび、（芭蕉より）先にこの道に入った人たちはとうとう風雅の誠（＝俳諧の本質としての心）を知らなかった。（芭蕉までの年月の）中頃に、難波の西山宗因が、自由な俳風を興して世間に広く流行したけれど、（俳諧の品としては）中等以下で、まだことば（のおもしろさ）という域で名声を得ているのである。

ところが、今は亡き師の芭蕉翁が、この道にのり出して三十年余りで、俳諧は初めてその実質（＝風雅の誠）をそなえたのである。師（＝芭蕉）の俳諧は、（俳諧という）名は昔のままで、（その内実は）昔の俳諧ではなく、（風雅の）誠（を追求する）という俳諧である。だとすると、俳諧という名があって（も）、その内実に誠がないような状態で、代々年月をむなしく過ごしてきたのはいったいどういうことなのであろうか。（まことに感心できないことである。）

師も、「この道には、（師と仰いで学ぶべき）古人はいない。」と言っている。

――答え合わせをして、次のトレーニングに進みなさい。

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。　〔大阪市立大〕

ちかき世学問の道ひらけて、大かたよろづのとりまかなひかしこくなりぬるから、とりどりにあらたなる説（ときこと）を出（い）だす人多く、Aその説よろしければ、世にもてはやさるるによりて、なべての学者、いまだよくととのはぬほどより、われおとらじと、よにことなるめづらしき説を出だして、人の耳をおどろかすこと、今の世のならひなり。Bその中には、ずるぶんによろしきことも、まれには①出で来めれど、大かたいまだしき学者の、心はやりていひ出づる事は、ただ人にまさらむ勝たむの心にて、かろがろしく、まへしりへをもよく考え合はさず、思ひよれるままにうち出づるゆゑに、多くはなかなかなるいみじきひがごとのみなり。すべて新たなる説を出だすは、いと大事なり。Cその時には、うけばりてよしと思ふも、ほど経て後に、いま一たびよく思へば、②なほわろかりけりと我ながらだに思ひならるる事の多きぞかし。

（本居宣長「玉勝間」〈初若葉〉より）

(1) **――線の部分A「その説」というのは、どんなことをさすか、本文を抜き出して書きなさい。**

（　　）

(2) ――線の部分B「その中」の「そ」は、どんなことをさすか、本文を抜き出して書きなさい。

（　　）

(3) ――線の部分C「その時」とは、どんな時か、簡単に書きなさい。

（　　）

――テキストをよく読み、その内容をしっかりとらえてから問題にあたるようにしましょう。Cは、本文から抜き出すのではないことに注意します。

★★次の問題もやってみよう！★★

(4) ――線の部分①「出で来めれど」を単語に分け、それぞれの単語の品詞を書きなさい。

（　　）

(5) ――線の部分②「なほわろかりけりと、我ながらだに思ひならるる事の多きぞかし」を、平易な現代語に訳しなさい。

（　　）

――新説に珍説、現代にも通用するような話でしたね。通釈を読んで、内容を確認しておきなさい。

通釈

近ごろ学問の道がひらけて、おおむね万事の取り扱いが手際よく上手になってきたことから、あれこれと新説を出す人が多く、その新学説が悪くないと、世間でもてはやされるために、一般の学者たちは、（研究が）まだ十分にまとまらないうちから、自分も（他の学者に）負けまいと、ふつうとは異なる珍説を発表して、人の耳を驚かせることが、今の世の中の流行である。その中には、それ相応に悪くないことも、ごくたまには出てくるようだけれど、概して未熟な学者が、功を焦って言い出す説は、ただ人の上に出よう、勝とうという気持ちで、軽率に、前後のつながりもよく考えに入れず、思いつくままに発表するものだから、多くはかえってとんでもない誤説ばかりである。総じて新説を出すというのは、非常に重大なことなのである。その時には、だれはばかることないすばらしい説だと思っても、しばらくたった後、もう一度よく考えてみると、やはりよくない説であったなあと、自分のことであってさえもそう思われることが多いことだよ。

――いよいよ最後のトレーニングです。気をひきしめて、取り組みましょう。

6 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**　〔東海大〕

①からぶみの中に、②とみにたづぬべき事のありて、思ひめぐらすに、ただ③心あてにここかしことたづぬれど、え見出でず。さりとて、いとあまたある巻々をはじめよりたづねもてゆかむには、いみじくいとまいりぬべければ、Aさもえ物せず。つひにむなしく④やみぬるがいとくちをしきままに、思ひつづけらる。

ふみみつる跡もなつ野の忘れ草老いてはいとどしげりそひつつ

（本居宣長「玉勝間」〈わすれ草〉より）

(1) ――線A「さもえ物せず」の中の指示語「さ」は何を指しますか。

（　　）

★★次の問題もやってみよう！★★

(2) ――線①②③の語句の意味を書きなさい。

①（　　）

②〔　　〕

③〔　　〕

(3) **――線④の部分を語に分解し、それぞれの品詞を示しなさい。ただし、活用語は終止形の形にして示すこととします。**

（　　）

―― 通釈を読んで、内容を確認しておきなさい。

通釈

漢籍の中に、急いで調べなければならないことがあって、あれこれと考えたうえに、ただあてずっぽうにこの本あの本と調べてみるけれど、(問題の部分を)見つけ出すことができない。だからといって、非常に多くある書物を初めから徐々に調べていくとしたら、ひどく時間がかかるにちがいないから、そんなこともしていられない。結局むなしく(発見できないままに)終わってしまう(がその)ことがたいそう残念なので、(次のように)感慨にふけりつづけていたことだ。

(以前歩いた夏の野に忘れ草が生い茂っていたように)読んだ書物の記憶もなくなってしまったことだ。もの忘れが、年をとるにつれてますますひどくなっていって。

―― これで今回の学習を終わります。よく復習し、指示語についての理解を確実なものにしておきましょう。

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **おぼゆ**〔動・ヤ下二〕

例いみじう眠たしと思ふに、いとしもおぼえぬ人の、おし起こしてせめてもの言ふこそいみじうすさまじけれ。（枕草子・二五段）

訳たいそう眠いと思うときに、それほどとも（　）ない人が、（私を）揺すり起こして無理にものを言うのはたいそうしらけた感じだ。

□(2) **おもしろし**〔形・ク〕

例雪のおもしろう降りたりし朝、人のがり言ふべき事ありて文をやるとて、（徒然草・三一段）

訳雪が（　）降り積もった次の朝、ある人のもとへ言ってやらなければならないことがあって手紙をやろうと思って、

□(3) **おろか**〔形動・ナリ〕

例わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせむと思はむや。（徒然草・九二段）

訳たった二本の矢で、しかも先生の前で（射るのに）その一本を（　）しようと思おうか。

□(4) **かしこし**〔形・ク〕

例御門の御位はいともかしこし。竹の園生の末葉まで、人間の種ならぬぞやんごとなき。（徒然草・一段）

訳天皇の御位は、（ことばに出すのも）たいへん（　）。天皇の御子孫まで、一般の人間の血統でないのは尊いことだ。

□(5) **かたはらいたし**〔形・ク〕

例簀の子は、かたはらいたければ、南のひさしに、入れ奉る。（源氏物語・朝顔）

訳濡縁は、（　）ので、南の廂の間に、入れ申し上げる。

□(6) **かなし**〔形・シク〕

例多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだかなしき（万葉集・巻一四）

訳多摩川の水にさらす、この手作り布のように、さらにさらに、どうしてこの子がこんなにひどく（　）のだろうか。

□(7) **きこゆ**〔動・ヤ下二〕

例鳴く声を聞かまくほりと朝には門に出で立ち夕には谷を見渡し恋ふれども一声だにもいまだきこえず（万葉集・巻一九）

訳（ほととぎすの）鳴く声を聞きたいと思って、朝には門先に出て立ち、夕方には谷を見渡しながら恋い慕っているけれども、一声だってまだ（　）ない。

□(8) **きよら**〔形動・ナリ〕

例ものの折に衣打たせにやりて、いかならむと思ふに、きよらにて得たる。（枕草子・二七六段）

訳何かの機会に衣をつや出しにやって、どんな具合（にできてくる）だろうと思っているところへ、（　）仕上がって戻ってきた（のはたいそううれしい）。

□(9) **くちをし**〔形・シク〕

例遊び、もしは見すべきことありて、呼びにやりたる人の来ぬ、いと口惜し。（枕草子・九八段）

訳管弦の遊び、もしくは見せたいことがあって、呼びにやった人が来ないのは、まことに（　）。

□(10) **けしき**〔名〕

例なまおそろしと思へるけしきを見て、こと事に言ひなして笑ひなどして、（更級日記）

訳まったく気味悪いと思った（　）を見て、（姉は）別の話題に言いそらして笑ったりして、

---

2 〈古典常識語〉月に関する名称の読みを現代かなづかいで書きなさい。

□(1) 新月　□(2) 上弦　□(3) 望月　□(4) 十六夜
□(5) 立待の月　□(6) 居待の月　□(7) 臥待の月

第15日

古文第6日　　学習日　月　日

〈文法〉用言―動詞・形容詞・形容動詞

文法学習の第一回めです。文法は、古文を学習するうえでの道しるべや案内図にあたります。しかし、いくら道しるべや案内図があっても、その読み方がわからなくてはしかたがありません。文法もそれと同じです。まず身につけてしまうことが必要なのです。

文法学習では、文法的なことがらを整理して、それを体系的に（理解しやすい形にして）トレーニングしていこうというわけです。

今回は、用言のトレーニングです。**用言とは、動詞、形容詞、形容動詞のことです。**すべて活用する言葉ですから、その字をとって**用言**とつけられたのです。ですから、用言の学習のポイントは活用にあることが理解できるはずです。

きょうのトレーニングで、用言の活用を完全に覚えてしまいなさい。まず、動詞のトレーニングから始めます。

トレーニング1／動詞〈四段・ナ変・ラ変〉

1 次の動詞の活用表を完成させなさい。

	行	カ	サ	タ	ハ
基本形	語幹	動く	押す	待つ	追ふ
語幹		うごニ(動)	お(押)	ま(待)	お(追)
未然形	ズ・ム・バ				
連用形	タリ・ケリ・テ				
終止形	言い切る○				
連体形	トキなどの体言				
已然形	ド・ドモ・バ				
命令形	！				
下に続くおもな語					

――すべて四段活用の動詞です。答えを合わせ、ここで確実に記憶してから、次に進みなさい。

2 次の――線部の動詞の、活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 河内（かふち）へも行かずなりにけり。（伊勢物語・二三段）

（　　）（　　）

(2) これよりいまはこぎ離れて行く。（土佐日記）

（　　）

(3) 見送りつつ行けば、

（　　）（　　）　（徒然草・四四段）

(4) 昔、男、筑紫まで行きたりけるに、

（　　）（　　）　（伊勢物語・六一段）

(5) ゐて行け。

（　　）（　　）　（更級日記）

(6) 行く道、なほ進まず。

（　　）（　　）　（奥の細道・旅立）

――答えを合わせ納得がいったら、次に進みなさい。例文の口語訳は、解答のあとにのせてあります。

3 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナ	死ぬ	し(死)						
ナ	往ぬ	い(往)						

下に続くおもな語	ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	○言い切る	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！

――ナ変は、五十音図の四段にわたって活用しますが、連体形・已然形が四段活用と異なっています。

4 ナ行変格活用の動詞を二語書きなさい。

（　　）（　　）

――ナ変に属する単語は、二語だけですから、確実に記憶してしまいなさい。

5 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) 願はくは花のもとにて春〔死ぬ〕む

（　　）　（山家集）

(2) 〔往ぬ〕安元三年四月二十八日かとよ。

（　　）　（方丈記）

(3) 立ち走りて、あなたに〔往ぬ〕。

（　　）　（堤中納言物語）

(4) われこそ〔死ぬ〕め。

（　　）　（竹取物語）

6 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ラ	あり	あ						
ラ	侍り	はべ(侍)						
下に続くおもな語			ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	言い切る○	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！

――ラ変の終止形は、「り」で終わるところが、四段活用と違います。

7 ラ行変格活用の動詞を四語書きなさい。

〔　　〕〔　　〕〔　　〕
〔　　〕

――ラ変動詞も、数が少ないから、必ず記憶してしまうこと。

8 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) 〔あり〕人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。（竹取物語）
〔　　〕

(2) をとこ、弓・やなぐひを負(お)ひて戸口に〔居(を)り〕。（伊勢物語・六段）
〔　　〕

(3) 幼くより聞きならひ〔侍り〕ど、その心知らぬこと〔侍り〕。（徒然草・一三五段）
〔　　〕〔　　〕

(4) 夕(ゆふべ)には朝(あした)〔あり〕むことを思ひ、（徒然草・九二段）
〔　　〕

(5) 昔、男〔あり〕けり。（伊勢物語・九段）
〔　　〕

――四段活用・ナ変・ラ変はすべて五十音図の四段に活用しますが、ナ変とラ変は一部不規則な活用をすることに注意してください。

トレーニング2／動詞〈下一・下二〉

9 次の動詞の活用表を完成させなさい。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
蹴る	(蹴)						
下に続くおもな語		ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	言い切る○	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！

――下一段は「蹴(け)る」の一語しかありません。確実に記憶してしまいなさい。

10 下一段活用の動詞を一語書きなさい。

〔　　〕

11 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) 翁、袖をかづきて惑ひ入るに、さと寄りて、一足づつ〔ける〕。
（落窪物語・巻二）
〔　　〕

(2) 円子川〔ける〕ばぞ波はあがりける。
（源平盛衰記・巻三七）
〔　　〕

(3) 二丈ばかり〔ける〕人もありしなり。
（遊庭秘鈔）
〔　　〕

(4) 殿上人に、鞠〔ける〕させて、
（栄花物語・巻三七）
〔　　〕

(5) 血あゆばかり、必ず〔ける〕たまへ。
（宇治拾遺物語・巻二）
〔　　〕

――確認したら、次は下二段活用です。

12 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	下に続くおもな語		ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	○言い切る	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！
ア	得	（得）						
ラ	忘る	わす（忘）						
ワ	植う	う（植）						
ダ	出づ	い（出）						

――下二段活用は、五十音図のウ・エの二段と、ウ段の音に「る」「れ」、エ段の音に「よ」がついたものからなっています。

13 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) し出ださむを待ちて〔寝〕ざらむもわろかりなむと思ひて、
（宇治拾遺物語・巻一）
〔　　〕

(2) よごとに金ある竹を〔見つく〕こと重なりぬ。
（竹取物語）
〔　　〕

(3) 大音声〔あぐ〕て名のりけるは、
（平家物語・木曾最期）
〔　　〕

(4) そのよし、いささかにものに〔書きつく〕。
（土佐日記）
〔　　〕

(5) いとはつらく〔見ゆ〕ど、志はせむとす。
（土佐日記）
〔　　〕

――答えを合わせたら、次に進みなさい。

トレーニング3／動詞〈上一・上二〉

14 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	下に続くおもな語		ズ・ム・バ	タリ・ケリ テ	言い切る ○	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！
カ	着る	（着）						
ナ	似る	（似）						
ハ	干る	（干）						
ワ	居る	（居）						

―― 五十音図のイ段の音と、それに「る」「れ」「よ」がついたものが、上一段です。

15 次の――線部の動詞の、活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 今はとて天の羽衣着るをりぞ君をあはれと思ひいでける。（竹取物語）

（　　）（　　）

(2) 立てる人どもは、装束の清らなること、ものにも似ず。（竹取物語）

（　　）（　　）

(3) 差しつめ引きつめ、さんざんに射る。（平家物語・木曾最期）

（　　）（　　）

(4) 富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れり。（伊勢物語・九段）

（　　）（　　）

(5) その河のほとりに群れゐて思ひやれば、（伊勢物語・九段）

（　　）（　　）

―― 次は、上二段活用です。

16 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	下に続くおもな語		ズ・ム・バ	タリ・ケリ テ	言い切る ○	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！
カ	起く	お（起）						
マ	恨む	うら（恨）						
ヤ	老ゆ	お（老）						
バ	忍ぶ	しの（忍）						

17 次の――線部の動詞の、活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 大空より、人、雲に乗りて下り来て、（竹取物語）

（　　）（　　）

(2) 心ある者は恥ぢずぞなむ来ける。（土佐日記）

（　　）

(3) 忍ぶれど色に出でにけりわが恋は　（拾遺集・恋一）

（　　）（　　）

(4) 天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ　（古今集・雑上）

（　　）（　　）

――答えを合わせ納得したら、次に進みなさい。

トレーニング4／動詞〈カ変・サ変〉

18 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ	来（く）	（来）						
下に続くおもな語			ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	○言い切る	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！

――カ変動詞は一語しかありません。活用も不規則です。活用ごと記憶してしまいなさい。

19 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) 僧都（そうづ）あなたより〔来（く）〕て、　（源氏物語・若紫）

（　　）

(2) 百千鳥千鳥は〔来（く）〕ど　（万葉集・巻一六）

（　　）

(3) 秋風吹かむをりぞ〔来（く）〕むとする。　（枕草子・四三段）

（　　）

(4) 春〔来（く）〕ことを誰（たれ）か知らまし　（古今集・春上）

（　　）

(5) 必ず〔来（く）〕べき人のもとに車をやりて待つに、　（枕草子・二五段）

（　　）

20 次の動詞の活用表を完成させなさい。

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
サ	す（為）	（為）						
下に続くおもな語			ズ・ム・バ	タリ・ケリ・テ	○言い切る	トキなどの体言	ド・ドモ・バ	！

――サ変動詞も「為（す）」一語しかありません。活用ごと覚えてしまいなさい。

21 〔　〕に示した動詞を、適切に活用させて書きなさい。

(1) 日しきりにとかく〔す〕つつ、ののしるうちに、夜ふけぬ。　（土佐日記）

（　　）

(2) 行くもとまるも、みな泣きなど〔す〕。（更級日記）
〔　　〕

(3) いざや六波羅（ろくはら）におし寄せて、夜討ちに〔す〕む。（平家物語・永僉議）
〔　　〕

(4) もとより友と〔す〕人、一人二人して行きけり。（伊勢物語・九段）
〔　　〕

(5) 立つ音〔す〕ば帰り給ひぬ。（源氏物語・若紫）
〔　　〕

トレーニング5／動詞の活用の識別

22 次の活用の種類に属する動詞を、（　）に示した数だけあげなさい。

(1) 上一段活用（六語）
(2) 下一段活用（一語）
(3) カ行変格活用（一語）
(4) サ行変格活用（一語）
(5) ナ行変格活用（二語）
(6) ラ行変格活用（四語）

23 次の動詞の未然形を作り、その動詞の活用の種類を書きなさい。

(1) 捨（す）つ　(2) 切る　(3) 過ぐ

(1) 〔　　〕〔　　〕
(2) 〔　　〕〔　　〕
(3) 〔　　〕〔　　〕

24 次の――線部の動詞の、活用の種類と活用形を書きなさい。（行も書きなさい。）

(1) 天人の中に持たせたる箱あり。天の羽衣（はごろも）入れり。またあるは不死の薬入れり。（竹取物語）

持た	〔　　〕	〔　　〕
あり	〔　　〕	〔　　〕
入れ	〔　　〕	〔　　〕
入れ	〔　　〕	〔　　〕

(2) 聞こゆる木曾（きそ）の鬼葦毛（おにあしげ）といふ馬の、極（きは）めて太うたくましいに、金（きん）覆輪（ぶくりん）の鞍置（くら）いてぞ乗つたりける。（平家物語・木曾最期）

聞こゆる	〔　　〕	〔　　〕
いふ	〔　　〕	〔　　〕
置い	〔　　〕	〔　　〕
乗つ	〔　　〕	〔　　〕

(3) かく歌ふを聞きつつこぎ来るに、くろとりといふ鳥、岩の上に集まりをり。（土佐日記）

歌ふ（　）（　）
聞き（　）（　）
こぎ（　）（　）
来る（　）（　）
集まり（　）（　）
をり（　）（　）

(4) その沢のほとりの木の陰（かげ）に下りゐて、乾飯（かれいひ）食ひけり。（伊勢物語・九段）

下り（　）（　）
ゐ（　）（　）
食ひ（　）（　）

答を合わせ納得できたら、次に進みなさい。

トレーニング6／形容詞

25 次の活用表を完成させなさい。

(1)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
清し	きよ（清）			○		○	○
下に続く主な語		ズ・ム・バ	用言・テ・シテ・キ	言い切る○	体言・ベシ	ド・トモ・バ	！

(2)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
怪し	あや（怪）			○		○	○
下に続く主な語		ズ・ム・バ	用言・テ・シテ・キ	言い切る○	体言・ベシ	ド・トモ・バ	！

ここで答えを合わせてから、次に進みなさい。

26 次の形容詞は、ク活用ですか、シク活用ですか。

(1) いみじ　(2) をかし　(3) 心ぐるし
(4) 荒し　(5) めでたし　(6) ことごとし
(7) めざまし　(8) 多し　(9) かなし
(10) こちたし

(1)（　）　(2)（　）　(3)（　）
(4)（　）　(5)（　）　(6)（　）
(7)（　）　(8)（　）　(9)（　）
(10)（　）

ク活用とシク活用を見分けるには、「て」をつけて連用形を作ります。

27 次の――線部の形容詞について、その活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 憂かりける人を初瀬の山おろしはげしかれとは祈らぬものを
（千載集・恋二）

憂かり　〔　〕〔　〕
はげしかれ〔　〕〔　〕

(2) 長からぬ命のほどに忘るるはいかに短き心なるらむ
（伊勢物語・一二三段）

長から　〔　〕〔　〕
短き　〔　〕〔　〕

――「カリ活用」と答えないようにします。

28 次の――線部の形容詞の語幹（シク活用の場合は終止形）は、どのような用法で使われているか、後から適切なものを選びなさい。

(1) おぼつかな秋はいかなる故のあればすずろにものの悲しかるらむ
（新古今集・秋上）
〔　〕

(2) 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野をなつかしみ一夜寝にける
（万葉集・巻八）
〔　〕

(3) 日にそへて憂さのみまさる世の中に心づくしの身をいかにせむ
（落窪物語・巻一）
〔　〕

(4) あな、おもしろの箏の音や。
（古今著聞集・巻六）
〔　〕

(ア) 独立して感動表現となり、文を終止する用法。
(イ) 助詞「の」がついて、連体修飾語となる用法。
(ウ) 接尾語「み」がついて、原因・理由を表す用法。
(エ) 接尾語「さ」がついて、名詞となる用法。

29 次の――線部の形容詞の語幹（シク活用の場合は終止形）は、どのような用法で使われているか説明しなさい。

(1) うれしさぞいみじきや。
（更級日記）
〔　〕

(2) 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野をなつかしみ一夜寝にける
（万葉集・巻八）
〔　〕

(3) おぼつかな秋はいかなる故のあればすずろにものの悲しかるらむ
（新古今集・秋上）
〔　〕

(4) をかしの御髪(みぐし)や。

〔　　〕（源氏物語・若紫）

トレーニング7／形容動詞

30 次の活用表を完成させなさい。

(1)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
異なり	こと(異)						
下に続く主な語		ズ・ム・バ	用言・ケリ・シテ・キ	○言い切る	体言・ベシ	ド・ドモ・バ	！

(2)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
惨たり	さん(惨)						
下に続く主な語		ズ・ム・バ	用言・ケリ・シテ・キ	○言い切る	体言・ベシ	ド・ドモ・バ	！

31 次の――線部の形容動詞について、活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) かくて、翁(おきな)やうやう豊かになりゆく。

〔　　〕〔　　〕（竹取物語）

(2) この児(ちご)、養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。

〔　　〕〔　　〕（竹取物語）

(3) この児(ちご)のかたちけうらなること世になく、

〔　　〕〔　　〕（竹取物語）

(4) いみじく静かに、公(おほやけ)に御文(ふみ)奉り給ふ。

〔　　〕〔　　〕（竹取物語）

(5) 年ごろ申し承(うけたまは)つて後(のち)、おろかならぬ御ことに思ひ参らせ候へども、

〔　　〕〔　　〕（平家物語・忠度都落）

32 次の――線部の形容動詞について、活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 己(おのれ)すなほならねど、人の賢(けん)を見てうらやむは、世の常なり。いたりて愚かなる人は、たまたま賢なる人を見てこれを憎(にく)む。（徒然草・八五段）

すなほなら〔　　〕〔　　〕

愚かなる〔　　〕〔　　〕

賢なる〔　　〕〔　　〕

(2) 僧喜撰(そうきせん)は、詞(ことば)幽(かす)かにして、初め終はり確かならず。（古今集・仮名序）

幽かに〔　　〕〔　　〕

確かなら〔　　〕〔　　〕

(3) 北には青山峨々（がが）として松吹く風索々（さくさく）たり。南には蒼海（さうかい）漫々として、岸打つ波も茫々（ばうばう）たり。

（平家物語・海道下）

峨々と（　　）
索々たり（　　）
漫々と（　　）
茫々たり（　　）

トレーニング8／用言の音便

33 次の――線をほどこした動詞の音便形について、その元の形と音便の種類を書きなさい。

(1) 立つて（　　）
(2) なづんだり（　　）
(3) 問うて（　　）
(4) あんなり（　　）
(5) 渡いて（　　）
(6) 喜うで（　　）
(7) 散つて（　　）
(8) おぼいて（　　）
(9) 死んで（　　）
(10) 討つたりけり（　　）

――音便はルールを記憶してしまえば、簡単なものです。しっかりトレーニングしなさい。

34 次の文中の動詞の音便形に――線を引き、その元の形と音便の種類を書きなさい。

(1) 腹帯（はるび）を解いてぞ締（し）めたりける。（平家物語・宇治川先陣）
（　　）（　　）

(2) 六条河原にうち立つて、（平家物語・法住寺合戦）
（　　）（　　）

(3) 長恨歌（ちやうごんか）といふ文（ふみ）を物語に書きてある所あんなり。（更級日記）
（　　）（　　）

(4) これで餅（もち）買うてこい。（世間胸算用）
（　　）（　　）

35 次の――線をほどこした形容詞の音便形について、その元の形と音便の種類を書きなさい。

(1) にくいこと（　　）
(2) 美しうおはす（　　）
(3) 苦しかんなり（　　）
(4) あやしうこそ（　　）

36 次の――線をほどこした形容詞の音便形について、その元の形と音便の種類を書きなさい。

(1) 矢束(やづか)もちつと短う候ふ。（平家物語・遠矢）
〔　　〕〔　　〕

(2) 若い人参らせよ。（更級日記）
〔　　〕〔　　〕

(3) 人のこころざし等しかんなり。（竹取物語）
〔　　〕〔　　〕

37 次の――線をほどこした形容動詞の音便形について、その元の形と音便の種類を書きなさい。

(1) あはれなんめり　〔　　〕〔　　〕

(2) 静かなんめり　〔　　〕〔　　〕

――これで、用言の学習は終わりです。一度覚えただけでは、すぐに忘れてしまいますから、時間を見つけては、同じ問題でいいですから、繰り返しトレーニングすることが必要です。

●基本古語のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **げに**〔副〕

例吾妻人は、わがかたなれど、げには心の色なく、情けおくれ、

（徒然草・一四一段）

訳東国の人は、自分の郷里の人であるが、（　）は心の潤いがなく、思いやりが乏しく、

□(2) **こころぐるし**〔形・シク〕

例わづらはしかりつることはことなくて、やすかるべきことはいとこころぐるし。

（徒然草・一八九段）

訳めんどうだと思っていたことは無事で、たやすいはずのことはたいそう（　）。

□(3) **こころもとなし**〔形・ク〕

例丹後へつかはしける人は参りたりや。いかにこころもとなくおぼすらむ。

（十訓抄）

訳丹後の国に使いとして差し向けた人は、帰って来ましたか。どんなに（　）思っていらっしゃるでしょう。

□(4) **こちたし**〔形・ク〕

例おぼろかの心は思はじわがゆゑに人にこちたく言はえしものを

（万葉集・巻一一）

訳ありきたりの気持ちでは（あなたを）思いますまい。私のために人から（あれこれと）（　）言われているのですから。

□(5) **ことわり**〔名／形動・ナリ〕

例常住ならむことを思ひて、変化のことわりを知らねばなり。

（徒然草・七四段）

訳不滅であろうことを願って、無常の（　）を知らないからである。

□(6) **さうざうし**〔形・シク〕

例この酒をひとり食べんがさうざうしければ、申しつるなり。さかなこそなけれ、人は静まりぬらむ、「さりぬべきものやある。」と、いづくまでも求め給へ。

（徒然草・二一五段）

訳この酒を一人で飲むのが（　）ので、（来るように）申しつけたのだ。酒の肴こそないけれども、家の人はもう寝静まってしまっただろう、「よさそうな物があるか。」と、（その辺を）どこまでもお探しなさい。

□(7) **さがなし**〔形・ク〕

例よその思えは、父なき人は、いと口惜しけれど、さがなき継母にはままに憎まれむよりは、これは、いとやすし。

（源氏物語・東屋）

訳他人からの思われ方は、父のいない人は、ひどく残念であるけれど、（　）まま母に憎まれたりするよりは、これ（母がいること）はたいそう気楽だ。

□(8) **さながら**〔副〕

例これにまして心やましきさまにて、たえて、ことづてもなし。さながら六月になりぬ。

（蜻蛉日記）

訳このことによっていっそうきげんが悪い様子で、いっこうに、ことづてもない。（　）六月になってしまった。

□(9) **さぶらふ**〔動・ハ四〕

例さてもさぶらひてしがなと思へど、公事どもありければ、えさぶらはで、夕暮れに帰るとて、

（伊勢物語・八三段）

訳そのままでお仕え申し上げていたいものだなあと思うけれど、宮中での行事などがあったので、（　）ことができないで、夕暮れに帰るといって、

□(10) **しる**〔動・ラ四〕

例舵取りもののあはれもしらで、おのれし酒を食らひつれば、

（土佐日記）

訳舵取りがしみじみとした情趣を（　）なくて、自分だけ酒を飲んでしまったので、

2 〈古典常識語〉「**もちづき**」「**いざよひ**」を漢字で書きなさい。

第16日

古文第7日

学習日　月　日

〈文法〉助動詞(1)

きょうから、三回に分けて助動詞の学習をします。助動詞は、助詞や敬語と並んで文法の中で最も重要なものです。記憶すべき重要な助動詞は二十語強しかありません。じっくり腰を落ちつけて、トレーニングしなさい。**助動詞の学習のポイントは、意味・活用・接続の三つです。**それぞれの助動詞について、この三つを確実に記憶してしまいなさい。では、トレーニングです。

トレーニング1／助動詞〈ず〉

1 **次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。**

(1) 風の吹くことやまねば、岸の波立ち返る。（土佐日記）

（　　）

――一つの意味です。確実に記憶しておきなさい。

2 **打消の助動詞「ず」の活用表を完成させなさい。**

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず			○			○

3 **次の、助動詞「ず」が接続している――線部の語の品詞と活用形、および基本形を答えなさい。**

(1) いはば朝顔の露に異ならず。（方丈記）

（　　）（　　）（　　）

(2) 「海賊追ひ来(く)。」といふこと、絶えず聞こゆ。（土佐日記）

（　　）（　　）（　　）

(3) 身死して財(たから)残ることは、智者のせざるところなり。（徒然草・一四〇段）

（　　）（　　）（　　）

(4) 風体(ふうてい)はめづらしからねども、わづらはしくもなく、（風姿花伝）

（　　）（　　）（　　）

（　　）（　　）（　　）

――意味・活用・接続が確認できたら、次の問題です。

4 **次の各文中の助動詞「ず」に――線を引き、その意味と活用形を答えなさい。**

(1) 魚は水に飽かず、魚にあらざればその心を知らず。（方丈記）

（　　）（　　）
（　　）（　　）
（　　）（　　）

(2) よくせざらむほどは、なまじひに人に知られじ。（徒然草・一五〇段）

（　　）（　　）

(3) 「海賊追ひ来。」といふこと、絶えず聞こゆ。（土佐日記）

（　　）（　　）

(4) 思ひ出さぬ間なし　忘れてまどろむ夜もなし（閑吟集）

（　　）（　　）

トレーニング2／助動詞〈る・らる〉

5 **次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。**

(1) なほ梅のにほひにぞ、いにしへのことも立ちかへり恋しう思ひ出でらるる。（徒然草・一九段）

（　　）

(2) 木曾殿は信濃より、巴、山吹とて、二人の便女を具せられたり。（平家物語・木曾最期）

（　　）

(3) なかなかもの思ひ乱れて臥したれば、とみにしも動かれず。（源氏物語・松風）

（　　）

(4) 上手の中にまじりて、そしり笑はるるにも恥ぢず、（徒然草・一五〇段）

（　　）

――いくつかの意味があります。意味の違いをおさえて記憶しておきなさい。

6 **自発・可能・受身・尊敬の助動詞「る」「らる」の活用表を完成させなさい。**

基本形	る	らる
未然形		
連用形		
終止形		
連体形		
已然形		
命令形		

7 **次の動詞には、助動詞「る」「らる」のどちらが接続するか、例にな**

らって書きなさい。

例　待つ〔待たる〕

(1) 書く〔　　〕　(2) 出づ〔　　〕
(3) 死ぬ〔　　〕　(4) 読む〔　　〕
(5) 起く〔　　〕　(6) 見る〔　　〕
(7) 蹴る〔　　〕　(8) す〔　　〕
(9) 来〔　　〕　(10) あり〔　　〕

8 次の――線部の助動詞の活用形を書きなさい。

(1) 元輔が後といはるる君しもや今宵の歌にはづれてはをる。
（枕草子・九九段）　〔　　〕

(2) 来し方行く末思しめされず、よろづのことを泣く泣く契りのたまはすれど、
（源氏物語・桐壺）　〔　　〕

(3) さやうの所にてこそ、万に心づかひせらるれ。
（徒然草・一五段）　〔　　〕

(4) 「内裡より召す。すみやかに参られよ。」と仰せふくめども、
（保元物語・上）　〔　　〕

(5) 大井の土民に仰せて、水車をつくらせられけり。
（徒然草・五一段）　〔　　〕

――意味・活用・接続の三つが確実に記憶できたら、次に進みなさい。

トレーニング3／助動詞〈す・さす・しむ〉

9 次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。

(1) おのれが親の失せ侍りしをりに、世の中にあるべきほどのものなど得させ置きて申ししやう、
（宇治拾遺物語・巻一）　〔　　〕

(2) 生を苦しめて目を喜ばしむるは、桀・紂が心なり。
（徒然草・一二一段）　〔　　〕

(3) これひとへに愚老を助けさせおはします、御孝行の御いたりなるべし。
（平家物語・二代后）　〔　　〕

(4) 大井の土民に仰せて、水車をつくらせられけり。
（徒然草・五一段）　〔　　〕

(5) 明石の駅といふ所に御宿りせしめ給ひて、
（大鏡・時平）　〔　　〕

10 使役・尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」の活用表を完成させなさ

い。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す						
さす						
しむ						

11 次の動詞には、助動詞「す」「さす」「しむ」のどれが接続するか、例にならって書きなさい。

例 待つ〔待たす〕〔待たしむ〕

(1) 聞く〔　　〕〔　　〕
(2) 死ぬ〔　　〕〔　　〕
(3) 答ふ〔　　〕〔　　〕
(4) 見る〔　　〕〔　　〕
(5) 侍り〔　　〕〔　　〕
(6) 来(く)〔　　〕〔　　〕
(7) す〔　　〕〔　　〕
(8) 乗る〔　　〕〔　　〕

――「す・さす・しむ」の意味・活用・接続の三つが確実に記憶できたら、次に進みなさい。

12 次の各文中の助動詞「す」「さす」「しむ」に――線を引き、その意味と活用形を答えなさい。

(1) 粗籠(あらこ)に人をのぼせてつりあげさせて、（竹取物語）
〔　　〕〔　　〕

(2) わが女御(にようご)一人をこの大臣(おとど)に譲らしめ給ひつ。（大鏡・道長上）
〔　　〕〔　　〕

(3) 主上(しゆしやう)、院の仰せを常に申しかへさせおはしましけるなかにも、（平家物語・二代后）
〔　　〕〔　　〕

(4) われとも知らせじと思(おぼ)せど、（源氏物語・空蟬）
〔　　〕〔　　〕

(5) 烏(からす)のむれゐて池の蛙(かへる)をとりければ、御覧じ悲しませ給ひてなむ。（徒然草・一〇段）
〔　　〕〔　　〕

――答えを合わせて納得がいったら、次に進みなさい。

トレーニング4／助動詞〈き〉

13 次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。

(1) まことにいみじうをかしかりき。（枕草子・一六一段）
〔　　〕

——意味は一つだけですから、確実に記憶しなさい。

14 過去の助動詞「き」の活用表を完成させなさい。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
き	（　）	○				○

——活用は、何回も口に唱えてまるごと暗記してしまいなさい。

15 次の、助動詞「き」が接続している——線部の動詞の、活用の種類と活用形を答えなさい。

(1) 文かきて、主殿司してもやらむなど思ひしを、（枕草子・一六一段）
（　　）（　　）

(2) 聞き知り顔になきて歩み来などせしかば、（更級日記）
（　　）（　　）

(3) 頭は下部も食はず、切りて捨て侍りしものなり。（徒然草・一一九段）
（　　）（　　）

(4) あるときには、きし方行く末も知らず、海にまぎれむとしき。（竹取物語）
（　　）（　　）

(5) かの国よりまうでこしかども、（竹取物語）
（　　）（　　）

16 次の文中の助動詞「き」に——線を引き、その意味と活用形を答えなさい。

(1) 予ものの心を知れりしより、四十あまりの春秋を送れるあひだに、（方丈記）
（　　）（　　）

(2) あはれさ過ぎて、うとましくこそおぼえしか。（大鏡・兼家）
（　　）（　　）

(3) 三年ばかりは心ざしあるさまに通ひ給ひしを、（源氏物語・夕顔）
（　　）（　　）

(4) まことにいみじうをかしかりき。（枕草子・一六一段）
（　　）（　　）

トレーニング5／助動詞〈けり〉

17 次の——線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。

(1) 暗けれど主を知りて、飛び付きたりけるとぞ。（徒然草・八九段）
（　　）

(2) 「あさましう、犬なども、かかる心あるものなりけり。」と笑はせ給ふ。

（　　）　（枕草子・九段）

――「き」との違いにも注目します。「き」は多くの場合、自分の経験した過去のことがらを回想して述べるときに用いられます。それに対して「けり」は、人から伝聞した過去の事実を回想して述べる場合に用いられることが多い。また、「けり」には、驚きや感動などの気持ちを表す意味もあります。

18 **過去の助動詞「けり」の活用表を完成させなさい。**

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
けり	（　）	○				○

19 **次の、助動詞「けり」の接続している――線部の語の品詞と活用形、および基本形を書きなさい。**

(1) 橋を八つわたせるによりてなむ、八橋（やつはし）といひける。（伊勢物語・九段）

（　　）（　　）（　　）（　　）

(2) 今まで隔てける年月だに、あさましく悔しきまで思ほす。（源氏物語・松風）

（　　）（　　）（　　）（　　）

(3) 見わたせば花も紅葉（もみぢ）もなかりけり浦の苫屋（とまや）の秋の夕暮（新古今集・秋上）

（　　）（　　）（　　）（　　）

(4) いまは昔、竹取の翁（おきな）といふものありけり。（竹取物語）

（　　）（　　）（　　）（　　）

――「けり」の意味・活用・接続を理解したら、次に進みなさい。

20 **次の各文中の助動詞「けり」に――線を引き、その意味と活用形を答えなさい。**

(1) 今まで隔てける年月だに、あさましく悔しきまで思ほす。（源氏物語・松風）

（　　）（　　）（　　）

(2) さは翁丸（おきなまる）にこそはありけれ、よべはかくれしのびてあるなりけり。（枕草子・九段）

（　　）（　　）（　　）（　　）

(3) 木曾（きそ）は長坂をへて丹波路（たんばぢ）へおもむくともきこえけり。（平家物語・木曾最期）

（　　）（　　）（　　）

(4) 「尼御前（あまごぜ）、何事をかくはのたまふぞ。」と問ひけれど、いらへもせず。（徒然草・四七段）

（　　）（　　）（　　）

トレーニング6／助動詞〈つ・ぬ〉

21 次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。

(1) 歌めきても言ひつるかな。（土佐日記）
（　　）

(2) 見捨て奉りてまかる空よりも、落ちぬべき心地する。（竹取物語）
（　　）

(3) 三河の国八橋（やつはし）といふ所にいたりぬ。（伊勢物語・九段）
（　　）

(4) 白浪（しらなみ）のうへにただよひ、浮きぬ沈みぬゆられければ、（平家物語・那須与一）
（　　）（　　）

(5) さるものをわれも知らず。もしあらましかば、この僧の顔に似てむ。（徒然草・六〇段）
（　　）

22 完了の助動詞「つ」「ぬ」の活用表を完成させなさい。

基本形	つ	ぬ
未然形		
連用形		
終止形		
連体形		
已然形		
命令形		

23 次の――線部の動詞には、助動詞の「つ」か「ぬ」が接続しています。それぞれの動詞について、活用の種類と活用形を答えなさい。

(1) 三河の国八橋（やつはし）といふ所にいたりぬ。（伊勢物語・九段）
（　　）（　　）

(2) たがしつるぞ、見つや。（枕草子・二七八段）
（　　）（　　）
（　　）（　　）

(3) 木（こ）の間よりもりくる月の影見れば心づくしの秋は来にけり（古今集・秋上）
（　　）（　　）
（　　）

(4) 年ごろ思ひつること果たし侍りぬ。（徒然草・五二段）
（　　）（　　）
（　　）（　　）

24 次の各文中の助動詞「つ」「ぬ」に――線を引き、その意味と活用形

を答えなさい。

(1) 「打ちころしてすて侍りぬ。」とこそ申しつれ。（枕草子・九段）

（　　）（　　）
（　　）（　　）

(2) つひに本意のごとくあひにけり。（伊勢物語・二三段）

（　　）（　　）

(3) 冬は雪をあはれぶ。積もり消ゆるさま、罪障にたとへつべし。（方丈記）

（　　）（　　）

(4) 今は渡らせ給ひね。乱り心地いと苦しくなり侍りぬ。（源氏物語・御法）

（　　）（　　）
（　　）（　　）

(5) 昼ならましかば、のぞきて見奉りてまし。（源氏物語・帚木）

（　　）（　　）

――今回の最後のトレーニングは、「たり・り」です。

トレーニング7／助動詞〈たり・り〉

25 次の――線部の助動詞は、どんな意味を表すか、書きなさい。

(1) まして、竜を捕らへたらましかば、またこともなく、われは害せられなまし。（竹取物語）

（　　）

(2) 草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。（伊勢物語・六段）

（　　）

(3) 月は入り方の、空清う澄みわたれるに、風いと涼しくなりて、（源氏物語・桐壺）

（　　）

(4) 人して聞こえ出だし給へるを聞くに、（源氏物語・宿木）

（　　）

(5) みな人は重き鎧のうへに、重きものを負うたりいだいたりして入ればこそ沈め、（平家物語・能登殿最期）

（　　）（　　）

26 完了の助動詞「たり」「り」の活用表を完成させなさい。

基本形	たり	り
未然形		
連用形		
終止形		
連体形		
已然形		
命令形		

27 次の動詞に、助動詞「たり」「り」はどのように接続するか、例にな

らって書きなさい。

例 書く〔書き〕たり　〔書け〕り
　 試みる〔試み〕たり　〔×〕り

(1) 答ふ〔　　〕たり　〔　　〕り
(2) 残る〔　　〕たり　〔　　〕り
(3) 閉づ〔　　〕たり　〔　　〕り
(4) 吹く〔　　〕たり　〔　　〕り
(5) す　〔　　〕たり　〔　　〕り
(6) 死ぬ〔　　〕たり　〔　　〕り
(7) 見る〔　　〕たり　〔　　〕り
(8) 命ず〔　　〕たり　〔　　〕り

――「たり」と「り」の接続の違いをしっかりおさえておきなさい。

28 次の各文中の助動詞「たり」「り」に――線を引き、その意味と活用形を答えなさい。

(1) さし入りたる月の色も、ひときはしみじみと見ゆるぞかし。
（徒然草・一〇段）
〔　　〕〔　　〕

(2) 帝（みかど）后（きさき）いとことに思ひきこえ給へる宮なれば、
（源氏物語・葵）
〔　　〕〔　　〕

(3) 年ごろおとづれざりける人の、桜のさかりに見に来たりければ、
（伊勢物語・一七段）
〔　　〕〔　　〕

(4) 思はむ子を法師になしたらむこそ心ぐるしけれ。
（枕草子・七段）
〔　　〕〔　　〕

(5) この大臣（おとど）こそは、はじめて摂政（せっしやう）もし給へれ。
（大鏡・後一条院）
〔　　〕〔　　〕

――これで、助動詞の一回めの学習を終わります。**意味・活用・接続**の三つを確実に記憶すること。これが、助動詞のポイントです。同じ問題でいいですから繰り返し練習して、完全に自分のものにするようにしましょう。

●基本古語のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 次の――部の語句の意味を書きなさい。

□(1) **しるし**〔形・ク〕

例いと、いたうやつれ給へれど、しるき御さまなれば、（源氏物語・若紫）

訳ほんとうに、ひどく粗末な身なりをなさっているが、（貴人であると）（　）お姿なので、

□(2) **すさまじ**〔形・シク〕

例風吹き、雨降りて、すさまじかりけるに、（宇治拾遺物語・巻一二）

訳風が吹き、（その上）雨（まで）降って、（　）たときに、

□(3) **すずろ**〔形動・ナリ〕

例昔、男、みちの国にすずろに行きいたりけり。（伊勢物語・一四段）

訳昔、（ある）男が、陸奥の国（奥州）に（　）（出かけて先方に）行きついてしまった。

□(4) **たてまつる**〔動・ラ四〕

例宮の、おはします御几帳のそばより、御笛をたてまつる。（源氏物語・若菜）

訳女三の宮が、いらっしゃる御几帳のそばから、御笛を（源氏に）（　）。

□(5) **たまふ**〔動・ハ四（下二）〕

例仁和の帝、親王におはしましけるときに、人に若菜たまひける御歌（古今集・巻一・詞書）

訳光孝天皇が、まだ親王でいらっしゃったときに、人に若菜を（　）た（ときに若菜に添えられた）お歌

□(6) **たより**〔名〕

例この年ごろ、ただこの猿どもに養はれて、こよなくたよりを得たる心地するもあはれなり。（宇津保物語・俊蔭）

訳この数年、ただこの猿どもに養われて、このうえなく（生活の）（　）を得た思いがするのもあわれである。

□(7) **つきづきし**〔形・シク〕

例いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るもいとつきづきし。（枕草子・一段）

訳ひどく寒い朝に、火などを急いでおこして、炭を持って通って行くのもいかにも（　）。

□(8) **つゆ**〔副〕

例木の葉に埋もるる懸樋の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・一一段）

訳木の葉にうずまっている懸樋のしずくのほかには、（　）音をたてるものがない。

□(9) **つれづれ**〔名／副／形動・ナリ〕

例つれづれわぶる人は、いかなる心ならむ。（徒然草・七五段）

訳（　）とこぼす人は、いったいどんな気持ちなのだろう。

□(10) **つれなし**〔形・ク〕

例昔、男、つれなかりける女に言ひやりける。（伊勢物語・五四段）

訳昔、（一人の）男がいた、（　）た女に（次のように）詠んでやった（歌）。

2 〈古典常識語〉**次の月の名称は陰暦の何日頃の日を指しますか。**

□(1) 望月　□(2) いざよひの月　□(3) 立待の月

□(4) 居待の月　□(5) 臥待の月

3 〈古典常識語〉**次の意味にあたる語を書きなさい。**

□(1) 夜が明けてからも空に残っている月。

□(2) 夕方だけ月がある夜、またはその月。

□(3) ほんのりかすんだ春の月。

□(4) 月の第一日、または初旬。

□(5) 月の最終日、または終わり頃。

第17日

古文第8日／演習問題

〈説話・近世文〉長文問題の演習

学習日　月　日

今回は、説話と近世文を扱った入試問題を四問取り上げて演習します。実際の入試問題と同じ形です。一問を20分から30分でやり終えるようにしなさい。

説話は、明治大学出題の「今昔物語集」と秋田大学出題の「十訓抄」の二問。近世文は、二松学舎大学で出題された井原西鶴の浮世草子「西鶴諸国ばなし」と上智大学出題の芭蕉の文章です。

1　次の文章を読み、設問に対する答を、解答用紙〈省略〉の該当欄に書きなさい。　（明治大-法）

今は昔、美濃国の方へ行きける下衆男の、近江国の篠原といふ所を通りけるほどに、空暗くて雨降りければ、立ち宿りぬべき所やあると見廻しけるに、人気遠き野中なれば、立ち寄るべき所無かりけるに、墓穴のありけるを見つけて、それに這ひ入りて、暫くありける程に、日も暮れて暗くなりにけり。雨は止まず降りければ、今夜ばかりはこの墓穴にて夜を明さむと思ひて、奥ざまを見るに広かりければ、いとよくうち休みて寄り居たるに、夜うちふくる程に聞くに、物の入り来る音す。暗ければ何物とも見えず。ただ音ばかりなれば、これは鬼にこそはあらめ、はやう鬼の住みける墓穴を知らずして立ち入りて、今夜命をうしなひてむずる事を、心に思ひ歎きける程に、この来る物、ただ来に入り来れば、男おそろしと思ふ事限りなし。然れども、逃るべき方無ければ、傍に寄りて音もせでかがまり居たれば、この物近く来て、まずA物をはたと下し置くなり。次にさやさやと鳴るB物を置く。其の後に居ぬる音す。これ人の気色なり。

この男、下衆なれども、心かしこかりける奴にて、これを思ひめぐらすに、これは人のC物へ行きけるが、雨も降る日暮、我が入りつるやうにこの墓穴に入りて、前に置きつるは、持ちたりける物をはたと置きつる音なめり、次には蓑を脱ぎて置く音のさらさらとは聞えつるなめりと思へども、なほこれはこの墓穴に住む鬼なめりと思へば、ただ音もせで耳を立てて聞き居たるに、この今来たる者、男にやあらむ、法師にやあらむ、童にやあらむ、知らず、人の声にていふやう、「この墓穴には、もし住み給ふ神などやおはする。しからばいこれ聞しめせ。己は物へまかりつる者の此処を通りつる間に、雨はいたう降る、夜はふけぬれば、今夜ばかりと思ひてこの墓穴に入りて候ふなり。」といひて、D物を祭るやうにして置けば、もとの男、その時にぞ少し心おち居て、さればこそと思ひ合はせける。

さて、その置きつる物を、近き程なれば、みそかに何ぞと思ひて

手をさしやりてさぐれば、小さき餅を三枚置きたり。されば、〔　1　〕、まことの人の道を行きけるが、持ちたる物を祭るにこそありけれ、と心得て、道は行き困じて、E物のほしかりけるままに、この餅を取りてみそかに食ひつ。〔　2　〕とばかりありて、この置きつる餅をさぐりけるになし。

その時に、まことに鬼ありて食ひてけるなめりと思ひけるにや、男、俄に立ち走るままに、持ちたりつる物をも取らず、蓑笠をもすてて走り出でていぬ。身のならむやうも知らず逃げていにければ、〔　3　〕、さればこそ人の来りけるが、餅を食ひたるに恐れて逃げぬるなりけり、よく食ひてけると思ひて、この棄て去りぬる物をさぐれば、F物入りたる袋を、鹿の皮を以てつつみたり。亦蓑笠あり。美濃辺より上りける奴なりけりと思ひて、もしうかがひもぞすると思ひければ、未だ夜の内にその袋をかき負ひて、その蓑笠をうち着て、墓穴を出でて行きける程に、もし〔　4　〕や人郷に行きてこの事を語りて人などを具して来たらむと思ひければ、遥かに人離れたる所に行きて、暫くありける程に夜も明けにけり。

その時に、その袋を開けて見ければ、絹、布、綿などをひたものの入れたりけり。思ひかけぬ事なれば、天のさるべくて賜へると思ひて、喜びてそれよりなむ行きける所へは行きにける。思はぬ所得したる奴かな。〔　5　〕は逃ぐる、もとも理なりかし。げに誰も逃げなむ。〔　6　〕の心、いと思量あり。この事は、〔　7　〕の老いのはてに、妻子の前に語りけるを聞き伝へたるなり。〔　8　〕は遂に誰とも知らでやみにけり。

（『今昔物語集』による）

(1) 傍線AからFまでの「物」の意味はそれぞれどのようなものか。次の中から選び出し、その数字を書きなさい。

1　ある所　2　食物　3　餅　4　絹、布、綿　5　蓑
6　袋　7　神　8　美濃

A〔　　〕　B〔　　〕　C〔　　〕
D〔　　〕　E〔　　〕　F〔　　〕

(2) 傍線(い)の「これ」と傍線(ろ)の「さ」とは、それぞれどのようなことを指しているのか。該当する部分を過不足なく抜き出し、それぞれ最初と最後の三字を書きなさい。（句読点を含めて「これ」は59字、「さ」は88字。）

(い)
(ろ)

(3) 空欄1から8の中には本文中に点線を引いた「今来たる者」「もとの男」という語がそれぞれ入ります。該当するものを選び、その番号を書きなさい。

今来たる者　〔　　〕
もとの男　〔　　〕

(4) 全文の中から謙譲語をすべて選び出し、終止形に直して書きなさい。

〔　　〕

―― 答えを合わせて納得できたら、次の秋田大学の問題に進みなさい。

2 **次の文章をよく読んで、後の問に答えよ。**　（秋田大 教育）

花園の大臣の御もとに初めて参りたる侍の名簿（みやうぶ）の端書（はしがき）に、A「能は歌よみ」と書きたりけり。殿、秋のはじめに南殿に出でて、はたおりの鳴くを愛しておはしましけるに、暮れければ「下格子（げかうし）に人参れ。」と①仰せられけるに、「蔵人の五位たがひて、人も候はぬ。」と申してこの侍の参りたるを、「ただおのれおろせ。」とありければ、参りたるに、「なんぢは歌よみとな。」とありければ、かしこまりてB格子おろしさして候ふに、「このはたおりをば聞くや。一首つかうまつれ。」と②仰せられければ、「あをやぎの」と五文字を出だしたるを、候ひける女房たち、折にあはずと思ひたりけるにや、笑ひ出だしたりけるを、「C物を聞きはてで笑ふやうやはある。」と③仰せられて、「とくつかうまつれ。」と④仰せられければ、

青柳の緑の糸を繰り返し夏へて秋ははたおりぞ鳴く

とよみたりければ、萩織りたる御直衣（なほし）を押し出だして賜はせけり。

（『十訓抄』第四の十四）

○名簿――官位・姓名・年月日等を記した名刺の類。貴人に拝謁する時などに献呈する。「名符」とも書く。
○下格子――格子をおろすこと。
○蔵人の五位――六位の蔵人のうち任期が果てて五位に昇叙され殿上を退いた者。

(1) 傍線部A「能は歌よみ」とはどういう意味か。

〔　　〕

(2) 傍線部B「格子おろしさして候ふに」を、前出「候はぬ」の「候ふ」との用法上の相違に注意して現代語訳せよ。

〔　　〕

(3) 傍線部①②③④について、それぞれ、誰（だれ）が誰に「仰せられ」たのか、答えよ。

①〔　　〕
②〔　　〕
③〔　　〕
④〔　　〕

(4) 文中に、ある状況の追加説明として挿入した句がある。その挿入句を抜き出して示せ。

〔　　〕

(5) 傍線部C「物を聞きはてで笑ふやうやはある。」を現代語訳せよ。

〔　　〕

(6) 「青柳の」の和歌は最初女房たちの失笑をかったが、後には賞賛された。なぜ笑われ、また、後にはどういう点が評価されたのか、わかりやすく説明せよ。

――間違えたところを完全に理解してから、次の問題に進みなさい。

3 **次の文章を読んで、設問に答えよ。**　（二松学舎大）

野は菊・萩咲きて、秋のけしき程、しめやかにおもしろき事はなし。A心ある人は歌こそ和国の風俗なれ。何によらず、B花車（きゃしゃ）の道こそ一興（いっきょう）なれ。

奈良の都のひがし町に、しをらしく住なして、明暮茶の湯にC身をなし、興福寺の花の水をくませ、かくれもなきD楽助（らくすけ）なり。

ある時この里のこざかしき者ども、朝顔の茶の湯をのぞみしに、兼々（かねがね）日を約束して、E万に心を付けて、その朝七つよりこしらへ、Fこの客を待つに、G大かた時分こそあれ、昼前に来て、案内をいふ。

亭主腹立（ふくりふ）して、客を露路（ろぢ）に入れてから、挑灯（てうちん）をともして、むかひに出るに、客はまだ合点（がってん）ゆかず、H夜の足元（あしもと）するこそ、をかしけれ。あるじおもしろからねば、花入れに土つきたる、芋（いも）の葉を生けて見すれども、Iその通りなり。兎角（とかく）J心得ぬ人には、心得あるべし。亭主も客も、K心ひとつの数寄人（すきひと）にあらずしては、たのしみもかくるなり。

（『西鶴諸国ばなし』）

○花の水――興福寺西金堂のほとりにある名水。
○朝顔の茶の湯――利休が秀吉の為に催した早朝の茶会にちなんだ茶の湯。
○七つ――午前四時頃。
○露路――寄付（よりつ）き（集合の場所）から茶室に至る間の庭。

(1) 傍線部Aを解釈せよ。

（　　）

(2) 傍線部Bに属するものを、和歌・茶の湯のほかに二種あげよ。

（　　）（　　）

(3) 傍線部Cの意味として最も適当なものを、次のうちから選び、番号で答えよ。

① 体を浸して　② 没頭して　③ 身をまかせて
④ あこがれて

（　　）

(4) 傍線部Dの意味として最も適当なものを、次のうちから選び、番号で答えよ。

① 気楽な生活を送る人　② 楽天的な性格の人
③ 呑気な暮らしを願う人　④ 贅沢な生活をする人

〔　　〕

(5) 傍線部Dは文中、他の語では何と表現されているか。

〔　　〕

(6) 傍線部Eの主語は誰か。

〔　　〕

(7) 傍線部Fは文中、他の語では何と表現されているか。

〔　　〕

(8) 傍線部Gを解釈せよ。

〔　　〕

(9) 前後をよく考えて傍線部Hを説明せよ。

(10) 傍線部Iの解釈として最も適当なものを、次のうちから選び、番号で答えよ。

① 感心している　② 不審を感じない
③ 呆れ反っている　④ すなおに従っている

〔　　〕

(11) 傍線部Jは何を「心得ぬ」のか。

〔　　〕

(12) 傍線部Kを解釈せよ。

〔　　〕

(13) この問題文の作品のジャンル（文学史上の分類）を述べ、また同じ作者の他の作品を一つあげよ。

〔　　〕〔　　〕

――最後の問題は、芭蕉の「許六離別の詞」（「柴門の辞」ともいいます。）です。じっくり取り組んでみなさい。

4 次の文は、芭蕉が許六との別れにあたって贈った文です。よく読んで、左の設問に答えなさい。

（上智大-法）

去年の秋、a かりそめに面をあはせ、今年五月の初め、b 深切に別れを惜しむ。その別れにのぞみて、一日草扉をたたいて、終日閑談をなす。その器、画を好む。風雅を愛す。予こころみに問ふことあり。「画は何のために好むや」、「風雅のために好む」と言へり。「風

雅は何のために愛すや」、「画のために愛す」と言へり。ァその学ぶこと二つにして、用をなすこと一なり。まことや、「ィ君子は多能を恥づ」といへAれば、品二つにして用一なること、c感ずべきにや。画はとつて予が師とし、ゥ風雅は教へて予が弟子となす。されども、師が画は精神徹に入り、筆端妙をふるふ。その幽遠なるところ、ェ予が見るところにあらず。予が風雅は、夏炉冬扇のごとし。d衆にさかひて、用ゐるところなし。ただ釈阿・西行の言葉のみ、ォかりそめに言ひ散らされしあだなるたはぶれごとも、あはれなるところ多し。後鳥羽上皇の書かせ給ひしものにも、「これらは歌にまことありて、しかも悲しびを添ふる」とのたまひ侍りしとかや。されば、この御言葉を力として、その細き一筋をたどり失ふことなかれ。なほ、「古人の跡を求めず、古人の求めたるところを求めよ」と、南山大師の筆の道にも見えたり。「風雅もまたこれに同じ」と言ひて、燈をかかげて、柴門の外に送りて別るるのみ。

（芭蕉「許六離別の詞」）

○風雅――この文においては俳諧を指す。
○釈阿――歌人藤原俊成。
○南山大師――空海、弘法大師。

(1) 右の文の傍線部Aの語と同じものを含む文を左より選べ。

1 走りかかりたれば
2 ねぶりをのみしてなどもどかる
3 名にめでて折れるばかりぞ
4 みじかき夜の明けぬれば
5 今日もかもみやこなりせば
6 あらまほしかるべけれ

(2) 傍線部a～dの意味としては、それぞれどれが正しいか。次のうちから選べ。

a 1 軽薄に　2 印象深く　3 ふとしたことで　4 仮りにということで
b 1 思いをこめて　2 礼儀正しく　3 きっぱりと　4 やさしく
c 1 感動すべきことではあるまい　2 感じることができるだろう　3 感じとるべきであろうか　4 感嘆に値することだ
d 1 人々の求めにそむいて　2 人々の考え方とはちがっていて　3 人々にきらわれていて　4 人々のあり方とは一線を画していて

(3) 点線部ア～オの意味としては、それぞれどれが正しいか。次のうちから選べ。

ア 1 学ぶことは二つであるが、使えるのは一つしかない。　2 学ぶことは二つであるが、その意図は一つである。　3 学ぶことは二つであるが、役に立つのはそのうちの一つである。　4 学ぶことは二つであるが、本当に必要なものはそのうちの

一つだけだ。

イ　1　君子は一つのことにすぐれているべきだ。
　　2　君子はすべてのことにすぐれていなければならない。
　　3　君子は多能なものだが、それを隠しておかなければならない。
　　4　君子は何もできないかのように振る舞うべきである。

ウ　1　俳諧は許六が教えてくれたもので、私が弟子ということになる。
　　2　俳諧は私が許六に教えたので、許六が私の弟子ということになる。
　　3　俳諧を教えるべき私が、かえって許六の弟子となった。
　　4　許六は俳諧を私に教えて、しかも私の弟子となったのだ。

エ　1　私が考えているようなものではない。
　　2　私が見ているような安っぽいものではない。
　　3　私が理解できないようなすぐれたものだ。
　　4　私はまだそういう許六の画は見たことがない。

オ　1　その場かぎりの軽い気持で作った作品。
　　2　ふとしたことで口から出たようなつまらない作品。
　　3　不真面目（ふまじめ）にたくさん作ったような作品。
　　4　あちらこちらで言ってみたつまらない冗談。

(4)　許六にとって風雅（俳諧）と画とはどのようなものであったか、次のうちから選べ。

1　風雅（俳諧）と画とはお互いに影響し合って、それぞれに良い結果をもたらしている。
2　風雅（俳諧）も画も好きであるが、許六にとっては画がもっとも大切なものである。
3　風雅（俳諧）と画とは両方ともに好きであるが、両立しないものである。
4　風雅（俳諧）も画も両方ともに学んでいるが、結局はどちらか一つにしたいと思っている。

(5)　芭蕉と許六の関係はどのようなものであったか、次のうちから選べ。

1　画も風雅も許六が先生である。
2　画も風雅も芭蕉が先生である。
3　風雅は許六が先生で、画は芭蕉が先生である。
4　画は許六が先生で、風雅は芭蕉が先生である。

(6)　芭蕉は風雅をどのように考えていたか、次のうちから選べ。

1　風雅は実生活には役立たないものだが、これに自分のすべてをかけようとしている。
2　風雅は実生活に役立たないものであったが、これを人生に役立つものにしようとしている。
3　風雅は実生活に役立たないものであるので、価値が生じるように色々と努力しようとしている。
4　風雅は実生活には役立たないが、歌や画は役立つものなので、それを学ぼうとしている。

――これで、今回の演習問題は終わりです。答えを合わせて納得がいったら、

終わりにしなさい。どうしても納得できない場合には、第10日～第14日でトレーニングしたように、語句の意味、文法・表現をきちんと理解し、完全な口語訳ができるようにしなさい。そうすれば、必ず納得できるはずです。

漢　文

漢文の力は，書き下し文と口語訳ができるかどうかにあります。漢文は，ステップを踏んでトレーニングするので，必ず書き下し文と口語訳ができるようになります。一日一日の学習を確実にこなしていくようにしなさい。第18日と第19日のあとには，再読文字と受身・使役の句法の学習ページがあります。極めて重要で基本的なものですから，繰り返し練習をして確実に記憶してしまいなさい。

なお，漢文中の漢字は，新字体を用い，旧字体は用いていません。入試問題が旧字体であったものは，参考のために，初出のテキストのあとに新字体と旧字体の一覧表を掲げておきました。

第18日

漢文第1日／長文読解

学習日　月　日

〈故事〉蛍雪の功・苛政は虎よりも猛なり

きょうは、漢文学習の第一回めです。今回は、大学入試で出題された「蛍雪の功」「苛政は虎よりも猛なり」というよく知られた故事を用いてトレーニングを進めます。基本的な文章ですから、ここでトレーニングのしかたに慣れるようにします。トレーニングは、「語句」「句法・表現」「書き下し文・口語訳」「入試問題」のステップを踏んで進めます。この方法でトレーニングをつめば必ずできるようになります。

まず、声を出して読みながら、読めない語句、意味のわからない個所に赤鉛筆でしるしをつけなさい。そのうえでテキストの後の読み方を参考にして、もう一度読みなさい。

●きょうのテキスト1●

①孫康、家貧無レ油。②常映レ雪読レ書。③後至二御史大夫一。④車胤、博覧多通、家貧不二常得一レ油。⑤夏月則練囊盛二数十ノ蛍火一、以照レ書。⑥以レ夜継レ日焉。⑦遂顕二於朝廷一。

（「蒙求」）

●語句注

御史大夫＝官職名。（官職名であることがわかればよい。）

練囊＝練り絹で作った袋。

▼読み方　①孫康、家貧にして油無し。②常に雪に映じて書を読む。③後御史大夫に至る。④車胤、博覧多通、家貧にして常には油を得ず。⑤夏月には則ち練嚢に数十の蛍火を盛り、以て書を照らす。⑥夜を以て日に継ぐ。⑦遂に朝廷に顕はる。

▼注意する読み　④の「不常〜」は「常には〜ず」と読み、⑥の「焉」は読まない文字。

▼新旧字体で形が著しく異なるもの（上段が新字体、下段が旧字体）

読―讀　覧―覽　数―數
蛍―螢　継―繼　顕―顯

―― 何回も繰り返し読んで、すらすら読めるようになったら、トレーニングに進みなさい。

トレーニング1／語句

1　次の語句の読みを現代かなづかいで書きなさい。

(1) 孫康　(2) 博覧多通　(3) 御史大夫　(4) 車胤
(5) 則（チ）　(6) 練嚢　(7) 顕（ハル）

―― 「孫康、車胤」は人名です。漢文では、人名か他の読みをする漢字か紛らわしい場合がよくあります。前後の文脈で判断するようにします。

2 次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。（答えは**3**）

(1) 灯油。（　　）
(2) 照らす。（　　）
(3) 到達する。（　　）
(4) 広く書物を読んで物事に通じていること。（　　）
(5) 夏の時期。（　　）
(6) 蛍の光。（　　）
(7) 日夜努力する。（　　）
(8) 名高くなる。名が知られるようになる。（　　）

(1)の「灯油」は灯火をつける油のことです。(7)は慣用句ですから、この意味で記憶しなさい。

3 次の語句の意味を書きなさい。（答えは**2**）

(1) 油＝
(2) 映（照）＝
(3) 至＝
(4) 博覧多通＝
(5) 夏月＝
(6) 蛍火＝
(7) 以夜継日＝
(8) 顕＝

この文章に出てきた重要な「句法・表現」のトレーニングに進みなさい。

トレーニング2／句法・表現

〔句法〕部分否定「不常」

部分否定とは、全面的に否定するのではなく、部分的に否定する意を表すものです。次の例で確認しなさい。

例 不二常一得レ油ヲ。（常には油を得ず。）
訳 いつも灯油を手に入れられるとは限らない。（たまには手に入ることもある。）

これに対して、全部否定は次の形をとります。

例 常二不レ得レ油ヲ。（常に油を得ず。）
訳 いつも灯油を手に入れられなかった。

部分否定は「不常」の形をとり、全部否定は「常不」の形となります。他の副詞も同様で、「不□」の形であれば部分否定、「□不」の形であれば全部否定になります。部分否定の場合は、「ハ」を送って部分否定の意を添えます。（尽（ことごと）クハ・甚（はなはだ）シクハなど。）例外は、「必ずしも」と「復（また）た」しかありません。

4 次の文を書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 不二常一得レ油ヲ。
（　　）
（　　）

(2) 千里馬常有而伯楽不二常一有ラ。
（　　）
（　　）

（　　）

▼「千里馬」は、一日に千里走る名馬のこと。馬のよしあしを見分ける人を「伯楽」という。「而」は前に「〜レドモ」とあるから、読む必要はない。

(3) 性嗜レ酒、家貧不レ能ニ常得一。

（　　）（　　）

▼「性」は生まれつきの意。「嗜」は好むという意。「不レ能ハ」は「あたはず」と読んで、「〜できない」と不可能の意を表す。

（　　）

——では、次の「則」のトレーニングに進みなさい。

〔助字〕則（すなはチ）

二通りの用法があります。

① ほとんどのものが「〜スレバすなはチ」と読むので「レバ則」といわれ、「〜すれば〜となる」の意味を表します。

例 物盛則衰。（物盛んなれば則ち衰ふ。）

訳 物事は勢いが盛んになれば、（その後）勢いは衰える。

② 「A則B」の形のとき、「AハすなはチB」となります。この場合は、他と区別して「このものは」と取り出していう感じを表します。訳すときは「〜は」だけでよろしい。

例 飲食之人、則人賤レ之矣。

（飲食の人は、則ち人之れを賤しむ。）

訳 飲食にふける人は、世間の人がこれをさげすむ。

5 次の文を書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 飲食之人、則人賤レ之矣。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

(2) 物盛則衰。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

(3) 無レ人則土不レ守。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

▼「土」は国土の意。

(4) 義則君臣、情則父子。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

▼「義」「情」のあるべき道理を述べている。

——納得がいったら、次の「以」に進みなさい。

〔助字〕以（もっテ）

「以」は「もっテ」と読み、さまざまな意味を表します。下から返って読む場合は、「〜で」「〜を用いて」「〜によって」などと訳し

ます。

例 以レ小易レ大。（小を以て大に易ふ。）

訳 小さなもので大きなものに替える。

接続詞のようなはたらきをする場合は、「それで、そこで」と訳します。

例 楚人伐レ宋以救レ鄭。（楚人宋ヲ伐ちて以て鄭を救ふ。）

訳 楚（の国）の人々は宋（の国）を討伐して、それで鄭（の国）を救った。

6 次の文を書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 以レ小易レ大。

（　　）

（　　）

(2) 楚人伐レ宋以救レ鄭。

（　　）

（　　）

(3) 以二子之矛一、陥二子之楯一、如何。

（　　）

（　　）

▼「如何」は、「どうなるか」という意。

(4) 練嚢盛二数十蛍火一、以照レ書。

（　　）

（　　）

ここまでくればもう書き下し文も口語訳も確実にできるはずです。では、次のトレーニングに進みなさい。

トレーニング3／書き下し文・口語訳

7 ①〜⑦の文を書き下し文にしなさい。

① （　　）

② （　　）

③ （　　）

④ （　　）

⑤ （　　）

⑥ （　　）

⑦ （　　）

めんどうがらずに、全文をきちんと書きなさい。書いていくうちに自然に句法などもわかってきます。返り点は次の数字の順に読みます。

①レ点＝2 1。　②一・二点＝3 1 2。

③レの入ったもの＝4 1 3 2。

8 ①～⑦の文を全部口語訳しなさい。

手間がかかって能率が悪いようにも考えられますが、これがいちばん力のつく方法です。答えを合わせて納得がいったら、今度は「苛政は虎よりも猛なり」という故事をトレーニングしていきます。

まず、声を出して読みながら、読めない語句・意味のわからない個所に赤鉛筆でしるしをつけなさい。そのうえでテキストの後の読み方を参考にして、もう一度読みなさい。

きょうのテキスト2

①孔子過二泰山側一。②有下婦人ノ哭二於墓一者上而哀。③夫子式而聴レ之、使二子路一問レ之。④而曰、子之哭也、壹似二重有レ憂者一。⑤昔者吾舅死二於虎一焉、吾夫又死焉、今吾子又死焉。⑥夫子曰、何為不レ去也。⑦曰、無二苛政一。⑧夫子曰、小子識レ之。⑨苛政猛二於虎一也。

（「礼記」〈檀弓下〉）

●語句注

而＝（④の文中）「すなはチ」と読み、「するとそこで」の意。

然。⑤昔者吾舅死二於虎一焉、吾夫又死焉、今吾子又死焉。⑥夫子曰、何為不レ去也。⑦曰、無二苛政一。⑧夫子曰、小子識レ之。⑨苛政猛二於虎一也。

▼読み方 ①孔子泰山の側を過ぐ。②婦人の墓に哭する者有りて哀しげなり。③夫子式して之を聴き、子路をして問はしめて曰く、子の哭するや、壹に重ねて憂ひ有る者に似たりと。④而ち曰く、然り。⑤昔者吾が舅虎に死し、吾が夫又死し、今吾が子又死せりと。⑥夫子曰く、何為れぞ去らざるやと。⑦曰く、苛政無ければなりと。⑧夫子曰く、小子之を識せ。⑨苛政は虎よりも猛なりと。

▼注意する読み ③⑥の「也」は「や」と読み、⑨の「也」は「なり」と読む。「昔者」の二文字で「むかし」と読む。

▼新旧字体で形が著しく異なるもの（上段が新字体、下段が旧字体）

聴――聽　為――爲

――すらすら読めるようになったら、トレーニングに進みなさい。

トレーニング1／語句

9 次の語句の読みを現代かなづかいで書きなさい。

(1) 哭（スル）　(2) 夫子　(3) 式（シテ）　(4) 壹（ニ）
(5) 曰（ク）　(6) 而（チ）　(7) 然（リ）　(8) 昔者
(9) 舅　(10) 吾（ガ）子　(11) 何為（レゾ）　(12) 識（セ）

——⑽の「吾子」は「ごし」と読むと、「あなた」の意になります。

10 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**（答えは**11**）

(1) 大声をあげて泣き悲しむ。号泣する。（多くは人の死を悲しむときに用いられる語。）〔　　〕

(2) 悲しげである。様子が哀れである。〔　　〕

(3) 先生や年長者などに対する敬称の語。（ここは、先生の意で孔子のこと。）〔　　〕

(4) 名詞では、車上の横木を意味する。（軾と同意。）ここでは、動詞に読んで車上の横木に寄りかかる動作をいい、会釈することを表す。〔　　〕

(5) まったく。まことに。「イツ」と音で読む。〔　　〕

(6) そうである。（肯定の意を表す。）〔　　〕

(7) 夫の父親。（夫の母親は「姑（しゅうとめ）」。）〔　　〕

(8) 厳しくてむごい政治。〔　　〕

(9) おまえたち。（ここでは孔子が弟子を呼ぶ語。）〔　　〕

⑽ 覚える。記憶する。〔　　〕

——儒教関係の書物では、「夫子」といえば、ほとんど孔子を指します。(6)の「然」の反対は「不レ然レ」で「然らず（そうではない）」の意になります。

11 **次の語句の意味を書きなさい。**（答えは**10**）

(1) 哭＝

(2) 哀＝

(3) 夫子＝

(4) 式＝

(5) 壹＝

(6) 然＝

(7) 舅＝

(8) 苛政＝

(9) 小子＝

⑽ 識＝

12 **本文に「孔子」が登場します。それについて後の問いに答えなさい。**

(1) 孔子は、春秋時代の人で、儒教の始祖です。孔子と門人との言行録を何というか、漢字二字で書きなさい。

(2) 孔子と同じ儒家を次の中から二人選びなさい。

① 孟子　② 老子　③ 韓非子　④ 荀子　⑤ 荘子

——わからなかったら、解答を見て、記憶してしまいなさい。テキストに登場する「子路」は孔子の門人です。

では、テキストに出てきた重要「句法・表現」のトレーニングに進みなさい。「説明」「トレーニング」の順に学習します。

トレーニング2／句法・表現

〔助字〕於（ニ・ヲ・ヨリ・おイテ）

この漢字は、「ニ・ヲ・ヨリ・おイテ」と読み、場所・対象・受身・原因などさまざまな意味を表します。

例（場所）武王、至レ於盟津一。（武王、盟津（めいしん）に至る。）

訳 武王は、盟津（という所）に着いた。

例（比較）季氏富二於周公一。（季氏周公（ヨリ）より富む。）

訳 季氏は周公よりも富んでいる。

「於」が出てきたら、「於」の前後の意味・文脈から、「ニ・ヲ・ヨリ・おイテ」のいずれかの助詞を補い、適切な意味をあてます。

13 次の文を書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 哭於墓。

(2) 死於虎焉。

(3) 猛於虎也。

白文（返り点・送りがなのない漢字だけの文）ですが、ここで「於」の用法を理解してしまいなさい。(2)は、受身の意です。

〔句法〕使役「〜ヲシテ〜シム」

使役とは「他を〜させる」という意味を表します。「〜ヲシテ〜シム」と読み、「使二A（ヲシテ）B一」（Aをして（ム）Bしむ）のように読みます。

例 天帝使二我（ヲシテ）長二百獣一。

（天帝我をして百獣に長たらしむ。）

訳 天帝は私を百獣の長とさせた。

「使」の外に、「令・教・遣」などを使いますが、すべて「〜ヲシテ〜シム」と読みます。

14 次の文を書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 天帝使二我（ヲシテ）長二百獣一。

(2) 使二騎馬渡一レ河。

(3) 使二民（シテ）衣食有一レ余、自不一レ為一レ盗。

(4) 令(ム)騎(キラシテ)皆下(リテ)レ馬歩行(セ)一。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

――「令」は、「使」と同じに考えます。「騎」は「騎兵」の意です。解答を合わせたら、書き下し文を何回も読んで、独特の言い回しに慣れるようにすること。

では、次は「何為」の学習です。説明を読んだらトレーニングです。

〔句法〕何為（なんすレゾ）

「何為」は「なんすレゾ」と読む疑問詞で、末尾が「や」となります。「なんすレゾ〜や」と訓読し、「どうして〜か」という意味を表します。

例 何為(なんすレゾ)斬(きルヤ)二壮士(ヲ)一。（何為(なんす)れぞ壮士を斬(き)るや。）

訳 どうして勇士を斬るのか。

15 次の文をひらがなだけで書き下し文に直し、口語訳しなさい。

(1) 何為(レゾ)斬(ルヤ)二壮士(ヲ)一。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

(2) 何為(レゾ)不(ルラ)レ去也。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

(3) 陛下何為(レゾ)出(ダセルヤ)二此言(ヲ)一。

（　　）（　　）

（　　）（　　）

――これで、あなたは「何為」はもう万全のはずです。念のために、書き下し文を数回、声に出して読んでから、次に進みなさい。

次は、書き下し文と口語訳のトレーニングです。

トレーニング3／書き下し文・口語訳

16 ①から⑨までの文を書き下し文に直しなさい。

① （　　）

② （　　）

③ （　　）

④ （　　）

⑤ （　　）

⑥ （　　）

⑦ （　　）

⑧ （　　）

⑨ （　　）

――⑤の文中の「焉」は、置き字といって訓読しない文字です。「曰」は、その後が会話であることを意味します。会話の終わりには「と」を入れます。で

すから、「曰く……と」という形になります。
答えを合わせて納得がいったら、次に進みなさい。まちがえたものは絶対そのままにしないこと。

17 次の「曰」は、同一人物が言ったことばです。適切な人物名を本文から抜き出して、漢字二字で書きなさい。

ア　而曰（④の文中）　イ　曰（⑦の文中）

［　　］

――③の文中の「曰」は、孔子に命じられて問い尋ねた子路のことばです。

18 ①～⑨の文を全部口語訳しなさい。会話文は「　」でくくり、必要ならば、主語を補って訳しなさい。

――答えを合わせたら、どれくらい力がついたか力だめしをします。今回のテキストと同じところを取り上げた入試問題です。

トレーニング4／入試問題

19 次の文章を読んで後の設問に答えよ。（特に返り点・送りがなを省略した部分がある。）　〔千葉大〕

孫康、家貧無レ油。常映レ雪読レ書。後至二
御史大夫一。車胤、博覧多通、家貧不常
a
得レ油。夏月則練二嚢盛一数十
b
□火、以
照レ書。
c
□遂顕二於朝廷一。

(1) 傍線部aに施すべき訓点（返り点のみ、送りがな不要）を示せ。

不　常　得　油

(2) 空所bに入れるべき漢字一字を、次の中から一つ選び、漢字で答えよ。

営　労　栄　蛍　鶯　瑩

［　　］

(3) 空所cに入れるべき語句を、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

ア　可二計レ日而待一也。
イ　以レ夜継レ日焉。
ウ　已矣乎、

エ　由レ是観レ之、

〔　　〕

答えを合わせたら、次の入試問題に進みなさい。

20 **次の文を読んで、後の問いに答えよ。**　〔法政大〕

孔子過二泰山側一。有下婦人哭上二於墓一者而哀。夫子式而聴レ之、使二(a)子路問一。曰、子之哭也、壹似二(b)重有レ憂者一。而曰、然。昔者吾舅死二於虎一。吾夫又死焉、今吾子又死焉。夫子曰、何為(c)不レ去也。曰、無二苛政一。夫子曰、小子(d)識レ之。苛政猛二於虎一也。

(1)　傍線(a)の品詞は何か。次のア～オの中から選び、符号で答えよ。

ア感嘆詞　イ動詞　ウ形容詞　エ助動詞　オ名詞

〔　　〕

(2)　傍線部分(b)の解釈として、適当と思うもの一つを、次のア～オの中から選び、符号で答えよ。

ア　重い心配事を持った人のようだ。
イ　大変優れた人のようだ。
ウ　重ねて心配している者の真似をしているようだ。
エ　重なる不幸に苦しんでいる人のようだ。
オ　憂えごとの有る人を重く見ている。

〔　　〕

(3)　傍線部分(c)の読み方として、適当と思うもの一つを、次のア～オの中から選び、符号で答えよ。

ア　ナニヲナシテ　イ　ナンゾ　ウ　ナンスレゾ
エ　ナンノタメニカ　オ　ナンゾ……ヲナサンヤ

〔　　〕

(4)　傍線部分(d)の意味として、適当と思うもの一つを、次のア～オの中から選び、符号で答えよ。

ア庶民　イ子路　ウ子供　エ小人　オ弟子

〔　　〕

入試問題といっても、トレーニングをして、きちんと基本をおさえておけば必ずできるはずです。解答を合わせて納得がいったら、今回の学習を終えます。

ふだんから、語句（漢字）の意味、句法・表現、書き下し文、口語訳の順で読解する習慣をつければ、必ずできるようになります。次回は、さまざまな戦略・策略を記した歴史書「戦国策」を取り上げて、トレーニングします。

●重要句法のトレーニング／別紙を用意してから始めなさい

1 〈再読文字〉次の文を全部書き下し文にし、口語訳しなさい。

□(1) 未レ聞二好レ学者一也。

□(2) 孺子将レ入二於井一。

▼「孺子」は幼児の意。「於」は場所を表す。

□(3) 趙且レ伐レ燕。

▼「趙」「燕」はともに国名。

□(4) 人当レ惜二寸陰一。

▼「寸陰」は、わずかな時間のこと。

□(5) 君自二故郷一来。応レ知二故郷ノ事一。

□(6) 過則宜レ改レ之。

□(7) 人須二自省察一。

▼「省察」は、反省すること。

□(8) 過猶レ不レ及。

□(9) 盍二各言一爾志一。

□(10) 臣事レ君由二子事一レ父。

2 〈再読文字〉次の文を全部ひらがなで書き下し文にしなさい。

(1) 未レ聞二好レ学者一也。

(2) 孺子将レ入二於井一。

(3) 趙且レ伐レ燕。

(4) 人当レ惜二寸陰一。

(5) 君自二故郷一来。応レ知二故郷ノ事一。

(6) 過則宜レ改レ之。

(7) 人須二自省察一。

(8) 過猶レ不レ及。

(9) 盍二各言一爾志一。

(10) 臣事レ君由二子事一レ父。

――「未＋□」の形では、まず「未」が出てきた所で「いまダ」と副詞的に読んでしまい、あとでもう一度「未」にもどって「ズ」と読みます。このように**再度**にわたって**読む文字**を**再読文字**といいます。

再読文字は、(1)～(10)を完全に覚えてしまえば完璧です。繰り返し口で唱えて、完全に記憶してしまいなさい。意味は、解答の〈解説〉にのせてあります。

第19日

漢文第2日／長文読解

学習日　月　日

〈史伝〉戦国策

きょうは、漢文学習の第二回めです。取り上げるのは、戦国時代（前四〇三年～前二二一年）のさまざまな戦略・策略を記した歴史書『戦国策』の一節です。オーソドックスな漢文で書かれており、このトレーニングを行うことによって、漢文読解の要領をよくつかむことができるはずです。トレーニングは、「語句」「句法・表現」「書き下し文・口語訳」「入試問題」のステップを踏んで進めていきます。

まず、テキストを声を出して読んでみます。読めない語句や意味のわからない個所があったら赤鉛筆でしるしをつけておき、そのうえで後にあげた「読み方」を参照しながら、もう一度読み返しておきなさい。

きょうのテキスト1

①韓趙相難。②韓索二兵於魏一曰、願得二
借レ師以伐レ趙。③魏文侯曰、寡人与レ趙
兄弟。不二敢従一。④趙又索レ兵以攻レ韓。⑤
文侯曰、寡人与レ韓兄弟。不二敢従一。⑥二
国不レ得レ兵、怒而反。⑦已乃知二文侯以
講一於己一也、皆朝レ魏。

（「戦国策」〈魏〉）

●語句注

韓・趙・魏＝戦国時代の国の名。

已乃＝スデニシテスナワチと読む。しばらくしてはじめて、の意味。

▼読み方　①韓趙相難ず。②韓兵を魏に索めて曰はく、願はくは師を借りて以て趙を伐つを得んと。③魏の文侯曰はく、寡人趙と兄弟たり。敢て従はずと。④趙又兵を索めて以て韓を攻む。⑤文侯曰はく、寡人韓と兄弟たり。敢て従はずと。⑥二国兵を得ず、怒りて反る。⑦已にして乃ち文侯の以て己に講ずるを知るや、皆魏に朝せり。

▼注意する読み　②④の「索」は「もとメテ」と読む。②の「願」は会話の中に使われているので「ねがハクハ」と読む。⑥の「反」は「かえル」と読む。⑦の「朝」は動詞なので「ちょうス」と音読みする。

▼新旧字体で形が著しく異なるもの（上段が新字体、下段が旧字体）

与――與　従――從　国――國

――何度も繰り返して読み、すらすら読めるようになったところで、語句のトレーニングに進みなさい。

トレーニング1／語句

1　次の語句の読みを現代かなづかいで書きなさい。

(1) 趙　(2) 索（メテ）　(3) 寡人　(4) 敢（テ）
(5) 已（ニ）　(6) 乃（チ）

2 次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。（答えは**3**）

(1) 責めなじる。攻撃する。〔　　〕
(2) 軍隊。（「兵」とほぼ同義。）〔　　〕
(3) 討つ。征伐する。〔　　〕
(4) 君主が自分を謙遜（けんそん）して言う場合の自称。本来は徳が少ない人の意味。〔　　〕
(5) 引き返す。帰る。〔　　〕
(6) 取り計らう。手だてを考える。〔　　〕
(7) 朝廷に参上する。〔　　〕

3 次の語句の意味を書きなさい。（答えは**2**）

(1) 難〓
(2) 師〓
(3) 伐〓
(4) 寡人〓
(5) 反〓
(6) 講〓
(7) 朝〓

4 次の問いに答えなさい。

(1) 「戦国策」には、紀元前五世紀の終わりから一八〇年ほどの間に、諸国が分立して争い合った時代の様子が描かれています。この時代のことを何といいますか。

時代

(2) (1)の時代のすぐ前の時代は何と呼ばれますか。

時代

トレーニング2／句法・表現

――では、今回学習するテキストに出てきた重要「句法・表現」のトレーニングです。説明を読んだあと、トレーニングしなさい。

〔助字〕於（ニ・ヲ・ヨリ・おイテ）

助字「於」にはいくつかの用法がありますが、テキストの②と⑦に使われている「於」は、いずれも動作の対象を示す用法で、「～に対して」という意味です。この場合、普通は送りがな「ニ」をつけて訓読します。

例 君子喩（さとリ）二於義一、小人喩（ハ・ル）二於利一。（ニ）
（君子は義に喩（さと）り、小人は利に喩（さと）る。）

訳 君子は正義にあかるく、小人は利益にあかるい。

「於」は、前後の文脈によって、ほかに「おイテ」と訓読するときと、「ヨリ」「ヲ」と送りがなをつけて読むときがあることを確認しておきなさい。

5 次の文を書き下し文にし、続いて口語訳しなさい。

(1) 葉公問二孔子於子路一。（ニ・ヲ）

(2) 当レ仁不レ譲ニ於師一。

(3) 争レ利者於レ市。

〔助字〕与（と）

助字「与」は「與」の新字体で、意味は現代語の「と」とほぼ同じです。書き下し文では、ひらがなで「と」と書きます。

例 足下与二項王一有レ故。（足下は項王と故有り。）

訳 あなたは項王と昔からのなじみがある。

6 次の文を書き下し文にし、続いて口語訳しなさい。

(1) 与レ之同レ命。

(2) 富与レ貴、是人之所レ欲也。

(3) 地大而不レ墾者、与レ無レ地同。

〔助字〕敢（あへテ）

この「敢（あへテ）」は勇敢の「敢」で、勇気を出して思いきってするということです。テキストの「不敢」はその否定形で、「〜する勇気がない」「（自分から進んでは）〜しようとしない」という意味になります。口語訳の場合は、こうした意味あいが出ていればよいでしょう。

例 敢問、不レ見二諸侯一何義也。

（敢て問ふ、諸侯に見へざるは、何の義ぞや。）

訳 しいてお尋ねしますが、諸侯にお会いにならないのはどういうわけですか。

例 不二敢暴一レ虎、不二敢馮一レ河。

（敢て虎を暴ちせず、敢て河を馮らず。）

訳 虎を手でなぐって捕えるようなまねはせず、黄河を歩いて渡るようなまねはしない。

7 次の文を書き下し文にし、続いて口語訳しなさい。

(1) 用レ兵深入、敢戦者吉。

〔　　〕

(2) 愈（いよいよ）恐（レ）、不（ニ）敢（テ）往（カ）。

〔　　〕

〔　　〕

―― ここで学んだ三つの助字は、漢文の読解に不可欠のものです。きちんと理解しておきなさい。ここまでくれば書き下し文、口語訳はもうできるはずです。次のトレーニングで確かめなさい。

トレーニング3／書き下し文・口語訳

8 テキストの①から⑦の文を書き下し文にしなさい。

①〔　　〕

②〔　　〕

③〔　　〕

④〔　　〕

⑤〔　　〕

⑥〔　　〕

⑦〔　　〕

―― 答えと合わせてみて納得できたら、次に進みましょう。まちがえたところは決してそのままにしておかないで、正しい解答をきちんと書いておくことです。

9 本文⑦の主語はだれですか。また、「己（おのれ）」とは具体的にどの国を指しますか。書きなさい。

⑦の主語〔　　〕　己〔　　〕

―― 直前の文⑥の主語と同一です。

10 ①から⑦の文を全部口語訳しなさい。会話文は「　」でくくり、必要ならば主語を補いなさい。

―― 答えを合わせ、きちんと確認しておきなさい。

以上で少なからぬ漢文に接しました。漢文読解の要領は、これでかなり身についたはずです。では、最初のテキストはこれくらいにして、次に別のテキスト2に移ることにします。

一つめと同様に、テキストを声を出して読み、わからない所にはしる

しをつけておきなさい。そして「読み方」を参照しながら繰り返し読みなさい。

きょうのテキスト2

①有レ献二不死之薬一於荊王一者。②謁者操以入。③中射之士問曰、可レ食乎。④曰、可。⑤因奪而食レ之。⑥王怒使三人殺二中射之士一。⑦中射之士、使二人説一レ王曰、臣問二謁者一、謁者曰、可レ食。臣故食レ之。⑧是臣無レ罪、而罪在二謁者一。⑨且客献二不死之薬一、臣食レ之而王殺レ臣、是死薬也。⑩王殺二無罪之臣一、而明二人之欺一レ王。⑪王乃不レ殺。

（「戦国策」〈楚〉）

●語句注

荊王＝楚国の王。荊は楚の別名。

謁者＝取りつぎの官。

中射＝王の護衛の官

▼読み方　①不死の薬を荊王に献ずる者有り。②謁者操りて以て入る。③中射の士問うて曰く、食ふべきか、と。④曰く、可なり、と。⑤因って奪ひて之を食ふ。⑥王怒って人をして中射の士を殺さしめんとす。⑦中射の士、人をして王に説かしめて曰く、臣謁者に問ふに、謁者曰く、食ふべし、と。臣故に之を食へり。⑧是れ臣に罪無くして、罪は謁者に在り。⑨且つ客不死の薬を献じ、臣之を食ひて王臣を殺さば、是れ死薬なり。⑩王無罪の臣を殺して、人の王を欺くを明らかにす、と。⑪王乃ち殺さず。

▼注意する読み　「食」は「くらフ」と読む。③の「乎」は疑問の助字で、「か」と読む。

▼新旧字体で形が著しく異なるもの（上段が新字体、下段が旧字体）

献――獻

――漢文は、読み慣れることが大切です。音読がきちんとできるようになったら、語句のトレーニングに進みなさい。

トレーニング1／語句

11 **次の語句の読みを現代かなづかいで書きなさい。**

(1) 荊王　(2) 謁者　(3) 操（リテ）　(4) 中射之士

(5) 且（ツ）

12 **次の意味にあたる語句を本文から書き抜きなさい。**（答えは**13**）

(1) 献上する。〔　　〕

(2) 手に取る。受け取る。〔　　〕

(3) ものを食べる。飲む。〔　　〕

(4) 君主に対して、家来が自分を謙遜して言う場合の自称。一般には家来の意味。〔　　〕

13 **次の語句の意味を書きなさい。**（答えは**12**）

(1) 献＝

(2) 操＝

(3) 食＝

(4) 臣＝

14 **次の各問いに答えなさい。**

(1) 戦国時代には、楚（荊）のほか、韓・魏・趙や、のちに中国を統一する秦など、七つの強国が競い合っていました。この七つの強国を何と総称しますか。

戦国の［　　］

(2) 戦国時代の前の時代、春秋時代にも、やはり五つの諸侯が中心になって国力を競い合っていましたが、この五つの諸侯のことを何と総称しますか。

春秋の［　　］

どれも重要な語句・事項です。よく覚えておきなさい。次は、今回のテキストに出てきた重要な「句法・表現」のトレーニングです。

トレーニング2／句法・表現

〔助字〕「可」（ベシ）

「可」は可能や許可を表す助字で、「～できる」「～してよい」という意味になります。

例 （可能）無レ可二奈一何一（奈何ともすべきなし。）

訳 どうすることもできない。

例 （許可）汝可二疾去一。（汝疾く去るべし。）

訳 お前は早く立ち去るがよい。

現代語で「べし」と言うと、ふつう「当然」の意味を表しますが、漢文の「可」はそれとはやや違った意味をもつことに注意が必要です。

15 **次の文を書き下し文にし、続いて口語訳しなさい。**

(1) 晋楚之富、不レ可レ及也。

（　　）

（　　）

(2) 狼子不レ可レ養、後必為レ害。

（　　）

（　　）

（　　）

（　　）

(3) 臣弑二其君一、可乎。

（　　）

（　　）

（　　）

（　　）

▼「弑」は、目下の者が目上の者を殺すこと。

〔助字〕「乃」（すなはチ）

助字「乃」は、「そこで」「そこではじめて」「～こそ」などの意味です。同じ「すなはチ」でも、「則」は、「～ならば」という条件を

表す助字で、「乃」とは意味が少し異なることを覚えておきなさい。

例 項伯乃夜馳之二沛公軍一。
（項伯乃ち夜馳せて沛公の軍に之く。）
訳 項伯はそこで夜中に馬を走らせ、沛公の軍営に行った。

例 吾乃今日而知二先生為一レ天下之士一也。
（吾乃ち今日にして先生の天下の士為るを知るなり。）
訳 私はきょうはじめて、先生が天下に恥じぬ士であることを知りました。

例 呂公女乃呂后也。
（呂公の女乃ち呂后なり。）
訳 呂公の娘こそ呂后である。

16 次の文を書き下し文にし、続いて口語訳しなさい。

(1) 至レ河乃復。
書き下し文（　　）
口語訳（　　）

(2) 天下分裂、数世然後乃定。
書き下し文（　　）
口語訳（　　）

(3) 是乃仁術也。
書き下し文（　　）
口語訳（　　）

ともに重要な助字です。漠然と理解しているだけでは、漢文の読み取りはできません。意味用法をしっかり把握しなさい。念のために、書き下し文を数回音読し直してから、次に進みなさい。
では、書き下し文、口語訳のトレーニングです。

トレーニング3／書き下し文・口語訳

17 テキストの①から⑪の文を書き下し文にしなさい。

① （　　）
② （　　）
③ （　　）
④ （　　）
⑤ （　　）
⑥ （　　）
⑦ （　　）
⑧ （　　）
⑨ （　　）
⑩ （　　）
⑪ （　　）

――長文ですが、内容は決して難しくありません。少しでも誤りがあったらきちんと訂正し、漢文の表現を正確に身につけていきなさい。

18 **次の各問いに答えなさい。**

(1) 中射の士が人を介して王に言わせたことばはどこからどこまでか。初めと終わりの二字を書きなさい。

初め［　　］終わり［　　］

(2) 王が中射の士を殺さなかったのはなぜか。その理由を二つ書きなさい。

(ア)（　　）

(イ)（　　）

(3) 文⑩の「人」とはだれを指すか、本文より考えて書きなさい。

（　　）

19 **①から⑪の文を全部口語訳しなさい。会話文は「　」でくくり、必要ならば主語を補いなさい。**

トレーニング4／入試問題

――今までのトレーニングで、テキストの内容の理解は万全のはずです。答え合わせをして納得できたら、トレーニングの総まとめとして、実際の入試問題を最後にあげますから、力だめしをしてみなさい。

20 **左の文章を読んで後の諸問に答えよ。**　〔立教大〕

韓趙相難。韓索兵於魏。魏曰、「願得借兵。」師以伐趙。」魏文侯曰、「寡人与趙兄弟。不敢従。」趙又索兵以攻韓。文侯曰、「寡人与□兄弟。不敢従。」二国不得兵、怒而反。已乃知文侯以講於己也、皆朝魏。

▼**語句注**

本文中、返り点と送り仮名とを省いたところがある。

＊寡人――王侯の謙称。

(1) ――線(イ)の部分の読み下し文として最も適当なもの一つを、左記

各項の中から選び、番号で答えよ。

1　趙また韓を攻むるをもって兵を索む。
2　趙また兵をもって韓を攻めんと索む。
3　趙また索むる兵をもって韓を攻む。
4　趙また兵を索めてもって韓を攻む。

〔　　〕

(2)　空欄□に最も適当な言葉（漢字一字）を補え。ただし、本文中から選ぶこと。

〔　　〕

(3)　――線(ロ)の部分を解答欄に転記し、そこに返り点と送り仮名とをつけよ。

（　　）

(4)　――線(ロ)の部分の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　どちらの国も軍隊が借りられずに怒って帰国した。
2　両国の使は役目が果せず、怒って互に反目した。
3　両国の兵隊は腹を立てて、帰国することができなかった。
4　どちらの国の兵隊も怒る訳にもいかずに帰っていった。

〔　　〕

――次は、日本大学で出題された問題です。

21　**次の問題文を読み、後の問いに答えよ。**　〔日本大〕

有献不死之薬於荊王者。謁者操以入。中射之士問曰、「可①キフトク食乎。」曰、「可。」A□奪而食之。王怒B□人殺中射之士。中射之士B□人説王曰、「臣問謁者、謁者曰、『可食。』臣故食之。是臣無罪、而罪在謁者。且客献不死之薬、臣食之而王殺臣、是死薬也。王殺無罪之臣、而明②ラカニスト人之欺王。」王乃不殺。

（『戦国策』）

▼語句注
謁者――取りつぎの官　**中射**――王に侍御する官

(1)　問題文中の空白部A・Bに入る漢字を次の中からそれぞれ一つずつ選べ。Bは二個所とも同じ字が入る。

A　1　因　2　寄　3　倚　4　依
B　1　占　2　使　3　為　4　締

A〔　　〕　B〔　　〕

(2)　――線部①「可食乎」の解釈として最も適当なものを次の中か

ら一つ選べ。

1　飲む方がよいのか　2　飲まねばならないのか
3　飲めるのか　4　飲ませるのか

(3)　――線部②「人」は誰を指しているのか、次の中から一つ選べ。

1　献不死之薬於荊王者　2　謁者
3　中射之士　4　臣

(4)　問題文の主旨として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

1　詭弁を弄して死をまぬがれた家臣の行為を皮肉っている。
2　不死の薬を飲んだ家臣を殺そうとする荊王の冷酷さを批判している。
3　荊王に不死の薬を献上した忠義心を称賛している。
4　不死の薬を飲んで死を招きかねない不合理を論じている。

(5)　『戦国策』を編集した劉向の編著書を次の中から一つ選べ。

1　史記　2　説苑　3　春秋　4　十八史略

――きょうのトレーニングはこれで終了です。力のついたことは保証します。答え合わせをして、納得できたら、終わることにしましょう。

1 〈受身形〉次の文を全部書き下し文にし、口語訳しなさい。

□(1) 欺者却為人所欺。

□(2) 人皆以見侮為辱。

▼「辱」は、恥辱、恥の意。

□(3) 忠而被謗。

□(4) 晋楚為制於秦。

□(5) 治人者食於人。

□(6) 松柏摧為薪。

▼「柏」は、このてしがわのこと。

2 〈使役形〉次の文を全部書き下し文にし、口語訳しなさい。

□(1) 王使人問疾。

□(2) 令騎皆下馬歩行。

□(3) 不教胡馬度陰山。

▼「胡馬」は、えびす（北方民族）の馬。陰山は山名。

□(4) 命善射者射之。

□(5) 召儒臣講書。

□(6) 下馬飲君酒。

3 〈受身形〉次の文を全部ひらがなで書き下し文にしなさい。

(1) 欺者却為人所欺。

(2) 人皆以見侮為辱。

(3) 忠而被謗。

(4) 晋楚為制於秦。

(5) 治人者食於人。

(6) 松柏摧為薪。

4 〈使役形〉次の文を全部ひらがなで書き下し文にしなさい。

(1) 王使人問疾。

(2) 令騎皆下馬歩行。

(3) 不教胡馬度陰山。

(4) 命善射者射之。

(5) 召儒臣講書。

(6) 下馬飲君酒。

第20日

漢文第3日／演習問題

〈故事・史伝〉長文問題の演習

学習日　月　日

今回は、故事と史伝を扱った入試問題を四問取り上げて演習します。一問を20分から30分でやり終えるようにしなさい。一問めは、「戦国策」です。なかに故事成語の問題が含まれています。では、始めなさい。

1 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。〔創価大〕

蘇代過易水、蚌方出曝。而鷸啄其肉。蚌合箝其喙。鷸曰、「今日不雨、明日不雨、即①有死蚌。」蚌亦謂鷸曰、「今日不出、明日不出、即②有死鷸。」両者不肯相舎。漁者得而并擒之。（戦国策）

▼語句注
蘇代＝戦国時代の遊説者
易水＝今日の河北省中部を流れる川の名　蚌＝どぶ貝
鷸＝しぎ　舎＝捨と同じ

(1) 傍線部①、②の「即」は、どのような意味になるか、次の㋐～㋓から選んで、その記号を記しなさい。

㋐ いつでも　㋑ すぐに　㋒ そのときには
㋓ そんなことで

〔　　〕

(2) 傍線部Ⓐを、ひらがなの読み下し文にしなさい。（現代かなづかいでもよい。）また、意味をかんたんに書きなさい。（十五字以内で、句読点は一字分とする。）

（　　）

(3) 蚌は何故「死鷸有り」といったのか、かんたんに述べなさい。（ただし二十字以内で、句読点は一字分とする。）

(4) この文から生まれた故事成語を、何というか述べなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問に答えよ。

〔清泉女大〕

荊宣王問二群臣一曰、吾聞二北方之畏一レ昭奚恤一也、果誠何如、群臣莫レ対、江乙対曰、虎求二百獣一而食レ之、得レ狐、狐曰、子無レ敢食レ我也、①天帝使我長百獣、今子食レ我、是逆二天帝ノ命一也、②子以レ我為レ不レ信、吾為レ子先行、子随二我後一、観二百獣之見レ我而敢不レ走乎、虎以為レ然、故遂与レ之行、獣見レ之皆走、虎不レ知二獣畏レ己而走一也、以為レ畏レ狐也、今王之地、方五千里、帯甲百万、而専二属之昭奚恤一、故北方之畏二奚恤一也、其実畏二王之甲兵一也、③猶

百獣之畏レ虎也。

▼語句注

荊宣王＝荊は楊子江流域にあった楚の国のこと。宣王は国王の名。
昭奚恤＝宣王の将軍。　江乙＝宣王の家臣。
帯甲＝武装した兵隊。

(1) 傍線部①「天帝使我長百獣」に返り点、送りがなを付けよ。

天帝使我長百獣

(2) 傍線②の部分を口語訳せよ。

（　　）

(3) 傍線部③「猶二百獣之畏レ虎也一」を全文ひらがなに改めよ。（送りがなは省いてある。）

（　　）

(4) 右の文中で、「虎」、「狐」にたとえられているのはそれぞれ誰か。文中の語で答えよ。

虎〔　　〕　狐〔　　〕

(5) 右の文から、今日も使われている故事成語を考えて記せ。

（　　）

――答えを合わせたら、次の問題です。やはり出典は「戦国策」で、諸国が分裂して互いに覇権を競い合っていた戦国時代の話です。

――答えを合わせて納得がいったら、次の問題に進みなさい。次の問題も、「戦国策」です。非常に有名な故事です。楽しんで問題に取り組んでみなさい。

（　　）

3 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（必要に応じて返り点・送りがなを省いたところがある）〔中央大〕

楚将レ伐レ斉。魯親レ之。①之。斉王患レ之。張丐曰、②臣請令魯中立。乃為レ斉見二魯君一。魯君曰、斉王懼乎。曰、非二臣所一レ知也。臣来ツテ弔二足下一。魯君曰、③何弔乎。曰、君之謀過テリ矣。君不レ与二勝者一、而与二不一レ勝者一、何故也。魯君曰、子以テ斉楚ヲ為二孰勝一哉。対曰、④鬼且不レ知也。然則子何ヲ以弔二寡人一。曰、斉楚之権敵也。⑤不用有魯与無魯。足下豈如二全レ衆ヲ而合二二国之後一哉。楚大勝レ斉、其良士選卒必殪。其余兵足以待二天下一。斉為レ勝、其良士選卒亦殪。而君以二魯衆一合二戦勝ノ後一、此其為レ徳也亦大矣。其見二恩徳一也亦甚大矣。魯君以為レ然、乃退レ師。

▼語句注

楚・斉・魯＝国名　張丐＝斉国の臣　寡人＝君主の自称
師＝軍隊
▼新旧字体で形が著しく異なるもの
将――將　斉――齊　為――爲　来――來　与――與
対――對　権――權　国――國　余――餘

(1) 傍線①の「之」はなにを指すのか。もっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 楚　B 斉　C 張丐　D 魯君　E 鬼
G 良士選卒

〔　〕

(2) 傍線②の部分の読み方としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 臣は魯中に令して立たんことを請わん
B 臣は魯中に立たしめんことを請わん
C 臣は魯をして中立せしめんことを請わん
D 臣請ふ魯をして中立せしめん

〔　〕

(3) 傍線③の部分の読み方としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A いづくにか弔する　B いづれか弔せん
C なんぞ弔せん　D なにをか弔する

〔　〕

(4) 傍線④の「曰」はどこまでかかるか。最後の二字を答えなさい。

(5) 傍線⑤の部分は「魯あると魯なきとを用ひず」と読むが、この読み方にしたがって解答欄の原文に返り点をつけなさい。(送りがなは不要)

不用有魯与無魯

――いかがでしたか。巧みな論法ですね。次の問題は、歯ごたえのある問題です。じっくり取り組んでみなさい。「宋襄の仁」という諺でよく知られている宋の襄公の故事です。

4 次の文を読んで、設問に答えよ。 〔北海道大〕

楚人伐レ宋以救レ鄭。宋公将レ戦。大司馬固諫曰、天之棄レ商久矣。君将レ興レ之。[1]ヲ弗レ可レ赦也已。弗レ聴。及二楚人一戦二于泓一。宋人既レ成レ列、楚人未レ既レ済。司馬曰、彼[2]衆我[3]寡。及二其未一レ既レ済也、請撃レ之。公曰、不可。既レ済而未レ成レ列。又以[4]グ告。公曰、未レ可。既レ陳而後撃レ之。[5]宋師敗績、公傷レ股、門官殲焉。国人皆咎レ公。公曰、[6]君子不レ重レ傷、不レ禽二二毛一。古之為レ軍也、不レ以二阻隘一也。寡人雖レ亡[7]国之余、不レ鼓レ不レ成レ列。子魚曰、君未レ知レ戦。勍敵之人、隘而不レ列、天賛レ我也。[8]阻而鼓レ之、不二亦可一乎。猶有レ懼焉。且今之勍者皆吾敵也。雖レ及二胡耇一、獲則取レ之、何有二於二毛一。明レ恥教レ戦、求レ殺レ敵也。傷未レ及レ死、如何勿レ重。若愛レ重レ傷、則如レ勿レ傷。愛二其二毛一、則如[9]ス服焉。

(『春秋左氏伝』)

▼語句注
大司馬＝司馬とも表現されているが、即ち子魚のこと。
商＝殷王朝の別名。　門官＝侍従、戦いでは君の左右を守る。
二毛＝白髪まじりの老人。　勍敵＝強敵。
胡耇＝九十歳の老人、元老。

▼新旧字体で形が著しく異なるもの
将――將　戦――戰　聴――聽　済――濟　国――國
為――爲　余――餘　賛――贊

(1) (イ) 傍線1「之」、2「彼」、3「我」の、それぞれ指すものは何か。文中の語をもって答えよ。

1〔　　〕　2〔　　〕　3〔　　〕

(ロ) 傍線5「宋師」、7「亡国」に、それぞれ相当する語句を文中より選んで示せ。

5〔　　〕　7〔　　〕

(2) (イ) 傍線4に「告」とあるが、何と告げたのか。

〔　　〕

(ロ) 傍線9の「服」とは、どういう意味か。

〔　　〕

(3) 文中「猶有懼焉」とは、「そうしてさえ敗れる懼れがある」の意である。これを参考にしてその直前の傍線8「阻而鼓之、不亦可乎」を解釈せよ。

〔　　〕

(4) 傍線6「君子不重傷」という発言に対し、子魚はどのように批判しているか。五〇字以内で述べよ。

(5) この話に関し、司馬遷は『史記』の中で「襄公既敗於泓、而君子或以為多。傷中国闕礼義、褒之也。宋襄之有礼譲也」と、宋の襄公（宋公）を批評しているが、後世の『十八史略』には、「遂為楚所敗、世笑以為宋襄之仁」と記され、「宋襄の仁」は、諺ともなっているのである。同じ宋の襄公の言動に対して、異なった評価が生じたのはなぜか。『史記』の立場と『十八史略』の立場を対比させつつ一〇〇字以内で述べよ。

――あなたは、司馬遷の意見に共感を覚えましたか。それとも「十八史略」の意見でしたか。ここで、答えを合わせ納得できたら、きょうの学習を終わりにしなさい。

〈付録〉文学史―上代

文学史は、国語の中では、いちばん点が取りやすい分野です。第一巻から第五巻にわたって、上代・中古・中世・近世・近代の順で学習します。できなかったものは、何回も繰り返し、紙に書いて覚えなさい。□はチェックマークです。□を有効に使って、練習しなさい。

第一巻は上代の文学の学習です。上代とは、大和・奈良時代のことで、平安京に遷都した七九四年までの時代を指します。つまり平安時代の前までをいいます。では、基本事項のチェックから始めなさい。

基本事項の確認

1 〈作品名〉次の説明にあたる作品名を漢字で書きなさい。

□(1) 現存する日本最古の歌集。(二〇巻・約四五〇〇首) 〔　　〕

□(2) 現存する日本最古の漢詩集。 〔　　〕

□(3) 現存する日本最古の歌論書。 〔　　〕

□(4) 稗田阿礼が暗誦していた神話・伝説・歴史などを太安万侶が選び、まとめたもの。七一二年成立。 〔　　〕

□(5) 元正天皇の命令によって、舎人親王らが編纂した歴史書。七二〇年成立。 〔　　〕

□(6) 諸国の産物や地名の由来、民衆の間に伝承された伝説、説話を記した地誌で、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の五か国のものが現存する。 〔　　〕

□(7) 一氏族の伝承を記録したものに平安初期の「古語拾遺」がある。同じ性格のもので奈良末期に作成されたもの。 〔　　〕

――書けなかったものは、答えを見て、ここで確実に覚えてしまいなさい。基本的なものばかりです。

2 〈年代〉次の作品の成立年代を、西暦か世紀で書きなさい。

□(1) 古事記 〔　　〕年

□(2) 日本書紀 〔　　〕年

□(3) 万葉集・風土記・懐風藻・歌経標式・高橋氏文 〔　　〕世紀

3 〈祭祀文学〉次の説明文中の――線部の語句にふりがなをつけなさい。

□(1) 神を祭って、民や国家の幸福を祈願し、その庇護を仰ぐために神に奏上することばを祝詞という。 〔　　〕

□(2) 天皇が、神の命を受けて政治をするために、人々に宣(告げる)ることばを宣命という。 〔　　〕

4 〈歌体〉次の音数の歌につけられた歌体の名を書きなさい。

□(1) 五七七の音数。 〔　　〕

□(2) 五七七五七七の音数。 〔　　〕

□(3) 五七五七七の音数。 〔　　〕

□(4) 五七を三回以上重ねた音数。(また、最後に七音を重ねたもの。) 〔　　〕

□(5) 五七五七七の音数。奈良の薬師寺の歌碑に刻まれた歌二十一首と同じ歌体。 〔　　〕

――(2)は(1)を二回繰り返した形。(3)は和歌の代表形式です。ルールを確実に記憶しなさい。

5 〈万葉集〉万葉集は歌風の変遷に従って四期に分けられます。後の人名を次の四期に分けなさい。

□(1) 第一期(～六七二年の壬申の乱まで)

□(2) 第二期(壬申の乱～七一〇年の平城遷都まで)

□(3) 第三期(平城遷都～七三三年まで)

□(4) 第四期(七三三年～七五九年)

柿本人麻呂　大伴家持　山部赤人　額田王　高市黒人

高橋虫麻呂　山上憶良　大伴旅人　舒明天皇　持統天皇

6 〈万葉集の部立〉次の説明にあたる万葉集の部立名を漢字で書きなさい。

□(1)　贈答や恋愛の歌。　〔　　〕
□(2)　人の死を悼む歌。　〔　　〕
□(3)　(1)(2)に入らない種々の歌で、旅・宴会などの歌。　〔　　〕
□(4)　東国地方の庶民の民謡風の歌。　〔　　〕
□(5)　九州地方に派遣された兵士やその周囲の人たちの歌。　〔　　〕

――基本事項が確認できたら、実際の入試問題を解いてみましょう。上代の文学史は入試にあまり出題されませんが、代表的な入試問題をいくつか取り上げました。

入試問題

7 日本最古の漢詩集名を次のア～エの中から選びなさい。　〔西南学院大〕

ア　経国集　イ　凌雲新集　ウ　文華秀麗集　エ　懐風藻

8 「懐風藻」が編集されたのは、次の時代のうちどれですか、選びなさい。　〔親和女大〕

A　江戸時代　B　奈良時代　C　鎌倉時代　D　平安時代

9 「風土記」の中で、最も著名な「出雲風土記」「播磨風土記」「常陸風土記」が編述されたのはいつごろか。次にあげた1～5のうちから、一つを選びなさい。　〔東京大〕

1　六世紀　2　七世紀　3　八世紀　4　九世紀　5　十世紀

10 次のA～Dのそれぞれに最も関係の深いものを、あとの1～10の中から一つずつ選びなさい。　〔愛知大〕

A　万葉集の三大部立の一つ。広く人の死に関係した歌をいい、平安時代以降には哀傷の歌とされた。

B　恋を主として、男女・親子・友人など親しい間がらの個人的な情を伝えあう抒情的な歌。

C　五七七、五七七の六句形式の歌。民衆的な謡物が多く、上代に盛んであったが、平安時代には衰えた。

D　長歌の終わりの部分が繰り返しなどによって分離・独立した歌。長歌の内容を繰り返したり、補ったりする。

1　雑歌　2　詞書　3　歌枕　4　相聞歌　5　旋頭歌
6　仏足石歌体　7　短歌　8　挽歌　9　反歌　10　祝詞

A〔　　〕B〔　　〕C〔　　〕D〔　　〕

11 次の富士山の歌のような文学を何といいますか。後のA～Dの中から一つ選びなさい。　〔中京大〕

天地の分れし時ゆ　神さびて高く貴き　駿河なる富士の高嶺を　天の原振り放け見れば　渡る日の　影も隠らひ　照る月の光も見えず　白雲もい行きはばかり　時じくぞ雪は降りける　語り継ぎ言ひ継ぎ行かむ　富士の高嶺は

反歌

田児の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける　（二万葉集二）

A　短歌　B　長歌　C　旋頭歌　D　仏足跡体歌

12 次のAの歌は形式上何という歌体に属していますか。またこのようにAの歌についたBCの歌は、Aの歌に対して何といいますか。それぞれの名称を書きなさい。　〔東京都立大〕

A　柿本人朝臣、石見国より妻に別れて上り来る時の歌

石見の海　角の浦みを　浦なしと　人こそ見らめ　潟なしと　人こそ見らめ　よしゑやし　浦はなくとも　よしゑしや　潟はなくとも　鯨魚取り　海辺を指して　和多津の　荒磯の上に　か青なる　玉藻沖つ藻　朝羽振る　風こそ寄せめ　夕羽振る　浪こそ来寄れ　浪のむた　か寄りかく寄る　玉藻なす　寄り寝し妹を　露霜の　置きてし来れば　この道の　八十隈毎に　万たび　かへりみすれど　いや遠に　里は放りぬ　いや高に　山も越え来ぬ　夏草の　思ひ萎えて　偲ふらむ　妹が門見む　靡けこの山

B　石見のや　高角山の　木の際より　わが振る袖を　妹見つらむか

C　小竹（ささ）の葉は　み山もさやに　乱るとも　われは妹思ふ　別れ来ぬれば

（「万葉集」より）

A〔　　〕　B C〔　　〕

――これで今回の文学史の学習を終わります。

memo

大学受験デイリープログラム 100 日　国語 ＊一部変更することがあります

各巻・各日の学習内容 学習内容の細目は，おもなものに限って示してあります

● 第 1 巻　現代文 9 日間　古文 8 日間・漢文 3 日間

1	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉指示する語句の内容	
2	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉文や語句の接続関係	
3	長文読解	現代文
	〈言語論〉文脈・要点をつかむ	
4	長文読解	現代文
	〈言語論〉文脈・要点をつかむ	
5	長文読解	現代文
	〈言語論〉段落相互の関係・要旨	
6	長文読解	現代文
	〈芸術論〉文脈・要点をつかむ	
7	長文読解	現代文
	〈芸術論〉文脈・要点をつかむ	
8	長文読解	現代文
	〈芸術論〉段落相互の関係・要旨	
9	演習問題	現代文
	〈芸術論・言語論〉長文問題の演習	
10	長文読解	古　文
	〈説話〉宇治拾遺物語／歌詠みて…	
11	長文読解	古　文
	〈説話〉宇治拾遺物語／歌詠みて…	
12	長文読解	古　文
	〈近世文〉玉勝間／前後と説の…	
13	長文読解	古　文
	〈近世文〉玉勝間／前後と説の…	
14	技法別読解	古　文
	〈説話・近世文〉指示する語句の内容	
15	文法	古　文
	〈用言〉動詞・形容詞・形容動詞	
16	文法	古　文
	〈助動詞〉「ず・き・けり・つ・ぬ」等 12 語	
17	演習問題	古　文
	〈説話・近世文〉長文問題の演習	
18	長文読解	漢　文
	〈故事〉蛍雪の功ほか	
19	長文読解	漢　文
	〈史伝〉戦国策／魏・楚	
20	演習問題	漢　文
	〈故事・史伝〉長文問題の演習	

● 第 2 巻　現代文 9 日間　古文 8 日間・漢文 3 日間

21	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉語句の意味をつかむ	
22	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉係り受けをつかむ	
23	長文読解	現代文
	〈日本文化論〉文脈・要点をつかむ	
24	長文読解	現代文
	〈日本文化論〉文脈・要点をつかむ	
25	長文読解	現代文
	〈日本文化論〉段落相互の関係・要旨	
26	長文読解	現代文
	〈人間論〉文脈・要点をつかむ	
27	長文読解	現代文
	〈人間論〉文脈・要点をつかむ	
28	長文読解	現代文
	〈人間論〉段落相互の関係・要旨	
29	演習問題	現代文
	〈日本文化論・人間論〉長文問題の演習	
30	長文読解	古　文
	〈随筆〉枕草子／よろづの事より…	
31	長文読解	古　文
	〈随筆〉徒然草／あだし野の露	
32	長文読解	古　文
	〈評論〉無名抄／俊成卿女宮内卿…	
33	長文読解	古　文
	〈評論〉無名抄／俊成卿女宮内卿…	
34	技法別読解	古　文
	〈随筆・評論〉段落相互の関係ほか	
35	文法	古　文
	〈助動詞〉「けむ・む・むず」等 7 語	
36	文法	古　文
	〈助動詞〉「まし・まじ・じ」等 9 語	
37	演習問題	古　文
	〈随筆・評論〉長文問題の演習	
38	長文読解	漢　文
	〈史伝〉十八史略／春秋戦国・五代	
39	長文読解	漢　文
	〈史伝〉史記／晋世家・張儀列伝	
40	演習問題	漢　文
	〈史伝〉長文問題の演習	

● 第 3 巻　現代文 9 日間　古文 8 日間・漢文 3 日間

41	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉対応・対立関係をつかむ	
42	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉具体的な内容をつかむ	
43	長文読解	現代文
	〈人生論〉文脈・要点をつかむ	
44	長文読解	現代文
	〈人生論〉文脈・要点をつかむ	
45	長文読解	現代文
	〈人生論〉段落相互の関係・要旨	
46	長文読解	現代文
	〈哲学的論考〉文脈・要点をつかむ	
47	長文読解	現代文
	〈哲学的論考〉文脈・要点をつかむ	
48	長文読解	現代文
	〈哲学的論考〉段落相互の関係・要旨	
49	演習問題	現代文
	〈人生論・哲学的論考〉長文問題の演習	
50	長文読解	古　文
	〈日記・紀行〉更級日記／春秋のさだめ	
51	長文読解	古　文
	〈日記・紀行〉更級日記／春秋のさだめ	
52	長文読解	古　文
	〈物語〉伊勢物語／78 段	
53	長文読解	古　文
	〈物語〉伊勢物語／78 段	
54	技法別読解	古　文
	〈日記・紀行・物語〉心理・心情ほか	
55	文法	古　文
	〈助詞〉格助詞・接続助詞	
56	文法	古　文
	〈助詞〉副助詞・係助詞・終助詞ほか	
57	演習問題	古　文
	〈日記・紀行・物語〉長文問題の演習	
58	長文読解	漢　文
	〈儒家思想〉論語／述而・子路	
59	長文読解	漢　文
	〈儒家思想〉孟子／公孫丑	
60	演習問題	漢　文
	〈儒家思想〉長文問題の演習	

● 第 4 巻　現代文 9 日間　古文 8 日間・漢文 3 日間

61	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉比喩内容をつかむ	
62	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉理由・根拠をつかむ	
63	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉段落相互の関係	
64	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉段落相互の関係	
65	技法別読解	現代文
	〈論理的文章〉要旨・内容吟味	
66	長文読解	現代文
	〈学問論〉文脈・要点をつかむ	
67	長文読解	現代文
	〈学問論〉文脈・要点をつかむ	
68	長文読解	現代文
	〈学問論〉段落相互の関係・要旨	
69	演習問題	現代文
	〈学問論〉長文問題の演習	
70	長文読解	古　文
	〈物語〉源氏物語／蓬生	
71	長文読解	古　文
	〈物語〉源氏物語／蓬生	
72	長文読解	古　文
	〈物語〉源氏物語／蓬生	
73	技法別読解	古　文
	〈物語〉主体を判定する	
74	技法別読解	古　文
	〈物語〉会話・心中思惟部分の指摘	
75	文法	古　文
	〈敬語〉尊敬語と謙譲語	
76	文法	古　文
	〈敬語〉丁寧語と特別な敬語法	
77	演習問題	古　文
	〈物語〉長文問題の演習	
78	長文読解	漢　文
	〈道家・法家思想〉列子・韓非子	
79	長文読解	漢　文
	〈詩文・評論〉韓愈・蘇軾の文章。	
80	演習問題	漢　文
	〈道家・詩文など〉長文問題の演習	

● 第 5 巻　現代文 9 日間　古文 8 日間・漢文 3 日間

81	技法別読解	現代文
	〈韻文〉詩・短歌・俳句	
82	技法別読解	現代文
	〈文学的文章〉心理・心情ほか	
83	技法別読解	現代文
	〈文学的文章〉比喩内容をつかむ	
84	技法別読解	現代文
	〈文学的文章〉理由・原因をつかむ	
85	技法別読解	現代文
	〈文学的文章〉展開・構成・主題	
86	長文読解	現代文
	〈小説〉文脈・場面をつかむ	
87	長文読解	現代文
	〈小説〉文脈・場面をつかむ	
88	長文読解	現代文
	〈小説〉構成・主題をとらえる	
89	演習問題	現代文
	〈小説〉長文問題の演習	
90	長文読解	古　文
	〈物語〉大鏡／道長上	
91	長文読解	古　文
	〈物語〉大鏡／道長上	
92	長文読解	古　文
	〈物語〉大鏡／道長上	
93	技法別読解	古　文
	〈物語〉登場人物の関係をつかむ	
94	技法別読解	古　文
	〈和歌〉修辞技巧（掛詞・枕詞など）	
95	文法	古　文
	紛らわしい語の識別	
96	文法	古　文
	紛らわしい語の識別	
97	演習問題	古　文
	〈物語・和歌〉長文問題の演習	
98	長文読解	漢　文
	〈詩文・評論〉柳宗元ほか	
99	長文読解	漢　文
	〈漢詩〉李白・杜甫・白居易	
100	演習問題	漢　文
	〈詩文・評論・漢詩〉長文問題の演習	

● 第 6 巻　補充演習編

◆入試問題を中心にいろいろな問題練習で，実力をよりいっそう確実なものにする。

◆そのあと，総合問題に取り組み，実戦的な力を養成する。

発行人　加藤 譲
発行所　株式会社 教育社

TRAINING PAPER
DAILY PROGRAM

大学受験デイリープログラム100日
高校3年 国語

Printed in Japan